

の兇器を以て邦人壓迫に驟起し、遂に日白全漁業者の全面的大衝突となり、州兵の出動によつて漸くこれを鎮靜すると云ふ騒擾を惹起するに至つた。而してこの頃フレザー河には邦人漁業者三千四百餘名、漁船千七百四隻、魚獲高年百五十餘萬弗といふ盛況を呈してゐたが、一九二二年邦人の漁業鑑札に對して一割乃至五割の大削減あり、農業その他に轉ずるもの續出し、一九三四年十一月現在の調査によれば邦人数は一五三七人に減少した。

スキーナ河漁業

スキーナ河はフレザー河に次ぐ、大河にして、源をバビン湖に發し數多の支流を集めて、ヘゼルトンに至り、更に二大河を合せ西南に流れてアラスカ境界に近きチャサム沖に注いでゐる。日本人が始めて同河流域に鮭の漁業に従事したのは一八八九年（明治二十二年）にして其開祖は相川之賀である。相川は吉澤保吉、川村、増田、通稱越後吉等と共にこの年四月艇を以て北方ユーコンの地を目指し、砂金採掘の途に上つた、然るに四十日にして食料缺乏のため、餘義なく上陸し、スキーナ河口のラムバ・ポイントで、鮭群の極めて豊富なるを發見し同地に留り漁業に従事するに至つた。この報は聽て日白人ともに注視する處となり、一九一〇年の漁業期の如きは數千名の漁夫中邦人八百を算するに至つた。

ナース河及附近 ナース河はビー・シー州西岸の最北部に位せる州内第三の大河にしてスキーナ河を距る約五十哩の地に在り、鮭漁業を以て有名である、併し前二河の魚獲には遠く及ばない、出漁者は土人、白人、支那人、日本人にして、邦人数は百名内外であらう。

ナナイモ鹽鍊業 晚香波の東西兩海岸、主としてナナイモに於ける鹽鍊業は日本漁者によつて創始された事業の一である、一九〇二年少數の邦人が鍊から油を採取し、且つ肥料製造を企てた處が加奈陀の法律は食料に供さるべきものを以て肥料を製することは禁制であるとして、企業は遂に廢止されたが、彼等鍊魚の用途研究を怠らず、終に東洋輸出の鍊の鹽漬三百噸を製して同年是が輸出を試みた爾來十幾年得失相半ばの状態を繼續する中、一九二二年、漸

く其販路が南北支那、朝鮮、臺灣に擴張され、幾十萬弗の輸出を見るに至つて今日及んだ。

加奈陀の鹽藏鮭

一九三三年八月在晚香坡石井領事の報告によれば日本に於ける米國産鹽鮭はその大部が加奈陀ビー・シー州産のもので、昭和七年度北米産鹽鮭の日本向け輸出は三萬二千二百三箱であるが、米國よりの輸出は僅かに五百箱に過ぎず、其大部分は晚香坡地方よりの輸出なること明である。然して其生産者の大部分は日本人である。例へば昭和七年度に於て外國人生産者としてはデーブ、ベイ、ハッキング會社一軒のみにして、會社の輸出は二千八百九十箱にして、當地方全輸出高の一割弱である、これによつて見ると邦人漁業者の斯業に對する貢獻の大きなことを識るものである。

アラスカと日本人

金塊發見の夢

アラスカには古くから支那人が入込んで漁業並に鑛詰労働に従事してゐた。在米邦人が進出を企てた當時、即ち一八九九年（明治三十二年）前後のアラスカは、コロンダイキに金塊が發見せられ、爲にゴールドラッシュを展開して騒然たる時代であつた。事業の有望性、一攫千金の可能性等盛んに流布され、少壯氣鋭の同胞をして勇奮せしめてゐた。恰もこの時（一八九九年）アラスカの鮭罐詰會社は初めて日本人の雇傭を發表し、支那人請負業者の手によつて邦人労働者の募集を始めたのであつた。これを聞いた桑港の酒卷幸佐及び海東盛太郎は支那人請負業者の下請負業者となつて同胞數十名を引率アラスカに向つた。これアラスカ漁業並に鑛詰労働請負業に進出した同胞の嚆矢である。（一説には請負業の嚆矢は杉村某との説もある）而してこれに参加した一行は悉く漁業を主目的とせず、金塊發見、一攫千金を夢見てゐた者で、給料の如きも漁業期間（四五月頃から八月頃まで）を通じて僅か九十弗に過ぎなかつたが、なほそれを意とせず、勇躍遠征の途についた、然るに漁業並に鑛詰業も不熟練なるが爲に失

敗し金塊も發見出來ず、一行は悄然として歸國したのであつた。そのうち五名はなほ金塊への夢捨て難く、アラスカに踏止まつたが、翌年酒巻が再び四十餘名を引率してアラスカに渡つた時、右の五名は顔色までアラスカ土人同然となり、一年ぶりに同胞に會するや聲をあげて感泣したと云はれる。

支那人の配下を脱す 酒巻に引率されて再渡航した邦人四十名も結局不馴れの爲に失敗したが、その翌一九〇一年（明治三十四年）にはアラスカ・パツカース會社と直接契約をして、從來支那人請負業者の下請負となつてゐた羈絆を脱し、邦人就働の基礎を確立した。この結果は非常な好成绩を得るに至り爾來日本人は支那人より獨立して酒巻の手に依る單獨請負ひとなり、遂には支那人排斥法の制定以來、アラスカ罐詰労働者は先進の支那人を凌いで絶對勢力となるに至つた。その間新世界新聞社營業部に勤務中の伊松勝三は一九〇三年には酒巻とは別に請負者となり邦人百餘名を引率渡航し、一九〇六、七、八の三年間は酒巻、海東、角田、伊松らの四名によつて共同契約し大規模に邦人労働者を送るなど邦人の進出は急激に増加し一九一二年の如きはその數三千三百餘名を數へるに至つた（なほ前記伊松はビータソン罐詰會社のキャン・テースター（罐詰試験係）となつたが、キャン・テースターは伊松を以て邦人中の嚆矢とする）爾來邦人のアラスカ進出は逐年増加し酒巻死後は嗣子酒巻末治、野々口一誠兩名によつて契約され、最近ではユニオンの支配力も強力になり、ユニオンを通じて就働契約を行ふやうになり、従つてユニオン加盟者以外は就働不可能となつた爲、邦人の就働者數は減少したが、待遇は寧ろ改善され、一期二百五十弗乃至三百弗位に收入を得るやうになつてゐる。

罐詰労働と 邦人の現況 斯くして邦人のアラスカ進出は逐年増加の一途を辿り、最盛期には桑港より渡航するものゝみで約半ヶ年に於けるこれら邦人の總労働賃銀は七十五萬弗に達したと云はれる一方、請負業者方面の状況を一九二五年

度のシャートル帝國領事館調査によつて見れば、邦人請負業者同年度の投資額は三十二萬二千弗となつて居り、その罐詰賣上げ高は實に八十一萬弗の巨額に達してゐる。然し現今は第一世の老境入りと共に漸次に退勢を見せ、邦人のアラスカ進出は往時に比すべくもなく、その反對に比島人の進出は顯著である。然るに往時は兎角に風紀亂れ賭博、飲酒、喧嘩、刃傷沙汰等、その品性の劣悪さは世人の問題とするところとなつてゐるが、現在は比較的眞面目なる青年或は學生によつて多數をしめられ、その風紀もすつかり改善されてゐる。

シャートル ワシントン州に於けるアラスカ罐詰請負業は桑港よりもやゝ遅く、而も直接罐詰會社と契約を結ぶべき資力あるものなく、漸く一九〇二年（明治三十五年）頃に至つて菊竹事務所が支那人の下請負として就業したのがその嚆矢である當時はビュゼットサウンド（瀬戸内海）アラスカ罐詰會社就働を目的とし労働者の賃銀も一九〇九年頃に至つてアラスカ・ユークン萬國博覽會景氣を迎へ漸く夏季三ヶ月間百五十五弗位に上騰したが、支那人の下請負であつた爲、同胞社會に落ちる金は少なく殆んど支那人の好餌となる始末であつた。然るに一九一三年（大正二年）頃、シャートル市デアボン街に事務所を持つアラスカ・キャナリー請負業者和歌山縣人藤本虎楠が賭博に手を出し、遂にその始末に困窮した擧句逃亡するに至つたので、翌一九一四年上旬、永松、串、西村らは相諮つて會社と直接契約を結び、支那人の羈絆を脱して、茲に日本人の手による獨立請負を始め、日本人のアラスカ進出の基礎を確立した。その後同胞請負業者の數も増加し、就働同胞も八百名内外に上り、且つ賃銀も一シーズン百七十八弗に騰貴し當時彼らの收得した一ヶ年の總額は約三十五萬弗に達する好況を示現した。

一九一七、八兩年頃は所謂大戰景氣を招來して労働賃銀も一躍三百五十弗乃至四百弗に高騰した爲、その總收得年額の如きは六十萬弗に達する程であつた。然るに一九二〇年に至り戦後の恐慌その極に達し、特にキャナリー業の打撃甚しく、漁場を開かざるもの大半に及ぶ始末となつたが、その後漸次に復活の徴候が現はれ一九二五年（大正十四

年)は最盛期を示現、就働者千八百名を數へ、その生産高實に百六十萬ケースに達した。この數字は全米國サモン鐵詰生産高の四分の一に當り、同胞側の收入實に百萬圓と推算された。而してその翌一九二六年、同胞請負業者の手に依つて契約されたキャナリー數はアラスカ・キャナリー全數七十五ヶ所中三十四ヶ所に及んだが、就働者はこの頃より漸減の傾向を見せ、現今は加州に於けると同様、比島人の進出著しく、一時支那人の勢力を奪つた日本人も漸次に比島人に蠶食されんとする傾向にある。

第四章 勞 働

米國に於ける日本人勞働

緒言 極めて少數の例外を除いて、在米同胞の初期は勞働によつて始まり、從つて其殆ど全部が勞働者であつたと云ふも過言でない。而して其勞働を大別して鐵道勞働、鑛山勞働、製材勞働、農業勞働、家内勞働の五大別とすることが出来る。無一物で渡米した我先驅者は、先づ働きを家庭に求め、アメリカの風俗習慣、言語等を幾分解するに及んで、各種の勞働に擴がつたと云ふを妥當とするが、本項に於ては稿を進むる便宜上右四項目に分けて述べることにする。

鐵道勞働 日本人の鐵道勞働と云へば、山中部——即ちユタ、アイダホ、ワイオミング、ネヴァダ諸州を思はせる。蓋し山中部の日本人社會は鐵道勞働者に依て開かれたと云つて過言でないからである。

日本人の鐵道に關係したのは可成りに古い。明治廿四年(一八九一年)頃田中忠七は山中部よりポートランドに赴き、四十人の鐵道人夫を募集した。彼れは水夫上りで目に一丁字もない無教育者であつたが、機を見るに敏にしてそのうしたことに仲々の才能を持つてゐた。當時彼れの請負では支那人勞働請負者の下請であつたが、其不利なることを自覺し、ユービー鐵道會社勞働監督レミントンに交渉し、直接人夫請負契約を結んだ。これが米國に於ける日本人が鐵道會社と連絡し、人夫請負を爲した嚆矢と云はれる。田中がユービー系鐵道に人夫供給の契約を成したる後、幾許

もなく長谷川源司は加州及びネヴァダ州西部のエス・ビー鐵道會社の勞働監督クラッカーの知遇を得て同様の契約を結んだ。彼れの奔走により同鐵道に就働せるものは、最初七八十名であつたが、彼等は廣く加州フレノスノ地方或はネヴァダ州カーリン附近に就働した。爾來鐵道方面に於ける同胞勞働者の需要が漸く増加し、直接日本からの渡米者及布哇轉航者の増へるに隨つて、本勞働は益々繁盛するに至つた。而して此趨勢はづつと繼續するに至り、一九〇五年（明治卅八年）頃は山中部を始め太平洋沿岸を通じて鐵道に就働するもの一萬一千六百八十三名の多きに及んだ。初期に於ける人夫請負人は眞に王侯の如き勢力を有し、凡ての慾望は充たされざるなく、同胞羨望の的であつた。

鐵道勞働が何故に斯く盛況を來たしたかと云ふと、他の働きよりも比較的高賃銀であつたからである。これを實例に徴すると明治廿四年（一八九一年）前記田中忠七が初めて人夫を太平洋沿岸に募集した當時は、沿岸に於ける同胞の普通日給は六十仙であつた。然るに田中は月給卅弗を支拂つたのである。越へて一九〇一年（明治卅四年）頃は徐々上がつてオレゴン、シヨート・ラインの如きは、日給一弗四十五仙を支拂つた。こうした高賃銀は祖國日本に響いて同胞の渡米熱を煽つたことも看過出來ない。當時日本の勞働者日給は、石切人夫が六十五錢、大工五十五錢、指物工が六十錢、鍛冶工が七十五錢、印刷工が四十錢、船大工が六十錢、普通勞働が四十錢、農園勞働が月三圓であつた。明治卅三年即ち一九〇〇年の渡米者は一萬二千六百廿八人に及んだが、内熟練勞働者は千七百九十三名で、他は不熟練勞働者で、ドシ／＼鐵道勞働に吸收されたのである。

橋本大五郎がサンビドロ、ロスアンゼルス、ソートレーキ鐵道の有望なるを看取し、人夫供給の約を結んだのは一九〇二年（明治卅五年）八月のことであるが、此頃より布哇から轉航して來るもの愈々激増し、人夫供給業者は人員を得ること極めて容易で、彼等の業務は頗る繁榮を極めた。明治卅七年、臨本、西村組はユービー鐵道に數百人の邦人を就働せしめ、山中部の境界を越えて遠くネブラスカ州に及ぶの盛況を呈した。

臨本はこうした盛況に乗じて、更に大きな計畫を樹てた。其計畫と云ふのは、一九〇五年米國政府がパナマ運河を開鑿するに當り、之れに向つて人夫の供給を爲さんとするにあり、彼れは之れが爲めにパナマ運河地方の衛生状態其他を詳細に調査し、日本政府へ意見書を呈出し、一回ワシントン政府にも交渉を開始し、大に奔走するところであつた。併し不幸にして間もなく布哇轉航禁止、其他移民上の障害に會し、折角の企業も挫折するの止むなきに至つた。當時彼等の意氣は實に壯なもので、米國本土を出で、遠く中米にも手を染めんとしたもので、以て如何に人夫請負業者の抱負が大なるものであつたか、想像し得らるゝのである。

勸業社の請負 一九〇四年（明治卅七年）倉永照三郎はエス・ビーの人夫供給を止め、勸業社が其後を引受け事業を繼續したが間もなく祖國よりの渡航者制限並に、布哇轉航禁止等が祟つて一頓挫を來たさざるを得なかつた。斯くて一時異狀な發達を遂げた鐵道人夫供給事業は、漸次凋落の一途を辿り、それと同時に鐵道働き其ものにも變動を來たした。即ち働きに不熟練のものは去つて他の働きに移り、熟練人夫はセクション監督として残り、是等は各十名位の工夫を率ひて働いたのであるが、其部下には白人も混つて居る。

鐵道働きの日給は一九〇一年（明治卅四年）より一九〇四年（卅七年）頃は一弗廿五仙より一弗四十仙であつたが一九一二年（大正一年）頃は二弗に進み、それが順次昂騰して三弗となり三弗五十仙の賃銀を受くることになつた。

各州に於ける日本人鐵道勞働者數

加州 一五七、コロラド州 二五、ネバタ州 五九、ユタ州 三二五、アリゾナ州 三七、ニューメキシコ州 二六、ワシントン州 七三四、オレゴン州 五〇二、アイダホ州 二二、ワイオミング州 一六七、ネブラスカ州 三〇、オハヨ州 六〇、合計 二、一四八

右統計は最近に見るべきものなく十年前の統計による。而して十年後の今日は確かに非常な減じ方をしてゐること

が想像せられる。

鑛山労働

日本人が米大陸の鑛山に働いたのは可成古い。年代は判らぬが、カナダのユニオン炭坑に働いたと云ふ事實がある。後明治廿四年頃加州テラスの炭坑に働いたが、是等は孰れも坑外の雑用に使はれたもので、坑内採掘夫ではなかつた。實際炭坑労働者として働いたのは、一八九八年（明治卅一年）頃からと見られる。明治卅一年十一月西山元はユタ州ロックスプリングスの炭山ユービー炭坑會社と日本人夫供給の契約を結び、數十名の日本人を就働せしめた。後彼れの配下に五百名からの同胞が就働したことがあつたが、更に卅三年同州スウキートウオーターのセントラル、コール、エンド、コークス會社とも契約し、人夫を供給した。即ち西山元が同胞鑛山就働の元祖と云つて差支へない。

當時米國労働界の趨勢を見ると、南北戦争後労働者の覺醒目覺しく、各地各種に互つて労働者組合が組織せられ、資本家に對抗して組合員の精神的物資的生活の向上を圖つた。而して團體勢力の旺盛なるに連れ、労働新聞等起して政治にまで容喙するに至つた。一例を擧ぐればフライデルフィアに創立されたナイツ、オブ、レーバアの如きは、一八八六年には、既に會員七十萬人に及び偉大な権力を振つた。こうした労働界の趨勢に對し、資本家側は労働者の團體運動を防止する爲めには、同種同國邦語乃至一定の組合員を雇補するよりは趣味性僻其他思想感情等全く相異なる異人種を雇ふに如かずとし、盛んに支那人労働者が雇補された。斯る情勢は自然團體労働者の憤激を買ひ、ロックスプリングのユービー炭坑會社に於ては、支那人の虐殺事件が起つた。併し會社側は軍隊の擁護を受けて、十數年の間支那人使用を繼續した。日本人労働者は支那人労働者の後を漸次襲つた形ちであるが、日本人は支那人に共通點を持ち容易に一人のボツスの指導下に行動を共にし就働するので、會社側の歡迎するところとなつた。ワイオミング州の炭山には同胞労働者の關係するところ頗る多いが、一九〇一年（明治卅四年）八月曩に墨國の某

炭坑會社に廿餘名の同胞坑夫を供給せる橋本大五郎は、ワイオミング州オークリーのダイヤモンド炭山に卅名の人夫を供給した。而して同年冬期には約百名に及び同地労働界に相當の勢力を扶植した。

一九〇三年（明治卅六年）日米勸業社が、同地方へ飛躍せんとするに當り、同地元老西山元と提携、翌卅七年六月人夫供給業全部は、兩者の協同事業となつた。當時同邦坑夫は三百五十名を算した。其後權利者並に人物が變つて今日に及んだ。

フロンテアに於けるキャマール炭坑會社の日本人坑夫供給は、明治卅八年十一月勸業社の手によつて始められ、最初僅かに十四名が幾許もなくして六十名に増加した。其他ガン炭山、エルコール炭山、ハンナ炭山、等々多くの炭山に同胞坑夫は、人夫請負人の手により就働し同地方炭坑労働界に、一大勢力を作つた。

炭坑夫同盟参加 廿世紀の初頭に於てアメリカ労働界は漸く階段的意識に目覺めて來、各地に労働同盟が組織さるゝに至つたが、炭坑労働者間にも此氣運が動き、同盟を作ることになつた。一九〇七年（明治四十年）五月ギブソンなる労働運動者が、モンタナ州より來り、ロックスプリングスに於て坑夫大會を開き、其決議により坑夫同盟を作ることになつた。併し會社側に於ては、自己の利益を侵害することを恐れこれを承認せず、茲に於て労働者側では表面同盟罷業とも見らるゝ休業を以て之に對抗し、此状態は暫く續いた。此間會社側は勞銀一割を上げて、同盟破壊を企てたが、遂に效を奏せず、一方ギブソンは全米炭坑夫同盟第廿二區長となり、各坑區を遊説して同盟の根據を堅からしめ、遂に會社側に對抗して侮るべからざる勢力を扶植するに至つた。當時ワイオミング州内に於ける日本人坑夫は約千人、支那人二百人あり、相當の勢力を持ち、會社側に於ても、同盟側に於ても其去就については相當の注意を拂ふようになつた。そこで鈴木六彦、權藤誓吟の二名は、日白坑夫間に立ち極力調停の任に當つた。其結果兩者の意志疏通が出來、同年九月當時炭坑労働同盟の威を振ひつたコロラド州デンヴァに於てワ州の會社對労働同盟

側の係争を審議することになり、五十名からの代表者が集まつた。本會議には鈴木權藤を始め植田半太郎、西山元等も出席し、大に日本人坑夫の利益の爲めに奔走するところがあつた。本労働争議は會見討議等前後四十日の永きに亘つたが、結局會社側が坑夫同盟を承認することになり、北部コロラド州に於て實行されつゝる労働契約と略ぼ同一の契約を結ぶことになつた。而して日本人坑夫は、始め白人坑夫の嫌ふところであつたが、自然の勢ひでこれを加盟することは一決し、頗る圓滿に解決労働に服することになつた。

一九一〇年の調査 合衆國移民委員會の報告によると、日本人坑夫三百卅五名の一日の收入割合は以下の如くであつた。零パーセントは一弗五十仙以上一弗七十五仙を受け、一パーセント半は一弗七十五仙より二弗、四パーセント半は二弗より二弗五十仙、卅パーセントは二弗五十仙より三弗、卅八パーセント半は三弗より三弗五十仙、一パーセント八は、三弗五十仙より四弗、而して廿三パーセント三は四弗若くはそれ以上。即ち一日四弗以上を收得する労働者の比率は、スコットランド人の廿四パーセント七に次ぎ、就働廿ヶ國民日本人は第二位を占めてゐた。

ユタ州炭坑と邦人 ユタ州の石炭は品質の良好なると埋藏量の多いことに於て米國でも有名であるが、同州の石炭含有地積は約一萬五千方哩、包蔵尙八億九千萬噸なりと云はれてゐる。而して同州中最も豊富なる炭坑地帯はカーボン郡で、次ぎはエムソー郡である。日本人の主として就働してゐるのは、カーボン郡の炭坑である。同州の石炭産出量を見ると、一八七九年は廿二萬五千噸であつたのが、一八九九年には八十七萬八千噸に進んだ。更に一九〇〇年より一九〇八年までは年々百萬噸臺。一九〇九年よりは二百萬噸臺となり其後漸次進んで近年では四百萬噸より五百萬噸を産出するに至つた。

ユタ州に日本人が初めて炭坑に働いたのは、一九〇四年（明治卅七年）四月橋本大五郎が、ユタ燃料會社との契約により人夫供給を爲した事に初まる。當時同會社所有キャツスルゲイト炭坑に工夫の罷業あり、會社は爲めに人夫の

供給を橋本に依頼した。橋本はワイオミング州ロックスプリングスより探掘に經驗ある邦人坑夫七名を連れ來り、就働せしめたものである。其後罷業が止み、翌一九〇五年（卅八年）には邦人坑夫が八十名を算するに至つた。キャツスルゲイト炭坑に於ける日本人坑夫の成績が良好であつたので、サンニサイド炭坑に於ても日本人を採用することになり、明治四十年頃は十名の日本人が就働した。これが漸次増へて八十名に及んだ。同炭坑に就働した初期の坑夫賃銀は採炭一噸に付六十三仙、坑内勞作日給二弗五十仙、最高給一ヶ月百弗内外であつた。當時は食料も悪かつたのであるが、一ヶ月の食費十二三弗で足りたのである。

爾來年と共に日本人が多く炭坑に働くようになり、或者は轉々して蓄財を多く持たなかつたが、或者は一ヶ所に辛棒し、相當の蓄財を爲し事業方面に流用した者も尠なくなつた。兎に角當時無一物で來た同胞労働者の爲めには差當つて金錢を得るに唯一の寶庫であつたに相違ない。

銅山日本人労働 山中部は米國內に於ても有名な鑛山地帯で、ユタ州一州だけでも、一八六五年より一九二〇年の五十五年間に、銅、鉛、石炭、金等の産額は、十二億九千萬弗に及んでゐる。ユタ州最大の銅山は、ソートレィキ市の西南廿五哩オクイール山脈中のピンカムにある。其露天掘りの規模大なること眞に世界第一の稱がある。同銅山の發見されたのは、一八六三年のことであるが、爾來三四十年の間大した採鑛がなかつたが、一九〇三年にユタカッパー會社が組織せらるるに及んで、ドシク發展し、現今に於ては同會社の所有地は八十五萬一千九百八十四英加に及び、一九一八年の頃は六千人の就働者があり、銅生産二億六百封度に達した。

日本人がビンガム銅山に就働したのは、昭和四十二年でありこれは同地のバイオニア格の岡山縣人岡早雄の手引きによつて就働したものである。當時の日給は一弗七十五仙で後ちに二弗に上げられた。斯くて漸次人員が殖え、岡全盛時代には、彼の配下に働いたものは、四百卅名の多きに及んだ。當時彼れの配下にあつた労働者は一ヶ月一弗宛

事務費として岡に支拂つた。而して一ヶ月の食料は僅かに八弗より十弗で足りたと云ふことである。

大正三年頃ビンガム銅山に就働する日本人は六百五十名に及び、越えて歐洲大戰當時は、労働者拂底であると共に労働昂騰し、ビンガム銅山に就働する同胞労働者は、一日九時間働きて最低三弗九十仙、最高四弗十五仙を得た。以上規定以外の労働多かりしを以て、精勤のものは巨額な収入を得、山中部同胞労働開始以来の黄金時代を現出した。

冶金工場と同胞

同胞の熔鑛所労働を始めたのは、明治卅八年假家卯太郎がソートレーキ市南ウエスト、ジョルダン熔鑛所に、若干の日本人夫を供給したることを以て嚆矢とする。當時の日給は一弗七十五仙であつたが、後ち二弗廿五仙となり、更に二弗五十仙となつた。同所は同胞労働者の爲め、大變都合がよかつたのであるが、幾許もなくして、同會社は閉鎖されて終つた。

明治四十一年九月橋本大五郎はユタ製銅會社のガフィールド精銅所（後ちマダナと改稱）に同胞人夫を供給、また佐古大師郎は、アーサー精銅所に人夫の供給を爲した。大正元年頃日本人の受けた労働は一日八時間働きて、一弗九十五仙より二弗五十仙、其後歐洲大戰當時は著しく労働昂騰したが戦後再び下がつて、八時間働きて二弗八十五仙より三弗廿五仙となつた。

其他ソートレーキを中心として、マギル、トエラ熔鑛所、精鍊所にも相當日本人が働いた。要するに熔鑛所及び精鍊所に働いた日本人は、不熟練労働者として働いたのであるが、内には技手として働いたものがあり、和歌山縣人古藤某の如き、それであつて彼れは一日五弗を給せられて居つた。今日は第一世の労働期が過ぎてゆくに連れ、こうした方面の労働も衰凋を來たすに至つた。

日本人採鑛冶金労働者數

コロラド州三八、ユタ州八四〇、オレゴン州一二、ワイオミング州一一七、合計一〇〇七人（一九三〇年調査）

日支人の労働關係

在留同胞の鐵道並に鑛山労働は支那人の後を襲ふたもので、これは嚴格に云ふと農園労働に家内労働もそうであるが、兎に角彼等は我等の先住者であり、労働方面に相當の地盤を築いて居つた。故に當初に於ては日支人の労働上に於ける確執があつた。而し支那人は一八八二年（明治十五年）中央議會に於て制定された排斥移住民法により、入國を拒絶せられ、また彼等の年齢が漸く老齡に達するに及んで、日本人が彼等の地盤を完全に獲得した形ちである。

斯く日本人の労働勢力は滔々として労働界に加つて來たが、これがまた米國労働者間に一種の脅威を與へたことは事實と見られる。本項参考書中には合衆國政府産業委員の報告書第十五卷、移民並に教育報告書の一部を抜抄して左の文字を羅列してゐる。

日本人の特質

前略「然れども支那人苦力後退して引續き我米國労働者の利益に對し、支那人と同じき脅威を與ふる日本人の渡來せるあり、彼等日本人は殆んど他の注目を惹かず、また疑惑若しくは驚怖を挑發せずして、黙々裡に國內に這入り、而して太平洋沿岸の殆んど凡ゆる産業界に其勢力を扶植してゐる。

彼等日本人の苦力労働者は、隊を組み野榮、果樹園地域に送り込まれ、白人労働者は其新來の侵入者に氣が附いたときは既に、業に彼等自身が、支那人よりも一層危険なる其新來の敵手の爲めに、其地位を奪はれてゐることを發見するのである。彼等日本人は支那人よりも更に奴隸根性に富めども、支那人よりも従順ならず、而して遙かに好ましからず、彼等は支那人の有する悪習の多くを有し、其美德は寸毫も具へ居らず、彼等は總てのことに於て支那人より低廉に評價し引受け、而して詭計多く信頼し難く、また不正直なり」

これは總體的に見て、事實が凡て反對であるが、如斯政府委員の筆に成つて獨斷されるに至つては、日本人の排斥も起らざるを得ないのである。

製材労働

布哇轉航の最も旺んな時代に新渡米者は山中部方面の鐵道又は鑛山労働に従事するものと、西北部を中心とするソールミル方面に働いたものとの二つがあつた。製材労働は比較的収入の點もよく且つ製材所に起臥する

ので一九〇二、三年頃（明治三十五年）の西北部各地の製材所に邦人労働者の就職する者頗る多く、雇主側も支那人よりも勤勉なる日本人に對し大に歓迎する所より、續々として製材労働に従事するものが増加して來た。邦人労働者が纏つて製材所に就職したのは、一九〇三年（明治三十六年）マアテオ製材所の作業運轉と同時に野中某が同胞八十名を率ひて就職し、キャンプを設立した。これ同胞ソーミルキャンプ中最も歴史が古く、當時賃銀は一弗二十五仙であつた。一九〇七八年頃より歐洲第一次大戦を前後としてソーミル界は活況を呈し、當時アルカイ製材会社の就職者は、最初八名に過ぎなかつたものが、二十五名となり、三十名となり、三十五名となり、ユニオン、ストライキ當時は邦人労働者の數は一時百名に上り、全盛の時は晝夜運轉で百二十名に増したこともある、世界大戦後歸還軍人に仕事を奪はれ減少を見た。賃銀は大戦前一時三仙であつたのが、大戦中の好景氣に煽られ四十八仙五厘まで騰り、異常な成金者が續出すると云ふ勢ひであつた。一九一六年頃オナスカ製材会社には五十餘人が就職し、レニア製材会社にも邦人を四十名も使ひ、殆んど日本人ばかりで運轉した時代もあつた。一九一七年スノーコルミフオールス日本人キャンプには、百六十五名と云ふ多數の同胞が眞面目に就職し頗る好成績をあげた。歐洲戦争の始まる一年前の事であり労働界は人員不足の爲め高賃銀となり、平均五弗の賃銀を缺けるやうな事はなく當時日本からどしどし造船用材の注文があり、

三井と鈴木 の判を押した材木が此の会社から盛んに送り出された。一九〇四年に設立された大北製材会社に同胞労働者が三十餘名あり引續き多數が就職してゐる。其他マッケンナ製材会社、コスモボリス、ウエナチ、エナムクロー等の製材会社に多年勤続して居る者が多數にあり、着實なる労働者として堅實な地歩を築いて居る。

支那人に代つて鐵道、鑛山、製材所、農園等に入り込んだ日本人労働者に對し、各地方の同地白人労働者は暴力により或は商店を強壓し、之と聯合して不賣同盟により、總ゆる手段を弄して迫害を重ねたが、日本労働者の雇主たる

資本家は又總ゆる方法を講じて邦人労働者を保護した。事情如斯日本人對労働組合は恰かも仇敵の如き關係となり、日本人の組合加入を許すが如きは、當時に於ては夢想だに爲し得ざりし所であつた。然るに時勢の推移は此大勢を一變せしめるに至り、邦人も亦米國に渡來して労働者として生活する以て、其階級利益を無視して經濟秩序を破壊することの誤まれるを自覺し、努めて共同利益増進に一致するの態度を取り、兩者の關係は頗る融和し、偶々一九一九年初頭の沙港を中心として斷行された、ゼネラル・ストライキ當時、邦人労働者は米人労働組合と一致の行動を取つてからは愈々密接の度を増すに至り、兩者の關係は良好に向つて居る。

農園労働 同胞の農園労働に就ては、同胞の農業發展の徑路の項に於て殆んど述べ盡した。今日の農業的地盤は農園労働から發祥したものである。初期農園労働者が一日十時間働きて一弗から一弗廿五仙で、パンのような所で園子汁を吸つて働いたものである。而して其働きは單に働く爲めに働いたのではない。其持つた天性と機敏と發展性と其持つ勇氣は事毎に經驗となり智識となり、後彼等は白人の到底及ばざる大きな事業を爲した。識者はこれに對しギャンブル的の危険さを氣遣ひ、戒しめた位に突進力の強いものであつた。獨立農業を爲すに當つて、一躍百英加五百英加を切廻すと云ふ具合で、そこに益々智識と經驗を加へると云ふやり方である。初期の農業家は現在の農業家より確かに太ッ腹であり、園主は恰も王侯の氣取りで闊歩したのである。斯くて農園労働者は大半獨立農業に移り、若干のものが労働者として残つたに過ぎない。勿論農業労働の内でも自己が農園を經營し、其餘暇に於て労働するものも相當多く、純粹の労働者と云ふものは尠なく、殊に現在に及んでは老齡の關係で第一世は著しく數を減じ、第二世の労働者はまだ其數は甚だ尠ないと見られる。

家内労働 家内労働は在留同胞の多くが、必ず一度は経験したものと云へる。スクールボーイから出發してハウス・ウオーク、料理人、ガーデン・ウオークと云ふ工合に、初めは家内労働から派生したものと云つてよいであら

う。兎に角家内労働は同胞に取つて米國の風俗習慣の習得所であり、言葉の練習乃至習得所であつた。此ハウス・オリタの中から學者も出れば、實業家も出て、後ち祖國に歸つて大官となり、學者となり、政治家となり、新聞記者となり、大實業家となつた人々の、スクールボーイ時代の珍談、奇談、佳話が相當に多い、在留同胞と家内働きは、切つても切れぬ因縁である。萬るす氣轉がきいて手先の器用な同胞は、家庭働き中に経験した、料理、洗濯、庭園、手當、家内掃除等の経験を生かして、總ては料理店を開き、洗濯業を起し、洗染所を開き庭園師となつた。今日に於ても家内労働は同胞の労働として重きを爲し、此方面よりの収入は相當巨額に上つてゐるものと見られてゐる。殊に專業化した庭園師の如き、其最も發展した南加羅府の如きは、二千名にも及び、花園業と聯絡して庭園界に非常な勢力を持ち其収入も亦驚くべき巨額に上つてゐる。

日本人が家内労働界に何故に勢力を得たかと云へば、それは正直でよく、忠實に働くからであると言ふ外はない。家庭内の一員として住み込むのであるから、注意が行届かなかつたり、物が無くなつたりしては大變である。かう云ふ方面にかけては、日本人は絶対に安心出來、そこに多くの信用を買つてゐるのである。

日本人は正直であり、面目を重んずる國民であると云ふことが知られ、日本人が家庭働きに重寶がられたのは以上の理由に基づくものである。近來は第一世に次ぐに二世嬢が大部此地方に働いて居るが、彼女等は英語會話には不自由なく白人と同様な待遇を受けてゐる。

現在加州内で日本人が家庭に働いてゐる数は約五千人であると云はれてゐる。是等が月平均六十弗弱の給料を受けてゐると云ふことであるから一ヶ月に約卅萬弗、一ヶ年に三百六十萬弗の金が此方面から這入つて來る譯である。

加州外の労働

ワシントン州、オレゴン州は加州に比し、日本人が口が尠なく、從て農園及び家内労働者も甚だ尠ないので、茲に特記すべきものが殆どない、只以前は加州日本人労働界に見ざる材木會社の労働があり、其數々百

名に及んでおつた。先づ労働と云へば、季節的にアラスカ鮭鱈請會社に働く位のものに過ぎない。家内労働者數はワシントン州約二百名、オレゴン州が約百名である。

其他各州に散在してゐる農園及び家内労働者の數は何等統計の依るべきものがないが、今より十年前の統計に依ると、コロラド州が農園労働者二百五十名、家内労働者五十七名、ネバタ州が農園労働者なく家内労働が四十五名、ユタ州が農園労働者なく、家内労働者七十五名、アイダホ州が農園労働者廿四名、家内労働が十二名、ワイオミングが、農園労働者が一名、家内労働者が六名、紐育州が農園労働者なく、家内労働が四百八十四名、其他東部諸州家内労働者百六十五名、イリノイ州が農園労働者なく、家内労働者八十一名、ネブラスカ州農園労働者なく、家内労働者が七十名。オハヨ州は農園労働者廿八名、家内労働者卅二名、ニューオレアンズが農業労働者一名、家内労働者は卅七名となつてゐる。また加州に續いたアリゾナ州には我農家はあつたが、同胞の農業労働者は殆どなく、家内働きは九名、ニューメキシコにも農園労働者なく家内働きは十八名居る。これを要するに加州外の州は、加州の如く同胞農業が發達して居らず、從て農園労働者といふものが甚だ尠ない譯である。

米國労働界の趨勢

現代アメリカ労働界の趨勢は、エー、エフ、エル、（アメリカン、フェデレーション、オブ、レバ）とシー、アイ、オー、（コミッテ、フオア、インダストリアル、オーガニゼーション）の二大労働組合が對立し、近來は經濟的の範圍を出で政治にまで干渉するようになった。組合員總數は一九三六年米國労働統計局の調査に依ると、四百六十萬人で、全労働人口の僅かに一割内外に過ぎなかつたが、最近ではエー・エフ・エル、（日本譯米國労働總同盟と云ふ以下其名を用ゆる）が三百九十萬三千人に、シー・アイ・オー、（日本譯産業別労働組合組織委員會と云ふ以下

此名を用ゆるが四百萬人に増加してゐる。一九四〇年六月廿四日フイヤデルフイヤに於て大統領候補選定の爲め共和黨大會が開かれたが、産業別労働組合組織委員長ジョン・ルイスが、其五日前の十九日に同黨政綱起草委員會に臨み、組合としての政治的意見を述べ自己組合員一千萬人と稱したが、これは該組合員並に其勢力範圍を總括しての數と見られる。兎に角英、佛の労働組合に比し頗る幼稚と云はれた米國労働組合も、ルーズヴェルト大統領の就任以來其數を激増し、政界に對しても陰然たる勢力を保持するに至つた。左に少しく其變遷の経路を述べる。

米國労働近代史を稽いて見ると、一八六九年にフイラデルフイヤに於て、労働騎士團なるものが組織せられた。其組合員は凡ての産業に従事する労働者を網羅し、階級闘争意識の下に賃銀制度打破、労働者の地位向上をモットーとして立つた。爲めに一時各産業間に非常な勢ひを以て、發展したが偶々政争の具に捲き込まれたり、當時の資本主義發展の階段に添はなかつたりして、幾許もなくして崩壊の運命に歸した。次ぎで一八八一年サムユエル・ゴンバースが現資本主義體勢下にあつて有利なる労働條件を得ることを主眼とし、即ち階級意識と云はんより寧ろ職業的乃至賃銀意識に重きを置き、同一職業に在る熟練職工を糾合して今日の米國労働總同盟を組織した。爾來卅有餘年の間米國労働界を風靡し一大飛躍を遂げたのであつたが、歐洲大戰の勃發と共に、聯合國への物資供給が盛となり米國の全産業機關は驚くべき發展を遂げ同時に其規模は殆ど無制限に擴大された。

此著しき産業の擴大により、労働者の態勢にも亦變化を生ぜざるを得ない。其大なる變化の一つは是迄の如き小規模の工業にあつては、熟練職工を要し、熟練職工ならではの産業の成績を擧げ得なかつたのが、規模廣大な機械工業となつては、而かく熟練を必要とせず、これに従事する労働者は云はゞ機械の番人に止まるから、極めて短時間に於て仕事を習得することが出来、熟練職工は少數にて事足り半熟練若くは未熟練職工が大部分を占むることになつた。故に熟練職工に依て組織さるゝ職業別組合では組合員の數が少なくて、カルテル、トラスト等による大資本の偉力に對

抗して労働者の有利な條件を獲得することは愈々困難となつた。茲に於て自然の要求として、ルイス等一派の唱導する産業別組合組織運動の急激なる擡頭を見るに至つた所以である。

大戰後の現象

茲に労働問題の一現象として特記せねばならぬことは、歐洲大戰以來會社組合一名御用組合の發達したことである。本組合の性質は資本家が労働組合の運動に對する防壁として作られたもので、其組織は一會社内限定され、地方的又は職業的な横斷的組織すら許されず、運動と云へばスポーツやピクニック位のものである。此種組合は前歐洲大戰前には僅かに十二位に過ぎなかつたのが、戰後續出、其數二百廿五組合、人員四十五萬に及び一九二七年の統計に依ると、九百組合百四十萬人、更に此勢ひは滔々として進み、一九三四年には組織労働者の數が三四百萬人會社組合員數は實に五百萬人の多きに上つた。而して組合の形式は委員會型と組合型との二つあるが、組合型は會社の統制下にあつても、獨立に似た性質を持ち、其一例は一九一八年に西部ユニオン電信會社が組織した、西部ユニオン使用人協會であつて、労働組合のメンバーたることを許さず、組合の選出した代表委員に依つて凡てが決議される。代表委員に選出さるゝ資格は廿五歳以上、勤続二ヶ年以上、協會員たること一ヶ年以上のものに限る。而して會社は職工採用に當つては廿一歳未満のものを選んでゐる。委員會型の一例は一九二〇年、肉類罐詰業スケフト外三會社が採用せるもので、使用人代表制であるが、これは表面雇主の立場を諒解せしめ、且つ事業其ものに興味を持たしむるにありしてゐるが、委員會の決定權は全部雇主側にあり、故に労働者としては名は代表制であるが何等權利の伸張は出来ない仕組となつてゐる。

組合の特性

茲に會社組合の特性を要約すると、如何なる場合でもストライキの權利を有して居らない、其取扱ふ問題は些々たる苦情とか冗費節約等を議するのみで、解雇昇給と云つた重要問題の協議は許されない、よく廣汎な問題は協議が許されたとしても、決定權が會社側にあるのだから、労働者に取つては何にもならない。要するに本

組合は資本の貴族的獨裁に對する民主主義を加味した一種の欺瞞に過ぎないので之れがボツ／＼政界の問題となり、ウキスコンシン州選出上院議員ロバート・ラフォレットの提案によつて、上院教育労働委員會内に言論自由調査委員會なるものが組織せられ、労働者の言論の自由、團結權及び團體交渉權に對する侵害問題等を調査することになり、前記ラフォレット氏及びユタ州選出上院議員エルバート・デー・トーマスが調査委員に任命された。是等二名の調査の結果は、労働者に對し好ましからざる事實が續々として擧げられ、且つピンカートン、バーンズ等多數私設探偵會社が會社に對し秘密探偵又は罷業破り等を供給し莫大な利益を得てゐることが判明した。例へばジェネラル・モーターズ會社の如きは一九三四年及び一九三五年の二ケ年間に私設探偵會社に支拂ひたる費用は、實に八十萬弗を超えてゐることが表面にさらけ出された。

斯くの如く會社組合は内部事情を曝露されるに及んで、順次勢力を失ひ、而かも産業復興法及びワグナー労働法に刺戟されて急激なる發達を遂げつゝあつた労働組合運動は、順次會社組合員を自己陣營内に引入れることに成功し、會社組合は最早や昔日の勢力を見ることは出来ないようになった。

例へば從來會社組合の最も旺盛を極めた鋼鐵工業、自動車工業、ゴム工業は、全国的に連絡をとり會社の支配を脱却せんとし、米國鋼鐵會社内の錫板製造部工場の十一個所の會社組合は會社に反抗して全組合員二萬三千人は大會を開き、賃金値上げを會社に要求するに至つた。またオハイオ州アクロン市のグッドイヤーゴム會社の會社組合は、一日の労働時間を六時間より八時間に延長せんとする會社の要求を斷乎拒絕し、更に鐵道職場の職工友愛會と稱する會社組合は、全国的組織を結成して、雇主の支配を脱却するに至つた。而して從來必要を感じて罷業破り、秘密探偵使用も所謂坐り込み戰術の廣く行はるゝようになり効果が殆どなくなつた形ちである。

坐り込み戰術

坐り込み戰術なる戰術は最初オハイオ州アクロンのゴム工場に於て用ゐられたものであつたが

それが非常な勢ひを以て一般労働界に採用せられるようになった。と云ふのは此方法は罷業戰術として色々の特質を持つてゐるからである。第一に労働者が工場内に籠城してゐるのだから雇主は他から労働者を入れて工場の運轉を計ることが出来ない。罷業者側から云つても、是迄は罷業破りを警戒する爲め見張り番を置いたのであるが、其必要と手数が全く無くなり、またそれに依て惹起された流血沙汰を完全に避け得られ、而かも罷業の目的は充分に達せられる、これ本戰術が世界的に採用された所以である。特に米國內に於ては産業別組織委員會が此戰術を使用して著しい効果を擧げた。斯く労働者に取つて有效なる戰術は雇主に取つてはソレ丈け痛手である。故に彼等は此新戰術を何とかして阻止せんとし研究の結果、本戰術を以て雇主の財産侵害なりとして、法廷に差止命令喚發の提訴を爲すに至つた、所が労働側に於ては逆に左様な命令を發することは、労働者の労働權侵害なりと抗辯し、此主張がまた相當に重んぜられ、雇主の主張も容易に通らなかつた。これはルーズヴェルト政権の大規模な失業者救濟事業が、此労働權確認に根據を置いて實行されてゐるからである。今日に於ても或る州では禁ぜられて居るところもあるが、加州に於てはこれを止めさすべき判決例も法令も未だ出て居らない。

産業別組織委員會

産業別組織委員會のことに就ては、曩に少しく觸れて置いたが、本運動は現代アメリカ

労働界の花形として最も活躍してゐるのである。

本委員會の生まれたのは、アメリカ労働界の情勢上必要あつて生まれたので、先づ其運動の着眼點を大量生産工業に差し向けた。大量生産の代表的ものは云ふまでもなく自動車工業ゴム工業製鐵工業であるが、是等の大會社は前述の通り其内に會社組合の組織があつて、労働組合の侵入は嚴重に阻止されてあつた。之に向つて挑戦したのであつたが、其第一着手として先づ自動車工業界に王座を占むるゼネラル・モーターズ會社に鉾先き向けた。組合は會社に對し労働組合の確認を要求する。労働組合の役員たる理由を以て解雇されたる労働者の復職、最低賃銀制の確立、

出來高拂制の撤廢等の諸條件を提出して遂に罷業を開始した。最初會社は組合を全然交渉團體として認めなかつたが、聯邦政府の調停により組合提出全部の要求は入れられなかつたけれども、團體權並に團體交渉權を認むるに至つた。これ組合側に取つて大なる勝利であつて、進んでクライスラー自動車會社に向つても同様の條件を提供して成功し最後に堅壘を以て誇るフォード王國に挑戦するに至つた。何故にフォード王國と稱するかと云へば、同工場は曾て歐洲大戰開始當時、他の一般自動車工場の労働者賃銀は一日二弗三十四仙であつたときに、最低一日の賃銀五弗を支給した、而して全國より優秀なる労働者を吸収し、同工場獨特の流動作業とスピード化により、計算上賃銀の値上げ以上の能率を増進し、利益を收得した。其新方式は必然的に労働組合運動を防止する有力なる作用を爲した。後ちに同工場は更に最低賃銀一日六弗を十弗に引上げ、労働組合に屬せざる者は凡て其恩典に浴すべき旨の聲明を發した。斯くて大に其王國振りを發揮したのであつたが、技術と分業が一連の流動作業により其極點に達した場合、それ以上賃銀を引上げ、これを補ふに足る能率を増進することは殆ど不可能であらう。今や組織化運動は恰ねく自動車工業界を風靡し、全米同工業従業員組合は既に十五萬の組合員を有してゐると聞く。

鋼鐵工業に挑戦

次に米國第二の大量生産工業と目する、鋼鐵工業に向つて挑戦した。由來鋼鐵業者間には全米鋼鐵協會なるものが組織され、これは例の會社組合であつて、モルガン財閥の支配するユー・エス・ステイールが指導の地位に立ち、探偵、罷業破り等々に凡ゆる手段を講じ、労働組合を排斥して居つたのである。併し四圍の情勢はそうした態度を長く繼續することを許さず、遂に我を折つて労働組合を承認するの止むなきに至つた。こうした情勢を誘致した内には、政治的方面のインフリエンスが大部手傳つたことも見逃し得ない。それは労働者の勢力と云ふものが、政界に相當の力を持つて來たからである。即ちペンシルバニア州知事ムーアは主として労働者の投票に依て當選したと云はれ、大統領の再選にも労働者勢力が大部加味されたことも否定出來ない。こうした關係にある以

上争議の發生に際しては好意的中立の態度を持つて居ることは敢へて想像に難くない。また一面に於て鋼鐵業者が、世界の軍備擴張熱が昂騰し、それによる大注文を受ける上には、多少労働者に讓歩する必要もあらうし、また漫りに官達の忌諱に觸れることは機會を捉へる上に都合が悪い。

斯うした客觀的情勢も亦大に労働組合運動を援けたものと見られる。更に實行上に於ける有力な一因は、産業別組合組織委員會の指導的地位にある合同鑛夫組合が、バラシヤン坑區地方に於ける鑛主聯盟と、二ヶ年間の團體契約を結び、一日の基本賃銀を六弗と決定したことは注意さるべきことで、之が爲め三十萬人の鑛夫が一ヶ年約八千五百萬弗の増收を得るに至つた。組合運動の基金が同鑛夫組合より大半出て居つたことを思ふときに、其増收は組合運動に拍車をかけざるを得ないのである。

而して本組合運動を法的關係に於て援けたものに、例のワグナー労働法がある。これに對しては法的に稍々疑問が包藏されて居つたのであるが、大審院は遂に肯定の判決を下した。即ち同法の骨子は一、労働者の團體權と團體交渉權を確立したこと、二、労働組合の行政に對する干渉並に組合員たるが故に不當な取扱を爲すこと、また當該立法に依り労働者が證言を與へたと云ふ理由により、不當なる取扱を爲すこと、三、團體交渉權を拒否することは不當なる労働習慣にして、不法行爲と斷定したこと、四、斯の如き不法行爲を取締る爲め國家労働關係局を設置したこと、等々であつて、労働組合に對して絶大な權利が附與されたことが確認される。

斯くて労働組合運動は頗る盛んとなり、其運動の動向よりすると、職業別組合より産業別組合の方向へ向ひつゝあることが明かであるが、茲に最左翼とも云ふべき労働組合の一派がある。これは一九二九年の大恐慌以來急激な發達を遂げたものであつて、名稱を労働組合統一同盟(Trade Union Unity League)と稱し其目的は單に一工場又は一産業を單位とする産業別組合に満足せず、總ての産業を全國的單位又は更に全産業を打つて一丸とするワン・ビツク。

ユニオンを結成せんとするにある。彼等は未開分野に於ては、本主義の組合を設立し、また組合内にあつても組合機能の充分に發揮してないものに對し全部本主義に塗替へんと奔走しつゝある。既に其主義に依て組織せられた組合に全國鑛夫組合、全國紡績工組合、産業別鐵工組合、産業別食糧品従業員組合等がある。組合員總數約十三萬と稱せられてゐるが、其數よりすれば職業別組合、産業別組合の人員に比し甚だ微々たるものである。

労働組合の動向

アメリカに於ける最近の労働組合の動向は労働組合の動きの主たる目的は賃銀値上げと労働時間短縮にあつたことは事實であるが、最近に至つては組合承認、團體交渉権の獲得と云ふことが可成熾烈に唱へられるやうになつた。これを事實に徴すると米國産業が最大不安に直面した一九一九年から二六年の間に起つた罷業の内二萬五千件の原因を糺すと、賃銀増額要求が總數の三分の一、賃銀増額プラス他の要求の件ふものが總數の五分の三、時間短縮の要求が約一千件、時間短縮プラス他の要求の件ふものが三千件であつた。景氣恢復期の特質は物價の上り方が賃銀高より上ツ走りをするのであり、労働者が其間隔を縮めようとするところにストライキが起る。

労働不安の内容を賃銀増額と時間短縮だけとして他を切り離して考へて見ると、一九三四年二月に産業復興局は労働者、消費者、小企業家の代表を集めて諮問會議を開いた。同會議に於て組合側は、現在エヌ・アール・エーの公正競争規定による現在程度の労働時間短縮では、到底失業者を吸収し切れないことを指摘し、工業労働の三十時間制、商店の四十時間乃至四十八時間制と共に、事務労働時間の短縮を提議し、賃銀に關しては生活費の騰貴が遙かにこれを追ひ越してゐることを計數的に明示して、不熟練労働の最低賃銀一週廿弗、熟練労働者の三十弗乃至六十五弗支拂ひを主張した。

斯くてエヌ・アール・エーのコード實施により、失業状態の改善されたことは事實である。即ち一九三三年三月現在の米國內失業者數は一千三百六十八萬餘であつたが、同年十二月には一千七百七十六萬に減じた。米國労働總同盟所

屬の失業者數も三月の二六・六%から同年十二月には二二・八%に減じた。更に復興局發展の雇傭指數によるも一九三三年一月の六〇・二%から三四年の八〇・八%に増加してゐる。斯く労働状態は見直しては來たが、労働者の實收入に至つては改善されて居らない。成程全國の賃銀支拂總額は増加し、其増額だけは労働者の懷中に這入つた譯ではあるが、個々の労働者の懷中から云ふと、多少賃銀の増加を見ても、就業時間の減少によつて實收入は日常生活の困難を克服するに至らない。これは廣く労働状態を視察した國際労働局の係官バトラーもエヌ・アール・エーの業績は認めるが賃金の昂騰によつて得る所は、毎週稼高即ち時間が減じたので、事實労働者の生活状態はよくなつて居らぬと述べてゐる。これを實際に照らして見ると一九三四年三月西海岸の沖仲仕總罷業の始まりは一時間一弗、一週三十三時間働きの要求によつて起り、また同月の軍用飛行機製造會社四千名の罷業、紐育造船工三千名の罷業、同年四月デトロイト器具鑄型工場五千名の罷業、更にまた五月の桑港七千名の海員罷業等は孰れも賃銀増額要求が其根本に含まれてゐる。

團體交渉権承認

斯くの如く頻々として起つた罷業中には、勿論賃銀値上げは重要な一項目にはなつてゐるが又一面に於ては各産業は産業復興法の命ずるところにより、制定せねばならぬ公正競争規定(コード)即ち大統領の認可し又は決定した最長労働時間及び最低賃銀の遵守に關する規定外に、労働者の團體權と其選出した代表者による團體交渉権を承認し、雇主の干渉や壓迫を受けないで是等の權利を行使し得るような規定を含むこと、また労働者は會社の御用組合に加入したり、或は労働團體を組織せぬことなどを雇傭條件とされないような規定を含めて要求するに至つた。これがまたアメリカ資本家の傳統的に承認を拒んで來たところである。

一九三三年頃から労働組合は賃銀値上げ、労働時間短縮問題外に、團體權と團體交渉権と云ふ労働組合運動の云はゞ基本的原則を繞つて大小無數の争議が隨所に勃發し、全米はさながら罷業に窒息されんとした。

一九三三年八月中央に全米労働局なるものが設置され、同年十月末までに同局に於て取扱はれた争議件数は百廿八件に上つてゐるが、其目的内譯を見ると、労働組合の承認拒否によるもの四十件、組合加入を理由とする解雇十件、労働代表者の否認十件、團體交渉権の拒否五件、會社組合加入強制四件等々で、其原因が復讐法第七條A項に關聯するものが總べて八十二件となつてゐる。また全米労働局の發表した別の統計に依て見ると、同局の取扱つた争議總數三千七百七十五件の内、二千六百五十五件は復讐法第七條A項を侵犯したものであることを示し、労働問題に明るいわグナー上院議員も亦上院に於て、労働局に於て取扱つた争議の七十%以上は、雇主が其被雇者の選出した代表者と交渉を行ふことを拒絶したことに起因すると述べてゐる。

桑港市に於ける總罷業

労働争議が漸次團體交渉權獲得に強く動いて來た一例證として、桑港の總罷業を擧る。これは一九二六年の英國總罷業と共に世界的に有名である。

一九三四年三月初め、桑港の沖仲仕二千名は賃銀値上げ、一週三十時間働きの要求を船會社に提出し、勞資の間頗る尖鋭化して來たが、州労働局の調停により、最後手段たる罷業までに至らなかつた。而して二ヶ月に及んで船會社側は調停案の實行に誠意を示さなかつたので、遂に五月九日國際沖仲仕協會に對する西海岸諸港の沖仲仕一萬二千名は罷業を開始した。形勢は益々險惡となり六月半ばには更に海上料理人千五百、油差機械掃除夫二千二百名、太平洋水夫五千名、海上機關士一千名、運轉士水先案内九百名、六組合二萬五千名が罷業にジョインし、太平洋沿岸の海運は殆ど閉塞した形ちであつた。而して立往生の船舶實に二百五十隻に及び一日の損害は一千萬弗に上ると云はれた。桑港市長ロシー氏は此窮迫せる情勢を默過し難しとして六月十七日調停に乗出し、船會社側と罷業側とを説いて、遂に船主側と國際沖仲仕協會長ジョセフ・ライヤンとの間に協定書を作り、これに調印せしむるに成功した。此協定により團體交渉權は正式に認められたが、相當重要な問題となつてゐた會社雇入事務所を組合の管理に移すと云ふ労働者の要求については、勞資共各三名の代表者を選んで労働委員會を作り、これを各港に置いて、雇入事務所の管理と共に労働者條件の監視に當らしめる、而して賃銀増額並に時間短縮に就ては調停委員會の裁定に委かすと云ふことに

なつてゐた。これが抑々問題となり、同日イーグルスホールに於て二千名の組合集會に於て前記ライヤンは協定の承認を求めたが、空氣は甚だ非であつて反對の氣勢が渦巻き、翌十八日には桑港、サンデーゴ、ポートランド、アストリア、タコマ、エヴェレット、シャートル等の所屬組合員は、歴的多数を以て該協定の拒否を決議した。此會合に於て争議は國際仲仕協會長ライヤンの手より、沖仲仕組合のブリツヂスを委員長とする罷業關係諸組合の代表五十名から成る海上罷業聯合委員會の手に歸した。

總罷業開始

ブリツヂスは愈々罷業側の結束を堅くし、其勢ひ當るべからず、六月下旬となつて労働長官バーキンスは組合側ライヤンと船會社代表プラトに對し、同文の電報を發し調停を依頼したが、双方共甚だ冷淡で受入れなかつた。斯くて桑港は總罷業の形ちとなり、各商店の品物は日に／＼少なくなり、電車は止まり、ガソリンが無くなり、市民の生活に非常な脅威を與へた。

七月四日船主側は罷業破りを雇入れて港内の荷物満載の船より荷物を引上げんとした所、忽ち罷業側と衝突し、死者を出した。斯くて商店の貨物は愈々少なくなり、のみならず、州有鐵道従業員まで罷業に加擔すべしとの風説が起つたので、メーリアム州知事は罷業側に向つて即刻現在の態度を改むるに非ずんば、國衛軍を出動せしめ、處決する點の聲明を發した。この聲明に對して罷業側は更に一層埠頭封鎖を強化するの決議を以て答へた。

そこで國衛軍は其翌五日正午過ぎ堂々と埠頭一帯に出動し、苟も不穩の行動を有すものに對しては銃を擬し、同時に産業協會よりは貨物を運搬する爲め、多數のトラックを埠頭に送り、海上には潜水母艦ホーランド號が灣内に嚴然たる雄姿を現はし、戰艦準備を整へて汽船を看守し、陸上に於ては軍隊の外に六百の警官隊は罷業側ビツケットライオンを埠頭並に倉庫地帯から百ヤード乃至四分の一哩後方へ退かせ貨物満載のトラックは其間を自在に疾走した。斯くて罷業聯合委員長ハリ・ブリツヂスは七日全労働組合に對し、總同盟罷業の可否を討議する爲め代表者會議

開會を提議した。併し今は總罷業は終了したのだ。市街電車は運轉を開始し、食料品及びガソリンの販売は解除せられ、レストランドも肉屋も開業するに至つた。桑港のセネストには赤が加はつてゐる、寧ろこれは赤の仕事だといふ聲は痛く市民の反感と激昂を買ひ、官憲に於てもまた赤に對する彈壓が相當厳しく行はれた。

労働組合と政治

サミュエル・ゴンバースが労働總同盟を結成するに當ては、政治運動を止め、専ら労働運動に局限し、労働者の状態を向上することに専念した。これは前に生れた労働組合が政治運動をやつた結果が甚だ芳ばしくなつたことに基因する。只政治運動は自らは爲さぬが共和民主二大政黨に折衝して労働保護立法制定に關し常に努力して來た。然るに近年即ち一九三五年産業別組織委員會(C・I・O)が組織せらるゝに至り、同委員會は政治的にも進出するようになり、一九三六年十一月ルーズヴェルト大統領再選間もなく、無産政黨結成の準備と見らるゝ非政黨同盟なるものが組織せられ、意外な進出振りを示し、總がては全國農民労働黨をも結成して政界に威力を振ふではないかと世人を驚かした位である。一方米國労働總同盟に於ても、從來の方針に稍々變化を來たし、一三六九年アトランティック・セターに於て開かれた同黨年次大會には、約廿に近い組合から労働黨結成要求の決議案が出た位である。現在の分野から云ふと産業別組織委員會は民主黨に、また米國労働總同盟はどちかと云へば、共和黨に傾いてゐるように見える。これは米國労働組合運動の新動向と見得べきもので、將來の活躍が注目さるゝのである。

米國労働組合

と日本人關係

米國労働組合と日本人労働者とは、恰も他人關係で、其メンバーに入ることを好かれなかつた。尤も嶺山労働者の一部には、入るを許された事實があるが、這般の情勢は今日に至るも尙其通りである。労働者は労働者として一度團結する必要がある以上、何故に日本人を組合に入れないのか、これは人種的關係からと云ふの外ない。米國社會の日本人排斥は何から起つたかと云へば、労働者から起つたと云つて過言でない。彼等の養成は忍耐と勤勉とに於て勝る日本人労働者であつて、總がては自分等の職業を奪はれんことを恐れ

る。農園に於ても鐵道に於ても嶺山に於ても然りである。排斥する日本人を自分等の組合に入ること好まぬのはまた自然でもある。

いま一つの理由は從來の米國労働總同盟前にも述べたように本來が職業別組合組織である。職業別の目指すところは熟練職工で不熟練労働者は除外される傾きがある。彼等白人間にあつても熟練職工は常に不熟練労働者に對して優越觀を持ち、自ら高しとしてゐる。然して日本人は十中八九は不熟練労働者である。此點は確かに考慮に入るゝ必要はある。併しながら不熟練労働者を網羅する産業別でも日本人の入るを好まぬ傾きがある。其理由は言語習慣を異にしどうもピツタリ合はぬと云ふのである。然らば日系市民は米國の教育を受け、言語は勿論のこと風俗習慣も同一であるからどうかと云へば、これは第一世よりはよいに相違ないが、何となく好まぬようである。市民權を持つた立派な米國人たる以上區別立てをするのは甚だけしからぬとし、曾て日系市民協會が此間の事情に就て取調べたことがあるが、或る組合では入れ或る組合では好まぬと云つた具合で、總じて加州では此點不愉快な感があると云ふことであつた。

右の如く第一世時代は、労働組合に縁が遠く、のみならず排斥された形ちであつたが、日本人相互の間には古くから労働組合を作らんとし、立派な規約書まで出來或るものは實現して若干の期間存在し、また桑港日本人労働協會の如く永く存立し今尙會員の福利増進を圖つてゐるものもある。米國社會に労働者として生活して行く上には、どうしても一般的労働組合に加盟し、自己の地位を向上せしめておく必要がある。併し在留同胞社會の状態は、正に一轉回の期に際し、第一世の労働期は去らんとし、第二世の時代が來りつゝある。總て吾等の労働界も漸次改變されておかねばならぬのである。

第五章 宗 教

在米同胞と基督教

福音會と初期の同胞 在米同胞初期の状態と基督教の關係を究めるには福音會の記録による外はない。即ち以下の史料は福音會及びタイラ福音會兩會より得たものである。

幕末の當時幕府に小職を得てゐた蘭人スネールは、米國加州の有望なるに着眼し、一八六九年（明治二年）二十餘名の日本人労働者を八ヶ年の労働契約にて引率、一隊は二月、他は十月の二航海に分れ、汽船チャイナ號にて桑港に到着した。而して一行は北加州ブラザビル附近ゴールド・ヒルに居を定め開墾その他の事業に従事したが、同所の開墾事業は結局失敗に歸し、一行中の或者は契約を破つて他に逃れ、又残留する者は時の駐在桑港名譽領事チャールス・ブルックスに訴へて救済を仰ぐ状態となつた。この當時の同胞人口状態を明治七年、時の桑港領事代理高木三郎の調査報告によつて見ると女八人、幼兒四人を合せて都合八十人と記されており、極めて微々たるものであつたが、これより先き明治五年岩倉大使一行の來遊は故國青年の海外發展熱を刺戟し、資力なき者は客船の船艙に或は捕鯨船に便乗して密航を企てるなどして、青雲の志に驅られて渡米する青年學徒の數は年を逐ふて漸増した。而してこれらの學生中渡米の準備として横濱その他に在留せる米國宣教師に學んだ者尠ならず、又渡米の手續き等につき宣教師の世

話になり、その紹介によつて米國に都合よき縁邊を見出したものも極めて多數であつた。故にこれら渡米學生の多くは出發前に直接基督教と多少の因縁を持つてゐたものと見てよいのであるが、渡米後或は學校に或は家庭に基督教の文明を實地に見るに及び著しい感動を受け、熱心なる求道者となり、遂には受洗して信徒となり、或は一步進んで自ら進んで傳道者たらんとするものさへ現はれた。最も古き實例を挙げれば新島襄の如きそれであり、在米日本人と深い因縁ある點より實例を挙げれば美山貫一の如き即ちそれである。而して桑港の如くこれら多數青年學生の群居する場所に於ては、總て彼等を中心とする團體の生るゝは當然の歸趨にして、茲に於て在米日本人が組織せる最古の團體福音會は一八七七年（明治十年）孤々の聲を擧げるに至つたのである。

當時の在米同胞社會の實状を見れば、米人の對東洋人感情は支那人に對する好感は虐待に變じ、代つて日本人歡迎の氣風漸く強からんとする時であつた。而してこの頃佐藤百太郎なる者が同胞學生の勞働を斡旋し、のち布哇から轉航し來つた牧野富太郎がこれに代つて同胞就職斡旋業の二代目となつた。當時の西洋食は極めて高く極く粗餐でも一食二十五仙を要し、支那料理の如きは七面鳥の餐應よりも珍重がられ、爲に同胞學生の多くは麵包を嚙つて水を飲み飢を凌いでゐる状態であつた。

福音會の濫觴 これより先き蠟紙輸入を志して失敗した田中文藏は、吹矢店を開業して再び失敗し、當時は牛乳の配達、紙袋の内職等に從事し乍ら、その居を桑港市ワシントン街にある支那人傳道館の階下の一室に定めてゐた。この頃カーネー街二三の齒科醫デニスには中啓藏なる者も働いて居り、その他彼らの朋友は毎夜の如く前記階下に相會して談論するを唯一の楽しみとしてゐた。時には美山貫一も一座に加はつて聖書研究を勧め、或は神の道を説いたりしてゐたが、彼等の集合してゐると知つた支那人監督ギブソンは一行を日曜禮拜に招いて基督の教へを説いた。

一方パウエル街の組合教會にては一八七四、五年頃、日本人學生西巻豊佐久、小谷野啓三、二宮安次、加地爲也ら數名が偶々邂逅せるを好機に毎日曜日相會して、同組合教會婦人會の手で聖書研究並に英語の教授を受けるやうになつた。(註)西巻は後に正金銀行ロンドン支店長になり、小谷野、二宮は共に日本の教育界に頭角を現はした)然る所前記婦人會員であるリンコロン校々長ウエルソン博士の夫人は婦人會に諮つて彼らに毎月二弗五十仙を支給し、前述の支那人傳道館階下の十五號室を借用せしめ、彼らはそれを會場として相會し、受洗する者も多く又同集會所に入出入する者も逐年數を増しそれに従つて團體組織の必要を唱へるに至り一八七七年(明治十年)十月六日遂に福音會と名稱して發會式を擧げるに至つた。これ實に同胞最古の團體であり、又當時を階下時代とも穴倉時代とも稱した。

福音會誕生Ⅱ分裂 會員三十五名の中、この日の發會式に出席せる者は僅か十名に過ぎなかつたが、次の如く會則を定め小谷野敬三を會長に推した。

- 一、本會の名稱を福音會と名づくること。
- 二、毎土曜夜集會を開き聖書の講義及演説をなすこと。
- 三、會費二十五仙毎月最後の土曜日までに徴收すること。
- 四、會頭會計書記各一名を置き事務を執ること。
- 五、總會は年二回開き諸報告及諸役員の選舉をなす。

〔註〕(明治二年十月渡米柳澤佐吉以下同十年迄の福音會關係者氏名其他、筑波艦隊の記事等發展篇参照)

然るに一八八一年(明治十四年)五月、美以、組合兩派は見解の相違から福音會に内訂生じ、組合派の小谷野敬三西巻豊佐久らは數名と共に福音會を脱退し、直ちにターラー街一六(現在のゴールデン・ゲート・アヴェニュー)にタイラ(ターラー)福音會を組織し、駐桑港柳谷領事及び一番商會主フレッチャーらの協力を得て會勢大いに上り、會場の狹隘を告げるに至つたので、同街百二十六番に會場を移して擴張した。これ即ち福音會第一回の分裂である。而してタイラ福音會は小谷野、西巻、加地、二宮、白藤、赤峰ら相隨いで會長となり、一八八一年より同八四年に至つた。

第二の分裂

タイラ福音會組の脱退後、殘留組は會の整理に着手し會則を改め、美山買一を會長として會の發展に盡した結果、初め十二名に過ぎなかつた會員も年餘を経て四十名となり、寄宿會を擴張したり利根川龜四郎を招聘して賄部を設置したり、一八八二年(明治十五年)には日本に會の支部を設け邦文聖書を取寄せ或は同年四月十七日には會内に學校を設け、ウイルソン夫人及び助手大竹甲子を招聘したりしたが、翌一八八三年(明治十六年)六月會内に再び内訂生じ、第二の分裂を來たし、八月二十三日に至り革新派の伊達多仲、柳澤佐吉、中村半雄、三谷幸吉郎、豊崎賢十郎、濱田銀次郎等々二十餘名は連袂退會し、第二街とステベンソン街にステベンソン福音會を組織した。茲に於て一八七七年組織された福音會は創立僅か六年にして三分裂し、福音會なる同名の三團體が鼎立するに至つた。然るに偶々ステベンソン福音會は有力會員の相隨ぐ轉住に會勢振はず、遂に第二脱退組と合流することとなり、遂にステベンソン福音會を移し兩者合してタイラ福音會の名稱を維持したが、一八八六年(明治十九年)に至り會員中の有力分子が日本人基督教青年會(後のヘイト青年會)を創設するに及んで自然消滅し、一時三者鼎立した福音會もワシントン街の第一福音會のみとなり、在米日本人社會の一有力團體たる面目を保ち、新渡米者の誘導その他に少なからざる貢獻をなし、桑港大震災の當時にまで及んだ。

長老教會生る

福音會は基督教研究のみを目的とした團體ではなく、従つてその會員中には宗教と全然無交渉のものも次第に増加したのであつたが、福音會は本來基督教主義を旨とする團體であつたが故に、總てはこれが日本人基督教會を生み出す母胎となるに至つた。而してその端緒を開いたものは長老教會であつた。日本人長老教會は一八八六年(明治十九年)四月タイラ福音會を母胎として生れたものである。當時同福音會には會員中に非宗教的分子漸く加はり漸次その勢力を張るに至つたので、宗教的分子は何らかの方法により彼等の爲に純宗教的團體を組織すべく苦慮しつゝあつたのであるが、恰もよし長老派の有力者にしてこの情勢を察知せるルーミス、カーリントン、ロ

パーツ三氏並にツルマ嬢らより教會設立の懇願を受け、機至れりとして直ちに會議を開き、會員中の不品行者十五名の放逐を決議すると共に教會設立案をも議定し、これをセント・ジョーンズ教會に會議中の長老桑港中會に提出した、中會は審議の末これを許可し教會設立委員としてルーミス、カーリントン、マツケンジー、ロパーツ等を指名した。これ四月二十八日の出来事である。斯くして委員は五月九日タイラ福音會に會し他教會よりの轉會者十七名の入會を認め、更に同十六日委員會に於て信仰告白者十六名に洗禮を授け、合計三十三名を以て教會を組織することとし、名稱を第一日本人長老教會と決定し森田壽三郎、三谷幸吉郎の二人を第一回の長老に選舉した。斯くして教會は成立したが未だ會堂を有せず従つて依然タイラ福音會内に聖集會を開き、翌年ミツシオン街に基督教育青年會設立するに及んで同所に轉じ、更に一八九一年（明治二十四年）ヘート街に移つた。又最初は専任牧師を有すること能はず桑港中會の監督下にカーリントン牧師が小會議長の任に當つた。

タイラ福音會解散

基督教育青年會誕生

長老教會の母胎となつたタイラ福音會は、既述の如く一方に於て又基督教育青年會を生み出す母胎ともなつた。而して青年會の誕生は同時に母胎たるタイラ福音會の死滅を招き來したのである。即ち一八八六年（明治十九年）同福音會内に解散改造の議起つて結局決せず、同會の有力者であつた伊達多仲、堂本譽之進矢部新作ら二十四名は脱會して遂にタイラ福音會を解散せしめ、彼らは五弗宛を贖金してミツシオン街一六三に一戸を借入れ、新團體を組織してこれを日本人基督教育青年會と稱した。長老教會も同時に同所に移つた。而してこの青年會の誕生及び急速なる發展については醫學博士イー・エー・ストーヂの同情と努力に俟つこと最も大であつた。六年後即ち一八九二年（明治二十五年）同會はヘート街一二二に移轉し、爾來ヘート青年會として知られたが、このヘート街の青年會はもと長老派の神學校々舎にして神學校の移轉後、當時同派の日本人傳道總理であつた前記ストーヂ博士の盡力により日本人基督教育青年會館として使用するに至つたものである。

福音會の奮闘

一方一八八三年（明治十六年）第二分裂以來ワシントン街の福音會は十六名の少數會員よく協力一致して會長美山貫一を翼け、各方面に活動をつゞけてゐた。この當時渡來者多く高木種吉を専任事務員としこれら新渡來者の指導に任じ、又對岸オークランドには支部を設けて稻本奥松を監督として同地方にも活動を開始し、従つて福音會の會員は逐年増加して行つた。この當時同胞社會には一八八三年より翌年にかけて種々な事件續出し福音會の活躍は又加重された。即ち米國捕鯨船に雇はれて乗込んだ同胞四十餘名の桑港に於ける放逐事件（彼らの中曰比龜三郎、森徳太郎はレストランを開業をした）あり、或は元福音會會員で通稱鮫鯨と呼ばれた吉田繁藏のユタ州オクデンに於ける米婦人銃殺事件から遂に激昂せる市民によつてリンチされた事件、或は又アラスカに於て邦人密漁船が米國巡邏船に捕はれ、水夫松田殘吉外十七名の水夫が桑港に連行されて投獄された事件など騒然たるものがあつた。而してその後福音會は發展の一途を辿り、一八八六年度の調査による當時の概況を見ると次の如きものである。

加州内に於ける福音會員數百十一名、日本より新渡來米寄宿せる者五十六名、福音會による受洗者二十八名、同會入會者三十六名。

美以教會の創立

福音會の移轉

同福音會は創立以來美以派のギブソン博士の指導を受け、その中心人物は美以派の信徒で固めることとなつた。一八八六年（明治十九年）同會は支那人傳道館の階下を去つてその隣下に移轉したが、この年ハリス博士夫妻が日本より歸來し、キブソン博士の後を襲つて美以教會を創立し日本人傳道の上に多大の貢獻をなすに至つた。而して當時會員中の主なるものは島田重助、安孫子久太郎、松田貞吉、大澤榮三、鶴飼猛、三谷雅太郎、高須清太郎、清水泰三、砂本貞吉、米山梅吉、松野菊太郎らであつた。一方一八八四年（明治十七年）オークランド市グローブ街に設けられた福音會支會も一八八七年（明治二十年）に至つて本會と分離しオークランドの白人美以教

會に附屬することとなり遂にはオークランド日本人美以教會として發展するに至つた。この年は桑港に於ても美以教會と福音會とはゼツシー街に移り、一八八九年まで同一場所に居たのであつた。當時會員中米山梅吉、藤原俊雄、小松綠等の論客が居つたので、毎土曜日演説會等を開き氣焰を上げて居たが、同年に教會と福音會とが同一場所に居るは不可なりとの議論が教會側より擡頭して來た。即ち福音會を解散して教會の監督に移せとの主張が出で、之に對し解散不可、飽迄之を保存せよとの主張が福音會内に強かつたので、同年末同會は總會を開き三夜に亘つて解散か保存かに就いて討議する所があつたが、結局保存派の勝利に歸した。然るに存続する以上、教會より分離し、他へ移轉せよとの要求があつたので、同年ゴールデン・ゲート・アベニューに移り、こゝに福音會は全然別個の團體として存在を續けることとなつた。保存に決した總會の議長は安孫子久太郎で、分離後引續き同會々長に選ばれ、幹事には米山梅吉就任した、同人去るに及んで地主延之助之に代つた。其後ターク街移轉後間もなく再びグリー街に移つた。其頃星一等も加はり、一九〇六年には中江篤介の高弟にして社會主義者幸徳秋水の渡米あり、福音會に寄寓し且つ日米新聞客員として筆を振つて居た。幸徳が同會に寄寓したのは當時福音會内に社會主義者が多數居つたからであつた。同會は大地震後自然消滅の運命を辿つてしまつた。

基督敎躍進時代 一八九七年頃(明治三十年)に至り陸續渡米せる布哇轉航者により在米日本人の人口は激増し、多數者の間には父祖傳來の宗教たる佛敎の僧侶の渡米を要求する傾向生じ(佛敎史參照)この機運に乗じて西本願寺派の僧侶が北米布敎事業の端緒を開くまで約十年の間は北米に於ける日本人の宗教團體は基督敎團體以外になく、全く獨占の状態にあつたばかりでなく、福音會にしても青年會にしても又教會にしても當時日本人々口の大半を占める青年學生の日常生活と極めて密接なる關係を有し、且つ又ハリス・ストード等宣敎者の人格的感化も甚だ偉大であつたが爲に、十年前漸く颯々の聲をあげた各派基督敎會はいづれも躍進的發展の實を擧げ、日本人の地方發展と

相俟つて大都市以外の各地に進出し新教會の新設されるもの年と共に加はり會員の數亦これに従つて増加する盛況を示した。就中北米日本人基督敎史上の一挿話として記憶される一八八九年(明治二十二年)七月末より始まつたりバイバルは多數青年をして宗教的熱狂の状態に陥らしめ、三ヶ月にして四百の信徒を得、二ヶ年にして一千餘の受洗者を見たといふ。このリバイバルは世界的に波及した宗教的變異現象であつたが感傷性に溢れた青年學生、而も故郷を距れて四千哩の海外に人間生活の哀愁を感じつゝある在米日本人の心を動かすこと極めて大であつた。

美以派の發展 一方支那人傳道館の階下福音會から生れた美以教會は、暫くの間は微弱なるミツシヨン教會として存在したに過ぎなかつたが、前記リバイバルの結果會員は激増し、バイン街に新會堂建築の計劃を樹つるに及び一個の教會として承認されるに至り、且つ建築費五千弗をも支給されるに至つたのでバイン街一三二九に一八九二年(明治二十五年)敷地を購入、翌年定礎式を擧げ十二月には現在の會館を新築落成し獻堂式を擧行した。

爾來教會は往年の福音會時代の如く雜多の事務に關係するをやめ主として傳道と教育とに力を注ぐことになつた。此時代に於ける美以派の活躍中特に記録すべきは、在米日本人の發展と相伍して盛に地方進出に努めたことである。當時信徒中傳道の資格ある者として役員會の認めたものをハリス博士に推薦し、博士はこれに傳道者の認可を與へて各地に出張傳道を命じたのであつたが、漸くして桑港王府以外の各地に陸續として日本人美以教會が設立された。即ち一八九二年(明治二十五年)にはサンノゼ、櫻府及びポートランドに、一八九三年にはバカビル及びフレズノに、一八九七年にはリバサイドに、一八九六年(一説には九五年)には羅府に傳道を開始して各地美以教會の基礎を置き、爾後明治四十年までの間には、スポケーン(明治卅五年)シャトル(卅六年)オクスナード(卅八年)ベカスフイールド(卅八年)の各地に進出した。

而して桑港美以會堂新築當時の役員陣容は次の如くであつた。

總理 エム、シー、ハリス、定住傳道師 松田貞吉、組長 松田貞吉、安孫子久太郎、岡部健太郎、安藤虎二、會計 米山梅吉、佐藤信忠、岩松善四郎、高須清太郎、白鳥銀次郎、山口肇、安田七郎、萩原千代吉、木村市之助、松野菊太郎、エリス街愛友會、組長天田儀八、會計 大塚直次郎、王府支部、傳道師土井操吉、新井三郎、組長中村小二郎、會計 芳川平四郎。

長老教會の發達

桑港に於ける最古の日本人教會たる長老教會その後の發展についてはその主腦者たるストーヂ博士夫妻の努力が最も與つて力あつた。博士は一八八六年（明治十九年）六月シヤムより歸米して直ちに日本人傳道に力を注ぎ、一八八九年夏醫學研究の爲獨逸に赴いたが同一年歸米して再び桑港に來り、新たなる抱負を以て日本人の誘導にその半生を捧ぐるに至つた。この教會は最初の専任牧師として一九〇一年（明治三十四年）阪部多三郎を得て以來渡邊、谷津、寺澤、宮崎の四牧師相繼ぎ、會堂はミツシヨン街ヘート街を轉々して、震災後一九〇八年（明治四十一年）サター街一八一に移つたのであつたが一九一一年（明治四十四年）の定期總會に於てストーヂ博士夫妻の日本人傳道二十五年の祝賀會を決議すると同時に從來ストーヂの感化内にあつた日本人基督教青年會の會員を合せ組合教會を合併して新教會を組織することとなり、斯くて長老組合兩教會合同に成る新教會は桑港日本人基督教會の名稱を以て一九一四年大正三年設立されたものである。（註II後記教會の合同参照）長老派も美以派と同様その傳道開始の當初より地方的發展に努力した。（長老派の地方的發展狀況は後述「各教會略史」を参照）

その他の各教派

美以長老以外の各教派が日本人傳道に手を染め、教會を設立するやうになつたのは概して後年のことに屬する。其中最も古きはシャトルの日本人浸禮教會なるべく、其創立は明治卅二年（一八九九年）なるが、是より以前約十年米人浸禮教會に屬せる日本人信徒が聖書及び英語研究の團體を有してゐたことが記録されてゐる。聖公會派が桑港に傳道を開始せるは一八九五年（明治二十八年）にして、日本監督マキムの派遣せる田井正一の宣教に始まり、一九〇〇年（明治三十三年）バタソソン續日本より來り米人聖公會婦人會の援助を得てミツシヨンを

整理し、バイブル・クラスを設け、大いに活動して基礎を固からしめた。當時同教會はバイン街一〇二〇に在つた。南美以派も相當古き歴史を有し、一八八八年（明治二十一年）アラメダの同派婦人が日本人青年に英語を教授せることより數ふれば古きことに於て美以長老二派と大差なきも、教會として牧師を有するに至りしは一九〇一年（明治三十五年）である。同一九四年王府に獨立教會誕生し、翌年桑港にも組合教會が組織され、次いで桑港リフォームド教會は一九一〇年（明治四十三年）にして長老美以兩派より遙に遅れ、更に是等以外の教派なきに非ざるも皆近年に至つて傳道を開始したものである。

基督教々役者の苦闘

暗黒面と基督教

世界の移民史上、表面に現れると否とに拘らず、移民地に於ける淪落の女II性業婦IIの存在は附隨物とされる。在米同胞の發展史を究めるに當つてもこの事實を度外視する事は出来ない。例へば一八七三年（明治六年）と云ふ初期に於てすらネヴァア州ヴァージニア鑛山に採鑛技術を學ぶ爲に赴いた田中鶴吉は、日本人である理由により就職を拒まれたにも拘らず、田中はその時其處に一人の日本人性業婦の居るを見たと言つてゐる程である。福音會もこれら不正業婦人の入國を如何にして阻止するかに就いて深甚なる苦慮を重ね、又大日本人會常議員會も一八九二年これら不正業婦人の渡米禁止方請願を決議し、時の桑港駐在珍田捨己領事を通じてその筋に請願した程であつた。これら性業婦はそれ程に同胞の住む各都市に網を張つて、有爲の青年を誘惑情落せしめたのである。これに對する基督教々役者の苦闘は並大抵のものではなかつた。左にその實例を二三示さう。

岩田醜窟王

一九〇二年（明治三十五年）羅府に住む栗原某の夫人は突如誘拐され、中加フレソノ市に勢力を張る岩田醜窟に賣渡され、女は醜窟の愛日に堪へ兼ねて救ひを夫栗原に求めた。栗原は羅府上町の組合教會に牧師格

として駐在する楠本六一に援助を求め、結局楠本の努力によつて彼女は救出されたが、岩田醜窟王は一青年楠本にまんと鼻をあかされたるに激怒し復讐に躍起となつたが、楠本はその時既に香港丸に乗じて歸國の途にあり、彼の惨忍なる復讐は逃れるを得た。

然し後日彼は大阪博愛社の孤兒院に就職し、日露戦争の爲財政困難となるに及んで林歌子女史を同伴渡米し、その財源を米國に求めんとしたが、楠本の渡米を聞いた岩田日出邦は數名の乾分を引つれて、楠本及び林の宿泊するフレスノ市神川旅館に乘込み、前記栗原夫人の居所を明かせと迫り、一大不祥事の勃發が豫想されたが、楠本の毅然たる態度によつて無事解決し、岩田は後移民法に接觸して送還されたが、楠本は一九〇七年頃ワシントン州シアートル市に去つて同市の岡島謙爾と語り、岡島を會長として人道會を組織し、淪落の女性救出並に彼らを喰物にせんとする徒党の掃滅に奔走した。シアートル市に於ける親分格平出某の送還の如きもこの所産である。

桑港、布市の醜窟 桑港大震災前の日本人街とも云ふべき桑港市デューボント街（現在のグラント・アヴェニュー）附近一帯、即ちセントメリー公園、カーネー、バイン、サクランメント、スタクトン諸街には幾多の醜窟が散在し、その數バイン街のみでも十二軒を數へる程であつた。又フレスノ市の葡萄摘採シーズンには仕事を求めて集まる同胞數千名を相手に娘子軍の跳梁甚しく、又山中部に於ては鐵道労働者を相手に、油の産地ベーカーフィールドの如き小市街に於てすら十數軒の同胞相手の醜窟があつた。斯る情況に鑑み、一九〇九年證明權を握つた在米日本人會はこの種不正業婦人の渡米阻止を目的として或る一部の者の婦人呼寄せ署名には「不道徳行爲を決してなさざる旨」の誓約をなさしめた程であつた。

基督教傳道の困難 斯くの如き状態であつた爲、基督教々役者の苦悶は想像以上のものがあつた。加ふるに當時教會に出入する青年は主として學徒であり、物質的に恵まれざる環境にあつた爲、彼らの中には教會を暗害として喰物にせんとする者さへあつた。然し斯る情況の下に於ても教會は常に彼らのよきホームであり、牧師は英語の教師であつた。又生計の途を指導する職業紹介所でもあつた。而も彼らは浮草の如く移住常ならず又一般社會は低級なる思想を以て常に教會への酷評を事とした。

斯る情勢下に於てハリス、ストーヂ、ボンド諸博士を始め白人ホーム・ミツシヨナリーは身を以て同胞の爲に盡すところあつたが酬られるところ極めて少なく、而もこれら先覺の献身的活動こそ、在米同胞社會の根底を基礎づける一要素となつてゐるのである。

この當時、即ち一九〇五年、牧師大久保眞次郎は「日本人を識り日本人を救ふ者は日本人である」との建前から王府に獨立教會を組織し沿岸各州を巡教して「旅の恥掻き捨て主義」の不可を説き、排日に對しては「日本人の眞價を發揮して排日の不可を身を以て知らしめよ」と同胞の人格高揚を叫んだ。大久保の獨立教會こそ實に同胞による自給教會の嚆矢である。

傳道の統一協調 太平洋沿岸に於ける基督教は一九〇五年より一九一五年に至る十年間に最も飛躍的な發展を示し、創立された教會數はその前後二十年間に創立された教會數にも匹敵する數であつた。殊に一九一一年のエヂンバラ世界大會は基督教をして教派の合同及び同胞の風紀改善に關する教役者の協力を促進せしめた。その前に北加教役者らは一九一〇年（明治四十三年）アラメダ市南美以教會に北加教役者の會合を開き、北加基督教徒同盟を組織し、一九一一年再びフレスノ市に會合し北加基督教矯風會と改め更に成果をもたらして北加基督教傳道團の結成にまで進展し、オークランド獨立教會より大久保眞次郎を招いて専任巡回傳道師となし、サリナス長老教會より小林政助（救世軍日本人部指揮官）を招聘して幹事となし同年四月二十一日桑港美以教會に於て發會式を擧げ、特別大傳道の火蓋を切つた。恰もこの時南加羅府にも同一團體の組織を見、而も兩者は更に合して中央傳道團を組織し、教役者の

大同團結裡に社會教化の猛運動は開始された。當時の同胞社會の趨勢を一九一〇年度の調査に依つて見れば、加州在住同胞数は約五萬五千にして、その内基督教徒は約二千七百名と數へられ、教會數三十二、講義所六、牧師、傳道師を合せて三十二名あり、而してこれら同胞の約半數は教會所在地並にその附近區域に居住してゐたが、他の半數は教勢の及ばざる遠隔地に居住してゐた爲、巡回傳道の必要は殊に痛感されるものあり、傳道團の巡回傳道は極めて大なる成果をもたらした。今その最初の陣容を示せば次の如し。

▲北加傳道團役員 團長廣田善朝、副團長宮崎小八郎、巡回傳道師大久保貞次郎、幹事小林政助、會計森下龜太郎、常議員 川島末之進、森淳吉、塚本松之助、安孫子久太郎、小平國雄、吉原學、大久保逸治、渡邊玉作、早川萬その他。

▲南加支部 支部長田中義一、副支部長宗音重、幹事河合禎三、同古屋孫次郎、會計、福田清三郎

女子基督教青年會誕生

一九二二年前後は殊に婦人の渡米者激増し、家庭關係その他に於て婦人に對する施設の必要が痛感されてゐる折りから、一九二二年七月桑港に於て桑港基督教女子青年會の發會式が擧げられ、會場をガフ街一一二〇に設置して次の如く陣容を構成した。

▲會長小室かね、副會長森下廣子、會計宮崎島子、總委員長安孫子餘奈子、幹事小林徳子、舎監大久保音羽子

而して北加に呼應して南加羅府にも同様一九二二年十二月南加女子青年會が組織され堀見小笑子、池田けい子、田中さゑ子、小島清子らが中樞役員となつて活躍を開始した。中央傳道團の結成に對する婦人基督教徒の團結である。而して前記桑港基督教女子青年會は翌一九一三年總委員長の安孫子餘奈子の歸朝するに際し、餘奈子に托して遊澤榮一、森村市左右衛門、淺野總一郎、大倉喜八郎、添田壽一らに訴へ金千六百圓の援助を受け、幹事に米人ハーワス、伊集院秀子、舎監部には大久保音羽子、小林徳子、野田徳子らを配し、新渡米婦人に對する英語教育にはボーチ夫人及び山中仙子を當て、手藝裁縫には小幡繁、大橋幸、阿都らく子らを配して教鞭を執らしめ、更に機關誌「女子青年」を

發行するなど、寫眞結婚による新渡米婦人の激増の折りから極めて有意義な活動を開始し婦女子指導の任に當つた。

教會合同の氣運

基督教各派並に教會の合同聯携の氣運斯くて漸く熾烈化の時、米人ストード博士は一九一一年末頃よりこの主張に起つて或は機關誌「新天地」を通じ、或は聖壇を通じて「一市内に多數教派の分立することは傳道上より見ても將又經濟上よりするも、更に主一の教義よりするも不合理にして、日本人各教會は此際合同して、その根底を鞏固にすべきである」と強く運動を開始した。これに共鳴して起つた大久保貞次郎は傳道團を擴充して日本人全教會の合同統一を企圖し、屢々この問題に就て各派の意見を交換し、信條及憲法の立案にまで進み、美以教派の如きもヅカビルに於ける幹部の集會に於て教派合同賛成を聲明する迄に至つた。一方安孫子久太郎は自己の主宰する日米新聞を通じて教會合同を主張し、主筆千葉原も亦これを扶けた。斯くて桑港に於ける最も古き歴史を有する長老教會と後進、組合教會は遂に合同の議進み、一九一四年七月以來交互に禮拜集會を交換し、終に十月を以て合同を遂行し桑港日本人基督教會と改稱し、その披露式を舉行、宮崎小八郎が假牧師に就任し、組合派牧師福島熊三は布市に歸任した。

斯る基督教界の風潮は桑港の長老、組合兩教會合同の先鞭により更に拍車をかけ、羅府に於ても二個の組合教會と一個の長老教會（羅府フラワー組合教會牧師古屋孫次郎他は牧師田中義一、長老牧師中村順三）も遂に合同し、羅府日本人合同教會を新に創立するに至つた。長老及び組合兩派は今後單獨にて教會を新設せざることを申合せ、其結果、奥殿、ソートレーキ兩教會は兩派合同によつて創立されるに至つた。

聖書献上及び贈呈

在米日本人基督教徒は内に前記の如き運動をつゞける一方、故國の歡びをも俱にして聖書の献上並に贈呈をなしてゐる。即ち大正天皇御即位に當つては、在米基督教徒の名に於て特に謹製した聖書を献上すべく、一九一五年（大正四年）八月一日桑港市公會堂に於て内外諸名士の參列下に獻本式を舉行し、ストード博士

を代表として日本に派し官内省を経てこれを献納した。又一九一四年黒岩悌次郎中將を司令官とする練習艦隊淺間、吾妻兩艦來航の折には司令官、艦長、幹部候補生等に聖書を贈呈すべく艦上に於て盛大なる贈呈式を舉行した。今上天皇陛下、御即位に當つては同様謹製の聖書を奉納したことは申すまでもない。なほ當時の基督教勢を見れば次表の如くである。

在米國日本人基督教會統計一覽(一九一五年)末現在調

所在地名	教派	教會數	牧師及傳道者	會員數	日曜學校生徒數	最近一年授洗者數	英語有給教師	學校生徒數
桑港	美、合、聖、リ	四	九	四二二	二四九	三五	一〇	二六
王府	美、組、南	三	三	二〇二	七九	三九	二	一四
亞市	南	一	一	四五	一五	一四	一	一八
麥嶺	美、ユ	二	一	六一	四〇	一	一	一
パロアルト	美	一	一	四四	二八	六	一	一
佐村	美	一	一	六九	二八	六	一	一
華村	長	一	一	二二	三	一	一	一
モントレ	長	一	一	四八	二二	一	一	一
櫻府	美、長、獨	三	三	一四二	五二	二七	二	一
フルミス	美	一	一	四二	一六	二	一	一
フロリン	美	一	一	一三	五九	一	一	一
ウオナツトグーロウ	南	一	一	四	二七	一	一	一
ウカピル	美	一	一	九	一	一	一	一
サンタローザ	同志會	一	一	六	二	一	一	一
須市	長	一	一	六	一	一	一	一

布市	美、組	二	二	一五五	五九	一〇	一	三
ハンホード	長	一	一	七	三	一	一	一
ベイカスフィールド	美	一	一	一二	一	一	一	一
羅府	美、長、組、聖、基	六	一	八四四	二五一	二六九	六	一〇七
オクスナート	美	一	一	五〇	三〇	二六	一	一
巴市	ユ	一	一	二七	一五	四	一	一
ホイテヤ	友	一	一	七〇	二	二五	一	一
モンテペロ	組	一	一	二五	一	七	一	一
モンテペロ	組	一	一	三四	五	九	一	一
ロングビーチ	長	一	一	三〇	一	七	一	一
モネタ	浸	一	一	六	二	一	一	一
サンタアナ	獨、組	一	一	八六	三三	一〇	一	一
オレンヂ	友	一	一	一四	一六	一	一	一
ウインタスバアグ	長	一	一	二二	一	一	一	一
河畔	美、組	二	一	一四三	五三	一七	一	一
サンバナデノ	基	一	一	八	一五	一	一	一
サンデゴ	組	一	一	二五	一三	七	一	一
帝原	美	一	一	一	一	一	一	一
ソートレーキ	基	一	一	二二	一	一	一	一
傳馬	美	一	一	一〇二	四三	三	一	一
ビヤプロ	美	一	一	三二	一五	三	一	一
ポートランド	美	一	一	三九	四	五	一	一
タコマ	浸、美	二	一	五九	四	一	一	一
沙市	浸、美、長、聖、組	二	一	四六	五七	一〇	一	一
スポウケン	美	一	一	三九	三〇	一〇	一	一

晚	香	披	加美	聖	二	二	一七六	一六〇	三	五	八〇
ウイクトリヤ	加美	加美	加美	加美	一	一	四六	二四	六	一	一四
ミニウエスト	加美	加美	加美	加美	一	一	六四	二五	二	一	三三
ステプストン	加美	加美	加美	加美	一	一	三二	三五	二	三	四五
カンパランド	加美	加美	加美	加美	一	一	一三	四五	二	二	一五
市	福音	福音	福音	福音	一	一	六七	一	二	一	一五
紐	修、紐、美	修、紐、美	修、紐、美	修、紐、美	一	一	三二	二五	一	一	二
合	計	計	計	計	七	七	四、三九一	二、一六五	七	四〇	八八八

日白人啓蒙運動

この頃日本人排斥の聲は年を逐つて高まり、如何にして之を堰き止めるかは識者の最も苦慮する處であつたが、キャベン・オブ・エデュケーション、即ち米人には日本を理解せしめ、邦人には米國々情を理解せしめて同化するに如かずとの結論に達し、一九一三年頃より種々方法を講じて、この運動が繼續された。是れがため故國宗教界の名士海老名正。原田助、金森通倫、山室軍平、網島佳吉、平岩宜保、其他故國團體代表慰問使として渡米せる服部綾雄、江原素六等基督教界の名士が相踵いで渡米し各方面に啓蒙運動を開始した。然るに世界大戰の休戦となるに及び戦時の擬裝的日米融和は休戦の聲と共に一蹴され、排日の聲は更に熾烈化して全米を風靡し、ギリツキ博士其他邦人教會關係の總理等は寢食を忘れて其緩和に努力したが、澎湃たる排日の大勢は阻止すべくもない形勢を示した。加特力教が邦人間に働きかけホームを設け或は兒童教育に乗り出し、桑港及び羅府に會館を設けたのはこの頃の事である。

自由メソヂス

ト派傳道開始

同派の太平洋沿岸に於ける開教の起原には三つの支流がある。即ちその一は一九一三年日本より歸米した宣教師、デー・エッチ・ソントンがアリゾナ州フィニックス市に傳道を開始し、その二は北加州麥嶺に一九一六年ナザレン教會援助の下に當時日本より歸來のミス・ブルが（現バーネット夫

人）開教しその三は水上貞己教師が米人宣教師アルマイヤー父子と協力して一九二〇年前後に南加ポートロスアンゼルスに日本人自由メソヂス教會を創始したのがこれである。前記第一は現フィニックス教會となり第二は麥嶺教會と成長し第三は羅府教會となつた。

北加基督教

會同盟誕生

既述、一時小康を得てゐた排日運動も世界大戰の休戦以來勃然として再燃し來り、一般投票によるに至つた。斯る情勢下に於て南北基督教界は人心振起と慰問を行ふべく革新傳道慰問講演を開始し、軍縮會議にオプザーバーとして參加した小崎弘道、網島佳吉、矢島輯子らに依囑して巡教せしめる一方、一九二二年にはストーヂ博士引退記念傳道師として植村正久を翌二十三年には今井革を招じて沿岸に特別傳道を行つたりした。この當時の同胞社會は歸化權試訴の大審院に於ける敗訴、故國關東大震災に對する救濟事業、米人の對日壓迫等々と騒然たる状態であつた。基督教界に於ても傳道團改組以來なほ統一機關に多々缺陷ありこれを補はん爲一九二四年一月桑港に教役者の大會を開き、その結果、社會情勢に對應して更に強力なる教化を開始すべく北加基督教會同盟を結成した。南加側は傳道團支部をそのまゝ存續せしめる意向であつたが、結局南加基督教會聯盟と改稱し、又西北部に於てはシャートル教會同盟その他三州協議會の名の下に南加州とも聯絡をとつて活動を開始した。北加基督教會同盟の初代役員は次の通りである。

- 會長 桑庄吉、副會長 森淳吉、書記 齋藤末松、會計 藤賀與一、理事 津田彌三郎、水野琢成、福島熊藏、廣田善朗、甲賀毅一
- 移民法の通過と基督教界 排日移民法の通過は在米同胞に深甚なるショックを與へ、人心の動搖甚しきも

のあり、沿岸基督教三團體は代表者を派して桑港に善後策協議會を開いた。

南加傳道團代表 河合順三、田中義一、宗音重。北加同盟代表 秦庄吉、森淳吉、齋藤末松、津田彌三郎、藤賀與一 西北三州協議會代表 安部清藏

而して協議事項として傳道能率の増進、協同機關の設立、二世教養方針の確立、國籍離脱制限年齢の撤廢請願等を議し、故國より賀川豊彦及び佐藤定吉を迎へて沿岸諸州に慰問傳道を行つた。

夏季學校とY・P・C・C 南加傳道團は一九二四年より夏期學校を開始して成績を治めた。北加同盟も一九二六年よりモンントレーの風光明媚の地を選んで第一回夏期學校を開始した。

校長津田彌三郎、副校長幸田宗平、牧師高山豊三、主事藤賀與一、庶務主任川守田英二

Y・P・C・C。我等の後繼者たる二世を如何に指導するかは同胞一般の切實なる問題である。北加同盟は茲に鑑みる處あり、一九二六年第二世基督教青年大會を麥嶺に開催した。十月八日より十日迄三日間各地代表の出席者は二百八名の多きに達した。

機關雜誌より週報へ 沿岸基督教界に於ける傳道の機關雜誌は福音會時代に發行されたガリ版並に石版刷りのものを嚆矢とするが、その後にも各派各教會は相踵いで機關誌を發行した。その誌名及び發行所を見れば次の如くである。

喜びの音(美以派)新天地(長老派)獨立(オークランド獨立教會)世の光(南加)友垣(桑港美以教會)樂園(オークランド美以教會)喜峰(シャートル組合教會)護教(美以派)新天地(傳道團)南加福音時報(南加聯盟)北米教壇(西北部)北加の光(北加同盟)婦人新報(婦人矯風會)

然しこれらの機關誌は漸次に廢刊され現存してゐるものは二三に過ぎず、各教會は機關誌から週報發行へと轉じ、現在は機關誌に代るに殆ど全教會が週報を以てし、その經費の如きも全米教會を通算すれば五千弗を下らずと推算さ

れてゐる。なほ週報の始祖は一九一二年オークランド獨立教會の會員永田彌が(現日本力行會々長)騰寫版刷りで發行したものである。

南加基督教會

在米同胞の年と共に老境に進み老衰者又は疾病者にして逆境に悩むもの數漸増するに鑑み

聯盟と社會部

南加聯盟は一九二八年一月社會部を設けて救濟事業を開始した。特にその數は比較的僅少で

あるが二世の犯罪についても充分に留意の必要あり、同聯盟は當局と協力犯罪の防止其他同胞間の落伍者慰安救濟について努力するところあり、聯盟幹事齋藤新次は十年一日の如く良く其任務を遂行して居る。協力事業として舉げられてゐる要點は次の如くである。

- 一、郡、州立病院、養老院、保護所の入院斡旋
- 一、入院を要せざるも食料等の補助を要する場合
- 一、結核病院、療養所及び保養院入院の斡旋
- 一、病氣、死亡、其他の事情にて、郡若くは州の援助を受ける場合の斡旋
- 一、監獄訪問傳道、養老院、クリニック紹介、其他人事問題

開教五十年記念傳道

記念傳道と祝賀會

一九二九年この年早くも開教五十周年を迎へた基督教團は、記念大傳道並に祝賀會を

南北兩加州並に西北部に於て催すことになり、先づ發祥の地桑港に於ては同年九月二十七日大祝賀會を催した。當日の參列代表の主なるものは西北部代表の東海林源之助牧師、南加聯盟の代表合同教會牧師德憲義、桑港市長代理、米人教會同盟會長、邦字新聞社長その他各地の牧師及び代表者等約百名にして、當日は殊に加州知事ヤングよりの祝電もあり、且つ各出席者は交々起つて過去五十年間の傳道が如何に困難であつたかを語り、且つ來らんとする後半世

紀に對する所信を披瀝して相互に激勵するところあつた。更に當日は過去に於ける太平洋沿岸傳道に功勞あつた左記の人々に記念品を贈呈して感謝の意を表した。即ちストーヂ博士、美山貫一、稻澤謙一、大久保眞次郎未亡人、吉田森三未亡人、ジョンソン未亡人、アクトン未亡人の七名がその授賞者である。

一方特別傳道は北加同盟に於ては特別委員に津田彌三郎、藤井慈龍、幸田宗平、藤賀與一の四名を擧げ、四月トラクト傳道、五月先亡者追悼會、六月母の會、七月夏季修養會、八月教壇の交換、九月總動員等と連続的に行ひ、南加に於ては主任傳道師に辻密太郎及び芦名武雄を招聘して南加總動員の大傳道を十、十一の兩月に互つて行ひ、更に同様功勞者に記念品を贈り、又西北部方面に於てはシャートルル市を中心にして十一月廣田善朗及び岡崎福松を主として大運動を開始し、茲に太平洋沿岸を擧げての大傳道は擧行されたのであつた。而してその成果は又至大なものがあつた。

加州知事祝賀狀

前記祝賀會に加州知事より寄せられた祝賀狀は次の如くである。
在米日本人社會に基督教傳道開始以來本年は正に五十年に相當可致由、此光輝ある紀念會に際し一書を呈して賀詞を述べらるの光榮を有し候

最高の理想を實現せんとする社會に於て基督教が常に最も主要なる指導機關たり又其活力たる事は申す迄も之無、殊に在米日本人社會が過去半世紀に互り物質的進歩を遂げたる他面其道德的方面の開發は一に基督教會に負ふ處多なるを認識する次第に御座候
此光榮ある傳道五十年紀念に際し謹而祝意を表し貴下並に同僚牧師各位が益々在米日本人心靈界指導のため大に盡せられんことを衷心祈る次第に候 敬具

一九二九年九月二十六日
北加基督教會同盟會長 津田彌三郎様

知事 シー・シー・ヤング

太平洋沿岸 基督教開教 五十年紀念諸教派教勢一覽 (一九二九年)

教會所在地	創立順位	現在會員SS生徒	初代牧師	現任牧師	布市	獨立組合	不明	福島熊藏
桑港	一八八六	二五〇	美山貫一	津田彌三郎	半費士	一九〇八	三九	三浦宗三郎
王府	一八八七	一五〇	土井操	有馬南	パロアルト	一九〇九	七〇	太田藤助
櫻府	一八九三	一五〇	木原外七	渡邊宗三郎	桑港	一九一〇	八九	深田種嗣
布市	一八九三	一四四	廣田善朗	町田保	櫻府	一九二二	二二	幸田宗平
佐市	一八九五	一三〇	吉田森藏	原谷岩吉	ルーミス	一九二一	一三四	甲賀綏一
バカビル	一八九五	一三〇	時政英作	佐々木養之助	ウオナツ	一九二二	三九	内藤男吉
サリナス	一八九八	一三〇	稻澤謙一	禰國七	グロウナツ	一九二二	一四三	吉岡賢秀
華村	一九〇一	一四〇	高川玉之助	西川玉之助	モン	一九二二	三五	太田義三郎
亞市	一九〇三	一四五	藤井慈龍	大久保眞次郎	フロリン	一九二二	七〇	今井敬一
王府	一九〇四	一〇五	無	大久保眞次郎	トレイ	一九二二	二六	津田彌三郎
王府	一九〇四	七〇	無	大久保眞次郎	桑港	一九二二	二五	服部綾雄
王府	一九〇四	七〇	無	大久保眞次郎	合長	一九二二	一三〇	照井丙吉
王府	一九〇四	七〇	無	大久保眞次郎	ファイカス	一九二二	五二	原谷岩吉
王府	一九〇四	七〇	無	大久保眞次郎	美以	一九二二	四〇	

サンタ マリア 合 同	ソール テル リ ホーム ム	ハリ ウッド 長 老	エル セン ト ロン 合 同	カレ キ シ コ 獨 立	カレ キ シ コ 獨 立	リ ホ ム ム 一 九 二 〇	港 一 九 一 八	一 九 一 八	組 長 一 九 一 八	同 盟 組 一 九 一 七	河 畔 一 九 一 七	一 九 一 七	一 九 一 七	獨 立 一 九 一 六	獨 立 一 九 一 五	獨 立 一 九 一 五
不明	不明	一三〇	二五	五五	二六	七〇	五〇	九三	三六	三六	四六	三六	三六	三五	三三	一九
大下 康雄	鈴木 吉助	堀越 徳次郎	國分 壬午郎	國分 壬午郎	行川 喜一郎	白石 清	白石 清	徳村 憲義	中村 順三	古屋 孫次郎	田中 義一	高橋 乙治	吉田 森蔵	高岡 今平	筑館 武司	伴 武
ソ レ イ キ 一 九 一 九	奥山 中 殿部 一 九 二 七	沙 市 聖 公 一 九 〇 八	タ コ マ 美 一 九 〇 七	沙 市 組 合 一 九 〇 七	沙 市 長 老 一 九 〇 六	沙 市 美 一 九 〇 四	沙 市 美 一 九 〇 四	沙 市 浸 禮 一 八 九 九	ボ ラ ン ド 美 一 八 九 三	以上南加州 (他にホリネス派及二三の 自由美以教會派あり)	一 八 九 三	一 八 九 三	一 八 九 三	一 八 九 三	一 八 九 三	一 八 九 三
五九	一二	六五	三〇	一〇	六九	一〇	六九	一〇	六九	一〇	六九	一〇	六九	一〇	六九	一〇
佐藤 喜重	豊留 秀信	辻 密太郎	東海林 源之助	東海林 源之助	伊崎 清二	東田 清一	安部 清藏	澤谷 辰次郎	川守 田英二	井上 織夫	山鹿 讓七	鶴田 源七	岡崎 福松	岡崎 福松	田頭 千代吉	川邊 貞吉

多 村 長 老	羅 府 美 以	(以 上 北 加 州)	共 同	共 同	共 同	共 同	共 同	共 同	共 同	共 同	共 同	共 同	共 同	共 同	共 同	共 同
一 九 〇 四	一 八 九 六															
八〇	四六	不明	五〇	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五
菊地 賢治	寺澤 久吉	川島 末之進	中村 徳太郎	中村 徳太郎	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
長 演 老	モ ネ タ 一 九 一 三	帝 原 美 以 一 九 一 三	モ シ テ ベ ロ 一 九 一 二	サ ン デ ノ ナ 一 九 一 二	ノ オ ー ク 一 九 一 二	フ レ ン ド 一 九 一 二	一 九 一 二	一 九 一 二	一 九 一 二	一 九 一 二	一 九 一 二	一 九 一 二	一 九 一 二	一 九 一 二	一 九 一 二	一 九 一 二
一三六	一〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
伊藤 幸三	小森 龍太郎	渡邊 頼茂	不 明	春山 長藏	馬場 小三郎	無	中館 與次郎	静岡 忠人	石川 清	本田 文治	遠藤 喜英	河田 拳重	宗音	馬場 小三郎	田島 堅固	澤谷 辰次郎

傳馬	一八九〇七	六八	濱田重之助	紐育	一八九〇一	不明	生江幸之
紐育	一八九八	四〇	植村清次郎	紐育	一八九〇一		小室篤治
紐育	一八九八	二〇〇	廣瀬由助	紐育	一八九〇一		
紐育	一八九八	以上	清水宗次郎	紐育	一八九〇一		

日支事變と恤兵献金

事變勃發以來、基督教徒は各地方所屬日本人會等を通じて慰問袋の寄贈、恤兵献金等に勵むと共に南加聯盟婦人大會の如き、北加同盟の如き所屬教會を促し慰問袋其他献金、並に東京基督教聯盟を通じて前線慰ひの家に対する經費寄附等を行つた。

南北美以兩派の合流

數年以來米國南北美以兩派は合同の氣運を醸生し來つたが、一九三九年合流決行の運びとなり、自然其影響は日本人兩派の關係にも波及し一九二九年の年會より南美以派は美以派に合同し、日本人メソヂスト教會と改稱するに至つた。従つて王府南美以教會の如きは王府メソヂスト教會に合同するに至つた。

全米基督教徒大會

南加聯盟が二ヶ年以前から計劃してゐた全米基督教徒大會は、一九三九年八月五日から同十一日まで雜府合同教會を中心として行はれた。會する者遠く南米、ハワイ、カナダ、ニューヨーク等からの出席者も加へて三百餘名の多きに達し、眞に全米大會の名に背かぬ大集會であつた。而してオクシデンタル・カレージ大講堂に於ける信徒六百の大禮拜等を経て七日より十一日に至る六日間の大評定に移つたが、この六日間に行はれた討議懇談事項を擧ぐれば次の如きものである。

- ▲日本人基督教會の現状及び將來
- 一、教會の結束
- 二、傳道方針、各派間の協力一致と州外國體の提携、教派合同問題
- 二、二世教會問題
- 三、指導者、傳道者の養成、二世間の傳道
- 三、宣教問題
- 四、沿岸東洋人諸教會との聯絡、支那滿洲傳道、南洋傳道
- ▲在米同胞社會問題
- 一、社會の向上と改善
- 二、民族興亡の豫想と對策
- 三、興亞とその影響
- (在米同胞に及ぼすべき影響並に二世の東亞進出に就て)
- ▲在米同胞の經濟問題
- 一、推奨されるべき事業及び職業
- 二、産業助勢組合問題

▲在米同胞の文化と日米親善

- 一、邦語教育の進展性とその可否
- 二、東洋研究巡回講座の新設
- 三、日米親善の促進と移民法の改訂運動
- 四、二世團體との接觸と市民權行使の促進

而して同大會に於ては在米勤続二十五年以上の左の諸牧師を表彰した。

勤続四十年以上	奥村多喜衛	曾我部四郎	廣田善朗	川島末之進	小室篤治
同三十五年以上	深尾泰治	福田純博	同三十年以上	福島熊藏	前田龜太郎
宗音重	馬場小三郎	秦庄吉	寺澤久吉	吉岡賢秀	山鹿謙
山崎節	東海林源之助	同二十五年以上	植村清次郎	津田彌三郎	岡本嘉吉
杉本登貴吉	清水宗三郎	赤川義盈	青木惣次郎	佐川眞幸	國分壬午郎

南加基督教會聯盟年會

同聯盟は一九四〇年一月年會を開催、春秋二季の傳道を可決し、左の件々を議了し、新幹部を擧げた。

決議事項

本年會は皇紀二千六百年に際し建國祭當日各教會一齊に奉祝禮拜を行ひ、而して建國以來の光輝ある歴史を有する祖國の上に神の祝福を祈り、且我等は益々福音宣傳に努力し以て我民族の精華を普く發揚せんことを期す。

一九四〇年一月二十一日

決議事項

- 一、夏期修養地殘務整理の件
- 二、沿岸開教六十年記念事業として退職教役者のために休養ホーム建設の件
- 三、東亞傳道部を設置するの件
- 四、新選役員
- 會長 山崎節
- 副 堀越徳次郎
- 同 田島眞澄
- 會計 渡邊
- 同 堀 甚兵衛
- 書記 鶴浦小次郎

北加基督教會

同盟總會

同會は毎年一回總會を開催して諸般の協議を行つて居る。一九四〇年一月末王府メソヂスト教會に於て開催の總會は先づ皇紀二千六百年奉祝記念禮拜を行ひ「君が代」二唱を以て開會され、川守田英二司會の下に相浦忠雄奉禱をなし藤賀與一同盟を代表して左掲の祝文を朗讀し、西村正元會長の禮拜説教にと

遷つた。會期中紀元節當日各教會に於て記念禮拜を執行することその他重要協議を遂げ新役員の選舉を行つた。式辭並に新幹部及び其他部會會長を左に併録す。

式辭

大日本帝國皇祖長クモ國ヲ肇メ給ヒシヨリ二千六百年而シテ天壤窮ナク國運ハ隆ニシテ入紘ニ洽ク東亞永遠ノ新秩序ノ建設ヲ目標トセル聖職既ニ四星霜ニ跨リ然モ統緒後ノ守備愈々固ク日ヲ追ツテ目的ノ達成又頗ル顯著ナルモノアリ是レ實ニ後成ニヨレルヲ拜察ス

我等海外ニアリテ之ノ盛世ニ會ス感激奮勵以テ祖國ノ爲メ各々其分ヲ竭シテ神靈ニ應ヘ奉ルト俱ニ傳道報國ノ誠ヲ致シ更ニコノ機會ヲ通シテ後裔民族ニ對スル指導精神ニ於テ民族意識ノ明瞭ナランコトヲ期スルハ日米兩國親善ノ契機ニ於テ喫緊事ナルヲ信ス

本日茲ニ第十七回北加同盟總會開催ニ際シ劈頭謹テ皇基記念の祝典を奉ケ遙カニ 皇室ノ萬歲ヲ祝シ奉ルト共ニ殉國ノ將兵ニ對シテ無限ノ感謝ノ意ヲ表ス

皇紀二千六百年昭和十五年一月三十日

北加基督教會同盟

- 新幹部會長 西村正元 副 川守田英二 書記 相浦忠雄 會計 藤賀與一 桑港部會長 後藤太郎
- 副 塚本賢次郎 總東部會長 藤井慈龍 副 田中功 桑タクララ支部 北澤武右衛門 沿岸部會長
- 野地清 副 矢半田貞三 中加部會長 原谷岩吉 副 安藤龜三郎 櫻府部會長 佐々木養之助 副
- 青木儀市

北加基督教青年大會

北加基督教青年大會は北加所在の基督教會（北加基督教會同盟所屬）青年團體の聯絡と基督教的人格の向上を目的として、一九二五年北加基督教會同盟青年部によつて組織され、第一回大會を同年十月二十四、五の兩日麥嶺に於て當時の青年部長故加藤鈴之助牧師指導の下に開催した。出席者は約五十名程度であつたが爾來年を重ねるに従つて出席代表者の數は増加し最近毎年六百名を超える盛況である。

如上の大會以外に、桑港、櫻府、中加、沿岸、サンタクララに於て毎春地方大會を開催、近時は増加する歸米青年の指導のため歸米青年部が新設されてゐる。

亡き功勞の人々

在米日本人基督教徒の數は同胞全人口の二割餘に過ぎぬものであるが、在米同胞社會の初頭より克く社會の中堅層をなして來た。又外に向つては一九二四年の排日移民法通過以來、沿岸諸教團は各聯絡機關を活用して、専ら統一ある傳道とその對策の一翼を務め、又一九三一年の滿洲事變、今次の支那事變に當つては各教團を通じて米人方面の對日認識是正に努めた努力も決して尠なしとしない。基督教徒の聖戰は斯くて内外に向つて共に重要であつたのである。而るにこの間聖戰半にして昇天した幾多先輩指導者の功勞こそ我らは久遠に銘記すべきであらう。茲にその氏名を録して功績を記念すれば次の如くである。

▲奥村武之助 五十年前に東部の學窓に逝く、元桑港長老教會の主任 ▲六重部伊三 三十年前ベカビルに逝く ▲大久保貞次郎 一九一四年王府に逝く ▲河田肇 二サンタバーバラに侍る ▲佐々木謙三 須市教會 ▲吉田森藏

右の外最近十年間に逝つた教役者に就て見れば南加サンデーゴの伊藤巳之助夫妻、北加バークレー合同教會の加藤鈴之助、同自由美以教會の山本茂、ハリウッド獨立教會の高岡今平、ロングビーチの伊藤孝三、ユタ州オクデンに逝つた門地義民、サクラメント浸禮教會の越智熊勝、同土方揆一、サンデーゴの中村順三、ワツソソビル教會の植村夏樹、ウオーナツグロブ南美以の水津正信、アリゾナに傳道二十年の奥田あや、最近紐育に逝つた小室篤治、サクラメントの高山豊三その他列記に漏れた者も若干あるであらうが、今や在米同胞間の基督教は一萬人に近い信徒を有し、その教會は合せて三百萬弗の不動産を有してゐる、長逝せる先覺者の靈も亦瞑すべきであらう。

各地教會略史

(北加州の部)

桑港日本人メソヂスト教會

同教會が一個の「日本人美以メソヂション」として加州年會の承認を受けたのは實に一八八六
年(明治十九年)である。同年十二月ゼツシー街に移轉した同教會は半歳前より歸米のハリ
ス監督指導の下に美以英語夜學校を(校長島田重祐)開校、或は同八九年信仰復興大リバイバルを起すなど漸次に發
展し、翌九〇年「桑港美以教會」の名を冠し會堂は遂に狹隘を告げるに至つた。よつて同九二年バイン街に土地を得
ハリス及びロット、佐藤信忠、黒澤格三郎等を委託人として新會堂の建築に着手、同九四年十二月献堂式を舉行した。
教育事業、當教會のS、S、開始は一八八八年にして、機關誌「喜の音」發行は同九四年、越へて一九〇四年青山
學院教授ヴェール博士の歸來を機とし、從來繼續せる英語夜學校を改稱して「美以英和學校」とし、ヴェールを校長
としてデースクール及びナイトスクールを開始した。一九〇〇年エボース、リーグは同九〇八年婦人會を開始した。
最初の會長は谷口文彦夫人であつた。

然るに一九〇六年の桑港大震災に延焼し、同八年牧師廣田善朗の努力と一般の後援によりて現教會堂新築なり、同
一九一五年寄宿舎を建築した。

教勢現況(一九四〇年以下同)會員數百八十人、二世會員二十五人、禮拜出席三十人、二世二十人、S、S、生
徒五十三人。

桑港日本人合同教會

教會は桑港長老教會及び桑港組合教會の合同(一九一四年十月)したもにしてその
沿革を見るに長老教會は在米日本人教會中最初に承認(一八八五年明治十八年五月十六日組織)されたものであり、

組合教會は一九〇一年の創立になるものであるが、沿岸長老派監督ストーヂ博士の熱心なる教會合同論により遂に
九一四年に至つて兩教會の間に議纏まり合同に決するに至つたものである。

二世教會 一九三三年五月ストーヂ博士の盡力により、本教會内に二世教會を組織し青年合同教會と命名して現在
に至る。

教勢現況 會員數百九十二人、二世會員八十八人、禮拜出席五十人、二世禮拜四十人、S、S、生徒百十三人。

王府日本人メソヂスト教會 教會組織に先立つこと三年(明治十八年)在留同胞間に桑港福音會王府支部が設立され、幹

事に砂本貞吉が就任し、會場を第十五街とセファソンとグローブ街間に設けた。翌年高木種
吉、佐藤文治、翌々年は近藤賤男が交々會長となり福音會との關係を絶ち、王府白人美以教會に連絡し、會長制を廢
して幹事制とし、近藤賤男が其任に當り、同町西北角に移轉、一八九〇年始めて牧師として土井操吉が着任し、會堂
を第五街とブラッシュ街に移し、創立當時より經營の寄宿舎及夜學校を、寄宿舎のみとした。

其後一九〇〇年中村忠藏牧師時代は第十六街五三三番地であり再轉して一九〇七年九月現在の地第十街ウエストに
移つたのは牧師會長魏時代であつた。

一九一八年二月牧師今井三郎時代に現會堂成り、更に一九三一年四月牧師有馬甫時代に二世教育のため現教育館を
新設した。

教勢現況 會員數二百五十六人、二世百五十六人、禮拜出席五十人、二世五十人、S、S、生徒六十人。

王府日本人南メソヂスト教會合併 一九三九年南北メソヂスト教會の合同は一九四〇年六月日本人メソヂス

ト年會に於て王府日本人南メソヂスト教會は王府メソヂスト教會に合同するに決す。

桑港日本人第一リホームド教會 一九一〇年十月森淳吉東部學窓を了へ歸桑、米人教會を使用して傳道

説教を試み、路傍傳道をなす。偶々同十月三十日日本力行會、長島貞兵太夫の來桑せるを以て、ラダナ街に教會を創立、月刊紙「奮闘」を發行、英語夜學校其他禁酒會等を創立して、教勢頓に上り同一年六月現會堂ポスト街一七六〇番を米人組合教會より購入、一九二三年現教育館を増設した。

教勢現況 會員數百五十五人、二世七十人、一世禮拜五十人、二世六十五人、S、S生徒二百人。

桑港日本人聖公會

本會の起原は、一八九五年日本マキム監督より派遣された田井正一がパーウエル街に傳道所を設置したのに始まり、田井の歸國に代つて、三上久滿來任、一八九九年吉村大次郎赴任、同年ミス・バタソン信州松本より歸來、内部を整備、吉村を扶けて活動す。現教會位置はアキヤナン街一七三二番地である。

教勢現況 會員二十人、二世六十八人、禮拜出席十二人、二世四十人、S、S生徒四十人。

桑港日本人キヤソリック教會

教會名(セントフランシスコザベリヨ)一九一三年桑港バイン街に傳道開始され、一九一八年アキヤナン街に轉じ、現住所に至る教父ステッキ及ヂンマーマンによりて指導さる。

現在教會員二百十人、日本語學園及幼稚園經營日本人教師三名、生徒數二百三十人。

セフンステアトベンチスト教會

一九二二年頃より野崎金一師によりて文書傳道開始、教會組織を見たるは桑港及マウンテンビュー教會共に一九三〇年であつた。一九三八年七月獨立自給す。

桑港教會々員三十人、S、S生徒十六人。

マウンテンビュー教會々員三十五人、S、S生徒六十人。

サンマテオ日本人獨立ユニオン教會

本教會は同地方に居住する諸派の信徒によつて、基督教普及のため、創始せられた無宗派教會にして、一九二七年三月十三日創立當時の役員田村秀松、清水政三、山口愛子等の指導の下に結成せられたものである。最初はサンマテオ獨立教會と稱してゐたが、法人公認を受け名稱を變更したものである。

禮拜は白人組合教會堂を使用してゐる。一九三九年故ストーヂ博士寄贈にかゝる家屋に代へ、新らたに博士記念館を建築し、諸集會に使用してゐる。

教勢現況 會員百三十人、二世五十六人、禮拜出席三十八人、二世三十人、S、S生徒三十人。

亞市日本人メソヂスト教會

一九〇三年十一月(明治三十六年)の創立にかゝる當時の主宰者は總理リード及柳原浪夫牧師にして、其濫觴に溯れば一八九八年本派婦人傳道局關係デヴキス醫師夫人及其他に依てエンシナル街に英語學校開始に始まる。後イ、グル街に轉じ西山玉之助を聘じてミツシヨンの基礎を固め、一九〇三年西山の後を襲ふて柳原浪夫牧師の赴任により現在ビエナビスタ街に移轉、一九一〇年背後に禮拜堂を建築し、一九二七年日曜學校々舎を側面に新築した。

教勢現況 會員七十七人、二世十二人、禮拜出席三十七人、二世三十五人、S、S生徒壹百人。

王府日本人獨立教會

一九〇四年四月十三日(明治三十七年)嘗て王府美以教會内學生會員であつた有志學徒二十餘名は組合教會の創立を志し、中心人物であつた竹崎八十雄、久布白直勝、大久保清次等と共に王府サンバプロ街五六八番に一家を賃りて、王府米人第一組合教會支教會として誕生した。同年布哇より大久保眞次郎牧師を招聘し、第十九街に轉じ、一九〇六年自給獨立を宣し、一九〇八年現在の地シカモア街五七六番に移轉、一九一八年現教會堂を建築獻堂式を擧げた。

教勢現況 會員五十人、二世二十人、禮拜出席二十人、二世二十五人、S、S生徒七十人。

麥嶺合同基督教會

本教會は麥嶺美以教會と麥嶺ユニオンクリスチャン教會の合同せるものである。前者は水頭治平宅に於て講義所を開始せるに始まり、ジョンソン總理の指導の下に吉岡賢秀、田頭千代吉等によつて牧された。無牧の時代も相當期間つゞいた。後者クリスチャン教會は麥嶺同胞間の發達と深い關係がある。即ち一九〇三年

今中喜太郎、濱中幸親、正田伊三郎、山川丙三郎、吉田美雄、宮崎良太郎等の發起にて一團を組織し、ハースト街の白人フレンド教會に於て日曜の午後集會を開いた。一九〇八年シヤタックとオルストン街の角の二階に引越しユニオン教會と稱し、一時盛大を極めた。人事の變轉異動により三度びヂュラントとシヤタック近くに移轉、更に四轉してドワイトウエー二〇二二番に轉じたときは一九一五年一月であつた。一九〇八年より同一五年まで七ヶ年間基督教會派ミツシヨン本部より月額二十五弗の補助を受けたるも、此間常任傳道者を有たなかつた爲めである。一九一九年五月鶴浦小次郎を招聘して専任牧師とし、再び基督教會派に連絡し、ユニオン基督教會と改稱、小田信人時代に於て麥嶺美以教會と合同して、麥嶺ユニオン教會と名稱し、後麥嶺合同基督教會と稱するに至つた。合同實施は一九二九年八月十一日にして現會堂は一九三二年の獻堂にかゝるものである。

教勢現況 會員百十七人、二世六十二人、禮拜出席二十五人、二世三十人、S・S生徒七十人。

麥嶺自由メソヂスト教會

前後七ヶ年日本に宣教せし、ミス・ブル病氣歸米後、更に沿岸邦人のため傳道を志し、一九一六年麥嶺バンククラフト街白人ナザレン教會にて初めて集會を催した。聽者中に西村正元(現教會牧師)神原源治等があつた同婦人は英語夜學校を開いて邦人間に其名を知らるるや、ナザレン教會の組織に還り三澤梯之助を招いて牧師とした。而して一九二〇年二月には教派を北米自由メソヂストに轉じ、ミス・ブルは牧者バーネットと結婚現派總理である。現會堂は一九三一年三月の獻堂にかゝる。

教勢現況 會員七十七人、二世十二人、禮拜出席三十七人、二世三十五人、S・S生徒一百人。

△パロアルト日本人メソヂスト教會

當教會は須大學所在地とて邦人學生等のため、桑港美以教會より小室、宗兩牧師等によつて出張傳道が行はれ、一九一五年牧師藤井茂雄來任エマソン街に於て教會組織に進み、其後四轉して現教會の位置に轉じ、一九三九年會堂を建築、同四十年獻堂式を擧げた。以上の期間専任牧師を有せず、佐市

教會牧師の兼牧時代が多かつた。

教勢現況 會員數五十人、二世二十五人、禮拜出席者十五人、二世二十人、S・S生徒三十人。

△佐市日本人メソヂスト教會

佐市は邦人初期農園就働者が集散地である爲、早くも一八九四年數名の信者によつてホームが設立され、翌九五年八月には吉田森藏が華州より來り白人美以教會員スメル夫人の協力により教會を創立、大學生木村清松、赤澤元造、其他によつて傳道を擔當された時代もあつた。一九〇四年牧師小室篤治布哇より來任し、一轉機を劃し宗音重及び松岡廣一時代に於て現在地に會堂を建設して今日に至る。

教勢現況 會員一百人、二世四十人、禮拜出席者三十人、二世二十五人、S・S生徒四十人。

サリナス日本

一八九七年頃サリナス地方は砂糖大根耕作地として邦人農園勞働者にして入込む者多く、先輩野田音三郎は傳道者稻澤謙一と諮りモントイ在住米人ジャンクスと協力、一八九八年四月

人長老教會

七日(明治三十一年)中會の許可を得て傳道館を開き、稻澤はジャンクスの好意による白馬を驅つて地方農園を傳道した。現在教會地は一九〇六年に買収し、教會堂は一九一八年新築したもので、一九三〇年現教育館を増建した。

教勢現況 會員百〇五人、二世五十五人、禮拜出席二十五人、二世三十人、S・S生徒六十人。

△華村日本人長老教會

一八九八年頃美以系傳道者寺島なる者講義所をワツソソビルに開き、その後一九〇一年美以總理ハリス、長老總理ストーヂ間の交渉により同講義所を長老派に委ね、當時サリナス傳道の稻澤謙一に兼牧せしめた。創立當時カネー街に在りしを一九〇三年ユニオン街に轉じ、更に現在地に一九三〇年三萬二千弗の工費を投じて會堂を新築するに至つた。初期時代より長期に亙るバトン夫人の援助は同教會の銘記する處である。

教勢現況 會員數百五十人、二世九十人、禮拜出席者三十二人、二世十五人、S・S生徒百十人。

モントレー日本人基督教會

同教會はカール在住米人ホワイトの英語教授に創まる。最初サリナス長老教

會の監督下に在り、モントレイ傳道館と稱してゐたが、ストージ博士の斡旋により一九一二年佐市中會に屬すやうになつた。現會堂は一九二六年十月を以て新築落成献堂されたものである。

教勢現況 會員數七十四人、二世三十五人、禮拜出席者二十四人、二世三十人、S・S生徒五十四人。

櫻府日本人メソヂスト教會

當教會は一八九二年二月（明治二十五年）の創立にして木原外七が其任に當り桑港美以教會の支會となつてゐた。創立當時はエル街五〇にして同十二月デー街九〇三に、一八九五年エム街三〇に、更に一九〇八年ビー街四一七に、一九一八年現在地オー街三三一に轉じた。一九〇一年以後約十ヶ年間吉田森藏時代に於て田頭千代吉、大須賀安春等をして傳道界に献身せしめた。

教勢現況 會員四十二人、二世百二十八人、禮拜出席者十三人、二世四十人、S・S生徒百二十人。

櫻府日本人獨立教會（現存せず）

同教會の創立は一八九〇年にしてボーエン夫人の主宰にかゝるものである、ボーエン夫人は米國ヴァージニア州の生れ、結婚六ヶ月にして夫君と永別し、美以派總理ハリス博士の下に宣教したが、のち分離獨立して在米日本人庇護の爲に起つた。當時の櫻府も他地方と同様同胞社會は未にもその秩序整はず且つ邦人婦女子に對する誘惑或は醜業への誘拐等の事件も少なからず、ボーエンは身を以て彼女らとその袂下に守つた。又同夫人は同胞青年學徒にして學資に窮せる者を援助し、或は食に窮せる者に食を與へるなど、同夫人は櫻府一圓の同胞から慈母の如く慕はれてゐた。現存同胞中にも夫人の援助下に學業を修めた者も二三に止まらず、現在羅府に花卉業を營む合屋眞一等は同夫人の助力によつて農科大學を卒業したもので、後年ボーエンの恩愛に酬ゆる爲數年間に互つて數千弗を仕送つた佳話も殘してゐる。又一九三七年五月十日ボーエンが昇天するに先立ち夫人に恩顧ある同胞數名は夫人の希望により、その墓碑を日本人墓地に建立する事を引受け夫人は日本人と共に眠るを最大の幸福として永眠した。而して夫人所有の會堂並に敷地は會て門前に食を乞ふた一ルンペンに與へられた。日本文を以て發

刊された獨立教會月報「めぐみの光り」は櫻府に現存する最古の記録であると思惟される。なほ夫人の一姉妹は同志社教授ミス・デントンの兄弟に嫁してゐる。

ヴァカヴィル日本人メソヂスト教會

同教會は創め一八九一年（明治二十四年）十二月講義所として創立された。これより先き桑港美以教會牧師松田貞吉は巡回傳道を試み、サクラメント河船を利用してウインタース、ヴァカヴィル兩村に行脚傳道をなし、ヅ村ミセス・ブレイキ農園に在つた青年池田有親等を導いて、一八九五年一月教會組織へ發展する前に更に岡部健太郎、藤原俊雄、三田村新七等巡教し、櫻府美以教會創立と共に木原外七牧師の指導を受け同教會に連絡した。教會組織當時の牧師は時政英作であつた。前後幾十年間本教會のため献身した信徒は小田代源太郎であらう。彼は奥江清之助と共に沿岸信徒中の双壁と稱すべき篤信者である。現在會員十六名、S・S生徒十六名。

須市日本人長老教會

一八九八年（明治三十一年）傳道師堀内豊太郎及委員林甚之丞、金田文司等によつて傳道を開始し、一九〇七年約二十名の青年によつて基督教主義の青年會に類する團體「曙光會」を組織し、一九〇〇年これを傳道館と改稱神學生小林誠桑港より出張し傳道を開始した。小林誠卒業後來任して同一四年辭任に至る間内外の整備を加へ、現教會堂は一九一七年現在地に建築されたものである。

教勢現況 會員百十六人、二世五十九人、禮拜出席者三十六人、二世四十人、S・S生徒八十四人。

ルーミス日本人メソヂスト教會

同教會の創立は一九一一年（明治四十四年）であるが、開教は遠く一九〇四年に遡る。當時數名の同胞この地に定住してゐたため吉田森藏牧師は櫻府より毎月一回出張大町政雄、菅澤駒太郎、高橋爲四郎宅を集合所として會場に充てゐた。吉田一時歸國中鶴田源七牧師巡教、一九一一年吉田再任するに當つて、ルーミス美以メソヂストとして櫻府美以教會より獨立するに至つた。同一三年内藤勇吉傳道師時代に土地購入、

同一六年現教會堂を建築した。

教勢現況、會員百六十五人、二世七十八人、禮拜出席三十二人、二世五十三人、S.S.生徒八十人。

河下日本人メソヂスト教會 一九二二年秋亞市南美以教會太田義三郎牧師並に總理アクトン博士等によつて本教區を設定、神學生古原學をして週末出張傳道をせしめ、同一五年松下績雄東部遊學の途に數ヶ月の傳道を試み、同年九月今井敬一定住傳道をなすに至つて、教會組織が行はれた。不幸翌月同町の大火災に類焼、同一七年十一月再建、其後S.S.生徒の増加と共に一九二四年日校々舎として別館を新築し、一九三四年四月不幸牧師館再び火災に罹つたため、新築に當り牧師館を連結して、青年社交室等の設備を加へ改造して現在に至つてゐる。

教勢現況、會員六十一人、二世三十六人、禮拜出席二十人、二世二十五人、S.S.生徒八十人。

フロリン日本人メソヂスト教會 創立に先立つこと二年（一九一三年七月）日本語學校を開始、教師として津田彌三郎がその任に當つた。同時に日曜學校を創立した。即ち是が動機となり總理ジョンソンは教會組織へと志し、同地米人美以教會堂を使用して集會を持続、一九一五年九月フロリン美以教會を組織、眞鍋頼一が主任牧師として赴任し、翌一六年七月現教會堂の建築に着手し同十月献堂式を擧げた。

教勢現況、會員二百七十九人、二世七十人、禮拜出席五十人、二世三十人、S.S.生徒百三十人。

櫻府日本人基督教會 一九二一年長老派信者佐藤政治郎夫妻、三好義樹及び竹崎安子の四名により、同年十一月第四街一四二二にミツシオンを組織し、教會を甲佐屋旅館の一部に置き、渡米中の植村正久をして佐藤方にて三好信子の受洗式を行つた。後長老派より甲賀綏一傳道者として派遣せられ、本部に於てストーチ博士斡旋の結果、一九二〇年二月三日櫻府日本人基督教會となつた。教會堂位置は最初第四街一四二二より第五街一三二五に轉し其後第四街一四〇七及一四一五に移り第三街一三一二を経て一九二〇年三月現在地エム街五〇〇に現存してゐる。

教勢現況、會員百二十四人、二世八十人、禮拜出席二十五人、二世二十七人、S.S.生徒七十五人。

櫻府日本人第一浸禮教會 本教會の起原は一九二〇年十一月三日第五街一五二六元聖公會堂を購入「聖書學院」と稱し、牧師土方揆一及信徒等によりて傳道を開始したのに始まる。越へて一九二二年浸禮派に屬し、新たに前項の名稱を冠すに至つた、一九二三年會堂改築、同三〇年隣地を購入現會堂及運動場を新築、一九二三年幼稚園新設「クリスチャン・センター」と稱してゐる。

教勢現況、會員百十六人、二世六八人、禮拜出席三十二人、二世四十六人、S.S.生徒百〇二人。

盟友ミツシオン傳道館 一九二〇年牧師土方揆一により、櫻府第一浸禮教會傳道館として、オークパーク、カメリヤ、ミツシオン創設され、一九二七年一月牧師村岡菊三郎により盟友分館として町田平内方に開館され、其後一九三〇年現傳道館を新築した。

教勢現況、會員四十一人、二世二十六人、禮拜出席十二人、二世二十四人、S.S.生徒五十六人。

布市日本人メソヂスト教會 一八九三年（明治二十六年）美以監督ハリスの命により青年牧師廣田善朗はこの地の傳道に着手した。當時葡萄酒採事業に邦人労働者の移住する者多く、傳道の意義は大なるものがあつた。殊に風土病マラリヤの猖獗は同時に三人の邦人青年の生命を奪ふ悲痛事もあり、傳道師の仕事は多端であつた。櫻府佛教會が埋葬式を司つた。死者は現在まで三千人以上に達して居ると稱さるのであるが、布市に於ける先亡者は之に幾倍するものありと察する。なほ同教會は最初インヨー街とビー街にあり、其後ツラレ街を経て一九〇六年現在地に移轉建堂され、現今の牧師館は一九一八年吉田森藏時代に竣工したものである。

教勢現況、會員百五十一人、二世百〇七人、禮拜出席二十人、二世二十四人、S.S.生徒七十八人。

布市日本人獨立組合教會 一九〇六年王府日本人獨立教會員神學生、竹崎八十雄は夏期休課中布市に就働し傍

ら傳道を開始した。その後歸王し友人河田拳を布市日會書記に推薦、河田又傳道に従事した。翌一九〇七年五月福永熊藏傳道師として總理ポント及大久保牧師の斡旋により赴任、エフ街八四一番に集會所を設け、一九〇八年會員三十名を擁して獨立自給。翌年會堂の類焼に會し再建した。一九一八年現在會堂所在地イ、街八〇一に移轉、舊舎は日本學語校其他に使用して現在に至る。

教勢現況、會員數二百二人、二世百十三人、禮拜出席十八人、二世四十五人、S.S.生徒六十六人。

ハンホード日本人長老教會

約五十年前篤信なる寡婦ミセス・ハローは、支那人家屋の一室に夜學校を開始した。然るに支那人排斥の結果日本人生徒漸増し、遂に一九〇四年長老派内團傳道局の援助により現在の教會敷地を購入、一九〇六年堂宇を建築し、翌七年布哇より三浦宗三郎牧師を迎へ、教會を組織した。當時の會員二十二名。

教勢現況、會員八十人、二世四十二人、禮拜出席三十人、二世三十二人、S.S.生徒七十二人。

ダイニユーバ日本人メソヂスト教會

一九一三年南美以派總理アクトン及亞市南美以教會牧師太田義三郎は毎月一回出張傳道をなし、同地を南美以派教區とした。同時に教會用地として五ロットを購入、一九一八年大石繁治が専任牧師として就任、同二年デヒス總理によつて維持され、同一年今井敬一赴任牧師館建築現在に至る。

教勢現況、會員數四十二人、二世十八人、禮拜出席二十四人、S.S.生徒三十六人。

リウイングストン日本人メソヂスト教會

一九〇七年日米勸業社によつて大和殖民地即ち同村に二萬五千英町を購入し植民地を建設する計劃が發表された折柄、同十月奥江清之助が日本より視察旅行に來たり、偶々安孫子久太郎に勧誘され該地に到り、仲喜代一、市川眞、伊藤龍四郎、濱口晋五郎、同八藏等と共に最初の日曜禮拜を守つた。翌年奥江は永住地として家族と共に來住、爾來信者の宅廻りをして禮拜を守つた。一九一七年現教會敷地十英町を九百弗にて安孫子久太郎外數名の同胞及一白人により教會に寄附し、一九一七年教會を組織するに至つた。同一年

年牧師藤井慈龍を迎へ、同二十九年四月美以教會派に屬した。

教勢現況、會員百三十三人、二世四十九人、禮拜出席四十人、二世五十人、S.S.生徒九十人。

コーテズ日本人長老教會

世界大戰終了直後、農産界の未曾有の好況に乘じ、此の地に同胞植民地の計劃を進めたのは安孫子久太郎であり、之を實際化したのは島田良延であつた。一九二〇年六月第二日曜、前二年間に移住し來つた十二家族の中梶岡兄弟、伊達、桑原、吉田、鹽野、七家族は各々基督教を奉信するものとして、同地域の一小丘の樹陰に集つて禮拜を守つた、同年末梶岡八藏によつて其居室の一室が提供され、假會場として集會を持続し、同十二年十二月十三日現在の教會堂を建築落成した。

指導者として第一回以來奉仕せしは宣教師バークストロム及ブル女史並に李村より來援した藤井慈龍牧師であつた。長老派に屬したのは一九二七年二月八日で、初任牧師として關口熊吉が就任した。

教勢現況、會員百二十五人、二世八十六人、禮拜出席十五人、二世三十五人、S.S.生徒五十四人。

ベイカスファイルド日本人メソヂスト教會

創立一九一五年、これより先き一九〇四年六重部布市美以教會牧師往訪してエル街村上捨松商店の一部に英語夜學校を開始して傳道の門戸を開いた。當時ローズテル在住の官地喜太郎は美以派の信者であつたので、同キャンプにも月二回宛出張した。是れ教會創立の濫觴である。其後六重部ヴァカグイルに去り止むなく求道者は白人總理の支那人教會に英語を學んだ。同一年マテソン牧師チエスター街に邦人のため夜學校を開き日曜禮拜を行ひ、美以總理ジョンソンがこれを來援した。其後第十七街とエルに轉じマデソン師に迭するにミス・アブプラナップが來任し、布市より長崎牧師應援した。次いで北澤鐵治牧師の時代に於て現教會敷地購入、不幸不敬問題の突發は教會の大打撃となり、家屋の移轉ともなつた。

一九一二年以來布市より山鹿、吉田の援助を得、同一五年沿岸美以派の年會に於て原谷岩吉を主任傳道者として任

命した。同十一月新築に着手、翌一六年十一月献堂式を挙げた。現在一世禮拜者平均十四人、二世十六人、S.S.生徒四十四人。

モテスト日本人ホーリネス教會 當教會發祥の地はターラックにて、一九二四年十月平野俊雄が羅府教會より開拓傳道の任を帯て赴任、川村益井、山崎霽見等の協力により教會組織へと進み、一九二七年教會をモテストに移轉せしめて今日に至つたものである。一九三七年新會堂建築成り、現在は會員數四十八人禮拜出席者約三十七人、二世十四人、S.S.生徒四十人である。

サンロレンゾ日本人ホーリネス教會 同教會は一九二九年十月十三日設立された。會堂は徳田熊一郎が寄贈したものである。現在會員二十八人、出席禮拜平均二十五人S.S.生徒六十人、創立當時の牧者は八尋丈市である。

セントアービル日本人ホーリネス教會 同教會の創立は一九三四年二月にして、教會堂は宗音四郎の献けたもの、協力者は清水、引土、中村等であつた、現在會員十三名、禮拜出席者十名。

スタクトン日本人自由メソヂスト教會 同教會は一九三八年八月、リリアン・バアネット宣教師によつて開所され今日に及んでゐる。正會員三名禮拜出席十名二世六名S.S.生徒四十二人。

(南加州の部)

羅府日本人メソヂスト教會 本教會の創立は一八九六年である、その前年牧師中村徳太郎開教を試み、吉田森蔵に依て教會組織が行はれた。吉田は自ら數十哩を隔たる河畔市にまで出張傳道を試みた。西條寛雄時代の四季會に於て土地購入に着手し、越へて一九〇六年小室篤治時代に、ジョルジャ街に土地家屋を購入寄宿舎を設け、南サンビドロ街に講義所を開き、日曜學校及傳道集會を備した。其後川島末之進時代に於ける教會堂建築に就て市參事會の

理不盡なる排日的拒絕に會ひ、新に地を現在のノーマンデーに移し巨費を投じて新築落成、齋藤末松時代に獻堂式を挙げ再び川島末之進を紐育より迎へ、一九三〇年自給を宣した、其後山鹿讓をシャトル美以より迎へ、教勢頓に上り一九四〇年接續地に二世教會を建築した。

現在一世禮拜者約七十人、二世禮拜者平均一百人、S.S.生徒百八十人。

羅府日本人合同教會 一九一八年二月羅府組合教會、羅府ベツレヘム教會、羅府長老教會の三教會の合同せるものが即ち同教會である。同年六月同教會は兩傳道局の承認を経て社會に發表された。而して現任牧師の部署を田中義一(主任牧師)中村順三(傳道部主任)古屋孫次郎(教育部主任)と定めた。同二十年には教會堂新築の議成り、東部學窓より小川清澄を招聘して副牧師となし建築主任兼任とした、同二十二年建築具體化し同二十三年三月二十五日獻堂式を挙げた工費拾二萬弗。

越へて一九二六年田中、小川兩師辭任歸國、翌二七年徳憲義を迎へ、建築負債二萬五千弗は兩派傳道局に於て支辨し、教會は自給するに至つた。

一世禮拜出席者約五十人、二世禮拜百二十五人、S.S.生徒百九十八人。日曜日夜はラヂオを通じて説教を放送してゐる。

羅府日本人聖公會 桑港の大震災により南加州に移住するもの多く、羅府定住者は逐年増加するに至つた。桑港聖公會の創立者ミス・バタソン又羅府傳道に着眼し神學生前川眞次郎と共に羅府に赴いて(一九〇七年一月)南フラーワー街一三三四に教會を創立した。一九一一年伊藤齡策時代に現在の地南マルボサ街九六一に土地家屋を購入して移轉した。現任牧師山崎節の來任以來二十有七年沿岸に於ける長期定住傳道者のレコードホルダーであると共に此の期間著しき教勢の發展を遂げ、大教會堂の建築をなすと共に、沿岸に於ける邦人教會中最大のものとなつた。

現在禮拜一世出席者四十人、二世百七十五人、S.S.生徒約三百人、幼稚園及學園を有す。

羅府日本人基督教會 一九〇七年ガイ博士に依て傳道開始。同一九〇九年十一月牧師河合禎三を招聘して教會を組織し、同一一年ウォル街に土地を購入三萬弗を投じて會堂寄宿舎、幼稚園、補習學校、圖書館、並に英語夜學校を設けた。一九二二年現在牧師鶴の浦小次郎の赴任により漸次教勢擴張、建物の狹隘を告ぐるに至り、一九二九年東第二十街八二二に教育館を新築、越へて同三〇年教會堂起工式を上げ同三一年竣工を見るに至つた。鶴の浦小次郎牧師は特に二世教育青年指導に興味を有し、この方面に於ける權威者と稱せらる。現在一世禮拜出席者平均二十五人、二世六十人、S.S.生徒百八十五人、幼稚園及學園を有してゐる。

ハリウッド日本人長老教會 同教會創立當時援助を與へたるものは、米國長老派エキステンション・ポート及米人長老教會であつた。教會の組織なつたのは一九二三年二月十八日にして、總會の結果、最初より幹旋せる堀越徳次郎を以て牧師とし、白石政盛、平澤寛重、千葉寛を長老に伊藤長三郎、伊津野茂一郎、末富吉太郎を執事に推し最初の會員は十三名であつた。位置はタマリンド街であつたが、當時排日熱旺盛にして四隣の迫害甚しかつた爲善闘三年にして、クリントンとマデソン街角に三ロットの土地と假會堂及牧師館を得るに至つた。後會堂を改修した。サンデー禮拜約二十五人、二世禮拜者三十人、S.S.生徒百三十人。

ウインタースバーグ日本人長老教會 南加州オレンヂ郡の西部海岸に近いスメルザ地方はセロリの特産地として名を成し、邦人が此處に入り込んだのは一九〇〇年頃にして同一〇年頃には三百名近くの在住者を有し、附近地方を合すれば二千人と註さるるに至つた。一九〇四年スメルザ北方のウエストミンスター米人長老教會共勵會長は牧師ミラーの指導に協力し、附近の邦人傳道のため羅府長老教會牧師稻澤謙一と協議の結果、同年十二月寺澤久吉を招聘し、ウインタースバーグ在郷軍人會の一部を借り受け傳道館を設けた。最初の求道者は福島縣人伊藤孝三郎であつた。

翌五年鐵道沿線に小家を賃し、主任者の報酬五十弗を算入、自給を計劃し、不足の場合母教會の援助を受けた。同六年十月中村順三夫妻來村、過去の入會者十三人と共に稍教會の體を備へた。同一〇年一小會堂を建築、其後菊地賢治牧師時代に再建を行つた。現在禮拜一、二世合して約三十七人、S.S.生徒四十二人、邦語學園を有す。

羅府日本人リホームド教會 本派内國傳道本部は南加州に傳道開始の必要を認め一九一九年秋兼子常四郎を宣教師として派遣、同一九二〇年二月一日羅府に教會を創立した。現在禮拜出席者約十五人二世五人、S.S.生徒二十一人。

西羅府日本人リホームド教會 一九二六年の創立にして牧師鈴木吉助は創立當時就任以來今日に至る現任牧師である。禮拜出席平均二十人、二世五人、S.S.生徒六十人。

羅府日本人浸禮教會 一九二五年十一月柴田春江牧師櫻府より轉じて羅府に入り傳道局の補助及同胞の據金を以て、東第二街とエバグリンの角に工費二萬弗の教會を新建す、當時同地域の邦人三百戸以内であつたが其後急激に増加し一千戸を算するに至つた。朝拜一世三十二人、二世約四十五人、S.S.生徒百七十九人。

ロングビーチ日本人長老教會 同地は南加州に於ける石油の産地として世界的に其名を走せて居る、此處にミッシヨンが設立されたのは一九一五年六月十八日である。邦人定住者の多からざる地とて教會の發展遅々たるものがある。一九二五年十二月現教會堂の獻堂式を上げた、教會組織の宣言式は翌二十六年五月九日舉行された。現在邦語學園を兼營してゐる。

ハリウッド日本人獨立教會 一九一六年十一月七日創立にかゝる、當時在住の邦人青年らは基督教青年會組織を試み進んで教會組織へと進展したものである、初任は青年會時代の幹事であつた築館武司にして、高岡今平牧師指導教會するに至つて、面目を一新し、教會としての基礎漸く成つた。高岡牧師永眠後會員の一致協力により、教勢

を保ち石野幹男を招聘し、一九三九年會堂建築、翌年獻堂式を擧げた。日曜禮拜一世三十人二世約同數。
バサデナ日本人合同教會 一九〇八年シヤトル市に於ける萬國青年共勵大會に日本を代表して出席せる澤谷

辰次郎牧師はシヤトル市に組合派教會設立を徳徳し有志と協力之が組織に成功するや、更に南下してバサデナに滯在中傳道を開始すると共に市内の米人組合教會外一二教會と相圖り、其援助の下にユニオン教會を誕生せしめた。之れ同教會の起原である。後一九一七年援助教會數派を加へて現在に至つた。

サンデー禮拜、一世約二十七人、二世四十人、S・S生徒百二十七人。

ノーオーク日本人フレンド教會 一九二二年六月林常助等によつて創立さる邦語學園を兼營す。現在サンデー朝拜十五人、二世同上十八人、S・S生徒五十人。

ガーテングローフ日本人浸禮教會 邦人農業者が同地方オレンヂ郡に散在し、胡椒耕作に従事するもの漸増の傾向あるや、浸禮派本部は傳道を開始し、又同地在住者にして親日家アレン兄弟は時に他地方より傳道者を招いて集會を催し、且つ日曜學校を開いて幼児教育に努めた。その後アレン兄弟は益々邦人傳道に力を致し、自動車を以て日曜學校生徒の送迎をなし其數漸く加はるに至つた。一九二四年日本より歸國の宣教師ジョンスは毎月二回羅府より出張して教化に努め、柴田春江又羅府より應援した。斯くて受洗者増加するに至り、一九二八年十一月牧師和田正彦を日本より招聘教會を組織した。

日曜禮拜 一世十五人、二世二十五人、S・S生徒は母教會米人教會に出席、ボモナ學園經營す。

ボモナ日本人浸禮教會 創立一九二八年、サンデー禮拜二十人、二世禮拜八人、S・S生徒四十三人、アツブランド邦語學園經營。

ガーテナ日本人浸禮教會 創立一九一四年、一世禮拜二十名、二世三十名、S・S生徒百六十人。

モンテペロ日本人組合教會 創立一九一三年にして當時の牧師中館與次郎、其後門池義民、辻密太郎歴任し、無牧時代も連続した。現在一世禮拜三十人内外、二世二十二名、S・S生徒六十人。

サンビドロ日本人浸禮教會 一九一六年頃モネタより柴田春江來つて傳道を開始、同一七年米國が世界大戰に参加の結果、魚類罐詰の急激なる需用は同胞漁家の發展と時を同じふして、同地に邦人社會が成立して、同九月白石清牧師が任命を受け、長濱より通勤して七名の兒童に日曜學校教育を開始し且つ幼稚園を設けた。父は出漁に母は罐詰會社に精勤する家庭には時にとつての福音であつた。爾來邦人社會は急速の進歩を示し、傳道局は未だ一人の信者なきに拘らず、數千金を投じて一九一八年六月教會を建築した。又同二四年には教會内婦人會を促し聖書學園を起し邦語教育を始め、二ヶ年を出して生徒百五十名に達した。

現在サンデー禮拜出席平均四十五人、二世禮拜者壹百人、S・S生徒三百五十人と註さる。邦語學園併營。

コーチウラ・イエスの友教會 一九二九年十二月十五日教會獻堂式を執行す。數年來同地方に邦人移住者増加と共に先年賀川豊彦來村當時設立されたイエスの友團の發展は同地方に教會組織を促し遂に本教會の組織を見るに至つた。地方大地主ロビンソンは教會堂敷地一英町及一千弗を寄附し、有志信徒は更に三英町を購加し、氣運を速めて四千弗の募集も容易に與へられ、獻堂の擧式を見るに至つたのである。當時指導者は同教會學園教師兒玉重造其他境弘等々であつた。サンデー朝拜十八人、二世二十六人、S・S生徒四十人。邦語學園經營。

河畔日本人合同教會 本教會は美以、組合兩教會の合同せるものである。美以教會は一八九五年（明治二十八年）羅府より吉田森藏牧師の出張傳道に開基され、同九八年西第七街に教會の創立を見た。組合教會は一九〇四年オーナツ街に其後西第十四街に轉じて英語夜學校に高橋理呵教師が教鞭をとつた。一九一七年兩派合同を豫想して同盟を作り、同二六年合同に決した。一世禮拜者三十人、S・S生徒五十人。

サンバナデノ日本人基督教會 同地は南加州に於ける日本人の初期時代即ち一八九五年(明治二十八年)頃に同胞が入り込んだ古跡があるが稍々僻陋に位し居るためか發展は遅々として振はぬ感がある。教會の創立されたのは一九一二年十二月であつて、其後國分壬午郎の牧した時代もあり、會員二十數名を有した。一九二九年九月靜岡忠人赴任して會員三十名を算するに至つた。現在は無牧にして一世禮拜者十二名、二世二十八名、S・S生徒三十五名を有す。

帝原日本人メソヂスト教會 本教會は一九一三年九月の創立にかゝる、同平原に邦人の入植するもの漸増に着眼した。總理ジョンソンは川島末之進を派して調査せしめ、ミツション設立の必要を沿岸年會に提議馬場小三郎を任命した現在教會堂は有馬甫牧師時代の建築にかゝり三萬六千弗を投じて一九二八年四月獻堂式を上げた。現在一世禮拜者二十一一人、二世四十五人内外、S・S生徒百三十五名を有す。邦語學園併營。

カレキシコ日本人獨立教會 本教會組織は一九二〇年四月の創立であるが、是より先き一九一八年信徒山本尉、内藤勇吉、梅澤喜代吉、佐々木龜吉、古屋又藏、高橋長楠其他數人中心となり時々會合して禮拜を守り或は日曜學校を開校した。翌年降誕祭を山本方に催したが參會者多數を見、間もなく同二十年二月牧師國分壬午郎の巡教を機とし、無宗派獨立教會を創立、今日に至る。日曜禮拜者十二人、二世禮拜者十人、S・S生徒七十五人。カレキシコ學園を經營す。

エルセントロ日本人合同教會 本教會は前カレキシコ教會と同時に組織された。當時在住の信者新關惣太郎榎木梅吉、山本治郎七、高橋慶太郎、佐々木盛吉、濱本徳幸等は前二年より集會を保ち二ヶ年後國分壬午郎牧師を迎へて合同教會として教會を組織した。國分壬午郎は在任二十年の祝賀を一九四〇年春兩教會員殊に二世の計劃により盛大嚴肅に開き參列した。二世は二百人以上であつた。

サンデゴ日本人組合教會 當教會創立は一九一二年である。是を萌芽時代に逆れば、速く二十幾年前コロナド島の修築及鐵道敷設人夫として支那人が入込み工事完成後尙ほ幾十人残存した。之を教化せんと米人組合教會が一八八六年(明治十九年)第十三街に夜學校を開き間もなく第一街六四五に移轉した。一八九〇年頃には日本人も漸次に入り込み其數三四十人に達し、其内若干名は前記支那人夜學校に通學した。一九〇七年頃監督ボンドの桑港より出張を機とし、管理者ヤングマン嬢の手を離れて同十月第七街五四〇に、幾千もなく三轉して第八街五二七に邦人夜學校を開きミス・ハードが教鞭をとつた。同時に山口彌太郎を主任として母教會より家賃の外拾五弗を受けた。半歳にして山口去り馬場小三郎を迎へ、一九〇八年田中福三時代共勵會を組織した。

一九一二年夜學校を昇格して支教會となし二十名の會員を以てサンデゴ日本人組合ミツションを組織、牧師藤井茂雄を招聘した。一九二〇年教會堂を建立支教會より教會に進んだ。同一九二五年中村順三赴任し、チュラヴキスタに傳道並に日曜學校を開いた。現在、日曜禮拜者一世三十五人、二世約同數を有し、S・S生徒八十五人、邦語學園を經營す。

西羅府日本人合同教會 一九二八年頃よりウエスト・ロスアンゼルス・ソーター地方の急激な發展は、邦人庭園業者其他の移住者著しく増加し、ソーターの地に組織されたイエスの會は漸次に發展し、一九三〇年五月美以派は宗音重牧師を同地に任命するや南加傳道團と多少の經緯を見たが双方の了解なり合同教會として設立さるるに至つた。サンデー禮拜者數二十五人、二世禮拜者二十人、S・S平均出席數七十人。

サンタマリア日本人合同教會 一九二六年南加イエスの友運動が結實して本教會の濫觴となすに至つた。一九二八年八月日曜學校開始、一九二九年メソヂスト、組合、長老、クリスチャン四派合同の教會組織へと進んだ。禮拜出席平均二十七人、二世三十八人、S・S生徒百二十人。

サンタバーバラ日本人組合教會 一九〇三年バトラー夫人監督の下に支那人教會に於て英語學校及日曜學校開始。同八年支那人教會より分離、アナキヤバ街にミツシオンホームを設けた同一年チャバラ街九一に轉じ、此間バトラ夫人逝きショウ夫人及ベーツ夫人を経て伊藤永司亦之を扶けた。同二年二月河田拳王府よりサンデゴ組合教會へ赴任の途一泊の因を以て定住傳道を始むるに至つた。翌三月總會に計り自給を決し教會敷地購入のため自著「放浪十年」を出版し是を獻じて南北に奔走した。同一年一月日曜學校を開き、出席生徒四乃至五名であつた。而して同一年河田牧師は不幸兇手に仆れた。同六月阪野俊を迎へ、建堂を可決し同一年七月二日獻堂式を擧げた。現在サンデー禮拜者一世三十八人、二世十人、S.S.生徒五十一人、邦語學園併營。

オクスナード日本人メソヂスト教會 同地方は砂糖大根耕作地として日本人労働者が早くから入り込んだ地で、本教會も亦古く一八九三年に創立された。歴代の牧者を通じて地方同胞社會の啓發に盡した點多く、地方在住者が之を認めて謝恩の集會を催したのも近年の事に屬す。サンデー禮拜者二十三人、二世三十六人、S.S.生徒百二十四人、日本語學校を經營す。

エルモンテ日本人メソヂスト教會 一九三〇年横井重太郎創立して現在に至る。一世禮拜者十二人、二世二十八人、S.S.生徒三十五人。

グレンデール聖園教會 一九三八年の創立にして、信徒酒井清彌の指導にかゝる。現在出席禮拜者一世二十一人、二世三十五人、S.S.生徒數八十五人。

ロスアンゼルス日本人ホーリネス教會 一九二二年四月當時東洋宣教會の名稱の下に同六月より葛原定市傳道を開始し、一九二四年九月現在地に教會を竣工せしむ。現在會員百四十五名、内二世受洗者三十名、禮拜出席六十七名、二世三十五名、S.S.生徒百名。

ポールドウイン・パーク日本人ホーリネス教會 一九三五年二月羅府教會員約二十名本地方に在住せしめため教會組織成り、ハイスドーフ牧師が指導の任に當つた。現在會員二十二名、禮拜出席者十五名。本教會創立前一九三三年六月ホーリネス團として結成したるの史實を有す。

サンフアランド日本人ホーリネス教會 一九三六年五月當時の牧者ハイスドーフによりて組織さる。現在會員二十七名、禮拜出席十六名。

サンデイゴ日本人ホーリネス教會 一九二四年以來六年間サンデイゴ日本人ホーリネス團として羅府管下にあつたが一九三〇年二月教會組織に改む。現在會員四十七名、禮拜出席者二十名、二世十九名、S.S.生徒三十名。

アナハイム日本人自由メソヂスト教會 一九二二年十一月創立、現在正會員二十六人、禮拜出席十人、二世十人、S.S.アナハイム及スタントン並にアルバインの三ヶ所合計生徒六十六名現會堂は一九三一年の建築。

ロサンゼルス日本人自由メソヂスト教會 一九一九年九月傳道開始、翌二十年教會組織、禮拜出席者十五名、二世二十二名、S.S.生徒約六十五名。

サンタモニカ日本人自由メソヂスト教會 傳道開始一九二五年三月にして教會組織は同二年四月なりとす。宣教師リリアン・バアネット管掌す。會員數三十二名、禮拜出席者十三人、二世十七人、S.S.生徒四十六名、會堂は一九二八年二月の新築にかゝる。

レドンドビーチ日本人自由メソヂスト教會 一九三七年十月主任牧師樫谷純郎時代に於て創立する。正會員十八名、禮拜出席十名、二世出席者六名。パロスバーデスに支會を有す、禮拜出席者八名、S.S.生徒兩所に各十七八人を有す。

フィニックス日本人自由メソヂスト教會

本教會はアリゾナ州内に位置し一九三二年九月牧師樫谷純郎其

他によつて創立さる。現在會員正會員十七名、准會員三十四名、禮拜出席者二十四人、二世三十人、S・S生徒七十八人、會堂新築一九三二年五月。牧師義川良正はニューメキシコ州ギャルップに一九三九年六月創始されたる同派教會を兼牧す。正會員四名、S・S生徒二十八名。

羅府日本人天主公會

主任司祭フアザー・レヴリー・メリノール・スクウル及日本語學校を兼營す。

(オレゴン州之部)

ポートランド日本人メソヂスト教會

一八九二年(明治二十五年)十月中同桑港美以教會より派遣された

牧師川邊貞吉は西北部沿岸傳道旅行の途、翌年一月十四日同市到着、暫し足を留めた。然して無秩序状態に喘ぎつつある同胞救済の急務なるを監督ハリスへ報告した。ハリスは之をボードに移牒して補助金支出の承認を得るや直に同年二月八日川邊を正式にポートランド美以教會牧師として任命した。創立式に列した者はフキツシャー博士、木田文治、伴新三郎、其他四十名、同五月ハリス監督巡教し來つて十六名のものに授洗した爾來二十幾代の牧師の異動を見て今日に至つた。

米市日本人聖公會

一九三一年十月米市獨立基督教會として誕生、同三五年七月オレゴン教區監督サムナー博士により聖公會として公認現在に至る、現在會員六十八名、内二世四十名、禮拜出席者十名内外、二世六名、S・S生徒二十五名、附屬日本語學園星條學院を經營す。

(ワシントン州之部)

タコマ日本人メソヂスト教會

一九〇六年頃米人中央美以教會英語夜學校に通學の數名の邦人青年は同教會

牧師ミラー博士の指導の下に受洗し、のちシャートル美以教會吉岡誠明の援助を得て、一家を借し學生中の一人東田靜一を定住傳道師として一九〇七年教會を組織した。教會組織に當り有力なる参加者は和泉才五郎にして沙市美以の宗

教々育方面に盡瘁するに至つた人物であり、瀬戸寅市は三十年一日の如く本教會の支柱となつて活動した。

シャートル日本人浸禮教會

當教會の濫觴は一八九二年にして、志ある青年の悔改者は米人浸禮教會に入會

し、其頃日本より歸米の宣教師ラドロウ及笹尾鐵三郎等應援の結果多數の信者を出し、遂に一八九九年浸禮派の教會を創立し、岡崎福松をして主宰傳道の任に當らしめた。翌年日本より原七五三助牧師を招聘し岡崎は日本にと研學の途に上つた、一九〇一年五千弗餘を以て土地家屋をシャートル街六二四に購ひ、寄宿舎をも此處に移轉した。翌々三年原辭任歸朝し、岡崎再び日本より歸りて牧會に任するに至つた。

一九〇九年ワシントン街に建堂したが地盤堅固ならざるため市の賠償を得て立退き、一九二二年ブロードウエーと東スプルの現在地に四萬五千弗を投じて新會堂建築、同二六年幼稚園舎を加へた。

シャートル日本人美以教會

一九〇四年一月二十八日總理ハリスの命により當時スポークン美以教會牧師鶴

田源七來沙、同二月七日帝國勸業銀行事務所内に集會、來會者八名、協議の結果教會組織へと進み初代牧師として鶴田源七任を受けた。

シャートル日本人長老教會

創立一九〇六年六月、沙市第一長老教會牧師マシウス博士及井上織夫牧師會議

の結果、日本人基督教會の名稱の下に創立。中途東洋傳道會と改稱し、日支人傳道を試み、三轉して長老教會と稱するに至つた。禮拜堂及運動場の外二棟の教室を有し、其一を支那人傳道に供した。

シャートル日本人組合教會

一九〇七年九月當市に開催された萬國共勵會に日本代表者として出席せる、ベ

ター・山陽女學校を長上代淑子、共勵會幹事澤谷辰三郎等、何れも組合系統者なるを以て、當市に同派の教會なきを遺憾とし、澤谷の斡旋にてプリマス組合教會牧師バンホーンに謀り、創立相談會を催し、協議の結果創立に一決し今日に至る。一九三九年恰當の地位に轉じ教會堂及牧師館を築造した。

シヤアトル日本人ホーリネス教會 本教會の創立は一九三四年二月當時の會員大北一技、元田永太郎、郷武雄等牧師末廣榮司と協力組織したるものにして、現在會員二十一名、禮拜出席者平均十三名、二世十名S・S生徒十八名。

シヤアトル日本人聖公會 一九〇八年六月十二日、米人三一教會ミツションとして誕生。其原因は數年前より母國よりの渡航者と加州を経て來沙する聖公會員及關係者等が前記米人教會に屬し英語教授の便宜を得た。牧師エツチ・エツチ・ゴウイン博士は南九街二一六番にある、ルーミング・ハウスの表二室を借入れ、内田義登を幹事として諸集會を開くに至らしめた。同九年創立者の一人東海林源之助後任に推薦され、同一年教區監督より傳道師に任命され、監督直轄となつた。同一年五月現在の場所に轉じ、青年寄宿舎等の設備を加へた。

(ユタ州之部)

奥殿日本人基督教會 一九〇五年十二月奥殿日本勸業社に會計として勤務せる小林政助は基督教主義の機關の設立を計劃し、勸業社内の食堂を會場としてY・M・C・Aの集會を試みた。後米人第一長老教會の地下室に轉じ、同教會牧師カーヴアの援助により發展して日米銀行奥殿支店の一室及隣家を併用して寄宿舎を設け、一九〇七年頃は數十名の青年の會合を見るに至つた。當時日米銀行支店長市村三郎(元飯田)及其他佐藤榮三郎、瀬尾八郎等は顧問格として援助を與へ、三橋倉吉、福島信次等は青年中心となつて活動し、英語夜學校はカーヴア夫人教鞭をとつた。集散常なき當時の青年労働者の會合として一九〇九年八月青年會より教會組織に改め鈴木忠誠を迎へ、二十三街三百二十四番の二階に發會式を上げた。其後市村三郎は強盜のため兇彈に仆れ鈴木忠誠又去るや一時中絶の姿となつた。一九一五年福島信次、聖山亮太郎等の奔走により牧師豊留秀信がソートレーキ在任中出張傳道を受け、丸山吉永牧會時代元同志社教授オーテズ、ケリー夫妻の助力を得た、漸次基礎成り、辻密太郎牧師十年の奮闘は稍々體を成した、

辻牧師の後任門池義民は在任中永眠現今無牧の状態である。是より先き同教會は一九二七年、長老、組合兩派の合同教會と組織を改めた。

ソートレーキ日本人基督教會 一九〇六年前後より、米人にして邦人に理解を有するシー・イー・マークス夫妻により英語夜學校開始され、同時に多少の宗教的訓練を與へられた。其後ユタ日本人會の幹事瀧本爲三は青年學生のため私費を以て日會の隣室を賃借し學生のため英語を教へ、日曜集會を催した、今日に於ても瀧本の好意を徳とせる數多の人々を山中部に發見するのである。其後丸山吉永、青木長次郎を迎へたるも短期に過ぎなかつた。信者飯田四郎、宇野柔齋等の協力により、長老、組合の合同教會と組織をかへ、豊留秀信を迎へ橋本英子、上田豊等の加はるに至つて、教會内外の整備稍々成り、豊留加州に去るや一九二一年田島堅固牧師を得て教勢進み、共勵會の組織文學部、社交部の設置、其他全山中部に向つて傳道を開始し、會堂及寄宿舎牧師館の建設を見た。山中部の邦人漸次に南加に轉じ、教線の苦闘察すべきものである。

(コロラド州之部)

傳馬日本人メソヂスト教會 一九〇二年頃濱田重之助傳道を試み一九〇七年八月コロラド年會に提出承諾を受く、教會創立希望に和したるものは外國直一、柏野無事之助、清水齋雄、小川隆四郎、中村保馬等であつた。白戸八郎牧師コロラド年會に轉じ創立を實現せしめ、後一九〇五年加州年會に屬し今日に至る。

寧州日本人聖公會 一九二五年聖公會監督ビーチ博士及加納久憲等により傳道開始され、爾來日曜學校生徒の教養其他日曜禮拜等繼續して今日に至る。

(ニューヨーク州之部)

紐育日本人教會 同會創立の由來は一八九四年日清戰役後多少漸増の傾向にあつた紐育邦人間にホームを必要

とする聲が高く、そこに着眼した廣瀬由助夫妻は寄宿舎的ホームを経営すべく一八九九年十二月（明治三十二年）二十七日紐育市内東五十四町目にそのホームを設けた。即ち是れが本會創立の起原となつた。一九一三年廣瀬由助歸朝に當りて其後繼者としてリフオームト教會婦人傳道部より清水宗三郎が其任に當るに至つた。而して同十一月教會を會員組織としてその後の進展に資した。

紐育に來たる邦人の増加と會館の狹隘は新會館購入運動となり會名を「Japanese Christian Institute」と改稱、村井保固等の後援により現在の敷地購入となりて新會館が興へられた。一九三九年には創立四十周年を迎へ更に會館の大修繕、青年集会所の擴大等を圖つた。現任牧師清水宗次郎は在任三十年に垂々として在米教役者中長期在任のレコードホールダーであり之を扶くるものは幹事東郷公彦である。

△紐育日本人美以教會 323 W. 108 St.; N. Y.

△紐育日本人基督修道會 453 W. 143 St.; N. Y.

在米日本人救世軍

大正八年（千九百十九年）七月廿四日、汽船コレア丸は、日本より渡航せる小林政助夫妻及び數名の救世軍士官を乗せて桑港に着いた。又同時に市俄古救世軍士官學校卒業の三士官も來り合し、直ちに救世軍を創立した。其の中心人物小林は曾つての基督教傳道團幹事として、過去八年間在米同胞間に廣く傳道し、社會と緊密なる關係を保ち居た關係上同胞間には非常な期待を以て迎へられた。抑傳道團は、基督教諸教會が同胞社會の實際問題に觸れて、凡ゆる懸案の解決に任ぜん爲めに結成せられた團體であつて、男女基督教青年會の創設の如きも、其の指導に負ふ所があつた。其他排日問題、米人並日本人の啓發運動、二世教育問題、寫眞結婚婦人の指導、矯風運動等、枚擧に遑なき廣

汎な範圍の貢獻をなしたのであるが、千九百十八年遂に解散することとなり、小林夫妻は單身傳道に従事すべく準備中日本救世軍の父山室軍平の懇請に依り、一應歸朝東京士官學校に入り、萬般の用意を濟ませ、他の五人の同志と共に、同勢七人を以て救世軍を創設したのである。爾來二十一年間八個小隊、十數個分隊、社會事業館並各小隊に收容所を設置し、更に布哇に四個小隊、英領加奈陀に日本部を開設、南米、秘露及びブラジルにも救世軍が勃興するに至つた。

救世軍の宗教

軍隊的で進撃的な救世軍の宗教は、極めて直載で、在米同胞精神指導に、一異彩を放つたものがある。「救靈第一」が救世軍の精神であり、救靈の熱情に燃えて、創立の群は、同胞社會の眞唯中に進んで行つた。

而して其の士官等が、過去二十一年間刻苦精勵、窮乏と激務の中に黙々として、努力奉仕して居る心事は漸く世の識者の心を動かすに至つた。

賭博撲滅戰

在米日本人の歴史を編するに、賭博撲滅運動を度外視することは出來ぬ。さうしてまた、賭博撲滅運動を回想するとき、救世軍創業者の一群の、奮闘を聯想せずには居られない。一九一九年（大正八年）頃の在米同胞第一世は、猶血氣旺んなる時代であり、客氣縦横、意氣軒昂の青壯年期であつたが、惜しいかな、其の異郷放浪の氣魄を射倖的遊樂に銷磨せんとする傾が甚だしかつた。この弱點に喰ひ込んだのが、支那賭博場者であつた。支那賭博場は、到る處の同胞密集する地方に開張せられ、同胞は其の誘惑に魅了せられ、其の捕虜となるもの夥しく、其の失ふ所、年額壹千萬弗乃至二十萬弗と稱せらるる程であつた。更に其の影響は、同胞の社會、家庭及び産業生活に滲透し、之を放任すれば、同胞の將來は、定に暗澹たるものあるは、何人も首肯する處であつたが、其の撲滅は至難の業であり幾度か企てられて悉く失敗し、誰も匙を投げて居つたのである。然るに救世軍創業者は、その匙を拾つて、

賭博撲滅戦を宣した。七名の決死隊は、一死殉國の至誠と秩序整然たる組織と、努力とを以て戦つた。中加より須市に、更に櫻府河下より山の手へと、同胞は全員一致之に應じ、疾風枯葉を捲くの慨を以て、この害惡に止を刺したのである。

竹葉頑吉殉職 千九百二十年(大正九年)十一月三日、須市賭博撲滅期成同盟會幹事竹葉頑吉は、兇徒の暗殺する處となり、殉職の死を遂げたことは、悲しみに堪へざる處であつた。然し義人の血は空しく流れず、同胞の守護の如く須市郊外オーク・パークの墓地に眠つて居る。救世軍は毎年十一月三日、其の追悼と同胞への警告戦を營み、二十年後の今日に及んで居る。

關東大震災 千九百廿三年(大正十二年)九月一日、全世界を驚愕せしめた、東京横濱地方の大震災は、在米同胞を奮起、救済運動に熱中せしめたのであるが、救世軍は古庄弘を班長とする救護班(九名)を故國に送り、迅速有効なる奉仕を爲し、この救護班が取扱ひ、配給した物資は數萬圓の巨額にも達し實に必死の努力を捧げた。

社会事業館 千九百十九年創業と共に、同胞社會の要求により社会事業館を開設し、育兒院、養老院、療養所、婦人ホーム、人事相談所等を設置し、盛んに社会奉仕に従事して居つたが、千九百三十二年、米國官憲より、木造家屋にては被保護者收容を嚴禁し、新築を命ぜられ當事者等は困惑し居る時、其の趣き天聽に達し、畏れ多くも 天皇 皇后兩陛下より思召を以て金一封御下賜の恩命を拜戴した。更に、外務大臣を始め、朝野諸名士、米國に於ては、總領事を始め、同胞一般の同情後援により、遂に現在の新社會事業館を新築落成、一九三七年(昭和十二年)二月廿八日献堂並開館式を執行し、これを恩賜記念社会事業館と名稱した。この社会事業館を中心とし、米國各地の支部と連絡し、在米同胞の爲め、凡ゆる社会事業を經營して居る。

1 第二世に關する社会事業 ▲育兒院 ▲青少年女養育院 ▲第二世文化事業

2 第一世老人の保護事業 ▲養老院 ▲歸朝者保護及扶助
4 家庭に關する保護事業 ▲婦人救濟所 ▲人事相談所

3 病者の保護事業 ▲診療保護 ▲入院保護
5 其他 ▲失業者救濟 ▲免囚保護事業 ▲無業者埋葬

在米同胞の社會は、その人口に比較して、極めて廣く散在するを以て、其の社会奉仕は、克己精勵を要する。その上に之に伴ふ財務上の苦勞もあること故、救世軍の小隊長等は、文字通り涙と血との克己を以て、世の下積となつて奉仕の生活二十一年を營んで居る。因に各小隊には、被保護者收容所が設置してある。

日本入部救世軍創立滿二十年 慈善救濟事業報告

社会事業館並支部に收容保護せし人員……三千〇四十七名
醫療の爲め助力せし回数……二萬四千七百九十二回
郡立州立其他の病院にある同胞患者訪問回数……九千一百一十一回
同上 訪問せし患者數(延人員)……四萬四千五百五十一名
同上 以上に費したる時間……六萬八千四百七十五時間
刑務所訪問の回数……二千七百十九回
同上 同胞囚人を訪問せし人員……一萬二千三百六十四名
同上 以上に費したる時間……一萬三千七百二十時間
人事相談を受けし回数……四萬三千九百八十六回
薄俸同胞の葬儀を營みし回数……千二百四十三回
落伍同胞の歸國を助けし數……五百六十二名
衣服、靴、其他物品を供給せし數……七萬四千二百九十點
食事の補助……百四十七萬七千六百二十九食
旅宿を與へし數……五十萬九百九十二回
二十年間の經費總額……金五十九萬八千〇四十四圓四十九仙
昭和十四年五月三十一日締切(傳道費は一切加算せず)

戦場の統計 (最近一ケ年の成績)

◎大人部
改心者の數……五〇四名
准兵士の數……一三六名
兵士の數……八六名
大人部下士官……二九名
訪問傳道時間(六、六三時間)……
開の聲發射數……六、〇五部
野 戰……九三回
野戰の聴衆累計……三、七〇名
管内集會回数……三、八三回
日曜以外集會々家四、一六名
日曜の集會々家……三、〇〇名

◎青少年部
改心者の數……四二五名
青少年兵の數……四八名
青少年部下士官の數……六名
少年兵發射數……一九、四六名
日曜學校組合數……三、五七回
日曜學校出席者……二、八三二名
青年團員……九名
同集會出席者……三、五八名
バンド・オブ・ラブ團員……六八名
小隊候補生……五八名
同集會出席者……一、四六名
救世少女義勇團員……一九名
青少年出席者總數……七三、一〇三名

戦場及び其の部署

- ◎在米日本人部 一九一九年七月廿四日創設 1450 Laguna Street, San Francisco.
- ◎桑港小隊 同年同月同日開戦 1432 Laguna Street, San Francisco.
- ◎社會事業館 一九一九年八月十六日開戦 1450 Laguna Street, San Francisco.
- ◎羅府小隊 一九一九年九月十三日開戦 121 Weller St., Los Angeles, Calif.
- ◎一々 200 N. Boyle Avenue, Los Angeles, Fresno, California.
- ◎布市小隊 一九一九年十月廿二日開戦 817 F Street, Fresno, California.
- ◎須市小隊 一九一九年十二月十三日開戦 12 E. Sonora Street, Stockton, Calif. (P.O. Box 1078)
- ◎櫻府小隊 一九二〇年十一月十二日開戦 1314 6th Street, Sacramento, Calif.
- ◎沙港小隊 一九二二年六月廿四日開戦 1818 Lane St.,

Seattle, Washington

- ◎王府小隊 一九二三年八月十一日開戦 170 Fifth Street, Oakland, Calif.
- ◎佐市小隊 一九二四年七月一日開戦 590 N. 4th Street, San Jose, Calif.
- ◎ホ府小隊 (布哇日本人部) 一九二二年八月廿一日開戦 1642 Liliha Street, Honolulu, T. H.
- ◎ワイルク小隊 一九二三年六月廿八日開戦 P. O. Box 555, Wailuku, Maui, T. H.
- ◎コロ小隊 一九二三年十二月十二日開戦 P. O. Box 1173, Hilo, Hawaii, T. H.
- ◎カニ小隊 一九二五年七月開戦 P. O. Box 195, Koloa, Kauai, T. H.

英領加奈陀

- ◎晚香坡 (加奈陀日本人部) 一九三一年二月十一日開戦 53 Powell St., Vancouver, B. C., Canada

基督教青年會

桑港には古くタイラ福音會を前身として生れた基督教青年會なるものがあり、長老派に屬し、ストーチ博士の感化の下に同胞間の一勢力であつたことは前にも述べた。然るに後年に至り社會事情の變遷と共に識者中超教派的にして現代的設備を有するYMCAの必要を感じるものあり、一九一三年(大正二年)九月、桑港の教役者並は有志に協議

して委員を擧げ、萬國基督教青年會總務ジョン・モットに對し書面を以て在米日本人の實情を具陳し本部より十萬弗の金を支出して桑港に日本人の爲の青年會館を設立せん事を求めたのであつた。而も當時は未だこれが具體化の時機に達せず、モットは他日の後援を約してこの請願に應じなかつた。その後幾許もなく桑港にては長老、組合兩教會の合同成り、長老派に屬してゐたヘート青年會の有力會員は皆走つてこの新教會に參じたので、その結果新教會の幹部はこゝに新たな超派的YMCAの設立を目標として、古き光榮の歴史あるヘート青年會の解散を宣したのであつた。而もヘート青年會に代るべき新團體の組織は容易ならず、桑港には青年會なきこと兩三年に及んだのであるが、一九一八年(大正七年)に至つて漸く時機が到來した。即ち同年一月萬國基督教青年會學生部に勤務中の加藤勝治が桑港に來たり市内の同胞及び米人間の有力者と會見して青年會設立の急務を説き、時の桑港總領事埴原正直よりも有力なる後援を得、茲に初めて發起人と後援者との協議によつて實行委員があげられ、四月二十三日の實行委員會にて會館新設を可決し、發起人及び實行委員の一人たる富澤清を主事に推し、六月一日遂に桑港日本人基督教青年會の誕生を見るに至つた。當初の會員は四十名に過ぎなかつたが、役員努力と社會の同情により八月一日サター街一四〇九に會館を得て事業を起し、爾來十餘年間同會館に在つて幾多社會的貢獻をなした。創立後七年にしてモット總務より前約に従つて七萬五千弗を本部より支給する旨の申込みあつた爲、茲に於て總工費十五萬弗を以て新會館新築の議起り、主事富澤清は一九二八年日本に渡り故國朝野より二萬五千弗を得て歸米、一方米國に於ては日本人有力者並に一般より約四萬弗を得、價格二萬九千六百五十弗を投じてブキャナン街一五三〇に敷地を購入し、愈々新會館建築の議は具體化するに至つた。然るにモット總務を通して行はれたYMCAと本部との約束は、日本人側に於て若し總工費の半額即ち七萬五千弗を讓出するならばその半額他の七萬五千弗は本部にて支給せんととの條件であつたので、關係者一同の必死の努力にも拘らず時恰も不景氣の最中であつた爲讓金は豫定額に達せず、遂に建築諸工費も

削減するの止むなきに至り、本部からも豫定の約半額三萬五千弗を支給され、これを合して總工費八萬五千弗（敷地購入費も含む）とし、一九三五年（昭和十年）六月二十日前記の敷地に新會館を起工し、翌年一月十二日獻堂式を舉行し同時にサター街の會館から一切を新會館に移した。新會館は現代的Y.M.C.A.の特色を具備した二階建てのもので、内部又はジムネジウム、講堂、教室、圖書室などを有し、常に青年會員の爲のみならず、一般在留日本人並に旅行者に向つて多大の便宜を與へてゐる。この青年會は桑港市内にある各Y.M.C.A.と全然同格の地位に立つてY.M.C.A.本部と連絡を保ち、桑港市の公共資金の分配を受けることになつてゐるが、その事業の主なるものを挙げれば聖書研究及び特別集會、夜間英語學校、職業紹介所、各種運動競技等あり、主事富澤清は一九三九年九月、勤續二十二年にして停年引退し、現在後任には兼井精一が當つてゐる。桑港以外の地方に於て桑港のそれと略相似たるY.M.C.A.を有するは羅府のみで、羅府の日本人基督教青年會も桑港の如き大飛躍の時機に達してゐる。

基督教女子青年會

男子の爲のY.M.C.A.と相對して女子の爲のY.W.C.A.につき一言せねばならぬ。在米日本人が有する最古のY.W.C.A.たる桑港日本人基督教女子青年會は、Y.M.C.A.よりやや其歴史古く一九一二年（明治四十五年）の創立にかかる。抑も此會の設立は前に述べしことある傳道團が同年二月評議員會を開き桑港に日本人女子青年會設立の必要を認め、夫れが爲の委員小室篤次、安孫子久太郎、森下龜太郎、森淳吉、宮崎小八郎を擧げたるに淵源し、三月是れを議せんが爲に各教會婦人會及び有志婦人信徒の大會が開かれ、其結果發企人二十名の名を以て設立趣意書が發表された。趣意書冒頭に曰く「我同胞にして永く米國に移り住まんとする者今や漸く多くなり行き、落ち着きて事業に従事し、一家の基礎を固め發展を圖り、人類の幸福を増進せんとする傾向著しきものあるは誠に喜ぶべき事なり。此喜ぶべき傾向

を一層助長して永住の觀念を鼓吹し常に民族の發展を慮るのみならず延いては在留國土の文化に貢獻せん爲め西洋の文明を咀嚼し且つ東洋の文明を紹介し以て兩者の長所を發揮せんことを在留同胞の任務なり——」誠によく時勢を喝破した言葉である。斯くて翌四月組織會開かれ、規則の編成と評議員の推薦を行ひ、次いで評議員會に於て役員を選擧し四月十七日全く組織を了つた。

最初の役員は會長小室兼子、副會長森下ひろ子、會計宮崎島子、幹事小林徳子、寄宿舎々監大久保晋羽、總委員長安孫子余奈子であつて何れも無報酬で奉仕の篤志家ばかりであつた。役員等は創立費及び會員の募集に努力し、ガーフ街一一二〇（帝國ホテル跡）に會館を定め、六月移轉を了し、七月廿五日オツファレル街の米人女子青年會館に於いて發會式を擧げ、こゝに始めて此會の存立を世に公表したのであつた。後幹事會監辭し、野田徳子會監となり獻身的に盡力した。此會の事業は男子のY.M.C.A.と大差なく修養、社交、工藝、教育、音楽、寄宿の六部を設け、同胞婦人の時代的要求に應じて漸次事業を擴大したのであつたが、一九一六年（大正五年）タツピング嬢の幹施により少女俱樂部を新設し、米國出生日本人女子教養の第一歩に着手したるは最も時勢の必要に適つたものであつた。此俱樂部は最初は十四歳以上の少女に成るシルバー・エコー組のみであつたが一九二一年（大正十年）に年長者の爲のゴールデン・エコー組と年少者の爲のリットル・エコー組出來、一九二五年（大正十四年）からは幼女兒の爲のベビー・エコー組さへ設けらるるに至り、各組孰れも米人少女俱樂部と歩調を一にして活躍しつつある、又本會の寄宿舎は新渡米婦人の止宿所として重要視され一九一六年以降寫婦人の激増せる時代には移民局の信用篤く、本會の保護保證により假上陸を許されたもの極めて多かつた。最初役員の盡力で五百弗を募金したが、當時の在米同胞が充分女子青年會の事業を理解して居なかつたし、同胞の經濟力も貧弱だったので、資金の調達極めて困難であつたが、偶々一九一三年總委員長安孫子余奈子歸朝の際、故國名士に面會して女子青年會の事業を説明しその後援を求めた所、澁澤男爵

淺野總一郎外數氏より千數百圓の寄附を得たので、これがため有給幹事を雇ひ今日の如く活動し得る端緒となつたのである。一九一四年（大正三年）には桑港以外に羅府とサクラメント市にYWCAの設立を見たが、一九一八年（大正七年）より、桑港、羅府の兩YWCAは協力して雜誌女子青年を刊行した。而して同會が米國女子青年會外人部に加盟したのは一九二〇年にして、翌一九二一年三月には六千五百弗を投じてサター街一八二六の家屋を購入してこゝに移轉した。然るに時代の趨勢と少女俱樂部の急速なる發展につれて數年を出ずして會館の狹隘を告げるに至り、設備ある新會館新築の議を米國YWCAに訴ふるところあり、その時たゞ桑港市米人YWCAに於ても寄宿舎新築の議あり、日本人部を代表せるミス・マツキーン、ミス・ホードマンの兩人は不況時下、困難なる交渉を重ねた結果、本部寄宿舎建築費の中に日本人部増築費二萬弗を計上せしめるに成功し、一九二七年九月より桑港全市に右兩建築費寄附募集を開始し、日本人部の大舉して参加し、或時は日本人少女部演出の日本歌舞伎劇「寺小屋」をフエヤモント・ホテルのホール・ルームで上演し、入場者溢るゝばかりの盛況を呈した程であつた。斯くして日本人部は三千五百弗を融金し、本部より支給の二萬弗を合し、合計二萬五千餘弗の總工費を以て一九三二年三月十四日舊會館跡に新會館を起工し、同年九月これを竣工した。これ即ちサター街一八二六にある現會館である。現會館は二百五十名の座席を有するオーデイトリアムを中心として事務所、圖書室、クラブ室、化粧室、日本座敷等の外に階上には十數名を收容する寄宿舎あり、廣い階下も種々役立つやうに出来てゐる。會長としては小室兼子の後小池濱子、安孫子余奈子、大澤ます子等を経て現在藤田邦子は十數年來の會長として今日に及び、關係者、會員、事務員らと共に日本人婦女の誘導に對米人親善促進に活躍をつゞけてゐる。同會は又一九二二年（大正十一年）以來桑港市社會事業同盟に加盟し、社會事業奉仕募金に協力し、YMCA及び救世軍と共にその分配を受けてゐる。

本派本願寺派佛教

米國に於ける開教の起原

佛教の米國渡來 佛教の米國渡來については遠く五世紀の昔、支那の佛教僧ホイセンがその一隊と共にアメリカ（今の墨國）に渡り、佛教傳道に従事したといふ事蹟も各種の學說に於て論議されて居るが、嚴密にこれを云へば一八九三年（明治二十六年）シカゴに於て開催された世界大博覽會所屬萬國宗教大會に眞言宗より土宜法龍、天台宗より蘆津實全、西本願寺より前記の八淵蟠龍、臨濟宗より釋宗演の四香宿が出席し、日本の大乘佛教の何たるかを布演せるに始まると云ふべきであらう。尤もこれ以前に於て既に白人の佛教研究家もあり、後に至り一八九六年にはヘンリー・ワレンの『翻譯の佛教』一九〇五年にはA・N・エドマンズの『佛教書史』並に『法句經の完全譯』などが世に公刊されて居り、更に又一面に於ては、佛教の米國渡來は日本人の米國移住と同時にする論據もあるが、蓋しこれは欽明天皇十三年（皇紀一二二二年）印度より東漸せる佛教が、朝鮮百濟王を経て我國に渡來してより實に千三百餘年間佛教思想が日本民族の思想、文學、藝術すべての方面に根強く喰込んで、生活の各方面に極めて深い佛教的色彩を持つてゐる日本人としては、よし海外移住後と雖もその生活の中に多分に佛教思想が織込まれてゐるに違ひないからである。然し公的に日本佛教の米國渡來を云ふ場合は、矢張り前記の如く日本佛教界の四香宿による布教を以てその始めとすべきであらう。

萬國宗教大會

斯く佛教開教の起原をなした萬國宗教大會は、前述の如く一八九三年シカゴに開催された萬

國大博覽會内コロンビヤ・ホールに於て九月十一日より同二十七日まで前後十七日間に亘つて開かれた。同大會には日本側を代表する前記四書宿の外に基督教代表の小崎弘道其他ローマンカソリック派のカーヂナル・ギツボン大僧正、レッドザンチ島のデオニシヤスレータス大僧正、シカゴのフリーハン大僧正、獨逸のエバンストーフ伯爵、スエーデンのカールボンベルゲン博士、セイロンのエコナダンマバーラ師、印度のモーゾンダー師、支那代表の彭光甫一等書記官等々を始め英佛伊その他世界十六宗を代表する高僧智識ら約二百名出席、聴衆は常に約五千を以て終始した。而してこれら諸代表は各々自宗の立場より宗旨、學理を説き、或は宗教を通じて世界人類の平和を説いた。我が代表も亦釋宗演は「佛敎の要旨並に因果法」蘆津實全は「佛陀」の題下にそれら演説要旨を英譯して米人代行者に朗讀せしめ、更に九月二十六日には印度、支那、日本の各佛敎徒のみにて佛敎大演説會を開き、八淵蟠龍、土宜法龍、釋宗演、蘆津實全は印度、支那の各代表らと交々立つて英譯論文を朗讀、數千の會衆を前に餘すところなきまでに佛敎を説き去つた。米國に於ける佛敎開敎の華々しい第一聲であつたのである、殊に釋宗演に對しては英國の牧師トーマス・ガービーの如きは熱心なる信者となり、のち鎌倉に來たりて剃髮染衣して師事し、又ニューヨークのヘインズと云ぶ老白婦人は禪師の説に發心、得度し、七十の老齡を以て日本に渡り専心修道せんことを欲したが、桑港に於て乗船前發病し、乗船を担まれた爲遂ひに意を遂げ得なかつたといふ實話もある。これらは僅かに一例に過ぎず、米國に於ける開敎の第一聲は斯くて至大な成果を擧げたのである。その後一行は各地を巡錫して、それらの立場より日白人に佛敎を移植して歸國したが、北米の地に初めて佛敎の敎會が設立されたのはそれより五年後、即ち一八九八年（明治三十一年）眞宗本派本願寺の官本惠順、本多惠隆の兩師が桑港に佛敎青年會を創立せるを嚆矢とする。禪宗の敎會設立はそれより遙かに遅く、即ち一九二二年、時の布哇布教監督磯部峯仙が羅府に曹洞宗北米佛敎會を創立せるに始まる。他の佛敎諸派も亦その敎會設立は比較的近代の事に屬する。

現在北米に於ける佛敎各派は日本に於けると同様眞宗の本派本願寺、東本願寺兩派、並に曹洞宗、眞言宗、天台宗の五派があるが、開敎の最も古く敎勢の最も廣範且つ強大なるは眞宗の本派本願寺派である、この故に北米佛敎史は先づ本派本願寺派から説くを順序とし便宜とする。

開敎の濫觴

桑港佛敎青年會創立 本派本願寺が北米に開敎の基礎を拓いたのは今（一九四〇年）より四十二年前、即ち、明治三十一年（一八九八年）七月、同本山より在留同胞の慰問を兼ねて本多惠隆、官本惠順の兩布教視察使が渡米し來り、開敎の端緒を開いたに始まる。これより幾、當時の在米同胞間には（總人口約二萬）基督教のみ布教されありて、先祖傳來の佛敎の布教はなく、これを痛歎した桑港在留同胞（約三千と推定）の有志家間には佛敎團體の組織を念願し、その一員故平野仁三郎は歸朝を機會に本山に參拜して、折柄大法要記念傳道中の西島覺了、山田兩師に面談米國の右實情を具さに訴へて本山當局の善處方を要望した。平野は歸米後も常に西島と書翰を交へて米國に於ける佛敎傳道の急務なるを述べ、更に萬策を盡して本山の善處を督促した。前記本多、官本兩使の米國派遣は斯して實現したのである。桑港に來つた本多、官本兩使は滞留すること約二週間、布教に關して各方面の視察、調査をなすつゝあつたが、一夜醫學士灰田勝五郎宅に集會を催し集まれる佛敎信徒達に本山が彼等を派遣せる目的を告げ、佛敎の世界的進出は時勢の要求に促されたものであること、桑港の如く諸外國人の多數居住せる所は海外布教地として最適なること、及び外國の地に敎線を拓かんとするからには本山としても多大の犠牲を拂ふ覺悟であることを説き、佛敎徒の奮起を促した。敎徒らは直にこれに呼應して新聞紙上その他によつて各方面に檄を飛ばせ廣く同志を集め、取敢えず佛敎青年會を組織すべく、七月三十日桑港市マーケット街九〇九のビシヤン・キャツスル會館に於て創立發會式を

舉行し、引つゞき各方面の喜捨を求めて八月十七日にはメーソン街七に新會堂の開堂式を行つた。これ實に現桑港佛教會の母胎となつたものである。而して同會の常議員らはその後幾度か會合を重ねた結果本山に對して本願寺出張所の開設と布教使の派遣方を懇請するに決し、信徒代表八十三名の連署で次の如き請願書を時の法王大谷光尊明如上人に提出した。

開教使派遣請願書

(全文の一節) 現法主親下、能く教主宗祖の遺訓を繼ぎ夙夜教義普及を圖り、八荒夷蠻の衆生凡夫を濟度せらるゝに軫念せらる。誰か感泣せざらんものあらんや。然るに未だ米國の地に至りては佛理の恩に浴すること克はず、眞宗の教味を樂しむこと克はず、教主宗祖の意を知ること能はざるなり、之を悲しまずして何をか嘆ぜん。四面は楚歌の聲にして慘々凄然たり、八方は外教の軍にして腥風颯々たり。猶劍の山針の筵に座するが如し、動もすれば他界墮落せんとす。此際に當りて滿腔の熱情以て我ら有縁の教義を開かんと欲するも亦故なきに非ざるなり。云々。

北米開教へ本山の難色

一方、本多、官本兩布教視察使は、桑港に於て佛教青年會を組織するや、その視察せる米國の實狀を本山當局に報告する爲、サクラメント、シャートル、バンクローバーを経由視察して歸國したが、その途上に於てはシャートル駐在齋藤領事に「米國は異教徒の來ることを許してゐるや否や、又折角日米國交が順調に行つてゐる時異教である佛教を廣めて厄介な問題が起るやうなことはないか」と反對意向を示された。また本山當局に於ては教學參議部會議に於て北米開教の可否につき論議が興はされ、老僧らは「そんな遠い様子もわからぬ米國に開教することは非常な困難なこともあるし、若僧の視察を土臺として開教に着手して失敗でもしたら世間の物笑ひになる」と極力反對され、北米開教の豫算一萬二千圓の支出も溢り氣味となり、北米開教の問題は茲に揉みつぶしの運命に會はんとしたが、參議赤松連城から折衷案が出て「北米開教の名を改めて桑港に開教使を派遣する……といふだけに止めたら如何」との提案が漸く通過し、旁々前記の如く桑港佛教青年會からの法主宛布教使派遣方請願書も到着してゐたので、遂に老僧らも反對を止め、蘭田宗惠、西島覺了の兩師を初代開教使として派遣するに決したのであつた。

本願寺出張所開設

これに反して桑港佛教青年會に於ては毎週土曜日の集會により法味愛樂の信仰生活を營み、翌年の四月八日には北米に於ける最初の釋尊降誕會を備し、同月十五日には會堂をステベンソン街五三二に移して擴張し、五月には會員の爲に英和學校を開設、同二十一日には宗祖親上人の降誕會を備すなど漸次に教線、地盤の擴張に努めつゝあつたが、同月中旬入港した軍艦比叡乗組の軍隊布教使藤田順道の訪問は會員の信仰生活に大なる力を與へた。斯くして佛教青年會は一週年を迎へ事業の擴張を行ふと共にサクラメント方面にも人を派して地方遊説をも開始したが、この時かねて請願中の布教使が愈々本山より派遣されることとなり、前記の如く前本願寺文學寮長蘭田宗惠及び大學林出身の西島覺了の兩師が九月二日に至つて着桑した。會員一同は宿願成就の歡びに更に事業を擴張すべく三度會堂をボーク街八〇七の三層家屋に移し、十七日には前記ビシヤン・キャツスル會館で兩布教使の歡迎會を開き、二十四日には本願寺出張所の開所式を舉行した。北米に於ける本願寺開教の基礎は茲に於て全く成つたのである。當時桑港のエキザミナー、クロニツクル兩英字新聞の如きは「佛敎の米國渡來」として寫眞入りでその盛時を紹介した程であつた。

外人教化の開始

斯くてその基礎全くなつた出張所では蘭田、西島兩師を中心として専心弘法の宣説に努める一方、開教の附屬事業として慈善會を組織し、會員相互の賑恤救助を圖り、ノーマンなる米人醫師を名譽醫師として罹病者の診療に當らしめ、更にその翌年(明治三十三年)正月には米人に對する佛敎講座も設け、白人佛敎研究會を組織し、又同年四月十六日には三寶興隆會なる白人佛敎團體を組織して白人教化に積極的態勢を整へた。右は直ちに加州政廳より正式に公認されたが、これ實に米國に於て外人佛敎團體が公認されたもの、嚆矢である。而してこれに先立つて行はれた四月八日の釋尊降誕會には白人參詣者百五十餘を數へ、殊にその翌日の降誕祝賀會には白人佛敎徒の熱烈な信仰を反映し、司會者には前記ノーマン醫師が當り、來賓の饗應接待には白婦人數名が日本

着姿で當り、又その餘興には或者は英語のみ話す口で讚佛歌を歌ひ、或者は美文讀誦をなし、又加州常備軍の軍樂隊長クレバーは三十餘名の隊員を引卒出席し、各種奏樂の最後に「佛陀降誕の一曲」を奏するなど、恐らく古今を通じて外國軍樂隊による佛歌の奏樂はこれを以て嚆矢とするのであらうが、當日の白人佛教徒の熱心さは近年に於ても見られぬ程のものであつた。なほその當時禪宗方面では釋宗演に師事するラッセル夫人その他の參禪、或は同じく釋宗演に師事する鈴木大拙が米人ケーラス博士主宰の「オープン・コート誌」の顧問として東洋書籍に佛敎の翻譯或は誌上執筆をなして文筆による傳道なども盛んに行はれてゐた。然し佛敎會の三寶興隆會は二十餘年にして閉鎖された。

機關誌發行 更に同年の一月二十日には機關誌として「米國佛敎」第一號を發行、文書による傳道をも開始した。この年十二月北米開敎の基礎を開いた蘭田宗惠は渡歐の爲辭任し、水月哲英が後任として着任した。水月と同時に櫻府佛敎青年會に駐在する原田哲了、布市佛敎青年會に駐在する朝枝不朽兩開敎使も着任し、米國に於ける佛敎は漸くその基礎固く都市へ、地方へと發展の傾向を帯びるに至つた。その翌年の明治三十四年四月には「法の光」なる英文機關誌も發行、外國人に對する文書傳道並に聯絡の要に當らしめ、本願寺出張所は日白人を對手に漸く米國に於ける佛敎の本都としての觀を呈するやうになつた。なほ水月哲英は在任僅かに十ヶ月にして病氣の爲辭任歸國し、翌年三月に至り後任開敎監督として堀謙徳が着任した。

慈惠會と共同墓地 斯くしてゐる時、一九〇一年（明治三十四年）二月、同胞の慈善救済を目的として組織された加州日本人慈惠會は（社會事業編參照）その第一事業として五千五百弗を投じてサンマテオ・コルマに共同墓地の新設工事を始めたが、翌年三月その落成成り、佛敎會の西島覺了師は慈惠會の代表として多數開敎使信徒と共に出席、來會者約二百の前で、上野桑港領事の司會で代表としての挨拶をなし、爾來慈惠會の重要な一役を引受けるやうになつた。

法主大谷光尊の遷化 米國に於ける佛敎が斯くして順調な發達を遂げてゐる時、一九〇三年（明治三十六年）一月十八日、本山に於ては佛敎の海外布敎、殊に北米開敎に盡瘁せる法主大谷光尊が遷化し、佛教徒の悲しみは極度に達した。桑港佛敎青年會に於ても二月十五日盛大なる追悼法要を催したが、北米佛敎團の産みの親とも云ふべき光尊の死に、在米佛教徒は痛敎の中から一層の奮起、精勵を誓つたのであつた。光尊は法名を明如上人と稱し嘉永三年陰曆二月四日の誕生にして、明治四年父廣如上人の後を承けて第二十一代の法燈を繼いだものである。なほ北米佛敎團の明如上人の法要にはその後數回に亘つて參拜團を派遣してゐる。

建設時代

其後の教勢 一方西島の地方巡錫は各地佛教徒の信仰、結束を彌々固くし、桑港に次いで明治三十二年（一八九九年）十二月には加州々廳の所在地サクラメントに、その翌三十三年には中加フレズノ市にそれ／＼佛敎青年會が創立され、同年四月二十七日には桑港佛敎會の附屬團體として佛敎婦人會が生まれた。斯くて佛敎の線は日本人々口の集中せる都市、農園地方に向つて着々進展し、爾來明治の末期から大正にかけて各地に敎會の創立、新會堂の建築が行はれ、目覺しい發達を遂げた。蓋し佛敎は冠婚葬祭その他事に應じて佛僧を招き佛寺に詣づる日本人古來の習慣に適應するのみならず、欽明天皇十三年（皇紀一二二二年）佛敎が日本に開敎されて以來實に千三百八十八年間、その文化と信仰とは深く日本民族の思想の中に織込まれ、日常生活を支配し來つた關係上、在米日本人間に於ける教勢の發達も基督教のそれに比し極めて順調な經路を辿り、開敎後十二年即ち明治四十四年（一九一一年）には會堂數十、開敎使若くは主任者十四名、會員數四千六百六十三名に達し、それより三年後の大正三年（一九一四年）には會堂數十、開敎使若くは主任者十九名、會員は一舉に六千四百七十名に激増し、更に現在はその教線も北は英領加奈

陀の最北端より南はメキシコ領に近きアリゾナ州、東はユタ、コロラド兩州に至る廣大な地域を地盤とし北米開教本部の下に獨立教會四十八、開教使七十名、教會正會員一萬四千名、附屬團體その他の會員一般教徒數實に八萬に及ぶ發達を遂げてゐる。今試みに各地獨立教會の創立年を列記し、その發達の状態を示せば次の如し、なほ桑港佛敎青年會は一九〇五年に桑港佛敎會と改稱、各地青年會もそれに順じて改稱した。

桑港佛敎會(一八九八年) 櫻府佛敎會(一八九九年) 布市佛敎會(一九〇〇年) 沙市佛敎會(一九〇一年) 佐市佛敎會(一九〇二年) 王府佛敎會(一九〇三年) ポートランド佛敎會(同上) 喜郡佛敎會(一九〇五年) 羅府佛敎會(同上) 華村佛敎會(一九〇六年) 須市佛敎會(一九〇七年) 畫村佛敎會(一九〇九年) ベーカスフィールド佛敎會(同上) バカビル佛敎會(同上) 麥嶺佛敎會(一九一一年) 山中部佛敎會(一九一二年) サンタババー佛敎會(同上) 白河佛敎會(同上) パロアルト佛敎會(一九一四年) プラサ佛敎會(一九一五年) 亞市佛敎會(一九一六年) 傳馬佛敎會(同上) 不老林佛敎會(一九一八年) タコマ佛敎會(一九一九年) エルセントロ佛敎會(一九二四年) サリナス佛敎會(同上) 河下佛敎會(一九二六年) サンデーゴ佛敎會(同上) サンプルイスオビス佛敎會(一九二七年) ブローレー佛敎會(同上) オックスナード佛敎會(一九二九年) ヤキマ佛敎會(同上) 權亞佛敎會(同上) メリスビル佛敎會(一九三一年) ガーデナ佛敎會(同上) ソノマ國滿寺(一九三二年) アリゾナ佛敎會(一九三三年) 紐育佛敎會(一九三六年) ラプトン佛敎會(一九三八年) 以下加奈陀、加奈陀佛敎會(一九〇五年) フェイビユ佛敎會(一九一八年) 須知佛恩佛敎會(一九二八年) レイモンド佛敎會(一九三〇年) ロイストン佛敎會(同上) 新西院本願寺佛敎會(一九三七年)

桑港大震災と佛敎會

斯くて各地に佛敎會の簇立を見てゐる時、その建設の途上に於て一九〇六年(明治三十九年)四月十八日桑港に大震災あり、佛敎會も亦類焼し、一時假事務所をブキャナン街一九〇六に設け程なく新會堂をガフ街一六一七に移し廢墟と化した桑港市の中で盛大な入佛式を舉行した。一方佛敎會では震災と同時に避難民の收容所を設け、内田晃融の夫人を主任として傷病者の施療救護に活躍し、又本願寺當局より電送し來つた見舞金五百弗を法主の名によつて日本人救済金に寄附したりした。

新會堂建設

米國に於ける佛教徒の中心道場とも云ふべき桑港佛敎會を焼失した佛教徒は本山より補助金五千

弗を送られたるに奮起し、工費三萬三千弗を以てバイン街一八八一(現地場所)を敷地とし新會堂の新築に着手一九一四年四月十五日これを竣工した。然るに當時の在留同胞の經濟的不況は深刻を極め、新會堂の新築工費に對する信徒の喜捨は容易に豫定額に達せず、翌一九一五年來の債務なほ一萬四千弗以上を算するの苦境にあり、これが對策として追加募金を行つたがなほ及ばず、一九二六年(大正十五年)十月に至り、更に臨時整理部を設置して各委員必死に三度目の募金を行つた結果、竣工より十三年を経過した一九二七年(昭和二年)の暮れも近い十二月に至つて、漸く一萬餘弗の負債を整理し得たといふ苦闘ぶりであつた。

北米開教本部設立

一方、前述の如く各地に續々と教會の設立され、その數既に十九を數ふるに至つた佛敎團では漸く各地教會の聯絡統一を圖る必要に迫られ桑港に新會堂の落成を見た一九一四年の七月八日より三日間、右新會堂に於て各地駐在開教使並に信徒代表者會議を開き、教會統一と教化普及の目的を以て北米佛敎團開教本部を設置することに決め、その規約及び開教本部の規定を定め、佛敎團體としての基礎を確立した。その規約及び規定はその後數回に互つて改訂されたが、大正十三年に改訂された現行規定の大略を示せば次の如くで、佛敎團及び開教本部の全貌は、これにより自ら判然とするであらう。

北米佛敎團規約 第一條 本團を北米佛敎團と稱す。第二條 綱領の趣旨に基づき北米内本願寺佛敎會を聯絡統一するを以て目的とす。第三條 本團は下記組織により經營するものとす。(本部、開教使會議、信徒會議) 第四條 本團の事務統轄の爲本部を設けて下記役員を置く(監督一名、主事一名、參事三名) 但し監督は本願寺特派の總長之に當り、主事は監督の推薦により、參事は開教使會議に於て選舉し、その任期を一ヶ年とす。第五條 開教使會議は聯絡佛敎會の開教使よりなり定期及び臨時に集會し、本團の方針及び事業を決定し參事を選挙し豫算を編成す。第六條 信徒會議は聯絡佛敎會々員代表者よりなり、臨時に開教使會議より參加を乞ふものとす。第七條 本團の經費は聯絡佛敎會に於て分擔し、割當額は開教使會議に於て之を定む。第八條 本團の規約並に細目は開教使會議に於て出席者の三分の二以上の賛成を得るに非ざれば之を改廢するを得ず。

本部規定 一、監督は下記権限を有す（開教使の更迭、開教使及び補佐開教使の推薦、各會議の召集、團内の賞罰、各教會隨意巡廻）二、監督は有給とす、開教使會議に於てその額を定む、三、本部は監督の駐在地に置く（以下省略）

而して右本部の事業としては地方巡廻によつて青年の指導、風紀の矯正、家庭の改善、永住土着の準備等につき指導啓發すること、並に文書傳道により佛教並に日本文化の紹介を米人間にも行ふこととし、地方教會の事業としては土曜日曜の定例集會のほか、地方の情況に應じて兒童教育の機關たる幼稚園或は邦語學園を設け、青年教育の爲には佛教青年會をしてこれに當らしめ、職業紹介、運動競技等、基督教青年會事業と同じやうな方面にも活躍することになつた。因に開教以來今日まで本山より特派された北米開教總長並に監督の氏名を擧ぐれば次の如くである。

崗田宗憲、水月哲英、獨謙徳、内田晃融、佐々千重（事務取扱）花田凌雲、楠原龍誓（事務取扱）佐々木芳照、増山顯珠、松陰了諦（現任）

（筆者註）從來開教總長となるものは本願寺執事の兼任となつて居り、北米開教本部に於ける總長の事務は開教監督によつて處理されてゐたが、一九一八年（大正七年）に至り、時の開教監督内田晃融は初めて開教總長の資格を受けられ、爾來正式開教總長駐在の端を開いた）

萬國佛教大會

北米開教本部を設置して各教會の統一聯絡を圖り、合理的且つ本格的建設期に入つた北米佛教團は、その翌一九一五年（大正四年）には八月二日より六日間桑港市公會堂に於て佛教東漸史上特筆すべき萬國佛教大會を開催した。これは巴奈馬萬國大博覽會が桑港に開催されたの好機として開かれたもので、既述一八九三年シカゴに於ける宗教大會に次ぐものであるが大會議に當つては西藏の達賴喇嘛法王、印度のシツキン王を始め各國高僧の讃同を得てなされたものだけに大會出席者も次の如き高僧智識を網羅し、大會の結果は直ちに佛教の世界的進出へと進展した。今その主なる出席者並に六日間に亘る主要代表の演題を示せば次の如くである。

▲出席者 布哇代表フォースター夫人、印度代表ケーデー・シヤストリー博士、オルデン博士、ネイネオニュー博士、錫蘭代表

ガンマナング大僧正、緬甸代表マンダ・タトハナバイング僧正、米國代表マイトレア師マリエル・クレアー博士、ポールケラー博士、ヘーセル・タイン博士、日本代表 各宗代表日置默仙、眞宗本願寺代表八洲蟠龍、日蓮宗本國寺前管長旭日苗、日本佛教青年會代表山上曹源、眞宗大谷派代表渡邊順、臨濟宗妙心寺派代表中島春方。

▲主要講演者並に演題 第一日 歡迎の辭（大博覽會役員ゼームス・パー）佛教論（タイン博士、歐米に於ける佛教（内田晃融）佛陀觀（日置默仙）印度の佛教（シヤストリー博士）入信の經營（オルデン博士夫人）第二日 佛教の妙味（クレア博士）第三日 西洋文明と佛教（ヘーセル・タイン博士）佛教徒の使命（沼野領事）第四日 涅槃（マジニング博士）（なほ第四日は大博内金閣寺に會場を移してゐる）

大統領へ決議傳達

なほ同大會に於ては次の趣旨の決議を行ひ、時の大統領に傳達することを決定した。

- 一、吾人佛教徒はその世界的大使命たる東洋文明の精華を世界に紹介し、東西文明の融和と世界人類の近接を圖り、以て佛教の精神たる世界永遠の平和の理想を實現せんことを期す。
- 二、日米人間の親善を助くる爲に米國人間に佛教を宣傳する必要を認むるが故に、之に對し内外の佛教徒は協同努力せんことを期す。
- 三、米國に於ける佛教の傳道を以て日本人排斥の一の原因なりとするが如きは事實を誣ふる一つの謬見に過ぎざるも此種の偏見の流布は日米兩國の相互の誤解を惹起するの憂ひあるが故に、佛教徒は極力此種の謬見を匡正排除せんことを努む。
- 四、今回の歐洲大戦争は人類史上未曾有の大事變にして、その延引はこの恐るべき残忍なる悲劇の局面を無制限に擴張することなれば、こゝに會合せる世界佛教徒は平和及び博愛の信奉者として、一刻も早くこの残酷なる戦争の休止と世界平和の克復されん事を念願して止まず、由つて吾人は世界の佛教を代表する世界佛教大會の名に於てアメリカ合衆國大統領ウイードロー・ウエルソン閣下が、その人道の大義に對する崇高なる精神に基き交戦國民の人心を平和の方面に向はしむることについて、その顯要の地位の凡ての勢能を盡さんことを懇請熱望す。
- 五、佛教大會は第四項決議の精神を貫く爲、米國佛教監督内田晃融師及び日本佛教各宗代表日置默仙師を擧げて代表となし、ワシントンの白雲館に大統領ウエルソンを訪問し、前項の決議文を奉呈せしむることを決議す。

而して日置默仙を正使すると内田晃融及び山上曹源の一行は、同年八月十三日桑港出發、ワシントンに赴きウエルソン大統領に面謁して米國に於ける佛教の實情を上申、右大會の決議を傳達した。これ實に米國に於ける佛教がその

開教の端緒を開いて僅かに十七年足らずの事である。更にこれは佛教が桑港を通じて全米に擴まり、且つ時恰も世界大戦の渦中にありて、佛教が卒先平和運動を起せることを意味するものである。

佛教隆盛の側面

北米に於ける佛教興隆の蔭には日本佛教界の香宿或は印度の高僧智識らの來米巡歴があつて力あることを忘れてはならぬ。例へば既述の如くシカゴに於ける萬國宗教大會に出席せる釋宗演或は八淵蟠龍らの兩度の來米、或は大谷光明、同尊由、新井石禪、日置默仙らの巡錫、或は又芳賀矢一、姉崎正治兩博士の來講、それに次ぐに印度の詩聖タゴールを始めタルマバーハ、マシニナンダなどの高僧の來米等々あり、これら高僧權威は各地に巡歴して日白人に佛教を説き、米國に於ける佛教發展の裏に大きな足跡を残してゐる。

大谷尊由の巡錫

時の本派本願寺管長事務取扱大谷尊由は一九二五年（大正十四年）十月三十一日、時恰も北米開教二十七年に當り在留同胞の佛教信念彌々昌んなるに及び、在米佛教徒の懇請を入れ、教線巡錫の爲隨員六名を従へて來米した、彼は先づ桑港フェアモント・ホテルに投宿、市長を公式訪問などして翌十一月一日には桑港佛教會堂に於て歸敬式並に親教を行ひ午後は開教二十五周年法要、夜はバナース街スカティッシュ・ライト會館で「因果律」なる題下に日白人千數百に講演し、更に翌日も同様、隨員花田凌雲總長、護城惠猛介者、市川知堂らの參列下に得度式を行ひ、數名の邦人と共に米人クラーク博士を得度せしめた。大谷はそれより加州大學、スタンフォード大學等に於て佛教講演をなし加州各地及び山中部を巡錫して東部に赴き、白聖館に於て時の米國大統領クリッヂに面謁し、佛陀大悲の精神を説き日米親善、世界人類の平等愛等につき親しく面談し、翌一九二六年一月十四日に桑港に歸り、再び佛教會の諸式に出坐して同十六日隨員と共に布哇經由歸國の途についた。大谷の巡錫により歸敬式を受けて佛門

に歸依せる同胞實に數千に及び北米に於ける眞宗は茲に於て又一段と強化されたかの觀を呈した。

今日の北米佛教團

北米開教財團生る

斯くして各名士の往來頻繁となり、教線も更に擴大されて一九二七年（昭和二年）までに各地に創立された教會數は三十餘に達し、北米佛教團の勢力は他宗の遠く及ばない迄に發展した。茲に於て北米佛教團に最も緊要となつたのは財源の確立それによる磐石の礎を築くことであつた。一九二五年大谷尊由の巡錫を機として北米開教財團組織の氣運は急速に擡頭し、翌一九二六年の開教使並に信徒代表者會議に於てこれに關する協議を進め、更に一九二九年の開教使並に信徒代表會議には資本金五十萬弗を目標とする北米開教財團の組織を決定、前記會議會期中の十月三十一日を以て財團の創立總會となすに至つた。これ實に北米に佛教が開教されてより三十一年目のことである。北米開教財團設立の目的は北米に於ける佛教團の百年の大計を建てるにあり、その事業としては對外人傳道の爲に英文の佛典や佛書の編纂刊行二世及び白人の布教使養成、日曜學校の教科書編纂、男女佛教青年會の指導機關充足、延いては孤獨老衰同胞の收容保護所、孤兒院、托兒所、貧病者の救療所、職業の指導紹介所、社會事業指導機關、公共圖書館等々の設置などが考へられてゐる。開教財團設立を決定した佛教團は眞宗本願寺派管長を名譽團長に北米開教總長を團長として、今や全開教使、全信徒をあげて資本金五十萬弗のゴール到達へ懸命の努力を尽くし、各信徒の家庭に報謝箱一個宛を備へつけて一日一仙の喜捨をなさしめ、更に全教團、全教線を動員して募金に邁進してゐる。なほ右五十萬弗の資本金は同財團の創立を賛成せる有志より贈金せる五千弗と、一般の佛教徒より特別に同財團に贈與せる寄附金並に本願寺の内外布教會財團基本金中の十萬圓より生ずる果實利息の範圍内に於て年々同財團へ下附する補助金にして經常費に支出せる殘餘、右三件の合計五十萬弗とす」と財團定款に明記してある。その

主なる條文を列記して北米開教財團の内容を見れば次の如くである。

開教財團の内容

▲本部 加州桑港に置く▲組織 本財團は眞宗本願寺派管長、同北米開教總長、同北米各地佛教會本願寺派布教使及信徒代表を以て組織す▲理事 本財團の事務及び財務は總て理事七名の連帶責任とす▲定期總會 毎年二月本部に於て開催す▲資本金及び經常費 (前述参照) 但し以上五十萬弗の資本金は國債、州債或は公債に投資し一切貸出し又は消費することを許さず、但し小額に限り確實なる銀行に預金することを得、▲解團に於ける資産及び資本金止むを得ずして本財團を解散する場合は全團員自ら之をなす場合も、或は不可抗の情實の爲に不本意に之を解散する場合にも本財團の財産及び資本金は總會全員一致の決議の上、各管團長及び現團長の同意書を得て米國佛教宣傳の用に供す。團長は總會の決議に従ひ資金及び資本金を處置すべし。

飛躍時代

開教本部の設置に次ぐに開教財團の組織を以てした北米佛教團は、今やその基礎磐石の如き堅さを加へ、加ふるに一九三〇年(昭和五年)に至り増山顯珠開教總長として着任して以來、彼の高潔なる人格と識見は益々教線擴大強化に拍車をかけ、同年より今日までの佛教團は正に飛躍時代とも云ふべき發達を遂げ、教線の擴張は勿論各種附屬事業へ(男女佛教青年會、教育事業、外人教化事業、日曜學校、婦人會、壯年會、留學生派遣、ボーイスカウトその他、但し以上は別項に詳述す)の擴大充實羅府及びフレスコノ佛教會の本願寺別院昇格或は大谷照乘の渡米巡錫、或は佛舍利塔の新築などその飛躍ぶりは年を逐ふて目醒しいものがあつた。今試みにその一九三〇年より一九三五年に至る飛躍時代とも云ふべき六年間の主なる事蹟を年代別に列擧すれば次の如くである。

- ▲一九三〇年 七月十日、布哇にて開催の第一回汎太平洋佛教青年大會に代表團を引率して寺川湛濟團長として出席す。
- ▲一九三一年 八月五日、加州サンタバーバラ出身角田昇、二世の第一回日本佛教留學生として渡日(註 角田は目下二世最初の開教使として開教本部で活躍してゐる)九月七日 羅府佛教會昇格して羅府本願寺別院となる。
- ▲一九三二年 七月二十二日より五日間桑港佛教會に於て米國、加奈陀、布哇の佛教青年聯盟大會を開催す、十二月二十七日 シャートル出身の久間田勝、二世開教使候補として日本に留學す。
- ▲一九三三年 二月十五日米人二名の入門式を舉行す、三月十七日 タコマ駐在湯川開教使團長となり、西北部佛教青年聯盟主催で勝如上人傳燈奉告會參拜團を組織渡日す。三月二十三日 北米佛教團本部主催の傳燈奉告會本願寺參拜團も河下駐在寺川澄

然開教使を團長として渡日、増山總長も法要參列を兼ね本山と要務打合せの爲歸國す。六月二十四日 サンノゼ佛教會にて本部主催夏季講習會並に全米女子佛教青年聯盟大會を開催す、八月九日 前北米開教總長佐々木芳照、羅府別院輪番として着任す、九月十九日 米人クリフトン入門す、十二月十一日 増山總長の司式で米人十三名の入門式を舉行す。

- ▲一九三四年 六月六日、東京にて開催される汎太平洋佛青會出席の爲、寺川湛濟團長として代表を引率渡日す、十一月八日 大谷照乘並に隨員佐々木鐵城北米巡錫に來たり、この日より翌年二月二十一日まで増山總長同道で各地を巡錫、歸敬式並に消息披露特別講演あり、歸敬式を受け佛門に歸依せる者一萬數千を數ふ。
- ▲一九三五年 三月二十一日、北米佛教團本部主催の明如上人三十三回忌法要參拜團は片山乘音を團長として渡日、この時總長増山顯珠も參拜を兼ね、本山と事務打合せの爲同船歸國す。

シヤム國皇室

一九三五年三月歸國した總長増山顯珠は、シヤム國(現在の泰國)に渡つて同國皇室より佛舍利を下賜

佛舍利(釋迦の遺骨)を下賜され、八月十三日それを釋賣塔に奉納して捧持歸米した。これより總長は歸米の途につくに先立つて日本の新聞通信記者に、佛舍利を奉納すべき大伽藍を桑港に建立し教線の一大擴張を圖る旨發表したので、右情報は直ちに北米の信徒にも傳はり、信徒の感激は一入であつた。増山總長がこれを捧持して桑港に上陸するや開教使、信徒代表三百數十名は埠頭並に佛教會堂前に堵列奉迎し、同夜八時より直ちに佛舍利奉迎慶讃法要を勤修した。

佛舍利寶塔を建立

佛舍利を迎へた開教本部では直ちに開教使並に信徒代表の臨時會議を開き、佛舍利を奉納すべき一大會堂の建立につき協議を進め、その結果工費約十萬弗を以て、現桑港佛教會の跡に奥行九十呎、間口百十呎、二階建ての大會堂建設を決定した。右會堂は既存會堂を取拂つて翌々一九三七年四月に起工し、その翌一九三八年(昭和十三年)三月竣工したが、内部は階下に千數百人を收容する大ホール並にステージ、二階には壯嚴を誇る聖堂、開教本部、桑港佛教會、男女佛教青年會、ボーイスカウト各事務所、開教總長室、社交室、會議室、食堂等々あり、屋上には佛舍利を奉納する塔が高く聳えてゐる。建築はすべて鐵筋コンクリートでその背後に桑港佛教會附

屬「桑港學園」の校舎があり、外觀内容ともに北米に於ける最大の會堂である。右會堂は總稱して佛舍利塔と名稱されたが、同塔落成を待つて辭任歸國した増山の後任松陰了諦現任總長によつて一九三九年北米本願寺と改稱された。

紐育に佛教會創立 これより異、一九三六年總長増山顯珠は佛誕二千六百年を期して米國本部に開教の基礎を築くべく米國の心臟部紐育市西九十四街一七一に佛教會を創建、これが初代開教使として關法善を派遣駐在せしめ、その祝賀を兼ねて、當時太平洋橫斷飛行を計畫中であつた二世飛行家、佛教育年會會員長神修三、武本正勝兩名による大陸橫斷飛行を行なひ、増山自身もこれに同乗して紐育で布教の第一聲をあげた。

今日の佛教會概況 斯くて東の心臟部紐育にその法城を築き、西の心臟部桑港に全米の中心道場とも云ふべき北米本願寺を創建した佛教會は今や名實兼備の北米最大の教團として、その地域も北は英領加奈陀の最北端より南はメキシコ國に近いアリゾナ州、東はユタ、コロラド兩州を経て紐育に至る擴大なる地盤に獨立教會四十八支部教會二百を數へ、在米同胞の過半を占むる約八萬をその教徒とする隆盛さを示したるが、更に從來の如き「日本佛敎の延長」「移民の後を追ふ傳道」等と冷評を受けた消極的な傳道の域を脱して、現在の佛教會は日系米人並に外人に向つて強く教化運動を起し、日本語學園の經營、日曜學校、男女佛教育年會、婦人會の擴充、ボーイスカウト運動、外人の佛敎研究會等々、その附屬的事業も夙に擴大されるに至つた。更に萬國博覽會などに於ては、藝のシカゴ、サンデーゴ兩萬國博に次いで一九三九、四〇兩年に互る桑港金門萬國博にも盛大な佛敎デーを催し、デモンストレーションによる外人教會に至大な成果をあげるなど、その活躍は目醒しいものがある。現任總長松陰了諦着任以來の主なる行事を年代を追つて摘載すれば次の如くである。

▲一九三八（昭和十三年）支那事變皇軍慰問使として教團より三上開教使を職線に派遣、サリナスにて第二回全米佛敎信徒大會を開催桑港に於て桑港佛敎婦人聯盟大會を開催、教團制定の禮拜聖典を作製

▲一九三九年須市に於て北加佛敎壯年會聯盟を結成、桑港に於て第一回全米佛敎總聯盟大會を開催、金門萬博で佛敎デー開催
第二回皇軍慰問使として内藤開教使を派遣、北米本願寺護持會を新設

▲一九四〇年北米教團に教區制を施き全米を五教區に分け各教區より一名宛の參事を選出する新制度を設く。
更に佛敎團の現勢概況は次の如くである。

開教使七十名、教會獨立教會四十八、支部教會二百、教會正會員一萬四千名、日曜學校校數九十五校、教師數二百四十名、生徒數一萬五千名、婦人會員六千名、佛教育年會團體數百二十、會員數五千名、ボーイスカウト六團體、日本語學園學園數三十五校、生徒數四千九百名、佛敎信者八萬名

附屬團體及び事業

佛敎の附屬團體並にその事業は概ね開教の進展に伴ひ、且つ時勢の要求に應じて新設擴大され、それは又兩々相俟つて教團の強化に資するところ大でもあつた。今その個々の略歴並に現況を見れば次の如くである。

佛敎婦人會 藝に概略を記せる如く米國に佛敎婦人會が組織されたのは一九〇〇年（明治三十三年）四月二十七日桑港佛敎會に婦人會の誕生せるを嚆矢とする。爾來各地に佛敎會が創立されるに附隨して必ず婦人會の組織されるを見、現在その會員數六千名に及び殊に桑港、灣東地方に於ては一九三五年桑港佛敎婦人聯盟が組織され、常に教會の背後にあつて教會の發展と信念の培養に盡してゐる。

佛敎青年會 北米佛敎の沿革を考へるに當つて見逃すことの出來ぬ二つの特徴がある。一つは佛敎の北米開教は在留同胞自體の欲求と要請によつて行はれたことであり、他の一つは北米佛敎自體が佛敎青年會に依つて出發したものである。即ち初頭に既述の如く北米佛敎は先づ桑港佛敎青年會の名によつて出發し、爾來サクランメント、フレズノ、シャートル、オークランド等々と相踵いで佛敎青年會が結成され、それが現在の佛敎會の前身となつてゐる。

る。斯くて現在の佛教團は先づ各地に佛教青年會の創立を先驅として擴大されて行つたものであるが、のちに佛教會の附屬團體となるに及んで各地に群立する青年會を統一し共通の理想下に進展せんことを期すに至り、一九二〇年の代表者會議に於てこれが機運漸くに熟し、一九二六年一月大谷尊由の北米巡錫の際、當時スタンフォード大學に在學中の寺川湛濟並に桑港佛教青年會の幹部らはこの機を捉へて聯盟の結成を主唱し當時教團内に在つて佛青八團體の贊同下に同年四月二十五、六の兩日に互り桑港開教本部で代表者會議を開いた結果、北米佛教青年聯盟を結成するに至つた。一方シャートルを中心とする西北部各地の青年會は一九三三年に又ソートレーキを中心とする山中部各地の青年會は翌一九三四年にそれ／＼西北部並に山中部聯盟を組織し、斯くて全米の佛教青年會は三大別されるに至つたが、一九三七年に至り更にこれを打つて一丸とすべき議起り、同年サクラメント市で開かれた全米の佛教青年大會に於て遂に全米佛教青年總聯盟を結成した。而してその本部を北米開教本部（桑港）に置き佛青主事がこれが統一聯絡の任に當つてゐるが、右總聯盟の組織状態を見ると總聯盟の下に加州、山中部、西北部の三聯盟あり、加州佛青聯盟は桑港、北加、中加、沿岸、西南沿岸の六支部聯盟を統轄し、又各支部聯盟は該地方の各地教會附屬佛教青年會によつて構成されてゐる。山中部、西北部聯盟の構成又これと同じで、總聯盟には研究部、社會部、運動部、辯論部、宣傳部等の部門あり、又各支部、各聯盟及び總聯盟はそれ／＼年一回の大會を開催することになつてゐる。

女子佛教青年會

次に女子佛教青年會も男子のそれと併行して中加、北加、南加、沿岸と四聯盟に分れてゐるが、これ又一九二六年モントレーに於ける夏季講習會の議場に於て總聯盟結成の氣運熟し、越えて一九二七年七月ホワイト・ポイントに於ける講習會に於て、前記四聯盟代表の協議の結果、遂に全米女子佛教青年總聯盟を結成した。而して右男女兩總聯盟は更に一般の團結をなすべく、一九四〇年に至つて女子總聯盟の男子總聯盟への合流をも可決、茲に名稱も全米男女佛教青年總聯盟と改稱し、今や名實ともに二世團體中の最も大なる團體の一つとして、その

管下に百二十の地方團體と五千の會員を擁してゐる。

佛教日曜學校

日曜學校は教會のつきものである。蓋し「三つ兒の魂百まで」とか、根強き強化は幼少の時より始めねばならぬからである。北米佛教會に於ても各教會とも創立間も無くこれを開設して居り、その數九十五校を數へ、教師二百四十名、生徒一萬五千名に及んでゐる。日曜學校に於ても統一聯絡の要を痛感し、一九三二年桑港に開かれた加奈陀、布哇、米國聯合の佛教日曜學校教師講習會に於て北米佛教日曜學校教師聯盟の結成を協議し、一九三六年に至つてこれを實現した。而して右聯盟は開教本部に直屬し事務所を開教本部に置いてゐる。

北米佛教團の事業

北米佛教團が宗教團體である以上、蓋し教團事業の中心となるものは布教でなければならぬ。従つて北米佛教團の事業の中核をなすものは布教傳道であり、他の間接的附帶事業も歸するところはこの宗教的精神教化でなければならぬ。北米佛教團の總ゆる事業はこの意味に於てなされてゐる。

定例、臨時特別布教

全米の各佛教會は定例の布教陣を布き不斷の努力をつゞけてゐるほか、或は家庭的に個人的に或は又年忌法要に年中行事に或は臨時布教として特殊の目的の下に——例へば本年（一九四〇年）は皇紀二千六百年記念として精神作興布教總動員が行はれるが如き——、又年一回本山より特別布教使を招聘して同胞慰問の布教をなさしめるなど萬全の布教陣を布いてゐる。この他に英語傳道部もある。更に前項團體の章にある如く日校、佛青、婦人會、壯年會などもそれ／＼各年齢層への布教の一翼をなしてゐる。

文書傳道

北米佛教團に於ける文書傳道は一九〇〇年（明治三十三年）の昔に端を發してゐる。同年一月「米國佛教」なる機關誌第一號を發行した佛教團は、その翌一九〇一年四月に英文機關誌「法の光」を發行したが、その後月刊新聞「教團タイムス」を發行するに至り、最近は同タイムス社より時に應じて信仰實話を中心とする傳道用バ

ンフレットを發行し、又日曜學校生徒には毎月給入りの日英兩語よりなる「日校カード」を發行してゐる。

夏期講習會 日曜學校教師の爲に毎年夏季休暇を利用して講習會を開き、教師の指導と向上を圖つてゐるが、本年（一九四〇年）までにその數十回を重ねてゐる。なほ本年は更に夏季大學を開校し一般的にも宗教講座並に精神文化に關する講座を開くことを計劃してゐる。

ボーイスカウト 軍隊式訓練の下に青少年を教育せんとするボーイスカウト運動にも手を染め、既に數ヶ所の教會でこれが經營に當つてゐる。

日本語學園

北米佛教團が日本語學園を經營する目的は、他の獨立學園のそれと自ら異なるものがある、即ち一つは日曜學校經營目的の延長でもあり、他の一つは昔に日本語を教へるのみではなく、宗教的精神教育を施して日本の精神文化と、佛教精神を體得せしめ圓滿なる人格の養成に資せんことを標榜してゐる。佛教團がその開教師を學園教師に兼用し殆ど全教會に邦語學園を經營せしめてゐる所以で、サクランメント佛教會の附屬學園（一九〇三年創立）の如きは加州に於ける最古の學園の一つであり同年四月十九日桑港佛教會にも明治小學校なる附屬日本語學校が設立されたが四ヶ年にして閉校されたが現在佛教系の學園は三十五校、生徒數は四千九百と數へられてゐる。

日本留學生の派遣 北米佛教財團の一事業として近時第二世の優秀者を選抜して、日本に留學せしめる事が行はれてゐる。これは日英兩語に通じ東西兩文化に精通する開教使を養成して二世及び外人の教化指導に當らしめる爲のもので、既に角田昇、久間田顯了の兩名は日本に留學し正式に開教使の資格を授けられ、目下本部と羅府に於て活動中である。

外人教化

外人への教化は二世のそれよりも遙かに古く具體化され、既に一九〇〇年正月に白人佛教研究會の發會式をあげ、同年四月には既述の如く三寶興隆會を組織した、その後増山總長時代に入つてロバート・クリフトン

が先づ白人開教使の皮切りをなし、以來フランク・B・ユテール、リチャード・ブラザー、シユリアス・A・ゴールドウォーター、スニア・N・ブラット、ヴァイオレット・I・ホワイト夫妻など相踵いで白人傳道師出で、桑港、羅府、タコマ等に於て碧眼に法衣をまとひ數百人の白人信者を相手に佛道を説いてゐる。

學生寄宿舎

家庭を遠く離れて大學その他の學校に學ぶ學生の爲に家庭的で經濟的なホームを與へ、而も起居のうちに團體的又精神的宗教的訓練と情操を與へ信頼し得る、監督の下に安心して勉強出來得る寄宿舎こそ必要であるとの建前から、教團でも加州大學に近いパークレー佛教會に男子及び女子の學生寄宿舎を經營してゐる、いづれ桑港その他の都市にも同種の寄宿舎が計劃されてゐる。

北米佛教團と恤兵、慈善、救濟事業

北米佛教團は又布教傳道の旁ら各種國民の義務、赤心履行に佛教徒としての本分を盡してゐる。これは強ち佛教徒のみではなく他宗も亦各々の立場からその本分を發揮してゐるが、北米佛教團は殊にその強大な教勢全線を動員して、今次支那事變に於いては故國の國民精神總動員に呼應して『精神總動員』を計劃するが如き、或は日露戰役に關東大震災に、或は明治、大正兩天皇の崩御に獨自な立場から率先至誠の限を盡してゐる。今その年代を追つて示せば次の如くである。

日露戰爭と佛教徒の報國

明治三十七年二月十日、日露開戰の報傳はるや、在米同胞の緊張は極度に達し、報國義金、恤兵獻金、赤十字社、愛國婦人會等々を通じて同胞の報國至誠溢るゝものあり、佛教團も桑港を始め各教會を動員してこれに参加し、一方翌年の十二月三日にはサター街の金門會館に於て日露戰役戰病歿勇士の大慰靈祭を催し、領事館代表並に各團體の代表の慰靈の辭、恰も來桑中の釋宗演の説教などあり、當夜の會衆約八百より集めた

義捐金六十弗五仙を愛國婦人會に献納し、同會より三等有功賞を贈られた。

明治大帝の崩御と佛教徒 明治四十五年（一九一二年）七月三十日、明治大帝崩御の悲報至り、在留同胞の哀愁その極に達し、佛教團では桑港佛教會に於て同日御速夜より向ふ一週間朝夕二回諒闇法要を厳修し奉り、更に諒闇法要の御満會に當る八月四日には永井松三桑港總領事を始め各方面の代表百六十餘名参列下に敬弔法要を厳修した。各地教會も亦これに倣つた。

スペイン風邪と收容所 一九一八年（大正七年）一月全米にスバニツシ感冒猩癩を極め、同胞の罹病、死亡巨數に達し、集會禁止及びマスク令發布せられたが、桑港佛教會は桑港大震災當時に於いて避難民收容救済所を設置した如く、今回も病院の満員で收容し得ない罹病者の收容所を設け婦人會及び同會幹部らが看護の任に當つた。

關東大震災と救済事業 大正十二年（一九一三年）九月一日、關東大震災の報至るや、各地教會、附屬各團體を動員して、桑港總領事館内に臨時設置された故國災害救済會と協力、委員を擧げて連日連夜義捐及び物品の集收、慰問袋の調製に狂奔する一方、九月八、九の兩日にはマーケット街、金門公園、海岸遊覽場など約十二ヶ所に少女會並に日曜學校男女生徒を動員し、桑港警察の許可の下に市民の同情に懇へて花賣りをなし、二日間にして千二百五弗九十二仙をあげ、これを救済本部へ急送した。越へて翌一九二四年には八月三十一日大使館一等書記官武富敏彦夫妻、桑港總領事大山卯次郎その他各團體代表三百餘列席の下に盛大嚴肅な惨死者一周年追悼法要を催した。

大正天皇の崩御 一九二六年（大正十五年）十二月二十五日大正天皇崩御の悲報至り、開教本部では官内省に御弔電を申上げる一方、翌二十六日より三十日まで諒闇法要を厳修し奉り國民的哀悼の意を表し奉つた。なほその後翌一九二七年（昭和二年）一月二日には英國御留學中御父大正天皇御備み重らせ給ふと聞き急遽英京を御出立あらせられた秩父宮殿下が、その御途中にて陛下崩御の悲報に接し給ひ、哀愁の裡に御着桑、フエヤモント・ホテルに御

投宿遊ばされ、翌日サイベリア丸にて御歸朝の途につかせられた。殿下の御胸中を拜察して同胞の哀悼一入なるものがあつた。

支那事變と教團總動員 一九三七年七月七日支那事變勃發するや、北米佛教團は事變に對處する佛教徒の本分を盡すべく、一九三八、九及び四〇年の三回に亘る開教使及び信徒代表者會議に於て、各種銃後の決議をなし八萬の信徒を動員してそれが實行に移す一方、直接には二回に亘つて皇軍慰問使を派遣し又、教徒の手になる献金、慰問袋献納なども巨量に上つてゐる、今その三ヶ年の決議事項を見れば次の如し。

- ▲一九三八年度事變については殊に精神作興運動に力を入れること。例年事變記念日の七月七日前後をトシ各地教會は地方の事情に應じて事變戦病疫勇士の追悼法要を營むこと。恤兵献金、慰問袋は如何なる團體を通じてとも佛教徒としての本分を盡してこれが實行を奨励すること。三上皇軍慰問使を派遣すること。
- ▲一九三九年度事變については前年通り精神運動に一層力を入れること。日本語教育は精神運動と相俟つて力を入れること。第二回内藤慰問使を職線に派遣すること。
- ▲一九四〇年度精神作興總動員運動を開始すること。

萬國博覽會と佛教徒 遠く一八九三年のシカゴ萬國博以來、佛教徒は米國に萬國博の開催される度に佛教大會乃至は佛教デーを催してゐる。既述シカゴの萬國博には宗教大會、桑港のパナマ萬國博には世界佛教大會を催し更に一九三三年再度シカゴに開かれた萬國博には前回同様宗教大會が開かれ、桑港よりは北米佛教團開教本部の増山總長が寺川湛濟らを帯同、又金光教會よりは福田美亮、大坪覺治らその他が出席し、更に一九三五年のサンデーゴに於ける萬國博及び一九三九、四〇兩年に亘る紐育、金門兩萬國博には盛大な佛教デーを催し、萬博會場の一偉觀を呈する一方、日本佛教を數萬の群集に紹介するところあつた。

各地教會の略史及び現勢

桑港佛教會

桑港佛教會は既述の如く北米佛教團の母胎をなすものである。その創立も最も古く、即ち一八九八年七月桑港佛教青年會として呱呱の聲を擧げ、同年九月二十四日には本願寺出張所として開教の基礎を固め、更に一九〇五年桑港佛教會と改稱して以來、同佛教會は常に北米佛教團の中心道場の地位を占めて來た。一九一四年に至り同教會堂内に北米開教本部が設置されるや本部と同教會は更に不足不離な關係に結ばれ、一九三八年舊教會堂の跡に佛教團最大の稱ある北米本願寺（前稱佛舍利寶塔）が建立されるや、同教會は擧げて同本願寺内に移り、最大の會堂の中に在つて而も壯嚴華美を極める内陣をその聖堂として同胞教化に努めてゐる。附屬團體並に事業既述以外に一九二一年五月創立の桑港學園を經營し、母の會、同窓會の組織團體もある。又教線は南はビスカデロ、パロアルト、サンマテオ、レッドウッド、ベルモントの五區、北はユカヤ、マリナー郡一帯及びナツパ區を含み、その教區實に七郡に及び、最近に至りソノマには園滿寺の建立を見た。

なほパロアルト、サンマテオ、ビスカデロ三佛教會並にサウサリト支部には常駐開教使なき爲、桑港佛教會の開教使が兼任し、定期、不定期に出張してゐる。因にサンマテオ佛教會は一九一〇年（明治四十三年）二月二十日の創立になり、會堂は同市第二街二一四にあり、男女佛青、婦人會並に日曜學校を營んでゐる。

櫻府佛教會

同教會は桑港佛教青年會が組織された翌年即ち一八九九年（明治三十二年）十二月十七日の創立になるものである。この年北米開教の祖蘭田、西島兩開教使はサクラメント市第三街一二二〇に櫻府佛教青年會を組織し、間も無く會館の狹隘を來たしたので翌年現在のオー街四一六に移轉し、その翌一九〇一年には加州政廳より佛教青年會として正式に認可され、加州に於ける公認佛教青年會の嚆矢となつた。同教會はその後急速に發展し婦人會

を組織する一方、會館に隣接する同街四一八の新會館並に敷地を購入し、一九〇一年八月十二日に再度の遷佛式を行つたが、一九二三年（大正十二年）四月十五日に至り墨國人パテイラなる放火狂の魔厄に逢ひ會堂、寄宿舎を全焼した上、童兒十名を燒死せしめる慘劇に會つた。會員並に關係者は痛歎の中にも再興を期して奮起し、一九二五年（大正十四年）五月二十一日、工費三萬弗を投じて現在の會堂を新築し、更に同様三萬弗を投じて附屬日本語學校櫻學園の校舎をも所有した。前記教會堂は坪數五千五百五十平方呎の大建築物で總煉瓦二階造りとなつて居り、學園校舎も亦五千二百五十平方呎の地域を占めてゐる。同教會の教線區域はコルサ、チーゴ、オロビル等に及び、附屬佛教會としては同市を去る五十哩の地にメリスビル佛教會を有し、毎月二回づつ同教會の開教使が出張してゐる。出張所はこの外にオークパーク、ヨローロ、コートランド、ルミニス、リスボン、リバーサイド、ボートランド、リオリダなどにあり、桑港にも次ぐべき大きな教會である。附屬團體及び事業には婦人會、男女佛青、ボーイスカウト、學園、幼稚園などがある。なほ附屬佛教會メリスビルは一九三一年（昭和六年）一月十二日の創立になるもので、メリスビル市ビー街一一三にあり、婦人會、スマイレ會、日曜學校等を營んでゐる。

本願寺布市別院

一八九九年十一月、時の桑港駐在開教使西島覺了はフレスノに巡教せるを機として、同市の有力者と計り桑港佛教青年會フレスノ支部の設立を計劃、その端緒を拓いたが、翌一九〇〇年一月二十八日、桑港佛教青年會幹事灰田勝五郎の奔走により遂に支部の設立なり、エフ街八二五に借家して會堂とした。越えて翌一九〇一年一月には初代開教使として朝枝不朽が着任し、これを獨立せしめてフレスノ佛教青年會と名稱した。朝枝はその翌四月八日同敷地に木造三階の新會堂を新築したが、同會堂は一九一九年に火災の爲全焼した。不慮の災難に奮起した佛教徒は直ちに復舊工事に着手し、一九二〇年十一月には工費四萬五千弗を投じて現在の如き和洋折衷丁字型の宏壯な三階建て會堂を新築した。（同青年會がフレスノ佛教會と改稱されたのは一九一七年である）同教會はその後發

展の一路を辿り現在教線区域は出張所だけでもマデラ、バイオラ、カーマン、莓地方、野菜地方、ブラックストン、クロビス、オレアンダー、マンモス、フアラ、セルマ、キングスバーク、ロンスタ、サンサイド、南サンガー、北サンガー、テルレー、リードレー、ダイニユーバー、テロサ、バイセリア、等と二十ヶ所に及び、一九三六年には本願寺フレソノ別院に昇格された。現在主任以下四人の開教使が常駐してゐる。なほ附屬團體及び事業は婦人會（バイオラ、ダイニユーバー、ボールの三佛教婦人會も統轄す）男女佛教青年會、ジュニア佛教會、日曜學校、布市日本語學園、幼稚園などがある。

シヤートル佛教會 一九〇一年（明治三十四年）十一月十五日、波多野昇道、山村次郎ら發起人七名は桑港駐在の西島開教使を迎へてメイン街六二四に佛教青年會の發會式を擧げ、翌年五月には本山より中井玄道が初代開教使として派遣された。中川玄道は布教の傍ら青年の爲に英語學校の開設や遠くポートルランドにまで出張布教し一九〇三年一月十八日にはベングレツ島ポートルブラックレーにも出張說教所を建立した。更に同佛教會はその後寄宿舎、圖書館等を設置して、教線の擴充を圖つたが、その後ポートルランドに佛教青年會が新たに組織され若林性隨が駐在するやうになつたので教線はワシントン州内に限られるに至つた。然し同佛教會は、妻女渡米の引受け、船上での結婚式など凡そ同胞に關する萬般の仕事は全部佛教會で行ふといふ始末であつたので、教勢も益々擴充し、一九〇八年十一月には豫算二萬弗で現在の會堂を新築した。斯して同教會は引つゞき婦人會も組織し、更に一支部十數ヶ所の出張所も新設し、その當時既に四千名の信徒を有してゐた。然し一九一二年十月には白河支部教會が、一九一八年末にはタコマ佛教會が、一九二九年にはヤキマ佛教會がそれら同教會より分離獨立し、沙港佛教會の教線は頓に縮少され、剩さへ青年會館を建設せんとする矢先、特約太平洋銀行の閉鎖に會ひ財政的な致命傷をまで蒙るに至り、沙港佛教會は開教使の給料を二割までも減額するといふ衰退ぶりとなつた。だが現在は開教使優遇基金二千弗もつくり、

更に家庭集會佛典研究會、路傍傳道、英語佛典研究等が開始され、米人の參詣者も多く現はれ、會員こそは隆盛當時の五分の一にも足らないが漸次に内外共に充實しつゝある、附屬團體としては婦人會、ロータス佛教青年會、アソカ少女會、ツロージャン少年會、キャンプファイヤーガールズ等あり、日曜學校も分校などをもつて廣く營んでゐる。因に同佛教會は英語學校を一九〇二年に、邦語中學校を一九二七年に開校したが、現在はともに廢校となつてゐる。

佐市佛教會 サンノゼ市に佛教會が組織されたのは一九〇二年（明治三十五年）八月二十八日であつた。然し當時は未だ常駐開教使を招致するに至らず、月に一回乃至は二回宛桑港佛教會から開教使の出張布教を見る程度のものであつたが、一九〇六年に至り本山當局に懇請の結果、同年八月二十五日初代開教使として高橋豊念着任し、愈々本格的な活動に入り、翌一九〇七年二月十三日には新會堂を落成し、婦人會青年會などの組織、日本語學園の經營などその活躍は目覚ましいものがあつたが、端なくも會堂敷地購入問題からんで信徒二派に分離し、更に高橋豊念と開教本部の意見また對立し、遂には高橋の獨立宣言となり、一方には佐々木行應を迎へての本願寺佛教會新設現在の學園となり、兩者對立反目すること十ヶ年に及んだが、一九一七年六月市村滿成の本願寺佛教會着任に及び、身を挺して兩者の調停に努めた結果、同年七月二十八日に至つて遂に十年間の抗争を止め、兩者の合流復活なり爾來教勢は頓に隆昌し今日に及んでゐる。附屬團體並に事業状態を見れば婦人會、男女佛青會、洗心會、ロータス俱樂部、母の會などあり、日曜學校、サンノゼ日本語學園、夜學校を經營してゐる。更に同教會はマウンテンビュー、サンマートン、ギルロイ、アルビン、ツリンビルロード、メリケンコーナー、ベリアサ等にも出張布教してゐる。

王府佛教會 オークランドに佛教青年會が組織されたのは一九〇三年の秋である。その創立の経緯を見るに、一九〇〇年頃、桑港佛教會駐在の水月哲英はオークランドに住む同郷人（福岡縣糸島郡）原田猪太郎らに招ぜられて月一回づゝ出張法話を催してゐたが、それが端緒となつて、遂に佛教團の組織要望となり、一九〇三年九月同市第七

街に青年會を組織した。當時はまだ主任開教使駐在せず、桑港から出張してゐたが、英語學校の經營婦人會の組織など教線の擴充されるにつれ、主任の必要に迫られ一九〇五年正月初代開教使として藤井默乘を迎へた。同年五月には會堂を第五街三〇五に移轉擴張し、隣接のアラメダにも出張所を設け、更にアラメダ郡佛青も組織するなど主任開教使の着任と共に王府佛教會（一九〇六年に改稱）の教勢は頓に擴大され、同年十月には第六街七一の土地家屋を五千二百餘弗で購入移轉、一九一二年には再び狹隘を來たして同街三一三に移轉、同所に於て一九一六年四月には王府中學院、佛教英學校を開設、同年六月には更に王府學園と幼稚園、七月には小學部を設けるといふ急速な發展ぶりを來した。而して一九二七年に至り三萬七千弗を投じて第六街とジャクソン街角に現在の大會堂を新築し、一九二九年に至つて一部を燒失したが間もなく七千弗を投じて男女佛青會館を併立し今日に及んでゐる。附屬團體は婦人會、男女佛青、男女佛少年などあり、日曜學校、附屬學園、幼稚園を經營してゐる。

ポートランド佛教會

沙港佛教會の項に於ても記した如く同佛教會は一九〇三年（明治三十六年）十一月中旬、沙港佛教會より分離獨立、初代開教使若林性隨を創立委員長として先づ最初にはポートランド市第四街四三に二室を間借りして開教を始め、次いで一九〇五年二月一日に第一街四十八番に移轉擴張青年の宿舍もつくつて就職などの周旋をしたりした。越へて一九一〇年、各方面の喜捨による淨財二萬三千弗を投じて第十街八六に現在の新會堂を落成した。教勢範圍は同市を中心として六ヶ所に支部あり、日曜學校のほかには日本語學園を經營してゐる。

喜郡佛教會

キングス佛教會は他の佛教會が比較的順調に發展したのに比し盛衰を極めてゐる。同郡一帯は一九〇二年頃より布市佛教會の朝枝不朽開教使によつて隨時布教が行はれてゐたが、一九〇五年に至り初代開教使指原秀雄の着任により、教會堂も第七街三一四に敷地を購入して建築、教線も頓に擴張されたが、一九一〇年二代開教使佐藤味法の時代に至つて、同開教使が主として日本人會の事務に携つた爲、教勢は急凋落を見た。一九一七年三代開

教使猪野番苗の時代に至つて、教勢稍々復活し會堂も再築四代原田正見（一九一九年）の着任により日曜學校も新設したが、これ又三年にして閉鎖、一九二二年十一月原田の辭任歸國以來五ヶ年間は開教使の不在となり布市佛教會より出張布教といふ衰頹ぶりを呈するに至つた。一九二七年に至り五代津村得城着任して教勢再び復活、一九二九年には現在の北グリーン街に土地を購入、會堂の増築にまで至つた。六代横越慶祐を経て日南義演となり、現在河野行道の下に目下教勢擴充に努めてゐるが、その間放火未遂事件もあり波瀾を生んだが同事件も一九三二年圓滿解決した。附屬團體として佛教婦人會、同青年會あり、日曜學校、附屬日本語學園も經營してゐる。

本派本願寺羅府別院

南加地方の佛教移入は同胞の移住に伴つて行はれた。一八九八、九年頃（明治三十一年、二年）同胞は南加の新天地へと陸續移動し、その經濟的地歩も日を追つて堅實化して行つた。爰に於て同胞は精神的慰安所たるべき父祖傳來の佛教を渴望するに至り、一九〇五年（明治三十八年）十月一日現在の羅府別院の前身たる南加教會創立を見るに至つた。羅府ジャクソン街の一角に堂々の教陣を構へ傳道の火蓋を切つた佛教はその後急速に發展して行つたが、大正初年に至り、内紛生じて南加佛教會、中央佛教會、羅府會の三派に分裂し、同志相搏つこと五ヶ年に及んだが、大正六年に至つて和協なり、三派合して爰に羅府本願寺佛教會の確立を見るに至つた。斯て教勢は遠く市外平原一帯に迄擴大し一九二五年には遂に二十萬弗の巨費を投じて北セントラル街角に現在の一大殿堂を建築するに至つた。而して昭和六年には本派本願寺羅府別院に昇格、附屬團體には佛教婦人會、男女青年會。（各地に分會あり）ボーイスクラブあり、日曜學校十一校、日本語學園三校を經營してゐる。

華村佛教會

一九〇五年頃ワツソソビルには在留同胞二千を下らぬ盛況を呈してゐた。當時新世界新聞支社主任赤木の唱導により、佛教會聖堂創建の議成り、翌一九〇六年にはオペラハウスを會場として桑港、オークランド、サクランメント、フレズノ、羅府等よりそれ／＼駐在開教使を招き盛大な佛教發會式を擧げ、翌一九〇七年には井上盡

奥を初代開教使として招き、翌年十一月一萬三千弗を投じて會堂を新築した。(ブリッヂ街一〇七)同教會は極めて順調に發展し教會堂の他に三戸の附屬住宅も所有經營してゐる。教勢は同市の他にウキスキヒル法話會並にサンタクルーズ、サンオンホリスターに各出張所を持つてゐる。附屬團體には婦人會、男女佛青、サンタクルーズ佛女會、サンオン佛青、同ボーイスカウト、華村佛教少女會、同ボーイスカウト、護持會、信用組合等あり、日曜學校も經營してゐる。

須市佛教會

スタクトン市に佛教開教の聲があがつたのは一九〇六年頃であつた。然し當時は未だ在留邦人も少なく獨立教會維持は困難な爲め桑港佛教會須市支部に止まつてゐたが、漸次に教線擴大し一九〇七年二月十五日には南マデイソン街に假會堂を設置して田中諦心を初代開教使として迎へた。斯くて獨立した須市佛教會は再度會堂を移轉擴張したが、尙不足を來たし、一九一二年七月十七日には法人組織に改めて附屬日本語學校と共に加州政廳の公認を得、更に一九二四年には財團法人を組織し、二萬六千餘弗の資を投じてワシントン街一四八に現在の會堂を新築した。爾來内部の整備充實と地方教線擴張に精進しフレンチキャンプ、チエロキーレーン、リーストラックの三個所に日曜學校を開始し、一九三〇年には多年の懸案とされてゐた日本人共同墓地の整理を行ふて、今日に至るまで發展をつけてゐる。附屬團體は婦人會、勝友會、男女青少年會などあり、日曜學校七校、須市日本語學園を經營してゐる。

畫村佛教會

同佛教會の所在地たるサンタマリヤ平原に大和民族が第一歩を踏み入れたのは一八九九年(明治三十二年)の頃、ベトラビアのユニオン砂糖會社に關係ある仕事を求めてであつたが、爾來同胞の移住年毎に増加し一九〇九年に至つてその數五百を數へるに至つた。その當時既に現日本人會の前身である日本人協議會の組織あり、右協議會によりて佛教會堂建設の議まとまり、羅府駐在の泉田準城を初代開教使として一九〇九年正月釋御堂を設置開教の火蓋を切つた。然るにこゝに特筆すべきことは同教會創立當初より將來宗教上の軋轢を生ぜざらんことを考慮し全員一致の賛同下に教會を創立したもので、他の教會に見る如き一部の信徒の團結によつて創立されたものでない

ことである。それだけに同佛教會の發達は至極順調にして一九一四年には日本人會事務所をも兼用する工費四千五百弗の現教會堂、翌一九一九年には寄宿舎を建設し、附屬學園を開校した。尤も右學園は一時羅府兒童寄宿舎保護局より設備不完全の理由を以て閉鎖を命ぜられた爲、一九二一年に至つて木造二階建の新校舎を建築し、更に同年は教會堂も日本人會と分離して完全に獨立した佛教専用の會堂とし、その教勢もベトラビア、サンタマリヤ、オサフラコ、ランボーク四ヶ所に出張所を持ち附屬團體には婦人會、男女青年會あり、日曜學校も二校經營してゐる。

ペーカスフキールド佛教會

同地の開教は一九〇六年頃より二年間布市教會によつて行はれてゐたが、一九〇八年に至つて佛教青年會を創立、エム街二二〇三に假會堂をつくり圓福常照を會長として開教の火蓋を切つた。爾來サンタファイ・キャンブに出張所を設け、或は會堂に夜學部を設置するなど教勢大いに上り一九一一年にはエム街二二〇七に三千三百餘弗を投じて現在の教會堂を新築した。その後數ヶ年開教使の異動繁く、七代目開教使樹心院眞堂の辭任後約五ヶ年間も無住の儘で過し、一時教勢の衰微を見たが、一九二八年米村伊周の着任以來再び活況を呈し、爾來順調な發達を遂げてゐる。附屬團體には婦人會、青年會、スマイレ俱樂部などあり、日曜學校、附屬日本語學園も經營してゐる。

バカビル佛教會

同地は加州に於ける同胞農業者最初の就働地でその沿革は凡そ一八八〇年頃に始まる。一九〇〇年に至つて同胞の人口も經濟的基礎も固定の形を整へ、爰に於て同胞間に佛教渴望の聲揚り、一九〇三年同地の有力者四十餘名を設立委員に擧げ、同年六月六日、同市元春日亭の跡に設けた會堂で盛大な發會式を擧げた。これ實に同佛教會設立の發端であつた。而して一九一二年に至り約四千弗を投じて現佛教會堂を設立、現在はその教勢もウインターズ佛教會(一九一五年創立)スースン佛教會一九三一年創立)ギンダ出張所をその教線内に入れ、毎月一回づつ、同佛教會より開教使が出張布教してゐる。附屬團體には婦人會、男女佛青會あり、日曜學校並に附屬學園を經

營してゐる。

麥嶺佛教會

麥嶺地方に於ける布教は一九〇八年頃より一九一一年までは隣接王府佛教會に依存してゐたが、同年五月十一日、オール・トフエロース・ホテルに於て佛敎青年會の發會式を擧げ、以後も引つゞき王府佛教會より開教使の出張を仰いでゐたが一九一八年八月に至り專任開教使として永井慶哉着任して獨立の體制を整へた。而して一九二〇年に至り現會堂を敷地ともに購入爾來日曜學校の開設、クラーク博士を主體とする個人傳道の開始、夏季學校の開設等教勢も大いに揚り、一九二四年に至つて附屬邦語學園の創立問題が起つたが、宗派に偏する學園の要を認めずと反對派の猛烈な阻止運動起り行儀みの形の儘一九二五年八月に至つて漸く開教されるに至つた。爾來教勢も基礎鞏固となり、殊に同地は加州大學の所在地である關係上、學生専用の寄宿舎も併設し學生の勉學に寄與してゐる。附屬團體には婦人會、男女青少年會、藤の花クラブなどある。

サンタバーバラ佛教會

同地に同胞が足跡を印したのは一八九五年(明治二十八年)頃であるが、一九二二年頃に至つてその數も殖へ爰に於て近接のガタルーブ佛教會より開教使出張あり、布教所を設立するに至つたが、爾後もなほ同佛教會の出張所的地位にあり、一九二二年木造二階建の現會堂を設立、越へて一九二四年九月に至つて始めて專任開教使豊田善基着任し、獨立教會としての面目を整へるに至つた。爾來日曜學校の開設、婦人會男女佛敎、邦語學園の創立等々矢次ぎ早に各施設を完備しその教勢も頓に擴大、二代開教師澤田、三代山口を経て現在毛利開教師教線の擴充につとめてゐる。なほ同會はモンテシト、サンマールランドの二ヶ所に出張所を持つてゐる。

山中部佛教會

同胞が鐵道ギヤングとして山中部に移住し始めて四十餘年になる。最初は數十名に過ぎなかつたが、逐年増加し一九二二年(大正元年)時の開教總長内田晃融が同地に巡錫し、オグデン市にて先亡同胞の追悼會を營んだのが現佛教會創立の動機となつた。間も無く初代開教使桑原賢亮着任してオグデン市に山中部佛教會を創立

した、これに併行してソートレーキ市にも同佛教會の支部鹽湖佛教會が創設されたが程なく主客を逆轉して鹽湖佛教會を本部にオグデンの山中部佛教會を支部の如き立場に置くに至り、一時教勢の衰退を見たが、一九一七年に至り西本卓然開教使の着任により、山中部佛教會を本式にソートレーキ市に移し、一九二三年十二月、同市西第一南街二四七に三萬六百餘弗を投じて現會堂を新築した。爾來各附屬團體、附屬學園などの設立を見教勢頓に擴張され今日に及んでゐる。同教會にオグデン佛教會、セラキユース求道會、南ユタ州、北ユタ州、ワイオミング、アイダホ、ネバタ諸州をもその教線區に置き、山中部一帶の佛教徒の中心道場となつてゐる。附屬團體には婦人會、男女青年會あり、日曜學校セラキユース分校、オグデン日曜學校並に附屬邦語學園も經營してゐる。

奧殿佛教會

前記の如く山中部佛教會をソートレーキ市に移されてより、一時消滅状態にあつたのを、一九二六年大谷尊由の巡錫を機會に二三信徒が求道會といふ名目を附して毎週金曜を集會日とし、目下六十名の會員を擁し、山中部佛教會支部教會とし活躍してゐる、附屬團體として母の會を持ち日曜學校を經營してゐる。

白川佛教會

同佛教會はワシントン州オープン市にある。同地に佛敎が移入されたのはシャートルに佛敎會が創立された一九〇一年直後同佛教會の中井支道師の布教開始に始まる。その後一九一二年に至つて開教使守田恒喜の卦任あり同地方一帶の居留同胞の支持下に日本人會々館を借用して布教場に兼ね、日本語學校を開設、翌年に至りタマス市に一家を借りシャートル佛敎會支部白川佛敎會を創設した。爾來教勢廣まり一九一八年には豫算六千弗を以て新會堂を建設、日曜學校の開設、次いで教區オーバンには同様日曜學校を開設するなどして擴張に擴張を重ね、一九二九年には新たに七千弗を投じて現在の會館を新築した、教線は遠くオーバン、ケントオロリヤ、エナムクローにも及び、現在はシャートルに次ぐ教會となつてゐる。附屬團體として婦人會、青年會あり、日曜學校を經營してゐる。

パロアルト佛教會

桑港佛教會の支部教會として一九一四年六月七日に創立、その後寺川湛濟の專任となつて

以來獨立教會となつたが、現在は再び専任なく桑港佛教會より主任開教使が出張布教してゐる。

アラメダ佛教會

同地に佛教會が創立されたのは一九一五年一月二十五日である。それは隣接王府佛教會の支部としてあつて、同會が獨立したのは一九一六年一月四日であつた。篠原智城を初代開教使として迎へ、それ以來信徒間には會員募集の猛運動起り、遠くキャストロバレー、アービングトン、マウントエデン等にも教線を擴大し更に日曜學校、佛教青年會、野球團なども矢繼早に組織され、一九一六年現在の會堂（同市富豪の住宅）の一室を間借りしてゐたのを、遂には四千四百弗を投じて會堂敷地ともに買受け、更に二千弗を投じて今日の如く改造した。更に同教會は一九二五年六月には工費六千餘弗を投じて平家建ホールをも新築しその教勢區域もサンリアンドロ、キストロバレー、サンロレンゾ、マウントエデン、アルバード、ニューワーク、セントビル、アービングトン諸地方に及び、隆々たる發展ぶりを見せてゐる。附屬團體には婦人會、男女佛青、エデン佛青、少年クラブ、光明クラブ等あり、七ヶ所に日曜學校を經營してゐる。

傳馬佛教會

同佛教會はコロラド州の所在地デンバー市にある。同地に布教が開始されたのは一九一五年本願寺差遣の八淵幡龍と、それに隨伴して桑港駐在の小野徹照が巡教せるに始まる。而してその翌一九一六年に至り居留同胞間に佛教會創立の議起り、小野師を初代開教使として同會の創立を見るに至り會館も現建築物を購入して改造した。小野徹照は同地に駐在實に十四ヶ年に及び、教勢の擴張内部の充實に努め、その功績至大なるものがあつた。一九二九年に至り、二代開教使として大内義直着任、更に一九三二年より玉井好孝三代目に就任し、教線は今やコロラド全州の他にネブラスカ、ワイオミング兩州を含む六百哩の遠くに及んでゐる。十九ヶ所に出張所を持ち、附屬團體としてはデンバー、ラプトン、ブライトン三ヶ所に婦人會、ラプトン、デンバー、ブライトン、ロングモント、ラハラアラモサ、ブランカ七ヶ所に佛教青年會、ラプトン、ブライトンの二ヶ所に佛教女子青年會を持ち、附屬事業として

同教會に佛教學院を持つた、デンバー、ラプトン、ブライトン、ロングモント、オールト、ラムラ・アラモサ、ブランカ、セヂウキツク、クローレイ十ヶ所に日曜學校を營んでゐる。

ブラサ佛教會

加州ブラサ郡ペンリンに在り、抑も同地開教の發端は一九〇〇年頃同地在住の田中新太郎が自らボギーを持つて三十哩を距たるサクラメントに赴き、同地佛教會駐在の原田準城開教使を伴ない歸り、一夜の法話を備したに始まる。而して一九〇二年には二千弗を投じて會堂を新築、爾來毎月一回ブムサクラメント佛教會より、出張布教が行はれてゐたが一九一五年十月に至り、初代専任開教使水谷道俊を迎へて獨立した。爾來教勢擴張し一九二〇年には工費六千弗を投じて現在の會堂を新築、ブラサ佛教會と名稱してブラサ郡一體を統轄、更にオーブン佛教會もその教勢區に入れ、今日に及んでゐる。附屬團體に婦人會、佛教少女會あり、日曜學校並に日本語學園を經營してゐる。

オーブン佛教會

同地は不毛の荒野であつたのを同胞が開墾したもので、従つて移住者も十指に足りなかつたが、年々増加し一九一五年には既に佛教會創立の議まで起るに至り、初めは假會堂で法悦に浸つてゐたが、一九二六年十月工費五千弗を投じて現在の會堂を新築した。但し専任開教使なく、ブラサ佛教會より定期出張し、會堂は學園に充てられてゐる。

不老林佛教會

同胞のフロリン地方移住は遠く一八九六年頃に始まる。當初はその數未だ十指を屈するに足らぬ状態であつたが、一九一二年頃に既に千を以て算するに至り、従つて佛教渴望の聲も漸く盛んになるに至つた。然し當初は未だ近接のサクラメント佛教會より開教使の出張を仰ぐ程度であつたが、信徒會衆漸増するに及び一八一八年三月、初代開教使杉山覺道を迎へて獨立教會を創立した。而して現在の教會堂（フロリン市二番地）を工費四千五百弗を投じて新築したのはそれより二年後の一九二〇年三月二十一日であつた。爾來日曜學校、婦人會、ウリロン幼稚園、日本語學園、男女佛教青年會等を組織經營する一方教勢も漸次に擴大して大正區、エルグロブ、シ

ヤクソン、エルダークリーク等を教區とする一方、日本語學園校舎の新築、エルダークリーク分校の創設等を行つた。

タコマ佛教會

同教會はワシントン州タコマ市にある。同教會がタコマ佛教會として創立されたのは正確には一九一九年四月であるが、沙港佛教會の開教使による開教は一九一〇年頃から始められてゐた。而して初代開教使木谷斷流の着任以來同胞の大半は漸次に佛門に歸依し極めて順調な發達を遂げ、一九三一年には四萬弗の巨費を投じて西北都有数の現會堂を新築した。附屬團體には婦人會、更生會、男女青少年會あり、日曜學校、日本語中學校を經營してゐる。

エルセントロ佛教會

帝國平原に於ける同胞の歴史は極めて新しい。コロラド河の沿水工事を目指して廣漠たる同沙漠地帯に同胞が乗込んで來て漸次に農耕の舞臺を開拓し永住の樂土として腰をおちつけ始めたのは漸く一九二〇年頃の事である。當時羅府別院によつて布教が行はれてゐたが、一九二五年に至つてエルセントロ本願寺佛教會として獨立し、同年七月には工費四千六百弗を投じて現會堂を建立した。更に一九二八年には三千弗を費して附屬學園校舎を新築、三臺のスクール・バスを走らせて兒童の送迎をするなど、教會、學園共に一時著しい發達を見せたが、經營問題にからんで教會幹部と學園幹部の意見對立し、遂に學園は教會と分離されるに至つたが、その後解決して今日圓滿に行つてゐる。附屬團體に婦人會、男女青少年會あり、日曜學校並に邦語學園も經營してゐる。

サリナス佛教會

一九二二年、華村佛教會の石黒成章師が來教し一夜の法話會を催したのが同佛教會創立の發端である。會集せる信徒は引つゞき集會して求道機關設置の運動を起し、越へて一九二四年には佛教會創立の發會式をあげ一九二六年四月一萬弗を投じて現會堂を新築した。爾來日曜學校、婦人會、龍谷學園、男女青年會等の組織並に經營も行はれ、更に一九二九年に二萬弗の巨費を投じて沿岸隨一の稱ある佛青會館の設立、それに引つゞき一九三四年には米國唯一の大鐘樓を新築し、朝夕サリナス平原一帯に三百餘貫の大梵鐘を打響かせ、正に佛教王國の觀を呈してゐる。

河下佛教會

サクラメント河の流域、俗に呼ぶ河下一帯は大小七島をめぐる數條の支流に恵まれ、氣温順和、特産アスパラガスの聲價を誇る水境である。従つて農耕を目指す同胞が當地に居住し始めたのは十八世紀末からで、特にウオーナツグロープでは最初から日支東洋人の獨占舞臺で、現在もなほ中樞地帯は日本人が七割、支那人が三割を占め白人種の住宅や商店は郊外に散在するといふ異彩を呈してゐる。一九一五年の大火災に全町灰燼に歸して以來支那人との雜居生活は改められ純粹の日本人町が建設された。同地の佛教布教は初めは櫻府佛教會によつてなされてゐたが、一九二六年に至り七千弗を費して現會堂を建設、日曜學校も併設したが、専任開教使を招聘常駐せしめたのは漸く一九三一年五月で、茲に於て獨立教會としての面目を發揮するに至つた。附屬團體には婦人會、男女青少年會、佛教修養園あり、日曜學校並に土曜學園を經營してゐる。

アイルトン佛教會

同教會も河下佛教會と同様の經路を経て始めは櫻府佛教會の支部出張所であつたが、一九三〇年に至り獨立し、一九三二年十二月には工費五千五百弗を投じて現會堂を新設、開教使は河下佛教會より月一回宛の出張を求めて定例法話會を開いてゐる。附屬團體には婦人會、男女青少年會、マン字少年會、佛教少女會あり、日曜學校も經營してゐる。

サンデーゴ佛教會

一九一六年（大正十五年）新春を迎へて間も無く同地オータイダムの大堤防が増水決壊し多數の流失家屋と死傷者を出した。同胞の溺死者も十名に上つた。その葬儀に列した同胞有志家らは悲劇の中に佛教會堂の必要を痛感、遂に萬難を排して起ち、創立の猛運動を起したが機未だ熟せず、空しく十年を過した。越へて一九二六年に至り再び佛教會設立の聲起り工費二萬五千弗を費して現在の會堂を新築した。敷地も廣くサンデーゴ郡唯一の日本人集會所となつてゐる。附屬團體には婦人會、男女青少年會、ボーイスカウトあり、日曜學校、晝間日本語學校一、並に夜學校四を經營し、護持會の組織もある。

サンルイスオピス米佛教會 同佛教會は最初ガタルーブ佛教會の出張所として毎月開教使の出張を求めてきたが、一九二十年に至り一萬二千六百弗を投じて敷地を購入、假會堂を建て、獨立し、更に越えて一九三一年には工費一萬弗を投じて五ヶ年計劃を以て新會堂の設立を計劃し、目下教勢を擴張中である。附屬團體には婦人會、男女青年會、ボーイスカウト等あり、又一九三〇年には工費四千弗を投じて新校舎を設立し、日本語學校も經營してゐる。同教會には日曜學校の設備もある。

アローレー佛教會 同地方は一九一九年頃より羅府佛教會によつて布教され、信徒の増加に従つて一九二二年遂に一戸を借り受けて會堂となしアローレー佛教會を創立した。日曜學校、婦人會などの創立を見るに従ひ新會堂建築の議盛んに起り、一九二七年に至り一萬二千弗を投じて現教會を新築、翌年は日本語學校の校舎も新築し、目下隆盛の一途を辿つてゐる。

オツクスナード本願寺佛教會 同教會も同様羅府佛教會の支部となつてゐたが、一九二七年に至り現任の増永大見を専任開教使として迎へて獨立し、更に工費一萬弗を投じて現教會堂を新設した。附屬團體には男女青年會並に婦人會、日曜學校、附屬日本語學校を經營してゐる。

ヤキマ佛教會 ワシントン州ワバト市にあり、ヤキマ郡は沙港を去る東南、キャスケードの天險を越えて百八十哩の地にあり、北米第六位の土地豊穡の地にして、従つて郡内に居住する千數百戸の同胞は九割までは農耕に従事してゐる、同地に於ける布教は一九一九年頃から沙港佛教會の開教使によつて行はれてゐたが、一九二九年に至つて佛教會の創立を見、本山より初代開教使に名護谷龍城着任、その翌一九三〇年にはワバト市に現在の會館を新設した。爾來同所を本部にヤキマ、タマニシの兩教會を合してヤキマ佛教會と稱し、日校、婦人會、男女青年會など相踵いで創立、ヤキマ、タマニシ兩市には附屬日本語學園を開設するなど躍進をつまげ、今日はバスコ、ケネウエキ地方

まで教勢を擴張してゐる。

樓亞佛教會 ローダイ市に佛教會が出来たのは一九二九年四月である。それまで同地方の布教はサクラメント佛教會或はスタクトン佛教會に所屬してゐたが、一九二〇年に至り獨立日本語學校が設立され漸く一種の集團意識が醸成され、一九二九年に至つてローダイ地方に在住する廣島縣人のみの縣人會組織され、同時に佛教會創立の議も決せられ、急速に具體化して本部に専任開教使の派遣方を申請、同時に現在の地に家屋を借用、三千弗の淨財を投じて改造したのが現教會堂である。初代開教使中村顯勝は着任以來、日曜學校、婦人會、男女青年會等相次いで設立し、今日の獨立教會としての隆盛を招來した。現在佐々木高俊は一九三二年九月に着任、今日に及んでゐる。なほ同地の樓亞學園は佛教會創立の時に於て同佛教會に所屬されたものである。

ガーデナ佛教會 ロサンゼルス南郊ガーデナ平原一體は加州に於ける在留邦人人口の最も稠密な地の一つであるが同地に佛教會が設立されたのは一九二六年で、當時は未だ假會堂を以て羅府佛教會より隨時開教使の出張を見る程度であつた。然るに四五年を出ずして日本語學園を併置するの進運を見るに至り一九三〇年に至つて現在の新會堂を建立、同時に獨立教會として専任開教使の派遣方を開教本部に要請し翌年十一月十日に至り小倉康性が派遣着任した。爾來會員の増加著しく婦人會、男女青少年會など又躍進的な發達を遂げてゐる。

園満寺 ソノマ郡に於ける佛教開教は一九二八年頃より桑港佛教會の手によつて行はれてゐたが、一九三二年に至り假會堂を借受け現在後藤昇道が専任開教使となるに及んで信徒も漸増し、新會堂の建立が要望されてゐる時、偶々一九三二年のシカゴ萬國博覽會に滿鐵株式會社より出品された『滿洲館』を増山總長の交渉によつて北米開教本部に譲り受けることとなり、これをソノマ郡セバストポールに移して園満寺と名稱した。現在教勢はソノマ郡一帯並にナツバ郡にも及び、附屬團體として婦人會並に男女青年會がある。

アリゾナ佛教會 アリゾナ州グレンデール市にある。こゝは南加の東方、太平洋を距たる五百哩の地、四圍果て知れぬ廣漠たるキャピタスの原野に包まれた別天地で、今なほアメリカン・インディアンの散在するところである。この地に同胞が移住し始めたのは十九世紀の初期で、當時は一二に過ぎなかつた同胞も現在は百二十餘家族、五百餘名に達してゐる。こゝに開教の火蓋が切られたのは一九三三年で當地の大農山本等は開教の祖關法善の乞ひを入れて自分の邸宅、五エーカーの敷地、二千人を收容するバーン、自動車などを提供寄附し、こゝに佛教會を創立するに至つた。附屬團體として婦人會、男女青年會あり、日曜學校を經營してゐる。

新設六佛教會 以上の外に一九三六年（昭和十一年）以後獨立乃至は新設された教會が六個ある。創立年期の極めて新しいものであるが故にその略史は省くが、教會名、創立年期を示せば次の如し。

▲紐育佛教會 一九三六年一月十日創立、▲バイセリア佛教會 一九三六年三月二十六日創立、▲メリスビル佛教會 一九三六年七月六日創立、▲リードレー佛教會 一九三六年九月二十六日創立、▲ダイニユーバー佛教會 一九三七年七月二十九日創立、▲ラプトン佛教會 一九三九年一月三十一日。

求道會 求道會は西本願寺派開教使波多泰蔵がオークランド佛教會開教使を辭し、一九二七年（昭和二年）同市第九街一七七に求道會を設けて獨立傳道を開始せるに始まる。現に數百の檀徒を有し、同舎には別動隊として婦人會、學園、研究會等あり、バカビル、コンコード、アシランド等にも出張法話を行つてゐる。

加奈陀佛教會 加奈陀には六個の獨立佛教會並に五支部教會がある。創立の年期も北米のそれに次いで古く、速く一九〇三年（明治三十七年）から開教の火蓋は切られてゐる。加奈陀の佛教會は一九三三年まで柔港の北米開教本部に直屬してゐたが、教勢の擴張と共に開教監督區として分離し、監督には北米開教總長が兼任することになつた。

今その教會名並に創立年月日を示せば次の如し。

- ▲加奈陀佛教會 一九〇五年（明治三十八年）十月十二日創立、支部教會 西第二街佛教會、マーボル佛教會、マイナス佛教會、岡奈願佛教會、明佛流律佛教會
- ▲フエヤビユー佛教會 一九一八年（大正七年）二月四日創立
- ▲須知佛恩佛教會 一九二八年（昭和三年）九月十四日創立
- ▲レイモンド佛教會 一九三〇年（昭和五年）三月創立
- ▲ロイストン佛教會 一九三〇年（昭和五年）七月四日創立
- ▲新西院本願寺佛教會 一九三二年（昭和七年）十一月十七日創立

東本願寺派佛教

本派本願寺の分裂 東本願寺派の米國開教は本派本願寺派の分裂にその端を發してゐる。開教の祖泉田雄城は元來本派本願寺派の僧侶であつて一九〇四年（明治三十七年）南加州の宗教視察に來り、羅府に止錫して羅府佛教會を興し漸次隆盛に赴かしたのであつたが、一九一八年（大正七年）秋、泉田は故ありて本派本願寺本山より分離すると同時に、その統率せる羅府佛教會も本山と全然關係を斷ち、同じく羅府に存してゐた南加佛教會及び中央佛教會と種々軋轢を重ねた結果一九二〇年（大正九年）に至り從來所有の財産一切を東本願寺本山に提供し、同本山より大谷派羅府別院の認可を受けた。然して泉田は初代輪番兼北米開教監督となり、本派本願寺と對立的な立場に終始するに至つた。

教勢二ヶ所に擴張

而して泉田は一九二六年（大正十五年）二月十四日パークレーに灣東本願寺佛教會を創立

し、初代開教使として着任した末森智城は同年三月六日パークレー日本人會構内に一建築物を借用してこれを會堂としたが、のち同教會は眞宗佛教會と改稱され、更に北加本願寺佛教會と再び改めて今日に至り、一九三八年に至つて同市オレゴン街一五二四—二六に現在の會堂を新築した。又中加バーリアに於ても信徒間の分裂からフレズノ西本願寺佛教會に屬してゐた教徒らは、泉田に諮つて同地に東本願寺佛教會を創立し、茲に於て東本願寺系佛教會は羅府の別院の下に二ヶ所に擴張されるに至つた。信徒數合せて千數百に及ぶと云はれる。

禪 宗

禪宗の北米開教 北米に於ける佛教の開教使は第二章第一節「米國に於ける開教の起原」並に眞宗西本願寺派開教史全篇を通じて既述してゐる如く、眞宗西本願寺派と禪宗の關係は絶對不可分である。例へば臨濟宗の高僧釋宗演らが一八九三年シカゴの萬國宗教大會に出席して佛教開教の起原となれる如く、或は日置默仙、忽滑谷快天、新井石禪ら禪門の高僧が相踵いで渡米せるが如く、當時米國に於ける佛教の教田は眞宗西本願寺派の獨占的立場にあつたが、これら禪門の高僧の巡錫布教は宗派こそ異なれ佛教の米國開教史に特筆さるべき大いなる事蹟を遺してゐる。然し右諸事蹟に就いては既に前項眞宗西本願寺篇に詳述せるところであるから、右は省略して本項に於ては禪宗の立場からのみ、如何にして禪宗が北米に開教されるに至つたかを順序を追ふて詳述するであらう。而して北米大陸に於ける禪門の開教は、先づこれらの諸高僧の巡錫に端を發し、更に白人傳道に根強く喰込んでゐることを忘れてはならぬ。

釋宗演とラッセル夫人 釋宗演はシカゴの萬國宗教大會に雜誌オーブ・コートの主事者ケーラス博士と相識り同書に寄書して禪宗を紹介する一方、更に禪學の居士鈴木大拙をシカゴに送りケーラス博士の顧問として東洋

經典の英譯、雜誌編輯の助力等をせしめたが宗演は更に一九〇五年（明治三十八年）の晚春桑港の佛教徒アレキサンダー夫人の請に應じて再渡米し、翌年春までオーション・ビーチのラッセル夫人宅に滞在し親しく參禪の指導に當つた。これ米國に於ける臨濟禪の白人に提示された最初である。ラッセル夫人は白人中新しく正傳の禪に參じた人で、以前鎌倉圓覺寺に寄宿して禪堂生活をなし釋宗演の棒喝に直接觸れてゐたものである。邦字日刊紙新世界は當時ラッセル夫人宅の參禪模様を次の如く報じてゐる。

金門公園を海に沿ふて二里ばかり彼方に宏壯な建物がある。寄せては返す太平洋の波が金門灣に距られて僅かに呻くやうな聲をあげてゐるだけだ。夜ともなれば靜寂の氣が四邊を壓して來る。若し讀者にして夜半この邊りを過ぐるならば日本流のゴーンといふ鐘の音がこの家から洩れて諸君の耳朶を打つて聞かざらう。この鐘の主人こそ禪修學のラッセル夫人であるのだ。同夫人は桑港社交界でも有名な人で大學に在學中佛教の本を讀んだのが縁となり、その深奥な哲理に歸依し幾々日本に渡り佛教の名士は殆ど訪問してその教を受けた。夫人には子供はないが理想の教育を施す爲に數名の貧ひ子をしてこれに徐に坐禪の妙味を教へてゐる。（中略）夫人は一日に一回は必ず坐禪三昧に入る、然し普通の室は騒しいので離れの一室を會堂となし（中略）こゝに入つて坐禪してゐる間は家人に云ひつけて訪問客も電話も一切拒絶する、大聲をあげることさへも許さないと云ふ、云々。

釋宗活の渡米と兩忘會 ラッセル夫人は釋宗演が印度巡禮の旅に上つてから二、三年後借財五十一萬弗を残して逝去し、爲に宏壯なる邸宅も家具一切も財産整理の競賣に附されたが宗演に法縁殊に深い家具は同じ參禪のラッセル夫人の知己ドレキラス夫人によつて保存されてあるといふ。斯くてラッセル夫人の禪堂は遂に解散したが、宗演の歸朝後三年法嗣釋宗活がその門下居士禪子と共に渡米しヘーワードにトメト園を購入し、晴耕雨參の實參主義を以て禪風鼓揚に努めたが資金の關係上志を果さず、轉じて麥嶺に來たり更に桑港に轉じポスト街に兩忘會道場を設け提唱及び參禪の法筵を開いた。これに米日本人に正式に臨濟道場が開かれた嚆矢にして、參禪者中には佐々木指月、千崎如幻らあり、米人の道友も少なからず、宗活の侍者として來米した後藤宗碩はこれら外人參禪者の通譯に當つた。その後兩忘會は一九〇九年（明治四十三年）宗活の歸國と共に解散したが、時の參禪者佐々木指月、早川鐵嶺の兩名

はその後日本に歸つて修行し各々印可を得て、指月は目下紐育に在り、日白人間に久しく禪風の高揚に努めてゐる。

英人僧宗覺の布教

これよりの英人神學者トーマス・カーベイは釋宗演の在世中鎌倉東慶寺の禪門を叩き苦修の後名を宗覺と改めて歸米し、最初英領カナダに法を説き、のち轉じて桑港に來り、本派本願寺派佛教會の英語傳道部主任となり約一ケ年白人傳道に従事したが、一九二一年布哇本願寺に轉じ、そこでも白人傳道に従事すること五ケ年に及んだ。宗覺カーベイは病を得て日本に歸養に去つたが、彼の後を受けてエルネスト・ハント入佛し、熱心なる白人傳道をつづけた。宗覺カーベイについて特に注目すべきことは彼は禪門に於て入佛し眞宗の教門に於て傳道を開始したが、善に宗派に捉はれず世界的佛教の宣揚を使命として運動したところにある。

千崎如幻の東

洋思想研究會

釋宗演に伴はれて來米した千崎如幻は、その後宗覺カーベイの感化を受けて宗演の法嗣古川惠訓(堯道)を未見の師と仰いでゐた米人心理學者J・M・ヘイス及びデズル・カールの二人の佛教研究家と結び、東洋思想研究會を組織し、一九二三年より毎月一回桑港日本人會ホールに於て集會し白人の參禪を指導したが會する者は進歩派のクリスト教徒、スワイ派の回教徒、靈智學者、心理學者、ウエダングの禪者、泰西の哲學者、科學者、文學者、美術家、詩人等極めて多彩であつた。

當時この外に一九二八年には支那佛教僧太虛法師渡米し來たり各地知名大學に講演せるあり、プラバチケ夫人並にオルコット大佐協同になる靈智協會と呼ぶ佛教研究機關あり等々白人の佛教研究熱は極めて旺盛であつた。なほ前記オルコット大佐はのち日本に渡り日本佛教徒と支那のそれと相提携して世界の佛教徒を團結せしめんと圖つたが未だその機熟さず中絶となつた。大佐は六金色の旗の創始者である。

獨逸人の桑港佛教團

一九二六年(大正十六年)一月獨逸の佛教僧ハルマン・ルウは桑港に來たり米人の研究熱盛んなるを見て千崎如幻と圖り桑港ヘート街二三四に桑港佛教團(ブデスト・センター)を興し、二百有餘の

佛教白人信者を吸収して原始佛教を基調とする講經禪觀に努めた。ハルマン・ルウはその後間もなくして桑港を辭した爲千崎は同教會の教師として聘せられ、毎週三夜の講經、日曜の説教を行つてゐたが、資金不足の爲繼續困難となり、同年七月以來は月次會のみを開くに止めた。

東漸禪窟と兩忘會

千崎如幻は前記桑港佛教團の解散するや一九二八年(昭和三年)ブッシュ街一九八八の地下室に居をトシ東漸禪窟と群英學園の二事業を起し、一は専心佛法宣布の機關となし、一は一般東洋文化を白人並に第二世に移植する機關として、禪窟には米人の熱心なる參禪者あり、そのうち米人青年二名は法名を得て更に斯道研究の爲日本に渡つた程であつた。その間如幻は元臨濟宗圓覺寺派管長古川堯道(釋宗演の法嗣)を招じ約半年に亘つて傳道強化に努めるなど大いに努力するところあつたが、經營三ケ年餘、一九三一年羅府ターナー街四四一に東漸禪窟を移し今になほ白人傳道に努めてゐる。一方佐々木指月は桑港兩忘會の解散後一九二六年(昭和二年)日本に歸り苦修して再びシャートルに渡り、のち紐育に居を移して西七十街六三に兩忘會を復活し太平洋岸の千崎と呼應するが如くに大西洋岸の白人社會に禪風を高揚してゐる。指月は又雜誌改造その他に執筆し、日本の斯界にも認められてゐる。

磯部峰仙の渡

米と寺院設立

斯くしてゐる中一九二二年(大正十一年)五月ハワイ曹洞宗別院布教監督磯部峰仙は本山の命により大陸に於ける教線開拓、寺院建設の使命を帯びて渡米した。峰仙は先づ羅府に滞在すること半歳、同年十一月東二街二三四に曹洞宗北米佛教會を設立して禪を説いた。然るにその流れを汲むもの及び歸依者の漸く多くなるに及んで新會堂建設の議起り、一九二六年(大正十五年)六月南ヒューイット街一二三に敷地を購入して新會堂を竣工、これを北米山禪宗寺と號した。同寺はのち曹洞宗大本山別院に昇格し信徒も激増して現在は信徒數六百五十、婦人會員六十七、男女青年會員八十二名、佛心會十二ヶ所、日本學園三ヶ所、その生徒數百八十名等を擁してゐる。峰仙は同寺の基礎漸く堅くなるや一九三四年三月(昭和九年)桑港に假錫し禪宗寺桑港出張所を

假設して教會堂建設に着手し、同年十二月アッシュ街一八八一に猶太人教會を購入、内部を改造して現在の日米山桑港寺を創立した。初め同寺も亦經濟的に深刻な苦難に逢着したが峰仙老師並に現在開教師佐藤憲一の努力と信徒の熱心によつて、今や信徒三百、婦人會員八十七名、青年會員三十一名、日曜學校三十四名、布教所一を擁し、その教勢は日毎に擴張の途上にある。

更に一九三二年には羅府禪宗寺駐在の池田文淵はサンビードロ市キャナリー街に同寺の出張所を開き、曹谿學園を創始し、越えて一九三六年にはターミナル島シーザイド・アベニュー四六三に太平山光泰寺を創立し、これ又信徒三百名、婦人會員七十名、處女會員六十五名、ボーイスカウト四十五名、日本語學園三校、教師四名、生徒二百六十名を擁し隆盛の一途を辿つてゐる。

斯くして北米に於ける禪宗寺は都合三寺院であるが、今後更に擴張の傾向を見せてゐる。

日蓮宗

日蓮宗教會の嚆矢 米國に初めて日蓮宗が開教されたのは一九一四年（大正三年）五月日蓮宗僧旭寬成が羅府に來たり、同市東二街のフェドラ・ホテルの一室を假會堂に定め、旭を導師に昭憲皇太后陛下の奉悼會を虔修し、同時に羅府日蓮宗教會創立の式を擧げたのに創まる。同教會は翌月東一街六一四に教會堂を移し、更に青年傳道機關として若黨會を組織し、開教の基礎漸く成らんとする時、翌一九一五年には時の日蓮宗管長旭日苗大僧正の渡米巡錫あり、これを機として更に日蓮宗婦人會の組織となり、教勢は茲に於て急擴張された感があつた。一方開教の祖旭寬成は羅府に教會を設立して開教の基礎をつくるや同年十月ワシントン州シャートル方面を巡歴布教して歸國したが、相踵いで歸國した旭日苗らの勧めにより一九一五年五月廣島市左官町本覺寺の住職丘龍潮はシャートルに來た

り熱心なる信徒を集めて此處にも日蓮宗教會を設立し、南北呼應して教勢の擴大に努めた。

教勢進展 斯くて開教の基礎を確立した日蓮宗は一九二三年（大正十二年）冲原龍進が渡米してシャートル教會の主任となるに及びポートランド及び加奈陀に相踵いで教會を設立し、又加州に於ては桑港に同年鬼木泰教來たりて日蓮宗本佛教會を創立し、更に一九三〇年には羅府教會の主任開教使池田順教が小林日種を帶同布教して、同じく櫻府日蓮宗教會を創立するなど、教勢は頓に擴張されたが、桑港の日蓮宗本佛教會が鬼木の歸國辭任により開教使不在となり一時解散同様となつてゐるところへ、一九三〇年に至つて、當時シャートルの冲原龍進宅に寄遇中の本山法華宗僧石田日天が同教會を復興する使命を以て來桑し、翌一九三一年十一月十一日バイン街二〇一六に會堂を移して、これを改築落成し、大いに教勢復活の實を擧げたが、石田は日蓮宗の一派本門法華宗の僧侶なるを以て日蓮宗と提携せざる態度に出で、こゝに端なくも日蓮宗團の分裂を來たすに至つた。

日蓮宗の分裂 前記石田日天が教會堂の落成を待つて旗色を明らかにし一九三一年六月廿四日を以て同教會を米國日蓮教會本部とし前記各日蓮宗教會より獨立の態勢に出るや、羅府日蓮宗教會より池田順教らが再三來桑して分列阻止の折衝に努めたが遂に決裂するに至り、石田は本門の大本尊を此處に移して米國日蓮教會本部と名乗り、一方、日蓮宗本佛教會復興の使命を以て石田の來着を求めた同佛教會には有志相計つて教會を再興し、桑港日蓮宗教會と改めその後冲原龍進來任して大いに教勢の擴張に努め石田の米國日蓮教會本部と對立して、今なほ何かと相搦す競争的な立場に立つてゐる。

爾來米國に於ける日蓮宗は二派に分裂して各地にその教勢を競ひ擴張してゐるが、まづ順序として日蓮宗教會より各地の教勢並に布教の経緯を見れば次の如くである。

日蓮宗各地の教勢

羅府教會 既述東一街に教會堂を移した同教會は一九三〇年（昭和五年）に至り、池田

順教の努力により東三街二八〇〇に新會堂を建立、更に一九三三年には同教會内に日蓮宗米國開教本部を設け初代開教監督として池田順教が就任した。一九三六年池田辭任の後を受けて桑港教會より沖原龍進が二代開教監督として就任し今日に至つてゐるが、同教會は一九四〇年二月十一日を以て身延山米國別院に昇格した。會員は百五十名、附屬團體に村雲婦人會、立正青年會、北米天晴會、立正劇團、早起修養會、華道研究會、日蓮日曜學校等がある。

シャートル教會 既述丘龍湖は一九一六年着任開教以來、シャートル市を中心としてオレゴン州方面にも屢々布教し、同人辭任歸國後任加藤貫朗を経て一九二三年沖原龍進來たり爾來加奈陀バンクーバー、ヤキマ、ワバト地方、オレゴン州にてはポートルランド、フッドリバー等に教線を擴張し、一九二九年シャートル市ウエラー街一〇四二に二萬餘弗を投じて新會堂を設立、次いで一九三三年村野宜忠着任して村雲會館を設立した。附屬團體に村雲婦人會、日曜學校、立正青年會等あり、會員數約二百五十名と算せられてゐる。

ポートルランド教會 一九二四年十一月、時のシャートル日蓮宗教會主任沖原龍進は同地に出張法話會を催せる機に同地近郊一帯に巡教し、信徒を集めて一九三〇年五月ポートルランド市西北第四街五三半の井上熊吉宅に假會堂を設け、越へて一九三二年北ベントン街一一三七に新會堂を建立した。信徒は約三百五十名あり、附屬團體に婦人會、女子青年會、修身學校、日語學校等がある。

櫻府教會 加州サクラメント市に日蓮宗が布教されたのは一九一四年旭寛成の巡錫に始まるが、未だ教會設立の氣運とまでは至らず一九三〇年になつて羅府より池田順教らの巡教せるを機に遂に教會設立の議起り、翌一九三一年九月同市キュー街二〇八に假會堂を設け、池田を導師に櫻府日蓮宗教會の發會式を行つた。次いで一九三二年頃に至り信徒も百戸以上を算するに至つたので、翌一九三三年三月立正學園を起し兒童の日本語教育に着手し、更にその翌年一九三九年（昭和八年）にはビー街二二〇に家屋を購入、改築に着手し、同年天長の佳節を以て盛大なる會堂落

成式を舉行した。現在會員は約二百五十、附屬團體には婦人會、青年會、立正學園などがある。

桑港教會 桑港には早くより日蓮主義讚仰會と稱するものがあつたが、一九二二年（大正十二年）に至り鬼木泰教着桑して、既述の如くサター街に北米日蓮宗本佛教會を起し、その後石田日天來着して再興分裂となり、日蓮宗教會と改稱して沖原龍進の着任以來、教會を第二十四街よりゲリー街に、更にブキャナン街一八六〇（現在の場所）に三度移し、一九三六年沖原が開教監督となつて羅府に轉任後青柳正法が就任して今日に至つてゐる、會員數百五十その他に百名を擁する村雲婦人會あり日曜學校も開いてゐる。

米國日蓮教會本部 同本部設立の經過は既述せるが故に省略するが、右創立の祖石田日天は一九三〇年六月十九日着桑以來各方面に猛活躍を開始し、一ヶ月にして會員百餘名に達する盛況を呈し、同年十一月にはウエブスタ一街一五五四に假會堂を創設、翌一九三一年には會員三百を算するに至り會堂狹隘となり、バイン街二〇一六に家屋敷地を購入、改築、加州政廳より認可されて財團法人となり、更に本門より指定されて米國日蓮教會本部を名稱するに至つた。而して石田日天それと同時に米國開教總長に任ぜられ、爾來各地に教線を廣め、又二世開教使の養成に着手し、現に二宮顯有は一九四〇年三月を以て二世最初の開教使に任ぜられ、本部に於て活躍中である。同本部は開教僅かに十年であるが、既に各地に十三支部教會を持ち、數千の信徒を擁してゐる。

現在の教勢 開教本部には總長の下に執事一名、開教使三名あり、各地十三支部教會には四名の開教使と十名の補佐布教使が勤めてゐる、同本部並に支部は信徒を維持會員、信徒、會友の三種に分ち、現在六百五十名の維持會員の他に數千名の信徒會友を擁し、支部教會は次の諸地方にある。

東京日蓮教會（パークレー）加州日蓮教會（羅府）スーソン日蓮教會（スーソン）サリナス日蓮教會（サリナス）ソノマ日蓮教會（セバストポール）ギルロイ日蓮教會（ギルロイ）華村日蓮教會（ワツソンビル）法華堂（モントレー）

この他にデラノ、フアラ、サンノゼ、サクラメント、シャートルル各地に支部がある。

なほ桑港の米國日蓮教會本部には附屬團體として立正學園、日曜學校、妙法婦人會、日蓮主義青年會、日天俱樂部、橋俱樂部、日本書道夜學會等がある。

その他の宗教

金光教 これを厳密に云へば金光教も亦他の宗教と同様、その信仰を持つ者の渡米と同時に米國に渡つて來たものとしなければならぬ。然し金光教は新興の宗教だけに米國に於ける正式開教は未だ十二、三年の短日月を出でずその教勢も佛教などに比して遙かに狹隘である。

一九二六年（大正十五年）春、時の金光教青年會本部幹事片島幸吉は布教視察の爲渡米し來たり、前後三ヶ月に亘つて沿岸各地を視察し、旁々講演會、座談會などを催し教義の普及に努めた、而して相寄る信徒を集めてワシントン州のシャートルル、タコマ兩市並に加州羅府の三ヶ所に眞道會なる求道團體を組織した。これがそもく、金光教開教の端緒であり、母胎となつたものである。その後一九二八年に至りシャートルルに金光教々會所を開設せるを始めとして、順次ホノルル（布哇）タコマ（ワシントン州）羅府（加州）ヒロ（布哇）桑港（加州）ポートランド（オレゴン州）サクラメント（加州）サンノゼ（加州）各地に教會所を新設し、これら教會所はいづれも各州政廳の認可を得て法人組織とし、教勢は茲に急速に擴張された。

現在の教勢 斯くて各地に相繼いで教會所を新設した金光教は、更にその教會所を中心として四方に教練を擴張し、遠く英領バンクーバーからフレズノ、サンビドロ、ソータール、オークランド、パークデル、フードリバー、メリスビル諸州各地に布教所或は集會所を設け、信徒の數も逐年増加の傾向を辿つてゐるが、昭和十三年にはこれらの

北米及び加奈陀各地教會の教使及び信徒の聯絡を爲る爲に金光教北米聯絡會を組織し、事務所本部を桑港に置き各地教會所に支部を設け教會長を支部長とし、信徒中より五名宛の幹事を選出し、更にその機關雜誌「天地の恵み」を毎月刊行した。信仰談及び各地の信仰關係ニュースを掲載するに至つた。越へて一九三九年（昭和十四年）四月には各地教會を統轄管理する爲に金光教北米布教管理所を桑港教會内に設置し、茲に於て米國に於ける金光教の基礎は全く成るに至つた。今その構成を示せば次の如し。

所長福田美亮、參與平山文次郎、同安村安吉、書記露木大一。

金光教團の特色

金光教團は教團維持の爲に寄附を募集せず、その他各種の寄附興行も絕對に行はず、信徒の純信仰によつて維持經營してゐるところに他の教會と趣きの變つた所がある。又同教團は信忠孝一本の教義を基礎として二世の教育にも當り、又練習艦隊や特務艦、文部省その他の練習船の來航に際しては特に力を入れて歓迎し、羅府の大師教會とよき對照をなしてゐる。同教團は又一九三八年所長福田美亮を團長とする一行十四名の皇軍を慰問使を現地に派し、一行は五千六百個の慰問袋、五百斤のキャンデーその他愛國獻金を携へて鮮滿、滿ソ國境、中北支帯の皇軍を慰問し、歸米後は福田美亮は約二ヶ月に亘つて沿岸各地に報告講演を行つて銃後の覺醒を促し、更に一九四〇年一月には皇軍占領地域に於ける支那難民救済の爲に「日支親善獻金」といふ米國では始めての獻金募集をなし、二千四百餘弗を集めて中支宗教大同盟及び金光教支那派遣班の宣傳工作費に折半してこれを獻納するなど盡忠の誠を盡してゐる。

各地布教の概要及び現勢

金光教が今日の發達を來すまでの各地に於ける布教の概要及び現勢を見れば次の如くである。

▲シャートルル約二十年前より平山文次郎らを中心として金光教信徒集會所が設けられ求信の集合を催してゐたが、一九二六年

前述の如く片山幸吉の渡米によつて真道會の設立となり、更に一九二八年（昭和三年）には初代専任教師秀島力松を迎へ同年七月十日キングス街八〇九に教會所を設け、越へて一九三六年（昭和十一年）にはメイン街一七三に土地家屋を購入神殿を造営今日に至つてゐる。現在の信徒數四百餘名と云はれる。

▲タコマ市に在任する日本人中金光教の信仰を有する者相寄り、各家庭に集會を催してゐる中にその數五十餘名に達したので、その中心人物大坪龜造は發心して金光教本部教義講究所に入り、教職を得て歸米一九一五年（昭和四年）十二月二十三日タコマ市南タコマ街一五〇九に教會所を設けた。これタコマ教會所の沿革である。その後大坪は病を得て歸國、一九三九年に至り教會長後任として立野虎夫が就任、今日に及んでゐる。信徒數約百五十名。

▲ロスアンゼルス一九二六年片島の來羅を機會に信徒相集つて真道會を組織し、備中旅館に神聖を奉養して集會を催してゐたが、一九二七年三月北サンビードロ街フアームビルディング第二十二號室に移り、翌一九二八年には香取敏次が教會長として着任し、同時に東第一街二九二四に移轉した。越へて一九三八年昭和十三年秋同所を土地家屋ともに購入し新教會所を建築、現在は露木大が擔任教師として常駐してゐる。信徒は七百餘名に上つてゐる。

▲桑港一九三〇年十一月二日福田美亮渡米し來たり、一時サンマテオの須川政治邸宅に假布教所を設けたが、同年十一月二十一日には桑港ブッシュ街二〇七六に移り、教職擴大と共に一九三二年秋現在の場所ブッシュ街一九〇九に土地家屋を購入し、これを改築して神殿を造営した。桑港教會所の教職は極めて廣くサンマテオ、オークランド、パークレー、アラメダ、パロアルト、サンルイス、スタクトン、フレズノ、ウインタース、バカビル、ベタルマ、セバストポール等及び各地に集會所を設け桑港から福田美亮が出張して月並祭並に説教を行つてゐる。現在信徒數約八百名に及んでゐる。

▲ポートルランドポートルランド布教所は一九三〇年五月平山文次郎によつて創始された。その後教勢は次第に擴張し現在はフリーバー、パークデル、オバルシテイ、東オレゴン、ベンド、アストリア、ビバートン等にも及んでゐる。ポートルランドの信徒約五百名。

▲サクラメント同市の布教は一九三〇年六月安村安吉によつてM街圓光寺ホテルの一室に於て開始され、翌日第五街の西村アパートメントに移つた。當時は一人の信徒もなかつたが、漸次に信徒を得、一九三五年十二月にはオー街六〇四に現在の土地家屋を購入、改築して教會所となし布教の基礎を確立した。現在教勢はメリスビルにも及び信徒約四百名と云はれる。

▲サンノゼサンノゼの布教は一九三二年八月二十七日山田淺太郎によつて北三街五二六に創められた。當時は僅かに一人の信者があつたのみであつたが、一九三七年十月には現在の東ワシントン街二八一に土地家屋を購入改築して神殿を造営するに至つた。教勢は速くアービントン、パロアルト、ギルロイ、ワツソビルにも及び信徒數四百を推算されてゐる。

▲サンビードロ同地の布教は一九三九年八月西耕太郎によつて始められオーション街三三四に神殿を設けてゐる。
▲ソートル同地方には金光教信者少なからず、一九四〇年春、後藤勳によつてテネシー街一一六一に布教所を設け、將來の發展を期待されてゐる。
▲ハワイにはホノルル及びヒロに教會所あり、ホノルルは一九二八年見玉政行により、ヒロは翌一九二九年西田美房により開教された。教勢は次第に發展しつゝある。

世界宗教大會に代表を派遣 北米金光教團史中特に附記さるべきことは一九三三年秋シカゴに於ける世界宗教大會に金光教を代表して福田美亮、大坪覺治の兩名が出席し、福田は「宗教家の協力による太平洋の平和」の題下に日本の人口問題、滿洲事變、移民法の問題、在米二世の問題等につき所信を述べ大坪は又金光教の大意を説明し、更に金光教の英譯教典を世界各國の代表宗教家に頒布し、金光教を初めて世界的に布教したことである。

天理教 天理教の米國傳道期間は僅かに十三ヶ年に過ぎぬ。而もその先驅者が日本よりの専任布教使ではなく悉く在米同胞中より出てゐるところに他の宗教には見られない特色がある。例へば羅府ノースアメリカ教會の創立者とも云ふべき緒方新藏も出稼ぎ移民として渡米し來たり、のち一旦歸國して授訓を受け、再渡米して正式に布教に着手し、一九二四年（大正十二年）同市北モット街に同教會の前身天理教集談所を創立したものであり、又米國最初の天理教々會であるサンフランシスコ教會の創立者神澤常太郎も一旦移民として渡米し、のち歸國して本部より御分會を與へられて歸米し、一九二七年桑港ポスト街一五八五に（のちオツフレル街一四四〇に移轉）教會を創立したものである。オレゴン州ポートルランド、ワシントン州シャートル、モンタナ州ミゾラ、加奈陀バンクーバー、ハワイ等の開教事業も殆んど在米同胞中よりその先驅を出してゐる。而してこれらの開教の先驅者は悉く在郷當時天理教の信徒乃至は教師役員等を勤めた經歷を持つてゐる者である。

教勢の急擴張 神澤常太郎が桑港に教會を創立した同じ年即ち一九二七年、緒方新藏の甥東田春雄は教師とし

て最初に渡米し叔父緒方の天理教集談所を擴張して羅府にノース・アメリカ教會を設立して州政廳の認可を得た。爾來天理教本部に於ても一九二五年より開始した海外布教師養成を目的とする天理外國語學校も卒業生を續々ハワイ並に米國に派し、太平洋沿岸には急速に教會の増加を見るに至つた。今その教會の名並に創立年月日を見れば次の如くである。(但し左は名京大教會所屬のもののみで、全米には羅府にある天理教アメリカ傳道廳を中心として越乃國、郡山、甲賀、高知、南海、河原町、東本、水口、南紀、撫養、等各系統の教會が六十三ケもある)

サンフランシスコ教會 一九二七年、サクラメント教會 一九二八年、ソートレーキ教會 同上、南加教會 同上、サンビードロ教會 一九二九年、オークランド教會 同上、ワシントン教會 一九三〇年、オレゴン教會 一九三一年、スタクトン教會 同上、サンノゼ教會 同上、サウザンシティ教會 一九三二年、サンデーゴ教會 一九三三年、メリスビル教會 一九三六年

アメリカ傳道廳設立 斯くして各地に教線が急擴大するに及び傳道廳設置の必要が痛感されてゐる時、一九三三年シカゴに於ける萬國宗教大會に出席の爲管長中山公磨が渡米せるを機會に一九三四年新春、本部に於てアメリカ傳道廳を羅府に設置する旨決議され、初代傳道廳長として辻豊彦が、同年四月二十八日着任し、同市南カミングス街五一五番に廳舎を置き、全米の天理教會を統轄整理することになつた。然るに渡米布教師のうちには集談所乃至は教會維持の困難から布教師の旁ら勞働に従事して移民法に觸れ送還命令を受けるものなど出で、その爲に天理教管長より海外布教認可を許された者でも駐日米國領事の査證下附は拒絶となつたり、これらの事情から米國に於ては無擔任教師の教會が増加したり、無斷で移轉する教會も續出するに至り、アメリカ傳道廳はこれが管内整理に狂奔せねばならなかつた。越えて一九三四年には傳道廳は財團法人として加州政廳より認められ、現在は第二世並に外國人方面にも傳道を開始し又アメリカ誠心會などを組織してその勢力は強大なものとなりつゝある。

その他の教會 羅府は米國に於ける日本人の最も稠密な都市だけに各種の教會が散在し、その數また米國各都市に比して最も多い。既述以外の教會の他に高野山別院あり、同別院は高野山大師教會として一九二二年(明治

四十五年一月の創立にかゝり、眞言宗高野派總本山金剛峰寺に直屬する。在米日本人間には同本山所在地たる和歌山縣出身者が多い爲眞言宗信徒の團結は極めて固いものがある。又同別院に一九一三年創立された婦人會は練習艦隊、練習船、特務艦等の來航に際し、乗組員等の歡迎に特に力を入れて有名であり、その所屬ボーイスカウトも優秀なるスカウトとして全米的に有名である。羅府には更に佛敎系では淨土宗敎會禪會寺あり、既述の各宗佛敎々會を併せて大乘佛敎各宗聯盟の組織あり、又天理教ではアメリカ傳道廳の外に米國ウィルソン教會、アメリカ南加協會、米國南太平洋教會、アメリカ南市教會、アメリカ北米教會、アメリカ陸東協會等あり、又神道では米國神道教會、出雲大社教北米教會、北米大神宮本院等もあり、いづれも相當の信徒を集め故國本部より任命の開教使、布教師ら一、二名宛が駐在してそれら熱心に布教に努めてゐる。

又最近生長の家が非常な勢ひで各地に布教されつゝあり、世人の注目を惹いてゐる。なほ前記北米大神宮本院は一九〇四年(明治三十七年)十月桑港市ヘート街に神道教會として開教の端緒を開き、その後桑港大震災の爲に教會を燒失して間もなく羅府に移り、一九一四年(大正三年)大日本神道本局より北米羅府分局に昇格せしめられ、のち北米大神宮本院と改め、現在はジャクソン街四五二に教會を持つて婦人會(二百名)男女青年會(百三十名)の附屬團體あり、本院職員六名雅樂師五名が在勤してゐる。

第六章 教 育

在米日本人の教育

緒言 教育の語義は極めて廣範である。即ち初等教育から高等教育に至る學校教育、家庭に於ける家庭教育世に處する上の社會教育、等々、在米日本人の教育と云つても嚴密に云へば矢張りこれらの諸觀點から起稿するを順序とする。然し本章の目的とするところは米國と云ふ特殊な社會に在つて日本人が如何にして教育され、又その子女を如何にして教育しつゝあるかにあり、その語義も自ら限定してかゝらねばならぬ。

抑々在米日本人の教育は、日本で受けた教育に悉くその基礎を置いてゐると云つても過言ではない。勿論この中で少數の同胞は米國の小學校から大學校にまで進み、米國に於ける教育を基礎としてゐる者もあるが、在米日本人の大部分は學業を目的に渡米したのではなく、所謂移民として渡米したものであるから米國の學校教育は受ける暇もなかつたものである。故に現在、在米日本人間に用ひられてゐる英語や社會道徳や習慣等はその大半は見覚え聞き覚えであり、或は米國で學業を修めた日本人先輩や教會牧師らが移民初期から中期にかけて開いてゐた私塾や教會内の寺小屋式教育によるものである。

然し米國各地には外國人の米化や初歩の語學教育を目的とする English for foreigners のクラスや Americanization

のクラスを併置する學校があるので、近代に於てはこれに學ぶもの相當に多く、こゝに於て修學の基礎を築いて米國の各種公私立學校に進むものゝ數も比較的が多い。殊にこの十年來、日本で中等乃至は高等教育を受けて歸米した所謂歸米二世の（米國で生れ日本で教育を受けて歸米したもの）員數増加につれて、米國の各種學校に進むものゝ數も急速に増加するに至つてゐる。

尤も米國育ちの二世は米國市民に對する義務教育としてグラムマー・スクール（小學校）からハイスクール（中等學校）に至る學校教育を受け、更に専門學校乃至は各大學に進む者の數も極めて大であり、現今これらの日本民族の米國に於ける修學率は米國人の修學率と大差ないものである。現在米國の各種公私立學校に學ぶ日本人兒童の總數は正確には未だ調査完全ではないが、日本人の最も多く居住する加州に於ける日本語學園通學兒童數は約一萬八千と云はれ（一九三四年度の調査）米國の各種學校に通學する學生兒童の總數はこの數字より相當に大であるとせねばならぬ。而して在米日本人の教育事業として最大にして且つ唯一のものは日本語教育であり日本語學園の經營である。在米日本人は現在その子女をして日米兩國の教育を併行して而も義務的に受けしめてゐるのである。即ちこれら日本人子女は一方に於て米國民であるが故に米國政府の指定する教育を受ける義務があり、その両親も亦米國教育については米國の完備せる學校に安心して子女を委ねてゐるのであるが、日本語教育の點に於ては日本の政府からも米國の當局からも保護援助なく、従つて集團によりて日本語學園を經營するか、乃至は個人の半營利事業として經營されてゐる日本語學園にその子女を學ばしめねばならなくされてゐる。而もこれらの日本語學園は米國の公立學校の餘暇に通學する規定（後記外國語學校取締法参照）になつて居り、従つて日本人兒童は毎日異なる二つの學校に通學するを餘儀なくさせられてゐる。

日本語學園は第二節以下に於て評述する如く幾多の苦難を経て、今日その數は加州だけでも二百四十八校を數へる

隆盛を見せ、それに要する一ケ年の總經費は實に三十九萬七千餘弗の巨額に達してゐる。これは在米日本人が社會的に支出する負擔額中の最大のもので、これを見ても如何に在米日本人がその子女の日本教育に力を容れてゐるか、窺知出来る。

又家庭に於てもその兩親は子女を如何にして日本的に教育するか、に苦心してゐる。現今第二世女子の間に盛んに行はれてゐる茶道、活花、舞踊、日本音楽等も所詮はその現はれの一つである。又全米各地に散在する各教會も就つて日本語學園を附屬經營して居り、現在日本語學園中の半数以上はこれらの教會の附屬學園である。勿論各教會の附屬學園は各々異つた使命と目的を以つて營まれてゐるに違ひないが、要するに在米日本人の教育方針は米國公立學校に於ける教育を主としてゐるが、その従たるべき日本語教育の機關が、政府の保護援助なく、在米日本人自身によつて經營せねばならなくされてゐるのと、民族の言葉を教へ度い肉親愛と民族愛などから殊に力を容れてゐると解すべきである。以下日本語學園の沿革と現勢を評述するであらう。

日本語學園

初期の日本語學園

泛艦時代の學園 米大陸に日本語學園が創設されたのはハワイに遷れること六年、即ち一九〇二年（明治三十五年）ワシントン州に於てはシャートル市にシャートル國語學校が、加州に於ては桑港市ラザム・ブレース三（現在のメイン街でオツファレル街とエリス街中間）に神奈川縣人佐野佳三夫妻が一家屋を借用して日本語教育を始め翌

一九〇三年一月十二日、日本小學校として開校せるを以て始祖とする。この當時開教の基礎を固めつゝあつた本派本願寺佛敎團は、桑港に於てはボーク街八〇七に教會堂を持つ桑港佛敎會が同年の四月十九日に時の上野桑港領事、戸澤正金銀行支店長その他在留民有志の賛同を得て明治小學校を設立し、サクラメント市に於てはオー街四一六に教會堂を持つ櫻府佛敎會が同じく一九〇三年十一月、教會附屬事業として現在の櫻學園を起し、ともに加州に於ける最古の學園となつた。

先驅者の苦闘

その當時在米日本人間には妻帯者極めて少なく、従つて通學兒童も極く少數であつた。爲に學校の經營は困難を極め、佐野佳三の如きは教鞭を持つ傍らに外人經營の賣石商に就職しそれによつて學校經營費を捻出すると云ふ苦闘ぶりであつた。剩さへ當時は在米日本人識者間に、日本語學校開設に對する賛否の兩論對立し、反對論者は「日本語學校の開設は、現在既に公立學校に於て東洋人兒童の排斥氣運ある秋、それに益々拍車をかけしむるものである」となして新聞紙上にまで意見を闘はしめ、蔭に陽に壓迫を加へ、爲に學校創始者は經營難と相俟つて内憂外患ともに頻る苦境と闘はねばならなかつた。殊に桑港に於ては佐野佳三の日本小學校も佛敎會の明治小學校も共に一九〇六年の桑港大震災に校舍、教材悉くを烏有に歸し、日本小學校はサター街一七六五に、明治小學校はガフ街一六一七に教會と共に移轉し、佐野は日本學院と改稱して（現存）再び深刻な經營難と壓迫に苦闘し乍ら學校再興に死闘をつゞけたのであつた。

學童隔離と日本語學校

而るに桑港大震災の翌一九〇七年（明治四十年）に至り邦人のハワイ轉航を阻止せむんとする排日政治家の策動により、桑港市教育局は同年十月一日突如として桑港の各公立學校に在學せる日本人兒童に退校を命じ、東洋人隔離學校に轉校せしめんと試み、遂に日米兩國の極めて深刻な外交問題と化すに至つた。（學童隔離問題の項参照）斯くして各公立學校より登校を拒絶され、米國市民としての義務教育を受けることすら阻

止されるに至つた日本人児童は學ぶに道なき状態に置かれたのであつたが、在米日本人協同會（現在の日本人會）は、震災の爲に教材を失つた日本學院には資金を補助して白人教師三名を雇傭、公立學校の課程を併置し、公立學校から登校を拒絶された同胞児童を收容せしめ、又明治小學校には各種學校用具を貸與して日本語教育に當らしめた。

その翌一九〇八年に至り、公立學校に於ける日本人児童排斥運動は、同胞の布哇よりの轉航禁止を條件として解禁され同胞児童は一齊に復校するに至つたが、その際日本學院で公立學校の課程を修めた児童は同學院發給の成績表を携へて元級に復活するを得た。これ實に私立日本語學園の成績表が米國の公立學校で正式に認められたもの、嚆矢であり、恐らく最後でもある。なほ明治小學校は教會の都合により開校四年餘にして一九〇七年（明治四十年）未閉校した。

建設期に入る 在米日本人定住者の増加と共に妻子を伴なつて渡米する者も亦逐年その數を加へ、學齡に達する子女の漸く多數を算するにつれて、各地に續々日本語學園が設立され、學園の初期時代とも稱すべき一九〇二年より一九一二年頃までに創立された學園數は、加州に於ては十四校、オレゴン州に於ては一校、ワシントン州に於ては三校、計十八校の多きに達した。今その校名、所在地、創立年月日を列記すれば次の如くである。而して右學園創立の早遅は直ちに同胞移住の早遅を反映するものでもあり、特に興味深いものである。

學園名	創立年期	所在地	布市日本語學園	一九〇五年	フレスノ
日本學院	一九〇二年	桑 港	佐市日本語學園	一九〇六年	サンノゼ
櫻 學園	一九〇三年	サクラメント	亞 市 學園	一九〇七年	アラメダ
アルビン日本語學園	一九〇四年	アルヴィン	須 市 學園	一九〇八年	スタクトン
王府佛教學園	一九〇四年	王 府	アクニユー日本語學園	一九〇九年	アクニユー

右表の外に羅府に於ては一九〇七年に現在の羅府合同教會の前身ベッレヘム教會内に、東京香蘭女學校出身の山本尉夫人が日本語教育を始め、南加州に於ける日本語學校の始祖となつてゐる。

家 庭 學 園	一 九 一 一 年	ポ ー ト ラ ン ド
オレゴン州		
ワシントン州		
シヤートル國語學校	一九〇二年	シヤートル
ファイフ日本語學校	一九〇九年	ファイフ
タクコマ國語學校	一九一二年	タクコマ

日本語學園の統一

在米日本人教育者大會 斯くして各地に日本語學園の建設を見るに至つたが、當時の學園は各自に方針を異にし、或る學園は日主米從を唱へ、また或る學園は米主日從を唱へて、その授業科目もまち／＼に、或るものは故國文部省の歴史、地理、修身、圖畫、算術の如きものまで教へ、或るものは單に日本語のみを授業するといふ有様で相互の聯絡は全然なきに等しかつた。茲に於て桑港にある在米日本人會は一九一二年（大正元年）四月四、五の兩日各地日本語學園の聯絡統一を圖る目的を以て同會々議室に在米日本人教育者大會を開催、各地の教育者並に學園關係者三十餘名を招き、時の金門學園長藤田政令を議長に、日本學院長佐野佳三を書記に、在米日本語學園史上劃期的な會議を催した。茲に於て從來全く聯絡統一を缺いてゐた加州の日本語學園はこの大會を端緒として一種の團體的組織

下に置かれるに至つたのである。これ實に後記日本語學園協會の母胎をなすものである。

在米日本人會の諮問案

而して在米日本人會はこの大會に對して次の如き諮問案を提出した。左記諮問案並にそれに對する教育者の答申は當時の一般同胞社會が日本語學園に對して抱いてゐた觀念の一端を窺ふに足るであらう。

▲諮問案一、米國に於ける日本人兒童の教育目的及び方針如何、二、小兒養育所設置に關する件、三、學園維持の現状並に將來の方針如何

右に對する答申として意見の一致した點は左の通りであつた。

教育者大會の答申

▲諮問第一案に對する答申一、將來米國の地に生活して活動すべき人物の養成を以て本旨とす、二、米國の教育を受けしむる必要あると共に必ず補修教育を興へて日本の國語及び國情を學ばしむべし、三、徳育は教育勸語の御趣旨を體し國民性の長所を涵養し、米國精神の長所をも兼ね備へしむべし。

▲諮問第二案に對する答申一、兒童養育所設置の必要あるは認むるも、父兄が嬰兒の補育を他人に依頼するは家庭の良感化を殺ぐの恐れあれば奨励すべき方法に非ず、但し特殊の事情あるものに對しては勿論設置の必要あれば、在米日本人會は事業の性質上慈善會と提携してこの計劃を完成されんことを望む。

▲諮問第三に對する答申一、(筆者註)「右案に對しては當時の學校經營難を反映して各種の意見が聞はされてゐる、その代表的な意見を摘録すれば次の如くである。

◎島野好平(羅府)維持會員を二種に分ち一ヶ月一弗と五十仙とあり、授業料以外に寄附金もあるが經營極めて困難なり、將來の維持法として各地日本人會の援助を求め、在米日本人會には教育部を設置しては如何。

◎工藤憲達(サクラメント)日本人會の補助を仰ぐが如きは教育者の理想として避くべきである。蓋し教育に經驗なき者に監督せらるゝが如き事あらば將來必ず不都合のこと生ぜんとも限らぬからである。學園は飽まで父兄や贊助員の支出によつて經營さるべきである。

◎中林正巳(桑港)牧師、開教使などより寫眞結婚の謝禮の一部(一人一弗宛)を寄附されてゐる。その月額凡そ三、四十弗に

達する。學園は飽まで獨立すべきもので日本人會や宗教團體の補助を受くべきではない。經營の方法はその土地の有力者に托し教育者自身には關係さすべきでない。

在米日本人教育會生る

更に同會議には議案の一つとして「在米日本人教育會設置の件」も提出され、席上鎌田政令(十五點)佐野佳三(十五點)青木道嗣(十點)大場正治(七點)永井元(七點)の五名を創立委員に選定し、右五委員は在米日本人會と連絡をとり、教育會設立に關する研究立案、會則の起草を委託され、越えて翌一九一三年(大正二年)六月二十五、六兩日に互り桑港リフォード教會に開かれた第二回教育者大會に於て次の如く會則を定め、在米日本人教育會の設立を決定した。加州の各日本語學園は茲に於て完全な統一下に於かれるに至つたのである。

在米日本人教育會々則

第一條 本會は在米日本人教育會と稱し事務所を桑港市に置く、第二條 本會は在米日本人兒童に關する教育上の諸問題を攻究し之が實行を期すを以て目的とす、第三條 本會の會員を分ちて正會員、特別會員の二種となす、第四條 正會員は直接兒童教育に従事するものたるべし、第五條 特別會員は教育に興味を有するものにして正會員の推薦に依るものたるべし、第六條 本會の集會を總會及び臨時總會の二つとし總會は毎年夏期に開き、臨時總會は緊急を要する議事ある時隨時開會するものとす、第七條 (略) 第八條 本會に次の役員を置く會長一名、副會長一名、書記二名、會計一名、評議員七名、調査員十二名、第九條 (略)、第十條 役員は任期は一ヶ年とし總會に於て選舉をす但し再選を妨げず、第十一條 本會員は會費として毎年一弗を納付すべし、第十二條 (略)

而して初代役員は選舉の結果次の五名が選定された。

會長鎌田政令、副會長島野好平、書記佐野佳三、會計中林正巳、青木道嗣

第一回教育者大會の出席者

▲桑港 青木道嗣、鎌田政令、内田晃融、永井元、佐野佳三、鈴木孝志、宮崎小八郎、小室篤次、安孫子久太郎、永井英子、廣田善朗、中林正巳、寺澤久吉、紺野六郎、▲オークランド 松重浩、▲サリナス 野田徳治、▲フロリン 齊木仙辨、▲羅府

島野好平、▲アルヴィソ高橋随超、福井常三郎、杉貞次郎▲フレズノ一村清成▲ローダイ大行田政之助、▲スタクトン
 田中謙心、内山外海、▲アラメダ宮崎良太郎、大場正治、▲アグニュー池元辰雄、▲サンノゼ榮喜龜吉、高橋豊念、高
 木友助、▲サクラメント竹崎岸吉、工藤慧達、キングス郡増澤善政(以上三十四名)

學園の中興と受難時代

學園の中興期

學齡兒童の増加、教育會の設置と相俟つて在米日本人間の日本語教育熱は益々旺盛となり、
 その後も各地競つて日本語學園を設立した。一九一四年度(大正三年)調査による加州各地方の學園分布状態を見る
 と次表の如くで、その數加州だけでも三十一校に及び、學園史上中興期とも稱すべき勢力を示すに至つた。

桑港市三校(教員八名)以下上記に順ずアラメダ郡三校(六名)、サンタクラ郡四校(七名)、ワツソンビル地方二
 校(二名)、バカビル一校(一名)、サクラメント平原七校(九名)、スタクトン一校(一名)、フレズノ郡一校(三名)
 羅府三校(五名)、南加八郡七校(一〇名)、合計三十一校、五十二名。

この外ワシントン州に於ては三校、オレゴン州一校、加奈陀に三校の學園が創設されて居り、合計三十八校の多き
 に達する隆盛ぶりを示した。更に一九一四年十二月の調査による加州各地の日本人の兒童數、公立學校、通學兒童を
 男女別にして地方別に表示すれば次の如き數字を示してゐる。

地方別	總兒童數		學齡兒童		通學兒童	
	男	女	男	女	男	女
桑港市及び附近	七六三	七三一	三三〇	三八五	一五二	一四三
アラメダ附近	六〇七	五五七	二二九	一二六	一五〇	八八
サンタクラ郡	二六三	二四六	八九	七〇	五六	三七
南部沿岸	四二八	三六三	一九八	九三	五六	四八
北部沿岸	一四五	一四六	三三	二五	二六	一九
サクラメント平原	九四四	八三〇	四〇五	三六九	一八五	一四五

地方別	總兒童數		學齡兒童		通學兒童	
	男	女	男	女	男	女
スタクトン地方	一三四	一四二	四八	二八	二八	二八
中部加州	四〇七	三四六	一一〇	九三	七七	六四
羅府	八五九	八二四	二八一	二五六	一一三	一一九
南加八郡	八〇二	八八四	一八四	三三三	九四	七四
その他	一〇	八	一	一	一	一

▲合計兒童總數男五、三六二名、女五、〇八七名、學齡兒童總數男一、九七六名、女一、六七八名、公立學校通學兒童數男
 九、四七名、女七、六五名。

米化主義と學園の壓迫

更にこの中興期とも云ふべき一九一二年頃より一九二二年頃までの十二年間に創
 立された學園の數は、加州だけでも四十餘校の多きに達し、學園の勢力漸く増大するに及んで、これに對する米國の
 關心は漸次に深まつて行つてゐる。而して第一次世界大戰の勃發により、一九一七年米國がそれに參加して以來、國
 内に米化(アメリカニゼーション)運動勃然として起り、外國語學校に對する壓迫は陰に陽に熾烈を加へ、まづ敵國
 をなす獨逸の經營になる獨逸語學校を槍玉にあげ、延いては日本人、支那人、イタリア人の各私立學校も壓迫を加へ
 られるに至つた。日本語學校はこの壓迫に加へて内部的には同胞識者間に日本語學校存廢の議論騒然として再燃し、
 内外の壓迫に一時中興の勢ひを示した各地日本語學校も茲に一頓挫を招來するに至つた。

更に一九二一年の加州議會には突如としてバーカー議員提出の「外國語學校取締り法案」が滿場一致で上下兩院を
 通過し、知事の署名するところとなり、加州に於ける日本語學校は獨逸語その他の外國語學校と共にこの取締法の支
 配下に置かれることゝなつた。

抑々米國に於ける外國語學校取締法なるものは歐洲大戰にからみ米國人が獨逸並に獨逸人を憎むの餘り、當時公立
 學校に於て教授してゐた獨逸語を禁止せんとせるに端を發したもので、加州に於ては日本語學校を「日本主義を教へ
 るもの」と曲解して、これが取締りを嚴重にする必要から立法化したもので、その取締り法案は次の如くである。

パーカー外語 學校取締法案

第一 當州に於て私立外國語學校を經營し又はその教師たらんとする者は、先づ學務監督官又はその代理人に願出でその許可を受くることを要す、總てこの種校務を掌るもの亦之に同じ

第二 私立外國語學校教師の免許狀は學務監督官又はその代理人に於て、志願者がデモクラシーの思想並に米國史及び米國の政體に關する知識を有し英語を讀み、書き、話し得る者と認めたる場合に於てのみ下附すべきものとす、但し英語の知識に關する條件は一九二三年七月一日迄は寛大に解釋せらるべきものとす

第三 學務監督官又はその代理人は斯の如き私立外國語學校を經營又はその教師だけに要する免許狀を下附する以前、志願者をして本法の條項及び學務監督官又はその代理人に於て規定する規則命令を遵奉し、その生徒をして忠良なる米國市民たる方向に生徒の精神、學業を導き本趣旨に背かざるやうこれを教導すべき事を誓ふ旨の宣誓書を提出せしむることを要す

第四 私立外國語學校は毎朝公立學校の開校前又はその授業中に教授をなし若しくは同校の生徒をして毎日一時間以上乃至は一週間六時間以上又は一學年三十八週以上同校に通學せしむるを得ず

第五 學務監督官は隨時外國語學校の授業課目及び教科書を認定する全權を有し、同校經營者又はその教師は監督官に於て斯く認定せる授業課目又は教科書以外のものを課し又は使用することを不得

第六 學務監督官又はその代理人は隨時私立外國語學校を視察する全權を有し、若し視察の結果又は他よりの報道により斯の如き學校の教師が本法の規定に反し、同校を指導し居る事を知りたる時は、その許可證を取消し適當なる教師を得るまで同校の閉鎖を命ずることを得

第七 本法の規定に反し私立外國語學校を經營し又は教導する者は輕罪に該當し、二十五弗以下の罰金に處す

第八 學務監督官は市、郡の學務監督官をとときの代理人に任命し、その管轄市、郡に於ける私立外國語學校を視察せしむることを得

第九 本法中に「私立の外國語學校」なる辭句は日曜學校を除き、英語以外の言語を以て教授する學校を意味す

教育者會の對策

教育局へ決議通達

これより先き在米日本人教育會は、斯る壓迫の加はるべき情勢を觀取し一九二〇年十一月フレスノ市に於て開催した第九回總會に於て、在來の在米日本人教育會なる名稱は不適當なりとして、これを日

本語學園協會と改め、更に學校名も從來は何々小學校と稱してゐたのを今後は何々學園と改稱することを決議し、日本語小學校は一齊に日本語學園と改稱されるに至つた。而して同總會は日本語學園協會の目的についても改めて「本協會に聯絡せる各學園は、米國公立學校の精神に基づき、善良なる市民教育の補助をなすにあり」との綱領を定め、更に次の四項目よりなる決議を繼め、これを英譯して加州教育局長ウツドに提出、日本語學園協會の目的が決して米國公立學校の精神に背反するものでないことを明らかにした。その四決議文左の如し。

一、稚幼園にて日本人保母を聘し子女の公立學校入學の準備に努む
二、公立學校在學の兒童に對しては放課後三十分乃至一時間の範圍に於て日本語を教授し、親子間の意志疏通を圖ると共に家庭の幸福を享受せしむ。

三、學園に運動場を設けて體育を奨励し、街上遊戯の危險及び惡感化を避けしむ。

四、日本語學園に用ひ居る教科書は不適當なれば、米國市民としての教育に適當する新教科書の編纂を計劃中なり。

なほ當時加州に於ける學園の情勢を一瞥するに次の如くであつた。(一九二〇年學園協會調査)

學園數四〇、教師數八一名(内男一九、女五三、米人九) 兒童數一四二六名(内男七五三、女六七三) 幼稚園兒童數四八九名(内男二四六、女二四二) 總兒童數一九一四名。

教師の資格檢定試験

パーカー外國語學校取締法の制定により、日本語學園教師は總て州の認定試験及第

者たるを要することになつた。爲に日本語學園協會は既述の新教科書編纂の準備と共に資格檢定の受験準備に取りかゝらねばならなかつた。然しこれより先き在米日本人會は右法律の制定を見るや直ちに州當局に交渉を開始し英語力と米國の歴史、政體に精通を缺ぐ日本語學園教師に直ちにこの種の試験を行ふことの無理なる事情を陳べ受験準備の講習會を経て然るのちに受験し得るやう交渉に成功し、更に各地の學園に對しては受験に必要な注意條項、新法律制度によつて及ぼすべき諸影響等について詳しく注意書きを配布し、一九二一年八月二十二日より二週間に亘つて桑港、フレスノ、羅府の三市に於て講習會を開催した。而してこの講習會には米國知名の教育家を招聘して通譯つきで

講演を行はしめ、受験に必要な諸問題について詳しく諒解せしめた上で、州監督官コーンの監督下に受講者一同を受験せしめた。斯る特殊な受験方法が構じられた爲に憂慮されてきた及第率も極めてよく、桑港に於ては受験者總數百三十一名中合格者九十八名を出し、羅府フレズノ市も亦同方法による受験の結果ほと同率の合格者を出した。以來一九二三年、ネブラスカ州の獨逸語學校抗爭事件(後記)の勝訴により同取締法が失效するまで、毎年新たな試験問題によつて後來教師の資格檢定試験は續行されたが、學園史上特筆すべき最初の試験問題を列擧すれば次の如くである。

試験問題内容 米 國 史

- 一、米國史上に於ける左記六大事件に對する各二名宛の人物を擧げよ。
- (イ)米國探檢(ロ)米國植民(ハ)米國革命(ニ)領土擴張(ホ)南北戰爭(ヘ)現今
- 二、南北戰爭の結果判然決定せる二大問題を記せ。
- 三、米國が十三州より如何にして擴張されたかを記し、又各領土が如何なる形式にて米國に加へられたかを記せ。
- 四、加州の歴史を略記せよ。
- 五、一八五〇年の妥協を論ぜよ。
- 六、ワシントンの外交方針を記し、その方針が米國の外交政策に如何なる影響を及ぼしたるかを記せ。
- 七、モンロー・ドクトリンとは如何なるものなるかを記せ。

米 國 制 度

- 一、米國の政體と日本の政體の相違と類似の點を比較し、その長所と短所とを指摘せよ。
- 二、日本兒童を米國の制度に適合するやう教育するには如何なる點に最も力を入れる要ありと思はるゝや。
- 三、米國聯邦の憲法の如何なる短所が現今の憲法によつて改善されしや。
- 四、教育家は何故にその居住せる國家の制度を知る必要ありや、例を以て述べよ。

- 五、移民送還の理由を四つ述べよ。
- 六、米國の四政黨の名稱及び各政黨の主なる主義を略記せよ。
- 七、如何にして住宅の改善をなし得るや。

(イ)個人として(ロ)教育家として

新教科書編纂

日本語學園協會は取締法制定と同時に州教育局の認可を得べき新教科書をも必要としたが、(右新教科書編纂の事は既に一九二〇年フレズノ市に於ける第九回總會で決議済み)即時編纂は勿論不可能な事に屬し、よつて當時使用してゐた文部省檢定教科書中より不適當なる箇所を省き、これを英譯して州教育局に提出し、新教科書編纂まで臨時使用し得るやう許可を得て置き新法律制定の年(一九二一年)十二月在米日本人會及び南加中央日本人會教育部は聯合して、中島五十治を主任に、加州日本語學園協會推薦の佐野佳三、鈴木孝志を編纂實行委員として左の編纂趣旨方針を決定、編纂を開始した。

- 一、本教科書は加州外國語學校取締法に順應し在米日本兒童に正確なる日本語を教授する目的を以て編纂するものとす。
- 二、本教科書の卷數を十六卷とす(學園の授業年數を八年とし一年に二卷を教授するものとす)
- 三、本教科書の頁數を一卷八十五頁とす(一年の授業日數を約百七十五日とし(三十五週間)一年に二卷を教授するを以て一巻の頁數を平均約八十五頁を計上す)
- 四、本教科書の形式的方面

(イ)本教科書は在米兒童の實情に鑑み言語教授に重きを置き、單に文學的方面のみならず成るべく多くの方面より必要なる言語を選択す。

- (ロ)片假名は卷一より始めその教授日數を約十七週とす。
 - (ハ)平假名は卷四より始めその教授日數を約十週とす。
 - (ニ)漢字は卷二より始めその教授日數を約千二百字とす(八ヶ年の授業週數は二百八十週であるが、その中假名教授の週數は二十七週を除き二百五十三週「千二百六十五日」とし、一日平均一字教授す)
 - (ホ)漢字選擇法
- 1、新聞雜誌に多く現はるる字を即ち參考とする。

2、文部省編纂本参考

3、タイプライターの文字参考

(ハ) 文字は正しきを選ぶべく但し廣く使用せらるゝものは成るべく簡單なるものを探る。

(ト) 字音及び假名遣ひは文部省編纂の現行讀本に據る。

(チ) 文體は六學年までを口語體とし七學年には一割、八學年には一割五分の割合にて文語體を挿入し、候文は文語體の一部として一二の文例を挿入す。

(リ) 挿繪は内容と正確に一致しその意義を明瞭ならしめ、且つ兒童の興味を惹起せしむるものたるべし。

五、本教科書の實質的方面

(イ) 本教科書は兒童心理發達の情況に鑑み材料を選擇す。

(ロ) 教材は兒童の社交狀態 (social balance) より採用し、上級に進むに従ひ選擇の範圍を擴張す。

(ハ) 廣く材料を蒐む。

1、米國公立學校各教科書

2、日本現行各教科書

3、米國並に日本に於て外國人にそれ〴〵その國語を教授する目的を以て編纂せられたる教科書

4、逸話、地理、歴史

5、童話

6、General Information.

背後に在郷軍人の壓迫

右新教科書は一九二四年に至つて漸く脱稿し、直ちに全文を英譯して加州教育局に提出してその認可を求めたが、加州教育局は、今次外國語學校取締運動の強力な背景をなしてゐた在郷軍人團本部に右英譯文を移牒して事前にその諒解を求めた上で認可を與へた。加州政廳當局も在郷軍人團の事前諒解を求めねばならなかつたのである。この一事を以て見ても米國に於ける在郷軍人團の勢力を窺知出来る。

加州教育局の認可を得た學團協會は、新教科書の發行所となるべき桑港の書肆青木大成堂主青木道嗣に委託して、同年日本でこれを印刷發行した。現在加州各學團で使用されてゐる「米國加州教育局檢定済、加州日本語讀本」全十

六巻は斯くして發行されたものである。但し右教科書は發行後幾度か學團協會の總會で問題となり、種々改訂が加へられて今日に至つてゐるもので、各學團では普通これを文部省の國定教科書と併用してゐる。

取締法に抗爭し遂に勝つ

再度の重壓

インマン案

斯して「バーカー外國語學校取締法案」に準據する諸般の準備すべて成れる秋、一九二三年一月に出され、加州内の日本語學校は茲に完全に窒息せん状態に置かれ、學團關係者、教師は勿論、重なる壓迫に全在留同胞は悲憤に堪へざるものがあつた。而して右インマン法案の内容は「一九二三年九月一日より向ふ四ヶ年間は公立學校四年級を終了せざるものは私立外國語學校に入學すること得ず。而して一九三〇年以後は絶対に外國語學校を禁止すべし」といふにあり、該法案は上下兩院を殆んど満場一致で通過し、知事の署名を得んとするに至つた。而るにこの時に於て突如青天の霹靂の如く合衆國大審院に於てこれら排日議員の排外的取締法案は永久に葬り去らるべき一大判決が下された。

即ち右判決とはネブラスカ州に於てマイキーと稱するザイモン・パロキヤル學校(獨逸語學校)の教師が、公立學校八年級を卒業せざる十歳の兒童に獨逸語を教へた理由により違法者として罰金刑に處せられた事から、事件は更に合衆國大審院にまで持込まれ、同法廷に於て「外國語の教授は米國憲法修正第十四條」に於て保證するところなり」との判決下り、マイヤー教師は無罪となり、ネブラスカ州は勿論、加州その他全米外國語教授の禁止的取締法は茲に於て一齊に無効となるに至り、従つて法律の重壓下に窒息せんとした日本語學校も、漸くにして更生の曙光を見るに至つた。ネブラスカ州の外國語教授取締法並にそれに對する違憲判決内容を見れば次の如くである。

抗争へ第一弾 マイヤー事件

ネブラスカ州で外國語教授に對する取締法が制定されたのは一九一九年四月九日であつた。同法の内容は次の如くである。

一、何人も私立學校、宗教學校又は公立學校に於て英語以外の國語を以て如何なる問題も教授すべからず。
二、公立學校八ヶ年間の課程を卒え、その事實を郡教育監督官に依つて證明されたもの以外の兒童には英語以外の國語を語學として教授すべからず。

三、以上の如き禁止法に牴觸違反したものは一回の違法行爲に對して二十五弗以上百弗までの罰金刑か又は三十日以内の體刑を課す。

而して右取締法が法廷沙汰となつた事件の起りはロバート・マイヤーなる者が未だ公立學校八ヶ年の課程を卒えてゐないハーバーと呼ぶ十歳の兒童に一宗教學校でドイツ語を教授したのに始まる。依つてマイヤーは違法行爲をなしたものと告發され、一九二〇年五月二十五日ネブラスカ州ハミルトン郡の上級裁判所で有罪の判決を受けた。マイヤーは直ちに「外國語教授を禁止するは修正憲法第十四條に牴觸する」との法的立場から州大審院に上告して黑白を争つたが、州大審院も前記判決を裏書して有罪と認めた。その判決文には次の如く認めてある。

ネ州大審院の見解の敗訴

外國語教授を禁止する州法は修正憲法第十四條に牴觸してゐないばかりでなく警察權の有効なる行使であつた。諸外國から移住した外國人の子弟に彼等外國人の祖國語を教へるは、英語以外の外國語で彼等子弟を教育することになる譯であつて、自然彼等は常に外國語のことを考へ、随つて我が米國の最上利益の事については全く無關係なる思想と感情とを教へ込むやうになる。

外國語教授禁止法制定の趣旨は兒童に英語を以て教授し、彼等が充分成長したる曉に於て始めて外國語を教授すべしといふにある。本州内で教育する兒童には英語を以て國語とせねばならぬから該法制定は警察權の範圍に屬する

所である。又該法は全州民に平等に課するものであるから外國人の子弟にのみ差別的ではなく随つて不平等なる州法と云ふを得ない。又兒童は學校に於て教授を受くる時間に制限がある。運動や競技に充分なる時間を與ふる可きは云ふまでもなく、この點では法律の實際的運用問題も充分考慮に入れてゐる。勿論外國語を痛切に必要とする者もあらうが、これらの些細なる事柄は該法の效果から見れば比較にならぬ程度のものである。

と述べ外國語教授が警察權を以て取締り得るのは絶對的であると主張してゐる。マイヤーは遂に合衆國大審院にまで事件を持込んで上告した。而して一九二三年六月四日を以て控訴人マイヤーは遂に勝つたのである。この合衆國大審院に於ける勝訴こそ延いては閉鎖の止むなきに至らんとするた日本語學園をも合衆國憲法によつて保護せしめるに至り、日本語學園は茲に再び自由を獲得復活へ向ふに至つたのである。今その劃期的マツクレナルズ判事の判決文を示せば次の如し。

合衆國大審院で

勝訴、判決内容

該事件は要するに該州法が果して修正憲法第十四條によつて保證された自由を侵害するや否やにある。「如何なる州と雖も適當なる法律の手續きなくして各人の生命、自由及び財産權を侵害するべからず」との規定に牴觸せるや否やを究めなくてはならぬ。自由の意義とは自由人が幸福の享受と追及に對して本質的要素を慣例法によつて認められてゐるところである。この本質的要素を社會の利益を保護するといふ名の下に侵略するのは不可である。斯の如き州法の制定は最後のものではなく憲法に照して充分吟味すべきものである。米國民は教育と知識の獲得とを以て、最も重要なことと見做し、絶えずこれが普及獎勵を怠つてゐない。両親が子女に教育を與ふるは當然の責務であり、殆んどあらゆる州が（ネブラスカ州もその一例）義務教育制度を實施してゐる所以も實にこれが爲である。而して實際幼年者の教育に對しては特に適當なる人が學校に於て教育して始めて可能である。單に獨逸語を教授することだけが有害だとは理論的にどうしても考へられない。随つてマイヤーが獨

逸語を教授すること、両親が子女に教育を施すこととは兩者の權利であつて、修正憲法第十四條にある「自由」の範圍に屬してゐる所である。ラテン、ギリキの如き非實用的なる語學を許し乍ら、然も獨、佛、西及び伊その他諸國語の教授を禁止してゐるが、米國內外國人社會には全然英語を話さず専ら自國語のみを話してゐる者が多い。彼等に自國語の教授を禁ずるとなれば一層有爲の米國市民となるを妨げられ、返つて社會の安寧は危殆に瀕するに至る。州會が米國の大理想の下に一律の市民を養成せんとする希望を實現せんとするならば、國家生活に於ける世論を充分理解させなくてはならぬ。或學校に兒童の出席を強要し、又一般學校に對する取締規則を制定するは當然であるがこの點は今回の争點となつて居らぬ、こゝで問題になつてゐるのは州大審院に於て認められた外國語の教授を禁止する州法である。禁止法は州側の專斷的行爲であり、州の權能に屬する如何なる目的とも合理的關係を有してゐない。又外國語の教授は過去の經驗に徴しても兒童の健康、德育及び理解力に對して有害なりとは斷じ得ない。随つてネブラスカ州大審院の判決は覆へざるべきものである。

インマン案消滅

外國語の教授禁止法が米國の法廷事件となつたのは前記ネブラスカ州の他にアイオワ及びオハヨ兩州でも同様な州法が制定され、右兩州の大審院とも禁止法を支持する判決を下したのであるが、合衆國大審院はいづれも前記マイヤー事件と同様州大審院の判決を覆へし、州當局が外國語の教授を禁止する法律を制定するは米國憲法に違反するものであることを確證した。

而して合衆國大審院によつて禁止法が違憲なる旨が確立されるや、米國二十州に亙る外國語學校取締法中、特に外國語の教授を禁止するが如き法律は一齊に無効となり、加州の如く上下兩院を通過して方に知事の署名するところとならんとしたインマン外國語學校禁止法案はそのまゝ失効した。爰に於て特に説明を要することは同じ外國語學校取締法案でも、一九二一年加州議會制定のパーカー案は外國語の教授を禁止するものに非ずして寧ろ米國民教育を第一義とした監督法案と云ふべきもので、これは憲法に抵觸するものではないが、インマン案は「一九三〇年以後は絶対に私立外國語學校を禁止する」と云ふ禁止案であつた爲、教育の自由と個人の權限を侵犯するものとして憲法に觸れ、遂にマイヤー事件に對する合衆國大審院の判決によつて失効を餘儀なくされたのである。従つて方に實施されんとした矢先きに於てインマン案は失効したが、加州に於ては依然としてパーカー案が有効實施されて居り、加州に於ける日本語學園はなほ同法案の監督下に置かれてゐた。

パーカー案も解消

然るに一九二六年六月合衆國大審院は再び布哇に於ける外國語學校取締法を違憲となす一大判決を下し、爰に於て米國に於ける外國語學校取締法案は悉く根本的に失効するに至り加州に於けるパーカー案も自然無効となり、加州外國語學校監督官サム・エッチ・コーンは一九二七年五月二十一日を以て在米日本人會宛左の如き書面を送附し、パーカー案の失効を宣した。

曩に三月五日付を以て申上げた件は、その後州檢事總長より當局に對して加州行政法第五百三十四條の規定は憲法違反なりとの通告ありし結果、當局に於ては今後外國語學校に對して何等の監督權を有せざるにつき最早免許權の發給をなさず、冀くは日本新聞に右の旨發表あり度し

斯て加州の外國語學校取締りに對する州法は全くその存在を喪失した。爰に於て法の重壓下に在つた日本語學園も米國の參戰による米化運動開始の一九一七年より、コーンが無効聲明をなすに至つた一九二七年までの十餘年間に亙る受難時代を突破して、漸く保證と安心の明るみに出されるに至つた。而してこの劃期的布哇の抗爭事件とは次の如きものである。

ハワイ日本語學園の試訴

検事總長を告訴 一九二〇年、布哇の臨時縣會は布哇縣法第三十六條を通過し外國語學校教師雇傭に對する法規を判定した。即ちその法規には次の如き内容が盛り込まれてゐた。

總ての外國語學校教師は布哇教育局から下附した證明書を必要とする。この證明書には彼等は米國のデモクラシーの理想を體得し、米國史や米國の制度に對する智識を有すると共に英語を讀み、書き且つ語ることを證明されてをらねばならぬ。

これに對し布哇のカリヒ日本語學校では種川富造、バラマ日本語學校では中島佐一郎を各告訴人として、布哇縣檢事總長ジョン・エー・マツシューマン、公立學校監督官ウイラード・イー・ギヴンス兩人を相手取つて、布哇島巡回裁判所に對し該法の禁止命令發給を申請する提訴を行つた。學園側の試訴提起理由は次の如くであつた。

教師資格に對する取締法は違憲である、何となれば法律の平等なる保護を否定し修正憲法第十四條に違反してゐる。又修正憲法第五條にも違反してゐるし日米條約にも牴觸してゐる。該法は專斷的、沒收的で、而も不合理にして壓制的である。布哇縣會は如何なる點に於ても私立學校に影響する立法を制定する權能を有してゐない。私立學校の取締又は禁止に對する縣會の立法權は一般的に私有財産を取締ると同様な制限に順應すべきである。

布哇縣事總長マツシューマンはこれに對し「該法は布哇島に於ける米國市民を保護する爲に學校教師に對する或種の條件を規定せる法律である」と應酬した。

巡回法廷敗訴を宣告 而して巡回法廷のアンドレド判事も一九二三年九月二十七日大要次の如き判決を下し縣側の勝訴を宣した。

一、布哇縣會の該法制定理由は警察權の行使を與へたものであり、社會の便宜乃至一般的繁榮又は福祉を増進せんとしたものであり、同時に社會の安寧、公衆衛生等を昂進せんとする意志に外ならない。縣會は島民の要求を理解し、正當にこれを認めてゐるから、該法はこれらの經驗に依つて明らかにされた諸問題の解決に當らんとするもので、その辨別力は正當なる根據に基いてゐるのである。

二、外國語學校教師に對して何らの制限を加へずこの儘放任して置けば、如何なる結果が生ずるかは縣會が過去の經驗によつて充分認めてゐる。島民の必要とするところを正しく評價、理解し、米國デモクラシーの成功如何は米國の兒童各自に施してゐる學校教育の如何によるところが多い。而して日本語學校に於て米國の歴史も制度も全く理解せず、又英語を解せぬものが日系市民を教授するに於ては、布哇島未來の市民に對して米國主義の本質を傳ふことが出来ないのである。

三、日本人は極めて愛國的國民であるとして一般に認められてゐる。極端に天皇及びその國家に忠誠なる國民である。日本では主權の存在は天皇に在り、米國では米國民自身が主權者である。斯く異なる國家制度を有してゐるから米國及び英語を解せぬ日本人教師が未來の米國市民に及ぼす影響は一目瞭然たるものがある。

四、日系市民の學童は公立學校に通學すると共に日本語學校にも學んでゐる、彼らは公立學校よりも寧ろ日本語學校によつてより多くの感化を受けるであらう。然らばその結果は明白である。即ち彼等は日系市民は半分米國人であり、他の半分は日本人である。而してその感化の結果として純然たる日本人となつてしまふのである。日本語教授は各自の權利であつて何人も否定せぬが、社會の福祉に要する合理的立法を教師の上に課するは市民の最高權利である。

五、ネブラスカ州マイヤー事件の大審院判決はこの問題に對して決定的とはならぬ。布哇教師取締法は修正憲法第五條並に第十條に牴觸せず毫も專斷的と云ふを得ない。縣會は該取締法によつて警察權を適用したに過ぎず、日米條約の規定に反してゐるとは云へない。隨つて禁止命令發給を拒否するものである。

斯くて第一次試訴提起は日本語學園側の敗訴に終り、一九二〇年布哇縣會で制定した外國語取締法は有効なる旨確立された。

勝に乗じて更に峻厳なる取締法

これに乗じた布哇縣會は一九二三年及び一九二五年の二回に互つて原法を修正し、布哇教育局は同年六月一日から更に峻厳なる修正法の實施を公布した。修正要旨は次の如くである。

- 一、布哇縣内で外國語學校を經營するには教育局から成文の許可證を受けなくてはならぬ。而して一定の規定に基づいて手数料を支拂ふべきであつて、許可證はよく人目につく所に掲げ學校訪問者にも直ちに讀み得るやうにして置くこと。
- 二、私立外國語學校に通學する兒童は一人につき一學期一弗宛の手数料を布哇政廳に納入すべし。
- 三、總ての許可證は毎年九月一日に書換を要する。又手数料は布哇縣會計課に支拂ふ可きで、その収入は同法施行費により向けらるべし。
- 四、私立外國語學校に登校の全兒童を登録し兩親又は保證者及び出生地を明記すること。
- 五、教育局が教師に對してデモクラシーの思想と米國史及び憲法に對する知識を有し、且つ英語を讀み書き、話すものと認めなくては學校設置の許可證を發給せず。
- 六、學校設置の許可證を申請する者は布哇の取締法を遵奉し、外國語學校に於て善良、忠誠なる市民を養育するに努めるといふ宣誓書に署名を要す。
- 七、一九二〇年に制定された布哇縣法によつて外國語學校に入學を許可される兒童は公立學校第一年を卒へたものであつたが、一九二三年九月一日からは三ヶ年の課程を卒へた者とし、一九二四年九月一日からは四ヶ年乃至それ以上の課程を卒へたものと修正した。且つ教科書に於ても兒童の常用語は英語であるとの原則に従つて編纂しなくてはならぬ。教育局では適當なる教科書を編纂する權利を保留し、これによつて得た著作権収入は教育局が該法施行に必要な用途に支出するものとす。
- 八、教育局では監督官を任命し、何時にても該法に違反してゐるや否やを臨檢するを得、而してこれに違反の場合には許可證を取消すことを得。

これは一九二〇年に制定された當初の取締法よりも遙かに峻嚴なものであつた。當時の布哇縣知事アーリングトンはこれを承認、該修正取締法は一九二五年六月一日を以て實施された。

學園再訴、遂に勝つ

これが實施を見るやハワイ島内の外國語學校經營者は驚愕した。殊に當時二萬の日系兒童の日本語教育を受持つ日本語學園當局は、二萬の兒童と二百餘に上る日本語學園の運命をかけて再び黑白を競ふべく、今回は日本語學園を代表する原告に徳重を起用し、合衆國法廷に正義の判決を求めて上告した。

この提訴は布哇全島は勿論、パーカー取締法の監督下にある加州を始め全米の在留同胞齊しく深甚な注目裡にその成功を祈念したのであつた。殊に今回の判決如何は既述マイヤー事件に於て尙解決し得なかつた諸點解決のキートンなり、更に又外國語學校に關する諸問題の根本的且つ徹底的解決をも與へるものであつたので、彼等の論争激烈を極め殊にハワイに於ては布哇報知は該提訴を支持し、日布時事は反對の立場を固執し、その筆戰の如きは古今を通じての激烈なものであつた。

而して日本語學園側は遂に勝つた。合衆國法廷は一九二五年七月二十一日、原告の勝訴を判決しハワイ縣法廷の判決を根本から覆した。問題の日本語學園取締法に對する禁止令發給の請願も許可された。然し一方、これに狼狽したハワイ政廳は合衆國法廷の判決を不服となし直ちに桑港に於ける合衆國巡回控訴院に上告した。然しハワイ政廳はこゝでも敗訴となつた。茲に於て政廳は最後の上告を合衆國大審院に試みたが大審院でも前記二法廷の判決を支持し、遂に一九二七年二月二十一日を以て取締法禁止の命令を發するに至り、日本語學園の勝訴は確定した。

而してこの判決によりハワイは勿論加州その他各州の外國語學校取締法も一齊に効力を失するに至り、日本語學園は茲に於て完全に自由を獲得し、各外國人は自由に彼らの子女に自國語を教授する權能と自由を與へられたのである。

大審院の判決

而して大審院の判決要旨は根本的にはネブラスカ州のマイヤー事件と大差なく、修正憲法第五條及び第十四條によつて外國人の自由を認められた點は全く同一である。その要旨を示せば次の如し。

外國語學校は兒童の兩親によつて必要なものと認められたものであつて、決して社會の利益に相反するものではない。教師に對する取締法を勵行する時は教育の目的を破壊し、且つ兩親が子女教育上非常に重視して居り、米國に對しては何等の害とはならぬところの子女教育に對する最も適當なる機會を奪ひ去るに至る。日本人の兩親は不合理なる拘束を受くることなく、己の子女を教育すべき權利を有してゐる。米國憲法は外國語を話すものをも米國民と同様に保護すべきである。

學園權利確保

茲に於て日本語學園は米國憲法の保證するところとなり、次の諸點を確保した。

- 一、日本語學園及び教師は英語の檢定試験を受ける必要なく自由に教師を雇備することを得
- 二、日本語學園は生徒一人につき一弗の税金を納める必要なく、自由に學園を經營することを得
- 三、教科書は日本語學園が自由に選擇せるものを使用することを得
- 四、日本語學園は學年を短縮するに及ばず、自由に學年を制定することを得
- 五、日本語學園は公立學校の授業時間以外は何時にも開校することを得

最盛期現勢

飛躍へ羽搏く學園

米國修正憲法の保證するところとなつた日本語學園は米大陸、ハワイともに倍舊の力を以て逐年發達の一途を辿り各地に閉鎖の狀態にあつた學園は蘇生し、更に新學園、新校舍は續々と増設され、爾來十餘年間は正に日本語學園の最盛期とも云ふべき隆盛を呈するに至つた。これは勿論在米同胞社會に學齡兒童が増加せるに起因するは大であるが、法の重壓から全く解放され、更に父兄自身が時勢に鑑みて子女の日本語教育とそれによる日本的德育の必要性を痛感し始めた事と兒童自身が日本語修得の必要性に目醒めた事などに起因するも亦大であると云はねばならぬ。且つ又學園に對する社會並に父兄の支持は一種の義務感をすら伴つて益々強力となり、その維持費を分擔する一方、諸學園が年中行事の一つとして催す基金募集映畫會その他の寄附興行並に諸催は、他の如何なる團體のこの種の催物よりも盛況を呈する有様で、それによる収入は莫大なものを計上されてゐる。

同胞文化の集散地

斯くて各地に新築或は増築された校舎やホールは、在米同胞社會の各種集會行事の中心となり、今や米國に於ける日本語學園は日本及び日本語を教へる學問の園であると共に、在米日本人の文化的集

散地ともなつてゐる狀態である。殊に注目すべきことは日本語學園は公立學校の餘暇に於て授業すべき狀態に在り乍らも、日本語教育熱の旺盛化により、近來は小學科の上に高等科、中等科をも併置し、その教授法も例年の學園協會總會に於て研究進歩し、爲に兒童の學力は近年特に増進し、日本語學園出身者にして日本の中等學校、或は高等學校大學等に進む者續出する一方、米人社會に於ても日本語力を有する日系市民として優遇されてゐる有様である。殊に近年は太平洋時代の到來と共に日本語の必要性に着眼せる外國人にして、日本語學園への入學者がばつ／＼殖えつゝあることは注目すべき傾向である。

加州の學園現況

加州の如きは米國に於ける同胞の最も密集せる州であるだけに、日本語學園數も他州に比べて最も多く、その發達の経路を辿つて見ると、先づ同胞の移住發展に従ひ、初めは桑港を中心として北加州に興り漸次に中加州、南加州へと南進し、今や日本人の住むところ必ず日本語學園ありと云ふ賑盛さである。加州に於ける日本語學園の詳しき現況は次表の如くで、その學園總數實に二百四十八校、教師數四百五十四名、生徒數一萬七千八百三十四名、右に要する一ヶ年の總經費實に三十九萬七千九百九十弗と云ふ巨額に達し、これを生徒一人當り一ヶ年の教育費に換算すれば二十二弗三十仙となつてゐる豪勢さである。これ實に本稿の初めに既述せる如く在米同胞が公團體並に事業に負擔する金額中の最大のものでこれを見ても在米同胞が如何にその子女の日本語教育に力を致してゐるか窺知出来るものである。

加州の日本語學園現勢

一九三四年十二月現在
北加日本語學園協會調査

學園數	北加	中加	南加	合計	生徒數
101校	75	130	216	421	19,834
教師數	1,977名	75	1,100	3,152	1,797,910

同生徒数に依る學園の比較(調査同上)		北加	中加	南加	二五〇—三〇〇	二〇〇—二五〇	一五〇—二〇〇	一〇〇—一五〇	五〇—一〇〇	一—五〇	二校	ナシ	ナシ
員	數	北加	中加	南加	二五〇—三〇〇	二〇〇—二五〇	一五〇—二〇〇	一〇〇—一五〇	五〇—一〇〇	一—五〇	二校	ナシ	ナシ
		自五〇一人至五五〇名	一校	ナシ	二〇〇—二五〇	一五〇—二〇〇	一〇〇—一五〇	五〇—一〇〇	一—五〇	一—五〇	三校	ナシ	ナシ
		四五〇—五〇〇	一校	ナシ	一五〇—二〇〇	一〇〇—一五〇	五〇—一〇〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	四校	ナシ	三校
		四〇〇—四五〇	ナシ	ナシ	一〇〇—一五〇	五〇—一〇〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	二校	二校	四校
		三〇〇—四〇〇	ナシ	ナシ	五〇—一〇〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	二校	四校	十四校
		二〇〇—三〇〇	ナシ	ナシ	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	二校	九校	三十一校
		一〇〇—二〇〇	ナシ	ナシ	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	二校	九校	三十一校
		五十—一〇〇	ナシ	ナシ	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	二校	九校	三十一校
		一—五十	ナシ	ナシ	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	一—五〇	二校	九校	三十一校

日本語學園協會の沿革

米國各地の學園現況を見る前に、加州日本語學園協會の沿革を記述せねばならぬ。蓋し同學園協會は加州に於ける日本語學園の總元縮めであり、その沿革史は直ちに學園の総合的な沿革史に聯關するからである。抑々日本語學園協會は在米日本人教育會の後身にして、學園協會と改稱されたのは既述せる如く一九二〇年(大正九年)十一月、フレズノ市に開かれた在米日本人教育會第九回總會に於て、加州外國語學校取締法の一對策としてなされたもので、爾來その名稱を保つて今日に至つた。

然るに同協會は、未だ教育會と名稱して全加州の日本語學園を統轄してゐた當時、即ち一九一五年、羅府に領事館が新設され、南加州地方は同館の管轄下に置かれるに至つたので、南加州地方の各學園は在米日本人教育會の管轄を離れ、同年九月新たに南加日本人教育會を組織してゐた。而して同教育會は在米日本人教育會と不可分な關係下に取締法などに對する對策も考究してゐたので、在米日本人教育會が日本語學園協會と改稱すると共に同教育會も南加日本語學園協會と改稱したのである。

南加學園協會の離合

南加日本語學園協會は在米日本人教育會と分離獨立するや、北加に於て教育會が在米日本人會の補助を受けてゐた如く、同協會も南加中央日本人會より年額六百弗の補助を支給されてゐたが、偶々一九一七年に至り同中央日本人會内に教育部が新設されたのでこれに合同し、日本人會の一部門として大いに活躍する

ところあつたが、一九二〇年に至り同日本人會の動搖から再び分離獨立し、爾來今日に至つてゐるものである。

中加日本語學園の分離

更に中加州地方の學園は地域的な關係から南加同様獨立分離を希望するに至り、一九二五年(大正十四年)十月スタクトン市に於て開かれた學園協會第十一回總會に於て分離獨立を宣し、中加日本語學園協會を組織し、同地方一帯の日本語學園の統轄機關となつた。

斯くて一九一三年(大正二年)創立された在米日本人教育會は加州の南、北、中三地方に分れ、北加、中加、南加學園協會を名乗るに至つたが、これは一面に於て學園の隆盛から各地方の獨立を招來したもので、右三學園協會は毎年一回聯合協議會を開き、日系市民のよりよき教育にたゆまざる盡瘁をつゞけてゐる。

各州學園の現況

日本語學園は人口の關係上加州に於て最大の勢力を示してゐるが、その他同胞の多く居住する州即ちユタ、ネヴァダ兩州(山中中部)コロラド州、オレゴン州、ワシントン州等の日本語學園も、それ々の人口に應じて發展して居り殊にワシントン州シヤートル市のシヤートル國語學校の如きは全米を通じて最古のものであると同時に、生徒數一千二百九十五といふ米國日本語學園中の最大のものである。今各州の學園現況を總括的に示せば次表の如くで、第一表「桑港總領事館管轄區内の學園現勢」中にはユタ、ネヴァダ兩州も含まれ、加州は中加以北を含むものである。

なほ次表は學園協會及び教育會等に聯絡するもののみを記録したもので、それ以外の私塾、教會附屬學園等多數にあるがこれは省略する。

ベスカアロ	一	一〇〇	一九三〇	六〇	一、〇〇〇
國語學園	一	一〇〇	一九三〇	六〇	一、〇〇〇
パロアルト	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
メノロバーク	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
メルフキルド	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
マウンテンビッ	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
佐市日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
トリンアルロード	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
エデンビル	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
キヤンベル	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
ベリアサ	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
アルビツ	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
ウイロー	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
東サンノセ	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
ロスグダス	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
サニマテン	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
中央學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
メリケンコーナ	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
アグニユ	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇

佛教會附屬學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
サニサイド學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
布市日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
ホーリス	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
フレスノ學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
マンモス	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
アラツクストン	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
チヨーチ學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
北部學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
パリア日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
昭和田塾	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
クロービス學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
リドレー	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
合計	二七	二七	一九三三	三、〇〇〇	一、〇〇〇

傳馬日本語學園	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
傳馬佛教學院	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
土曜學校	二	二〇〇	一九三三	三〇〇	一、〇〇〇
アライトン	三	三〇〇	一九三七	四〇〇	一、〇〇〇
ラプトン	三	三〇〇	一九三八	四〇〇	一、〇〇〇
ヒヤプロ	四	四〇〇	一九三〇	五〇〇	一、〇〇〇
日本語學校	四	四〇〇	一九三〇	五〇〇	一、〇〇〇
セシユイツク	二	二〇〇	一九三〇	三〇〇	一、〇〇〇
邦語學園	二	二〇〇	一九三〇	三〇〇	一、〇〇〇

コロラド州日本語學園現勢 (一九四〇年一月現在)

經費年額
給料
其他
計

六、〇〇〇

モンロピア昭和學園	一	一四	一九二六	サンデーゴ	二	四二	一九三〇	七七五
ボモナ・バプテスト學園	一	二九	一九二九	佛教會	二	四二	一九三〇	七七五
ボモナ日本語學園	一	二二	一九二八	チユラピスタ日本語學園	二	八八	一九二五	
バアセツト日本語學園	二	八〇	一九三二	ブローレー佛教會學園	六	一〇二	一九三三	
ポールドウインバーク	二	五〇	一九二二	エルセ	五	一三〇	不明	
日本語學園	一	二六	一九二七	カレキシコ學園	三	六五	一九二〇	
アークデア日本語學園	一	一五	一九三三	昭和學	六	一三七	一九二八	
美以教會國語學園	一	一五	一九三三	日本人美以國語學園	五	一三六	一九二六	
北エルモンテ日本語學園	一	五三	一九二五	コイチユラ	二	四三	一九二八	
南エルモンテ日本語學園	三	四二	一九三〇	平	二	二二	一九三〇	
モンテペロ第一學園	二	九八	一九二五	コイチユラ	二	二二	一九三〇	
南エルモンテ家庭學園	一	二四	一九二七	リバサイド學園	三	三六	一九二八	
モンテペロ第二學園	一	一五	一九二〇	アリソン日本語學園	一	三〇	一九三〇	
東ホイテヤ日本語學園	一	五三	一九三〇	グトソン日本語學園	一	一五	一九三〇	
バンデニ學園	二	四五	一九二七	オクスナード日本語學園	一	八四	一九二九	
ダウニ日本語學園	二	六七	一九二九	オクスナード日本語學園	一	不明	一九二二	
ノオーク日本語學園	二	二四	一九二五	サンタバーバラ組合教會	二	五〇	一九二七	
ガーデングローブ學園	二	五〇	一九二五	日本語學園	二	七五	一九二九	
スタントン日本語學園	四	一〇二	一九二六	サンバ	四	一五	一九二五	
アナハイム日本語學園	一	一六	一九二五	ランポーク日本語學園	二	四五	一九二一	
タルバート日本語學園	三	九五	一九二四	サンタマリア日本語學園	三	四三	一九二一	
アルヴァイン日本語學園	二	九六	一九二九	ガタール日本語學園	三	一九三	一九一九	
コスタメサ日本語學園	二	四五	一九三一	アロヨグ	二	八〇	一九二七	
ビスタ日本語學園	二	六四	一九二九	ランデ	二	五〇	一九二六	
鐵港日本人組合	三	六五	一九二五	ビスモ日本語學園	二	四一	一九三五	

ベチヨ一日本語學園	一	不明	一九三二	アツブランド學園	二	四二	一九三〇	七七五
ウインズロー日本語學園	七	二四	不明	サンバナデノ學園	一	一七	一九二四	四三〇
モネタ學園	六	二五〇	一九二二	ナイランド學園	一	三五	一九一七	九〇〇
ベロス日本語學園	一	九	一九二七	ロスオロス學園	二	一八	一九三八	一一〇
羅府玉川學園	(以下不明)			ランキヤスター學園	二	三四	一九三八	四一〇
北米學園				アリソナ學園	一	八一	一九三七	一三〇〇
ハリウッド長老教會學園				メサ	一	一六	一九三一	二一五
ロミタ學園				メサ	一	一六	一九三一	二一五
サンマリノ學園				メサ	一	一六	一九三一	二一五
ラグナビーチ學園				ガラツプ學園	一	一八	一九二七	二四八

オレゴン州日本語學園現勢

(一九四〇年六月現在 史州聯合日本人會調査)

學園名	教師數	生徒數	創立年次	一ケ年の經費 (單位弗)	學園名	教師數	生徒數	創立年次	一ケ年の經費 (單位弗)
ポート日本語學園	五	一四五	一九二二	三・四四二	セーラム國語學校	二	四二	一九三〇	七七五
南ボ學園	四	七〇	一九二八	二・一七五	シービー國語學校	一	一七	一九二四	四三〇
東側日本語學園	二	一七	一九三三	二・八二	日米學院	一	三五	一九一七	九〇〇
ポート日本語中學院	二	一八	一九二七	三〇	星條學院	二	一八	一九三八	一一〇
ランド日本語學校	一	三〇	一九三〇	七〇〇	グレッツ星條學院	二	三四	一九三八	四一〇
バンクス日本語學校	二	六〇	一九二六	六五〇	慈知日本語學校	三	八一	一九三七	一三〇〇
風土利坡國語學校	二	三〇	一九二六	六五〇	バンク國語學校	一	一六	一九三一	二一五
バーク國語學校	一	三四	一九二八	六一六	ウツド日本語學園	一	八	一九三七	二三〇
デイー國語學校	一	三一	一九二六	六〇〇	メドフオ家庭學園	一	八	一九二六	二四八
ミルオ日本語學校	一	二〇	一九二八	三〇五	ダラス日本語學校	一	一八	一九二七	二四八

インデベ
ンデンス 日本語學校 休校中

カー 日本語學校 休校中

▲要約 校數二十二、教師數三十三、生徒數六百九十四、一ヶ年の經費一萬三千五百二十八弗、生徒一人一ヶ年の教育費約十九弗五十仙。

ワシントン州日本語學園現勢 (一九三一年五月現在)

學園名	教師數	生徒數	創立 年期	一ヶ年 の經費 (單位弗)
オーバン 日本語學校	二	一五三	一九一七	二・五五〇
オルグートン 國語學校	二	三七	一九二五	七五〇
ベルビュー 日本語學校	一	三九	一九一五	五七五
グリーンレーキ 國語學校	三	八〇	一九二五	一・〇〇〇
フアイフ 日本語學校	三	一四二	一九〇九	三・〇〇〇
フワイウツド 日本語學校	一	四三	一九一六	九〇〇
オーデン 國語學校	二	二一	一九一七	三一〇
シャートル 國語學校	二	二五	一九一五	二・三三四
ワシントン州には右表の他にハリウツド日本語學校、ヤキマ日本語學校、ホワイトリバー日本語學校の三校がある。				
サウスパーク 國語學校	二	八三	一九一八	一・八〇〇
スポーケン 國語學校	三	七六	一九一五	二・〇〇〇
サムナー 國語學校	二	五四	一九二三	九五〇
サニデール 國語學校	一	三〇	一九三二	三七〇
タコマ 國語學校	八	三二四	一九一一	六・二〇〇
タバニッシュ 佛敎國語學校	二	二八	一九三〇	(不明)
タマス 日本語學校	二	八八	一九一八	二・一〇〇
ワバト 日本語學校	三	一一〇	一九二七	三・〇四五
ウインズロー 國語學校	一	四一	一九二八	四八五
ヤキマ市 佛敎國語學校	一	一六	一九二九	(不明)

右三校を除く右表十八校の現勢を要略して見ると次の如くである。
 兒童總數 二五五〇名、教師數 六四名 (うち男二三——女四一) 一ヶ年の經費 四萬七千四百十四弗兒童一人一

ヶ年の教育費 十八弗五十九仙

加奈陀日本語學校現勢 (一九三一年五月現在)

學校名	教師數	生徒數	創立 年期	一ヶ年 の經費 (單位弗)
バンクーバー 日本共立語學校	一七	九六六	一九〇六	一四・〇〇〇
フェアビュー 共立語學校	五	一六七	一九二一	三・三〇〇
昭和共立語學校	二	六五	一九二八	一・六〇〇
キチラノ 日本語學校	三	一二八	一九一六	三・三〇〇
マイボル 共立日本語學校	二	五五	一九二六	一・三〇〇
ステブストン 日本語學校	一〇	三七四	一九一一	六・八〇〇
シアアイランド 日本語學校	一	五八	一九二七	六五〇
新西院日本語學校	二	五〇	一九一八	一・四〇〇
クキンスポロ 園	二	八七	一九二六	一・九四〇
サンベリー 共立語學校	一	一九	一九二七	五四〇
フレザミル 日本語學校	一	一六	一九三一	三六〇
ポートハモンド 日本語學校	一	五四	一九一八	九〇〇
ヘネー日本語學校	二	二五	一九一九	一・五〇〇
ウオーノック 日本語學校	一	五八	一九二六	一・二八〇
ミツシヨウ 日本語學校	二	一一九	一九二三	一・六〇〇
ウツドファイバー 共立語學校	二	三九	一九二六	一・〇一〇
ケロナ日本語學校	一	三五	一九二四	一・〇〇〇
サンマール 日本語學校	一	一五	一九二七	三五〇
オーション 日本語學校	二	二三	一九二八	一・二〇〇
プリンズル 日本語學校	一	二一	一九二一	三〇〇
美府邦語學校	二	四三	(不明)	四三八
ビクトリア 日本語學校	一	二四	一九二八	七二〇
ヒルクリスト 日本語學校	一	一一	一九二九	二〇〇
メーヨー 日本語學校	一	一七	一九二九	(不明)
共立チマイナス 日本語學校	一	三八	一九二七	七〇〇
ナイイモ 日本語學校	一	二〇	一九三〇	七〇〇
ロイストン 日本語學校	一	二二	一九二七	一・二〇〇
コモツクス 區 公民學校	二	八二	一九一八	二・〇四〇
カーバランド 第一號區國語學校	二	四六	一九一〇	一・二〇〇
コーツネ 日本語學校	一	一三	一九二八	二一九

ユークレツト 日本語學校	二	三九	一九二九	五六〇	ポルトガルバニー 日本語學校	二	一四	一九三〇	(不明)
トワイノ 日本語學校	一	二五	一九二八	四五〇	ハイデビル 日本語學校	一	三一	一九三〇	六〇〇
ポルトエシントン 日本語學校	一	二三	一九二八	八四〇	レモンド 日本語學校	一	二六	一九三〇	(不明)

右表要略

學校數 三六校、教師數 八〇名、生徒數 二九四五名、一年間の經費 五四・一九七弗、兒童一人一ヶ年の教育費 一八弗四〇仙

ハワイの日本語學校

日本語學校の沿革 現況

布哇に日本語學校が創始されたのは一八九六年(明治二十九年)で、同年四月創立された布哇中央學院を以て嚆矢とする。爾來日本人の移住漸増と子女の増加につれ逐年全島に日本語學校の増設を見、一九三八年度調査の現在數を見れば全島の日本語學校數百九十五校、教師數七百二十八名、生徒數實に四萬二千七十九名といふ夥しい數に達してゐる。

布哇に於ける日本語學校も米國の米化運動による壓迫に禍され、一九二〇年の第一次取締法から一九二三年及び一九二五年の第二次三次取締法、それに對する試訴、巡回裁判所に於ける敗訴等法律の壓迫を受け、遂に合衆國大審院に於ける勝訴判決のあつた一九二七年までの八年間に互る受難時代を経験してゐる。(布哇の取締法と學園の抗争参照)この受難時代を突破した日本語學園は憲法の保證によつて布哇縣教育局の管理下を離れ、日本人教育家による獨立の布哇教育會を復活し、現在自治方針の下に縣當局と協同的態度で進んでゐる。

これら日本語學校は概ね在留日本人父兄の經營になる獨立學校で、その中に宗教附屬學校が四十餘校あり、殊に本派本願寺附屬のものが最も多くその數三十校と數へられてゐる。布哇に於ける日本語教育の現狀について最も注目される點は、時代が既に第一世から第二世に移りつゝあり、日本語學校教師の如きも移民法の實施されて以來日本から招聘の途絶した爲、主として縣内よりこれが補給を圖つて居り、日系市民の日本語學校卒業生で教師に採用されるもの多く、本願寺經營の布哇中學校では師範科を設置して日系市民の教師を養成してゐる。更に學校經營の任に當るべき學務委員の如きも漸次に日系市民の手に歸しつゝあり、今や第二世の手によつて第三、四世の日本語教育が行はれてゐる現狀である。

これら日本語學校は概ね日本人教育家によつて組織されてゐる布哇教育會に統轄され、教科書も同會編纂の讀本、修身、書方(硬筆)を使用し學年も小學科の他に補習科、中等科、商業科を設けてゐる。

布哇全島には前記教育會統轄の學校百六十六校の他に非所屬の小、中、女、實業各學校並に通稱チェーン・スクールと呼ばれてゐる日本語教育會經營の學校九校と合せて二十九校あり、布哇の日本語教育は米大陸のそれ以上に大規模で根強い發達を遂げてゐる。

布哇日本語學校の通則及び學校の現勢を示せば次の如し。

布哇日本語學校通則

一九三八年布哇教育會第十一回代議員會は同會所屬日本語學校一般に適用するレギュレーションとして左の五ヶ條よりなる「日本語學校通則」を制定した。

第一條 日本語學校は兒童に日本語を授け、且つ家庭に代りて之を誘掖輔導するを以て目的とす。

第二條 日本語學校の修業年限を十二ヶ年とす。但し土地の情況により伸縮することを得。

第三條 日本語學校の教授科目は日本語及び修身とす。但し高學年に地理、歴史、英文和譯を課することを得、又

特に女子の爲に裁縫、技藝を課することを得

第四條 日本語學校に使用する教科書は布哇に於て編纂せられたるものたるべし。

第五條 日本語學校學年度の終始は公立學校に準じ、授業時間数は一日一時間。一週六時間、一年三十八週間以内とす、但し土曜日に限り適當延長することを得。

但し右通則は一九三八年の代議員會で初めて正式に採擇されたものであるが、實際に於ては從來どの日本語學校に於ても實行し來つたところで、偶々同年の代議員會に於て成文化されたわけである。

ハワイ日本語學校現況

一九三八年
九月十五日現在

布哇教育會所屬

備考 附屬團體別中獨は獨立學園、本は本願寺、淨は淨土宗、曹は曹洞宗、基はキリスト教、連は日蓮宗各教會に附屬するを意味す

校區	學校數	生徒數	教師數	附屬團體別
第一區	三	二、九〇〇	一六	獨一八、本二、基一
第二區	七	三、六三三	九	獨三、曹二
第三區	八	八、六二	九	獨二五、本五、淨五
第四區	六	九、三三	三	獨九
第五區	六	一、〇五五	六	獨四、本二、淨一
第六區	〇	一、八三〇	三	獨三、本一
第七區	〇	一、三五六	三	獨一、三三、本二二、連一、淨一〇、曹六、基三
合・計	一六	六、三三三	六七	

非所屬日本語學校

學校名	生徒數	教師數	創立年次
布哇中學校	六八一		一九〇七年
布哇高等女學校	六五〇		以上合計二八
マアヌ實科高等女學校	二五〇		一九〇七年

校名	生徒數	教師數	不明	不明
マアヌ和教學園	一八〇			一九三二
マアヌ和教中學校	一五〇		以上合計一四	一九三四
カイムキ大洋學院	三〇〇		六	一九三三
立川高等女學校	二二四		七	一九三一
令女學寮	二四		二	一九三六
菩提學寮	八〇		三	一九三五
至精學舍	一〇〇		一	一九二八
布哇高等日語學院	不明		不明	一九三五

補遺

米國の教育統轄機關

合衆國政府には文部省がなく、内務省内に教育局があり、同局に於て米國全體に互り、但し極めて狭い範圍の教育事務を司つてゐる。従つて各州の教育方針、制度その他教育に關する總ての事務は殆んど州政府に一任されてゐる。

州及び郡の教育統轄機關

加州の州及び郡の教育統轄機關を見れば次の如く區分されてゐる。

一、州教育局 (Dept. of Education)

知事の任命により南、北、中加より局員十名を選び、右局員は三ヶ月に一度宛集會を催し教育の方針を定め、規定を作り、教科書の檢定等を行ふ。

二、州教育監督官 (Supervisor of Public Instruction)

現在定員三十名、これらは選挙によつて選定し任期は四ケ年である。これら監督官は州教育局の書記、行政官、州全體の學務報告などを監督する。

三、郡教育局 (County board of Education)

加州内には五十八の郡あり、各郡とも教育局を持ち各五名宛の局員を擁してゐる(うち一名は郡教育監督官)任期四ケ年、一年に二回の會議を行ひ、州法に牴觸せざる範圍に於て郡内の各學校に適用すべき諸種の規定を作り方針を決定する。

四、郡教育監督官 (County Supervisor of School)

選挙によつて選定し任期を四ケ年とす。州法、郡令の行政官で地方學校と最も密接な關係を有し、年に一回郡内各學校を視察する。且つ教育に關する總ての規定、訓令、報告等を郡内各學校に分配し、又郡内の學事に關する報告書を作る。

五、市教育局 (City board of Education)

人口六千以上の都市には市教育局を設ける規定あり、但し人口六千に満たざる都市でも認可されたるシティ || Chartered City || は同様に教育局を設けねばならぬ、加州には現在五十五の市區あり、そのうち七區は未だ市教育局を設けず、學校區保管委員によつて教育事務を支配されてゐる。

アメリカン・インディアンとその學校

現在米國には約三十萬のアメリカン・インディアンが居住し、彼らは全米各地に散在し、Indian Reservation に於て米國政府の保護下に生活してゐるが、各インディアン・レザヴェーションには Reservation boarding and day School があり又 Non-reservation training School もあつて色々な職業教育も施してゐる。この他に政府の補助金によつて經

營してゐるミツション・スクールもある。これら政府直轄のインディアン・スクールは全米に約三百校あり、加州には約一萬五千のインディアンが居住しインディアン・レザヴェーションが七乃至八區ある。

備考

日本人兒童の隔離學校

日本人兒童で隔離教育を受けてゐる學校が加州に四ヶ所ある、フロリダ、コートランド、ウオーナツグロブ、アイルトンの四ヶ所がそれで、最近に至りオックスナードも墨國人と同様に大部分の日本人兒童を普通公立學校から隔離した。

なほ桑港には支那人だけの隔離學校があり、羅府には墨國人だけの隔離學校がある。

隔離學校の學令に次のやうな一項がある。

「地方統治團體ハ印度人、支那人、日本人ソノ他蒙古系人種ニ對シテ隔離學校ヲ設立シ得、而シテ隔離學校ガ設ケラレタル區域ニ於テハ隔離サレタル兒童ハ他ノ孰レノ學校ニモ入學スルコトヲ得ズ」

但し同一學校區にあらざる學校には入學が許可される筈である。

學童の勞働と父兄に對する刑罰

十六歳以下の學童にして勞働に従事せんとする者は次の規定を遵奉して勞働許可證を受けねばならぬ。

一、十五歳にして小學校七年を修學せる者。

二、十四歳乃至十五歳にして小學校を卒業せる者(但し兩親が勞働不可能であつたり、又は父親の死などに因り子供が一家の生計上で必要である場合)

三、學校の授業時間以外の勞働に従事せんとする者にして十四歳乃至十五歳の學童は學校の授業時間と勞働時間を

合せて八時間を超過してはならぬ。

四、年齢十二歳以上の兒童は休日（土、日その他の休日）労働に従事することを得。右に違反せる場合父兄又は保護者に對する刑罰は次の如くである。

- 一、初犯二十弗以下の罰金又は入牢五日以内
 - 二、再犯十弗より五十弗までの罰金、又は五日より二十五日までの入牢
 - 三、雇主には五十弗より二百弗までの罰金、又は六十日以内の體刑に科す
- 而して未成年學童の雇傭に關する雇主側の法律的義務として次の三ヶ條が擧げてある。
- 一、雇傭許可證を得ること
 - 二、職場に人名簿を張り出し、毎日の労働時間を記入し置くこと
 - 三、労働中止後五日以内に通知すること

日米兩國の授業日數比較

日米兩國の小學校に於ける授業日數を比較して見ると次の如くである。

- 一、一週間の授業時間 米國（低學年二十時間、高學年三十時間）、日本（尋常科二十八時間、高等科三十時間）
- 二、一年間の授業日數

米國 加州の平均授業日數 一七八日
 合衆國全體の平均授業日數 一六九日

日本 小學校の休業日は日曜日を除く他は毎年九十日を越へざることとなつてゐるから、假りに九十日を休むとしても授業日數は二二〇日で加州と比較すると四十五日多い。

日米教師の俸給比較

一九三〇年度の調査による米國公立學校の教師平均年俸を見ると次の如くである。

小學校教師	ジュニア高校教師	シニア高校教師
人口十萬以上の都市	一九六八弗	二二二〇弗
人口一萬以下の都市	一二〇〇弗	一三〇〇弗
		一五五〇弗

更に一九三四年度の調査による加州内五十五都市の平均年俸を見ると

小學校	男教師 一八一八弗
	女教師 一八六一弗
高校	男教師 二二八二弗
	女教師 二二六一弗

これに對し日本の小學校教師の平均月俸は次の如し。

尋常科正教員	男教員 七〇圓
	女教員 五十圓
高等科正教員	男教員 七〇圓
	女教員 五五圓

各國及び米國內の無筆者比較

一九三六年度の調査になる世界各國無筆者（但し十歳以上にしていづれの國語にも通せず読み書きの出來ざる者）の比較を見ると次の如くで、米國は第三位、日本は第八位になつてゐる。（單位百分の一）

獨逸	〇・〇三	加奈陀	三・八	米	國	四・三				
佛蘭西	五・九	ベルギー	七・五	日	本	八・五				
ソ	聯	一〇・〇	ハンガリー	一三・〇	伊	太	利	一六・〇		
オランダ	三二・〇	スペイン	四三・〇	メキシコ	六四・〇					
エジプト	八五・〇	英領印度	九〇・八							
次に米國各州の教育の普及状態を見る爲に、各州の無筆者比較を見れば次の如し(單位百分の一)										
加	州	二・六	華	府	一・〇	ルイジアナ	二三・五			
北	カロライナ	一〇・〇	ヴァージニア	七・七	アイオワ	〇・八				
アラバ	マ	一二・六	ミシシッピ	一三・〇	南カロライナ	一四・七				
オレゴン	一〇・〇	アリゾナ	一〇・一	ニューメキシコ	二三・三					
ジョージア	七・四									
更に米國在住の各國人の無筆者比較を見ると次の如くである。										
ロシア	人	一一・三	ギリシヤ	人	二三・六	スペイン	人	一四・〇		
トルコ	人	一四・〇	ポーランド	人	一九・〇	伊	太	利	人	二五・三
ポルトガル	人	三四・七								

第七章 邦人社会に於ける刊行物

緒言 在米日本人社会に於ける刊行物は、過去に於て多くの苦難を経たこと他の諸事業と同様であつた。即ち匆卒無意に米人社会に入つた邦人先驅者は素より一の言論機關なく、一の報道機關を持たなかつた。漸く在留邦人数の増加とともに言論報道機關の必要を生じ、先づその刊行に手を染めたのは別項に詳述する如く、日本より風雲の志を抱いて渡米し、桑港または沙港に於て脾肉の嘆を仰ちつゝあつた一群——即ち氣鋭の少壯論客、學生らであつた。さりながら當時に於ては出版の重要礎材たる活字なく、且つ印刷に經驗を有するもの甚だ僅少であつた。茲に於て先づ蒔菑版刷及石版刷り時代より、次いで活字時代に移行した。而して活字を得て急速伸展を示したのは新聞であつた。今日に於ても在米邦人社会の刊行物は、その大半いなその殆んどは新聞と云つて差支へなく、他は寥々たる單行本、雑誌乃至團體に所屬する機關紙の刊行物があるに過ぎない。

高度の讀者率 試みに拾へば一九四〇年現在、在米邦人社会の有する新聞は、桑港に日刊紙二、週刊紙一、月刊紙一、羅府に新聞三、週刊一、サンビドロ、フレズノ、サクラメントに各新聞一、王府に週刊一(以上が州内)ユタ、コロラド兩州に新聞各一、オレゴン州に新聞一、週刊一、ワシントン州に新聞二、週刊三、月刊一、ニューヨークに週刊二あり、合して二十四。このうち或る者は讀者一萬を有するものあり、然もその讀者は購讀者の謂であつて一戸を持たず集團的生活者多き在米邦人社会には所謂間接讀者甚だ多く、實際上より觀れば在米邦人十三萬(一九三〇年調査)中、その八割を指して讀者と見做し得る關係にあり、その高度の讀者率は一驚に値ひするものが存する。

而して何故に斯く新聞讀者の高率を來したかは自から事由を有する。即ち在米邦人は米人社會に介在しつゝも、英語力の不十分その他の理由よりその通信界より隔絶された特殊立場にあり、且つ居住地は各地に散在し、新聞を除いては依るべき報道機關甚だ乏しく、また在米同胞は故國の事情を知らんとする念頗る強く、その範圍は故國の總ゆる諸相を求め、更に邦字紙を通じて米國並びに外國情勢を窺知せんとするが故であり、他の理由は在米邦人の生活は概ね餘裕あつて新聞購讀の如きは介意せざる經濟力を持つにも、基因してゐる。更に他の理由に數ふべきは有力日刊紙には一頁乃至二頁の英文記事を掲げ、第二世子女の好伴侶となつてゐることである。

新聞の特殊使命

事實在米邦字新聞は各地に散在する邦人を横に結ぶ一種の紐帯をなし、また動脈的役割をも果してゐるのである。よつて新聞の多くは世界の情報と一地方一個人の消息をも併せ掲げ報道機關であるとともに社會的連絡機關であり、また多分に指導機關たる使命を負ふものである。従つてその性格様相は複雑であり多岐で非ざるを得ない。同時に高き客觀價值を有しつゝ邦字紙の多くは苦難の過去を経、なほ現在もその經營總じて不如意である。その所以は別項に譲り、左に邦字新聞以下我等が社會の刊行物の沿革を述べることにする。

一、出版物(新聞)在米邦字新聞の沿革

言論機關の誕生

一八八七年より一八九二年に至る約六ケ年間(明治廿年—廿五年)の邦人新聞界は「蕪蕪版及び騰寫版時代」であつた。當時在留邦人の數はなほ甚だ少く敢て通信報道機關を要求する時代に到達してゐなかつたが、然も夙に上述の蕪蕪乃至石版刷り新聞の出版されたことには因て來つた理由が存した。即ち明治廿年前後の日本は所謂歐化主義の旺んに唱道された時代であつて、自由民權論が青年の血を沸かしめ、また必然に邦人の海外渡航提唱が行はれ、これに煽られた諸生(當時種々層の人々を諸生と稱した)の渡米するもの漸く多きを加へ、桑港

在留邦人間にもこれら少壯氣鋭の論客次第に増加し、客氣に任せて悲歌慷慨するあり、これを駁するものあり、急進穩健、其他の黨派次第に明確化されるとともに、思想、主張等の傾向相違によつて一種の暗流を生ずるに至つた。試みに説けば、基督教一派及び同系統に屬する人々はマーケット街以南に據り、他の一派は自由民權を高唱し、既に故國に於ても集會政社法に觸れた經驗を有する政論家及び同系統の氣鋭者流であつたため、期せずして類合しマーケット街以北に割據した。そこに對立的空氣の醗酵さるとともに所懐を吐露すべき言論機關の欲求起り、遂に一八八七年(明治廿年)頃、基督教派の岡部健太郎、米山梅吉、大澤榮三、松野菊太郎らによつて週刊紙「蒸汽船」なるものが發行された。その實質は在米青年層に對する希望等を披瀝したもので、素より騰寫版刷りの片々たるものに過ぎなかつたが、實に在米邦人邦語出版物の先驅をなすものである。

上述「蒸汽船」の發行を見るや間もなくこれに反抗的態度をとつて「東雲」なる大同小異のもの出版された。これは片庭張作によつて發行されたもので、その記事中には「美山貢一の壓制に堪え兼ねて……」等の文字が掲げられた。以てその内容の一斑を窺ふに足るであらう。但し「東雲」は二、三號にして廢刊した。續いて現はれたのが一八八八年オークランド(王府)に於て出版された「新日本」であつた。右は石坂公瀝、中島半三郎、山口熊野、廣田善朗等によつて發行されたもので、これが在米邦人間に於ける初期出版物中、體裁をなしたものととして特筆すべきでありまた海外に於ける邦人の早期出版物として多年故國の識者間に探尋されてゐた事實もある。以下に示す大阪毎日新聞所載の記事に(昭和十年八月三日付)よくこれを傳へて餘蘊がない。

米國で發行された最初の邦字新聞

アメリカで最初に邦字新聞を發行したのは、和歌山縣東牟婁郡下里町出身、元代議士で紀勢鐵道の功勞者山口熊野の「新日本」であるが、何分當時僅かに二百部位刷つて内地の政客に配分したものにだけに、今日では殆んど散逸し、無論本人山口氏の手に一部も残つてなく、最近東京の帝大新聞科で全國に手を廻して蒐集に努めたが求め得ず、遺徳とされてゐたところ、今回端なく

も和歌山縣新宮市の『郷土誌』編集に従事中の郷土史研究家田原慶吉氏が新日本第八號(赤色)と十號(黄色)の二部を保存してゐることが判り、近く帝大へその寫眞を送附することになった。新日本は山口氏が明治十九年、時の政權に迫られて北米合衆國カリフォルニア州のオークランドに逃れ苦學中、その下宿せるサンパブロ・アベニュー一三二番第三十一室で發行したもので、初號は一八八八年十月で月二回發行である。何んでも初號から五、六號までは支那人の乾物問屋を風つぶしに探し歩いて寒天を手に入れ、コンニャク版で刷つてゐたが、それをアメリカの新聞記者が「そんな面倒なことをせずともいゝものがある……」と購寫版を教へてくれ、その後はそれを利用して。紙面は菊版八頁で一面の頭欄外と右横の欄外に小さく「新日本」の題字があり、主として政治論で、七面に僅かに申譯のやうに本國通信だの産業ニュースなどが一つ二つ顔を出してゐる。面白いのは當時内地で禁止されてゐた、今日で怪文書の『板垣、勝兩人の意見書』や、激越な大臣行狀録等が附録になつてゐる。定價は一部五錢、十部が三十五錢である。

翌一八八九年に至つて桑港政論派(菅原傳、互理篤治、日向輝武、山口熊野、大和正夫ら)は愛國同盟を組織し、その機關紙として『十九世紀』なる月刊誌を發行した。これに前記の『新日本』も合流し桑港オフアレル街に移轉、紙上には自由民權を盛んに鼓吹、これは日本に送るや當局の忌諱に觸れ内地の發賣禁止の處分を受けた。但し十九世紀同人は更にこれを改題し「自由」或ひは「新紀元」「鶴鳴」等の名稱を附して一八九一年頃まで刊行を繼續した。その中心人物は日向輝武、互理篤治、大和正夫らであつた。次いで一八九二年には山田亮、竹川藤太郎、高木梅軒、佐竹作太郎らによつて騰寫刷り「遠征」と名づくるもの發行されたが、故國に送つて速刻發賣禁止處分を受け、永續せずして三號を以て停刊した。ほど時を同じふして服部綾雄の率ゐたゼツシー街福音會も會報を刊行し、美以ミツシヨンと行動を共にせる福音會からも『福音會月報』を發行した。この月報は初めが版を使用し後ち石版を用ひ、一八九二年(明治廿五年)後期より活字を使用するに至つた。なほ同月報の挿繪は畫工夏井潔と文倉平次郎が交代擔當した。

石版印刷時代

一八九二年(明治廿五年)の秋、東京府人の中田某、初めて小形の石版印刷機を携へて渡米し、在米同胞間に印刷界の革命を喚ぶに至つた。同年十二月、大和正夫(秋田藩士)互理篤治(仙臺藩士)澤木吉三郎らは

既に發行し居たる『小愛國』を改題し、前記の石版印刷機を用ひて四頁(一頁は半紙半枚大)の月刊新聞『桑港』を發行した。(主幹大和正夫)これぞ米國に於ける邦人日刊新聞の嚆矢である。定價は一ヶ月廿五仙。その記事内容も政治色彩濃厚で、故國政界に向つて言論を送ることが過半の目的であつたため、故國に送るや直ちに發賣禁止を受けたこと『十九世紀』と同様であつた。のち一八九三年五月廿六日『桑港』なる名を『桑港新聞』と改め、更に同年七月に至つて『桑港時事』と改名した。同紙の購讀者は僅かに五六十に過ぎなかつたが、よく二ヶ年半續刊した。これより先一八九三年二月永井元は寺澤六之助、金子幸太郎、日向輝武、山田作太郎、矢野鑛吉、その他同志二、三とも、黒澤格三郎醫師の後援を得、大型石版印刷機の中古を買入れて『金門日報』と稱する日刊新聞を發行した。(當時購讀者約七十)その一頁の大きさは幅一呎二寸のものを四頁又は六頁、定價一ヶ月五十仙、論說、雜報を掲げて漸く新聞の態を備へたものであつた。但し『金門日報』は創刊三年後の一八九五年七月廢刊し、『桑港時事』は一八九六年社主大和正夫歸國し、鷺津文三、齋藤徳三郎これを繼承したが同九七年廢刊した。然も石版印刷時代はなほ命脈を保ち、一八九七年四月には岡田依三郎(溪水)、高田米華、米田實(切水)、鷺津文三(尺魔)、横川省三らによつて『ジヤパン・ヘラルド』なる日刊紙が創刊された。同紙は幾干もなく『桑港日本新聞』と改題續刊された。

『ジヤパン・ヘラルド』は桑港ゴールドン・ゲート街二六番で發行されたもので、石版刷四頁(當時收入月額五十弗)同紙表面には下記の如き廣告が掲げられてをり、當時の同胞状態を知る一助となすことが出来る。▲富士合資會社 竹細工商、桑港マケット街及び王府ワシントン街。▲丁酉商會 桑港デユポント街。▲井出商會 同第六街(桑港)▲堂本物産商會 同オフアレル街。▲藤木洋服店 同ポスト街。▲旭株式會社 同デユポント街及び櫻府、佐市支店。▲松丸調劑所『日本ヘールス・イン・ステチユート』同カリフォルニア街。

横川省三追記『ジヤパン・ヘラルド』創設者の一人たる横川省三は一八九八年(明治卅一年)アメリカ本土を去つてハワイに赴いた。偶々郡司大尉の指導せる報効義會の帆船龍睡丸(六十噸、船長中川倉吉)が一八九八年(明治卅二年)ハワイに漂着するや、横川は在留民を説いて義金を募り破船の修繕並びに乗組員の食糧等に斡旋大いに努めた事あり、更に日露戦